

## 医学部

第一内科学教室 (呼吸器内科)	3	放射線腫瘍学教室	87
第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)	7	麻酔科学教室	87
第一内科学教室 (神経内科)	11	臨床検査医学教室	87
第二内科学教室 (循環器内科)	13	総合医療学教室	90
第二内科学教室 (血液内科)	19	リハビリテーション医学教室	93
第三内科学教室 (消化器内科)	19	「リハビリテーション室」	94
第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)	24	脳卒中医学教室	95
腫瘍内科学教室	30	解剖学教室 (肉眼解剖学)	97
高齢医学教室	35	解剖学教室 (顕微解剖学)	98
精神神経科学教室	38	統合生理学教室	99
小児科学教室	40	細胞生理学教室	100
外科学教室 (消化器・一般外科)	41	生化学教室 (1)	100
外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)	46	生化学教室 (2)	100
外科学教室 (乳腺外科)	48	薬理学教室	101
小児外科学教室	49	病理学教室	102
救急医学教室	49	感染症学教室 (微生物学)	105
脳神経外科学教室	51	感染症学教室 (寄生虫学)	108
心臓血管外科学教室	56	衛生学公衆衛生学教室	110
整形外科学教室	57	法医学教室	113
皮膚科学教室	60	共同研究施設 RI 部門	113
形成外科学教室	64	フローサイトメトリー部門	114
泌尿器科学教室	67	実験動物施設部門	114
多発性嚢胞腎研究講座	71	生物学教室	115
眼科学教室	73	物理学教室	115
耳鼻咽喉科学教室	80	化学教室	115
産科婦人科学教室	83	英語教室	115
放射線医学教室	86		

第一内科学教室  
(呼吸器内科)

## 講演

- 佐久間翔, 皿谷健:発熱, 関節痛を主訴とし慢性腎不全の二次性副甲状腺機能亢進症による片側性の異所性肺石灰化症を契機に診断された急性リンパ球性白血病の一例. 第111回日本内科学会総会, 東京, 2014年4月11-13日.
- 滝澤始: COPD の気管支拡張療法:エビデンスから実地診療へ. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 京都, 2014年4月14-15日.
- 小出卓, 大場智広, 松林南子, 川辺梨恵, 奥田良, 天野雅子, 松島秀和:当院における EBUSTBNA の臨床的検討. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 京都, 2014年4月14-15日.
- 肥留川一郎, 横山琢磨, 平田彩, 西沢知剛, 石田学, 小田未来, 中本啓太郎, 高田佐織, 中里陽子, 石井晴之, 武井秀史, 近藤武彦, 滝澤始, 後藤元:当院呼吸器内科における肺門および縦隔リンパ節腫大に対する超音波気管支鏡下針生検の有用性の検討. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 京都, 2014年4月14-15日.
- 小田未来, 横山琢磨, 平田彩, 西沢知剛, 石田学, 肥留川一郎, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)で診断した胸膜中皮腫の1例. 第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 京都, 2014年4月14-15日.
- 中本啓太郎, 和田裕雄, 佐田充, 乾俊哉, 中村益夫, 本田紘二郎, 田中康隆, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:Flagellin によるヒト肺胞上皮細胞の CXCL8/IL-8産生への影響. 第33回気道分泌研究会, 大阪, 2014年4月19日.
- 滝澤始:呼吸器感染症における炎症病態とその治療戦略. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 石井晴之, 田澤立之, 皿谷健, 倉井大輔, 横山恵美, 横山琢磨, 滝澤始, 井上義一, 中田光, 後藤元:わが国における骨髄異形成症候群に続発した肺胞蛋白症の予後について. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 皿谷健:Mycoplasma pneumoniae及びChlamydia pneumoniaeの成人呼吸器疾患における持続感染の前視方的調査研究. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 和田裕雄, 森田恵子, 乾俊哉, 中村益夫, 中本啓太郎, 本田紘二郎, 佐田充, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 後藤元, 佐藤徹, 滝澤始:肺動脈高血圧患者の強制オシレーション法(FOT)による呼吸メカニクスの解析. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 渡辺雅人, 滝澤始, 後藤元:感染症バイオマーカープロカリスチニン(PCT)-CAPにおけるPCT継時測定による解析と考察-. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 中本啓太郎, 和田裕雄, 佐田充, 乾俊哉, 中村益夫, 本田紘二郎, 田中康隆, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:Flagellin によるヒト肺胞上皮細胞への影響. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 平田彩, 横山琢磨, 高田佐織, 肥留川一郎, 辻本直貴, 佐田充, 小川ゆかり, 中島明, 蘇原慧伶, 田中康隆, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:経口補水液を用いた Cisplatin hydration の安全性と忍容性についての探索的研究. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 木村博一, 佐々木佳子, 塚越博之, 滝澤始, 後藤元:Mycoplasma pneumoniae 及び Chlamydia pneumoniae の成人呼吸器疾患における持続感染の前視方的調査研究. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 渡辺雅人, 滝澤始, 田村仁樹, 中島明, 後藤元:感染症バイオマーカー プロカリスチニン(PCT)-CAP における PCT 維持測定による解析と考察-. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 蘇原慧伶, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:膠原病患者の診断における Mechanic's hands の有用性の検討. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 中本啓太郎, 和田裕雄, 佐田充, 乾俊哉, 小川ゆかり, 中村益夫, 本田紘二郎, 中島明, 蘇原慧伶, 山田敦子, 長友禎子, 田中康隆, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:当院における重症喘息の臨床的検討. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 倉井大輔, 横山恵美, 皿谷健, 塚越博之, 木村博一, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:成人喘息発作における呼吸器ウィルスの関与についての検討. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 横山琢磨, 高田佐織, 肥留川一郎, 平田彩, 乾俊哉, 皿谷健, 倉井大輔, 和田裕雄, 滝澤始, 後藤元:未治療 IIIB/IV 非扁平上皮非細胞肺癌に対する Cisplatin+Pemetrexed+Bevacizumab 療法後の Pemetrexed 維持療法第II相試験. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 乾俊哉, 和田裕雄, 佐田充, 中本啓太郎, 中村益夫, 本田紘二郎, 田中康隆, 高田佐織, 渡辺雅人, 横山琢磨, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元:気管支喘息, 肺気腫症, オーバーラップ症候群の表現型検討と比較. 第54回日本呼吸学会学術講演会, 大阪, 2014年4月25-27日.
- 中本啓太郎, 皿谷健, 乾俊哉, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 有村嘉宏, 滝澤始, 後藤元:第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都, 2014年5月9-11日
- Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Mikura S, Yomota M, Nagatomo T, Inui T, Handa T, Hashimoto K, Tomii K, Nakata K: Secondary pulmonary alveolar proteinosis complicating myelodysplastic syndrome results in a worsening of prognosis. American Thoracic Society 2014, USA, May 16th-21st, 2014
- Nakamoto K, Wada H, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Tanaka Y, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, M.D, Takizawa H, Goto H: Pseudomonas Aeruginosa-Derived Flagellin Stimulates IL-8 Production In Human Alveolar Epithelial Cells A549. American Thoracic Society 2014, USA, May 16th-21st, 2014.
- Watanabe M, Takizawa H, Tamura M, Nakajima A, Honda K, Nakamura M, Wada H, Ishii H, Goto H: Soluble ST2 As A Prognostic Marker Of Community-Acquired Pneumonia. American Thoracic Society 2014, USA, May 16th-21st, 2014.
- Nishizawa T, Kurai D, Saraya T, Nakamoto K, Ishii H, Sahara E, Takizawa H: Antemortem Diagnosis With Multiple Random Skin Biopsies And Transbronchial Lung Biopsy In A Patient With Intravascular Large B Cell Lymphoma, So-Called "Asian Variant Lymphoma". American Thoracic Society 2014, USA, May 16th-21st, 2014.
- Kurai D, Saraya T, Ishii H, Tukagoshi H, Kimura H, Takizawa H:

- Respiratory Viral Infection In Hospitalized Adult Patients In Japanese Tertiary Hospital. American Thoracic Society 2014, USA, May 16th-21st, 2014.
27. 麻生純平, 皿谷健, 田中康隆, 小川ゆかり, 辻晋吾, 滝澤始: 実家帰省で発熱, 呼吸困難の出現を繰り返した過敏性肺炎の一例. 第73回臨床アレルギー研究会, 東京, 2014年6月14日.
  28. 辻本直貴, 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 胸部CTでのSplit pleura sign と胸水の画素値を用いた膿胸と肺炎随伴性胸水の鑑別の検討. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  29. 下田真史, 皿谷健, 米谷正太, 荒木光二, 牧野博, 倉井大輔, 横山琢磨, 高田佐織, 田中康隆, 蘇原慧伶, 中島 明, 小川ゆかり, 辻本直貴, 佐田充, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 喀痰グラム染色における貧食像の有無と感染症診断に対する有用性についての検討. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  30. 小川ゆかり, 倉井大輔, 肥留川一郎, 小田未来, 乾俊哉, 中本啓太郎, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 肺炎球菌性肺炎の検討: CAP (community acquired pneumonia) と NHCAP (healthcare associated pneumonia) の比較について. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  31. 大熊康介, 皿谷健, 塚原弥生, 佐田充, 辻本直貴, 小川ゆかり, 中島明, 蘇原慧伶, 田中康隆, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 当院における成人マイコプラズマ肺炎の臨床及び画像的検討. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  32. 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 木村博一, 塚越博之, 佐々木佳子, 小澤邦寿, 滝澤始, 後藤元: Mycoplasma pneumoniae 及び Chlamydia pneumoniae の成人呼吸器疾患における持続感染の前視的調査研究. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  33. 小田未来, 倉井大輔, 大熊康介, 下田真史, 小川ゆかり, 中本啓太郎, 皿谷健, 滝澤始, 後藤元: 結核性胸膜炎確定症例の検討: 胸水貯留を引き起こす他の併存症の存在について. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  34. 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 塚越博之, 木村博一, 滝澤始: 入院を必要とした呼吸器疾患での呼吸器ウイルスの検出と臨床的特徴について: 1年間の前向き観察研究. 第88回日本感染症学会学術講演会, 福岡, 2014年6月18-20日.
  35. 石井晴之: 現場に役立つ画像の見方. 第10回多摩感染症薬剤師研究会, 東京, 2014年6月21日.
  36. 滝澤始: 外的環境と気管支喘息. 第2回東北 喘息・COPD フォーラム, 仙台, 2014年6月28日.
  37. 滝澤始: 細胞内分子機構とマクロライド. 第21回マクロライド新作用研究会, 東京, 2014年7月19日.
  38. 乾俊哉, 和田裕雄, 小川ゆかり, 小田未来, 高田佐織, 横山琢磨, 滝澤始, 後藤元, 新井秀信, 長瀬洋之, 山口正雄: 呼吸困難発作を繰り返し, 難治性喘息が疑われた一例. 第71回臨床アレルギー研究会, 東京, 2014年7月27日.
  39. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の全国調査結果について. 平成26年度厚労科研(肺胞蛋白症, 遺伝性肺疾患に関する研究: 重症化難治化要因とその克服)第一回班会議. 大阪, 2014年8月2日.
  40. 皿谷健: 平成26年度版臨床現場ですぐに役立つナースのためのフィジカルアセスメント 吸器系の診かた. 一般財団法人 ライフ・プランニング・センター, 東京, 2014年8月2日.
  41. 皿谷健: Case based approach: Common disease の uncommon presentation “1000本ノック part1”. 日本臨床微生物学会第12回医師・臨床検査技師・薬剤師・看護師のための感染症学セミナー, 東京, 2014年8月24日.
  42. Wada H, Hagiwara I, Yamamoto Y, Goto H, Takizawa H: The relationship between surfactant protein D and respiratory functions in COPD. European Respiratory Society Annual Congress Munich 2014, Germany, September 6th-10th, 2014.
  43. Kurai D, Saraya T, Ishii H, Tukagoshi H, Kimura H, Takizawa H: Respiratory viral infections in community-acquired pneumonia and exacerbation of COPD: One year survey at a Japanese university hospital. European Respiratory Society Annual Congress Munich 2014, Germany, September 6th-10th, 2014.
  44. Saraya T, Kurai D, Tsukagoshi H, Ishii H, Kimura H, Goto H, Takizawa H: Respiratory viral infections in adult asthma exacerbation: one year survey at a Japanese university hospital for characterization of hospitalized or not hospitalized patients. European Respiratory Society Annual Congress Munich 2014, Germany, September 6th-10th, 2014.
  45. 中元康雄, 皿谷健, 麻生純平, 布川寛樹, 辻晋吾, 平田彩, 渡邊崇靖, 和田翔子, 石田学, 倉井大輔, 石井晴之, 滝澤始: FDG-PET/CT にて著明な多数の集積を認めた心サルコイドーシスの1例. 第211回日本呼吸器学会関東地方会, 埼玉, 2014年9月20日.
  46. 滝澤始: ACOS の病態と治療戦略. 第10回 COPD フロンティア, 横浜, 2014年9月27日.
  47. 多門裕貴, 辻本直貴, 布川寛樹, 平田彩, 大熊康介, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: 経過中に一時自然退縮し, 診断に難渋した Diffuse large B cell Lymphoma の1例. 第609回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年10月11日.
  48. 滝澤始: お年寄りの肺炎の特徴と予防の大切さ. 高齢者の肺炎予防, 武蔵野, 2014年10月26日.
  49. 横山琢磨, 滝澤始: 経口補水液を用いた Cisplatin hydration の安全性と忍容性についての探索的研究 Safety and tolerance of Oral Rehydration Solution(ORS) for Cisplatin-based chemotherapy in patients with lung cancer. 第18回東京呼吸病態研究会, 東京, 2014年11月4日.
  50. 滝澤始: 気管支喘息の診断と治療. 第14回長崎県央呼吸器セミナー, 長崎, 2014年11月5日.
  51. 横山琢磨, 高田佐織, 肥留川一郎, 平田彩, 小田未来, 乾俊哉, 小川ゆかり, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始: 未治療非扁平上皮肺癌に対する CDDP+PEM+BEV 療法後の PEM 維持療法第II相試験. 第55回日本肺癌学会総会, 京都, 2014年11月14-16日.
  52. 高田佐織, 横山琢磨, 平田彩, 肥留川一郎, 中本啓太郎, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始: 当院における非小細胞肺癌に対する2次治療以降の carboplatin + nab - paclitaxel 併用療法の後方視的検討. 第55回日本肺癌学会総会, 京都, 2014年11月14-16日.
  53. 小川ゆかり, 横山琢磨, 平田彩, 肥留川一郎, 石田学, 小田未来, 高田佐織, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始: 肺癌骨転移に対して骨シンチ診断支援ソフトによる定量評価と治療効果についての検討. 第55回日本肺癌学会総会, 京都, 2014年11月14-16日.
  54. 肥留川一郎, 横山琢磨, 平田彩, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始: 再発小細胞肺癌で sensitive relapse と refractory relapse に対する amrubicin(AMR)療法の効果, 安全性の検討. 第55回日本肺癌学会総会, 京都, 2014年11月14-16日.

55. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Nakata K. Clinical characteristics of secondary pulmonary alveolar proteinosis (sPAP): the reason for the difficulty of diagnosis as sPAP. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
56. Nakamoto K, Wada H, Tsuji S, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Tanaka Y, Koide T, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Takizawa H: Clinical features and association with air pollution in patients with severe asthma. The 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
57. Inei T, Wada H, Nakamoto K, Sada M, Tsuji S, Nakamura M, Honda K, Tanaka Y, Koide T, Tatata S, Yokoyama T, Kurai D, Saraya T, Ishii H, Koyama H, Kogane T, Horie M, Mikami Y, Nogochi S, Matsuzaki H, Yamauchi Y, Kohyama T, Goto H, Takizawa H: Influence of gene polymorphism on air pollutants-induced airway oxidative stress among asthmatic patients. The 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
58. Honda k, Wada H, Nakamura M, Nakamoto K, Sada M, Inui T, Tanaka Y, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Saraya T, Ishii H, Goto H, Takizawa H: IL-17A And TNF- $\alpha$  Synergistically Stimulate IL-8 Production In Human Airway Epithelial Cells. The 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
59. Nishizawa T, Kurai D, Saraya T, Nakamoto K, Ishii H, Sohara E, Takizawa H: Antemortem Diagnosis With Multiple Random Skin Biopsies And Transbronchial Lung Biopsy In A Patient With Intravascular Large B Cell Lymphoma, So-Called "Asian Variant Lymphoma". The 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
60. Kurai D, Saraya T, Ishii H, Tsukagoshi H, Kimura H, Takizawa H: Respiratory Viral Infection In Hospitalized Adult Patients In Japanese Tertiary Hospital. The 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology, Indonesia, November 13th-16th, 2014.
61. 渡辺雅人:【トピックス】感染症領域の新規バイオマーカー—PCTとsoluble ST2を中心に—. 第39回東北感染症・化療フォーラム, 山形, 2014年11月30日.
62. 福田のぞみ, 皿谷健, 辻本直貴, 布川寛樹, 大熊康介, 近藤晴彦, 滝澤始: 著明な胸膜肥厚を呈し, 胸膜原発の悪性リンパ腫 (Diffuse large B cell lymphoma)と考えられた1例. 第609回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年12月13日.
63. 野坂岳志, 皿谷健, 辻本直貴, 布川寛樹, 大熊康介, 石井晴之, 滝澤始: 肺癌に類似した画像を呈した肺アスペルギローシスの1例. 第609回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年12月13日.
64. 小出卓, 皿谷健, 塚原弥生, 石井晴之, 滝澤始: サルコイドーシスにおける胸部 CT 上の Galaxy sign の臨床的意義について. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究, 東京, 2014年12月13日.
65. 滝澤始: 呼吸器感染症におけるマクロライド —基礎と臨床—. 沖縄マクロライド講演会, 沖縄, 2015年1月15日.
66. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症について. 第74回北信呼吸器疾患研究会, 長野, 2015年2月6日.
67. 滝澤始: IPF の新展開 ~診断・治療・管理~. 呼吸器研究フロンティア, 東京, 2015年3月5日.
1. Saraya T, Watanabe T, Tsujimoto N, Takata S, Araki K<sup>1</sup>, Makino H<sup>1</sup>, Yonetani S<sup>1</sup>, Takizawa H, Goto H<sup>1</sup>(Kyorin University School of Medicine, Department of Laboratory Medicine): [Case of candidemia with *Candida glabrata* with confirmation of the acquisition of micafungin sensitivity due to new mutation of FKS gene mutation]. *Kansenshogaku Zasshi* 88(3 Suppl 9-10):1-5, 2014.
2. Saraya T, Kurai D, Ishii H, Ito A, Sasaki Y<sup>1</sup>, Niwa S<sup>1</sup>, Kiyota N<sup>2</sup>, Tsukagoshi H<sup>1</sup>, Kozawa K<sup>1</sup>, Goto H, Takizawa H<sup>1</sup>(Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences Gunma, <sup>2</sup>Kumamoto Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences Kumamoto): Epidemiology of virus-induced asthma exacerbations: with special reference to the role of human rhinovirus. *Front Microbiol* 5:226, 2014.
3. Sohara E, Saraya T, Sato S, Tsujimoto N, Watanabe T, Takata S, Tanaka Y, Ishii H, Takizawa H, Goto H: Mechanic's hands revisited: is this sign still useful for diagnosis in patients with lung involvement of collagen vascular diseases?. *BMC Res Notes* 7:303, 2014.
4. Saraya T, Tanabe K<sup>1</sup>, Araki K<sup>2</sup>, Yonetani S<sup>2</sup>, Makino H<sup>2</sup>, Watanabe T<sup>3</sup>, Tsujimoto N, Takata S, Kurai D, Ishii H, Miyazaki Y<sup>1</sup>, Takizawa H, Goto H<sup>1</sup> (National Institute of Infectious Diseases, <sup>2</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Laboratory Medicine, <sup>3</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Respiratory Medicine): Breakthrough invasive *Candida glabrata* in patients on micafungin: a novel FKS gene conversion correlated with sequential elevation of MIC. *J Clin Microbiol* 52(7):2709-2712, 2014.
5. Horie M<sup>1</sup>, Saito A<sup>1</sup>, Yamauchi Y<sup>1</sup>, Mikami Y<sup>1</sup>, Sakamoto M<sup>1</sup>, Jo T<sup>1</sup>, Nakajima J<sup>1</sup>, Takizawa H, Nagase T<sup>1</sup>, Kohyama T<sup>2</sup>(<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Teikyo University Mizonokuchi hospital): Related citations Histamine induces human lung fibroblast-mediated collagen gel contraction via histamine H1 receptor. *Exp Lung Res* 40(5):222-236, 2014.
6. Toriumi S, Saraya T, Tsujimoto N, Nosaka T, Kanno H, Kukimoto H, Sakuma S, Nagamine Y, Ohkuma K, Sada M, Nunokawa H, Tanaka Y, Yokoyama T, Takata S, Koide T, Kurai D, Wada H, Ishii H, Goto H and Takizawa H: Renal Salt Wasting Syndrome due to Carboplatin in a Patient with Lung Cancer. *pulmonary Research and respiratory medicine online journal*, 2014.
7. Saraya T, Kurai D, Nakagaki K<sup>1</sup>, Sasaki Y<sup>2</sup>, Niwa S<sup>2</sup>, Tsukagoshi H<sup>2</sup>, Nunokawa H, Ohkuma K, Tsujimoto N, Hirao S, Wada H, Ishii H, Nakata K<sup>3</sup>, Kimura H<sup>4</sup>, Kozawa K<sup>2</sup>, Takizawa H, Goto H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Nippon Veterinary and Animal Science University, <sup>2</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>3</sup>Niigata University Medical and Dental Hospital, <sup>4</sup>National Institute of Infectious Diseases): Novel aspects on the pathogenesis of *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia and therapeutic implications. *Front Microbiol* 5:410, 2014.
8. Shimoda M, Saraya T, Tsujimoto N, Kurai D, Takizawa H, Goto H: Fatal disseminated cryptococcosis resembling miliary tuberculosis in a patient with HIV infection. *Intern Med* 53(15):1641-1644, 2014.
9. Wada H, Akiyama Y, Takeda H, Nakamura M, Takizawa H: Social isolation in individuals with chronic respiratory failure undergoing long-term oxygen therapy. *J Am Geriatr Soc*

## 論文

- 62(9):1807-1808, 2014.
10. Wada H, Hagiwara S, Yamamoto Y, Takizawa H: Links between lung dysfunction and glucose metabolism dysregulation: does lung dysfunction represent a systemic disorder?. *Intern Med* 53(21):2413-2414, 2014.
  11. Tanaka Y, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H, Goto H: Spontaneous resolution of *Pneumocystis jirovecii* pneumonia on high-resolution computed tomography in a patient with renal cell carcinoma. *Am J Case Rep* 15:496-500, 2014.
  12. Ogawa Y, Saraya T, Koide T, Kikuchi K<sup>1</sup>, Ohkuma K, Araki K<sup>2</sup>, Makino H<sup>2</sup>, Yonetani S<sup>2</sup>, Takizawa H, Goto H ( <sup>1</sup> Juntendo University,<sup>2</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Clinical Laboratory): Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* enterocolitis sequentially complicated with septic arthritis: a case report and review of the literature. *BMC Res Notes* 7:21, 2014.
  13. Saraya T, Yonetani S<sup>1</sup>, Ogawa Y, Tanaka Y ( <sup>1</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Clinical Laboratory): *Rothia aeria*: a great mimicker of the *Nocardia* species. *BMJ Case Rep*, 2014.
  14. Tsuji S, Saraya T, Tanaka Y, Makino H<sup>1</sup>, Yonetani S<sup>1</sup>, Araki K<sup>1</sup>, Kurai D, Ishii H, Takizawa H, Goto H ( <sup>1</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Respiratory Medicine): Community-acquired *Pseudomonas aeruginosa* pneumonia in previously healthy patients. *JMM Case Reports*, 2014. Online.
  15. Tsujimoto S<sup>1</sup>, Tsukagoshi H<sup>2</sup>, Inai I<sup>1</sup>, Yoshimoto Y<sup>1</sup>, Daida A<sup>1</sup>, Kusakawa I<sup>1</sup>, Tanaka-Taya K<sup>3</sup>, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Oishi K<sup>3</sup>, Ryo A<sup>4</sup>, Kimura H<sup>3,4</sup> ( <sup>1</sup>St Luke's International Hospital, <sup>2</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>3</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>4</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine: Apnoea, dyspnea and wheezing in primary lower respiratory infections due to human rhinovirus in Japanese infants. *JMM Case Reports*, 2014. Online.
  16. Hirano E<sup>1</sup>, Kobayashi M<sup>2</sup>, Tsukagoshi H<sup>2</sup>, Yoshida LM<sup>3</sup>, Kuroda M<sup>4</sup>, Noda M<sup>4</sup>, Ishioka T<sup>5</sup>, Kozawa K<sup>2</sup>, Ishii H, Yoshida A<sup>5</sup>, Oishi K<sup>4</sup>, Ryo A<sup>6</sup>, Kimura H<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>Fukui Prefectural Institute of Public Health and Environmental Science, <sup>2</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>3</sup>Nagasaki University, <sup>4</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>5</sup>Aomori Prefectural Institute of Public Health and Environment, <sup>6</sup>Yokohama City University): Molecular evolution of human respiratory syncytial virus attachment glycoprotein (G) gene of new genotype ON1 and ancestor NA1. *Infect Genet Evol* 28:183-191, 2014.
  17. Mikami Y<sup>1</sup>, Matsuzaki H<sup>1</sup>, Horie M<sup>1</sup>, Noguchi S<sup>1</sup>, Jo T<sup>1</sup>, Narumoto O<sup>1</sup>, Kohyama T<sup>2</sup>, Takizawa H, Nagase T<sup>1</sup>, Yamauchi Y<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>Teikyo University Mizonokuchi hospital): Lymphotoxin  $\beta$  receptor signaling induces IL-8 production in human bronchial epithelial cells. *PLoS One* 9(12):e114791, 2014.
  18. Sada M, Saraya T, Ishii H, Goto H: Sudden multiple fractures in a patient with sarcoidosis in multiple organs. *BMJ Case Rep*, 2014.
  19. Tsujimoto N, Saraya T, Shimoda M, Goto H: Three stripes sign: muscle involvement with internal fibrosis in a patient with sarcoidosis. *BMJ Case Rep*, 2014.
  20. Saraya T, Yonetani S<sup>1</sup>, Ogawa Y, Tanaka Y ( <sup>1</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Laboratory Medicine): *Rothia aeria*: a great mimicker of the *Nocardia* species. *BMJ Case Rep*, 2014.
  21. Saraya T, Kikuchi K<sup>1</sup>, Araki K<sup>2</sup>, Uehara Y<sup>1</sup>, Makino H<sup>1</sup>, Tamura M, Hirukawa I, Honda K, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Fujiwara M<sup>3</sup>, Takizawa H and Goto H ( <sup>1</sup>Juntendo University, <sup>2</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Laboratory Medicine, <sup>3</sup>Kyorin University School of Medicine, Department of Pathology): Reversed halo sign caused by huge tricuspid native valve infective endocarditis associated with community-acquired methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*. *JMM Case Reports*, 2015. Online.
  22. 倉井大輔, 石井晴之, 皿谷健, 滝澤始: 成人・高齢者におけるRSウイルス感染症の重要性. *病原微生物検出情報*35(6):11-12, 2014.
  23. 滝澤始: 知られざる21世紀の国民病 COPD 対症療法から予後を改善する治療へ. *SRL宝函 別冊第10回 SRL Update Forum 講演集*:21-26, 2014.
  24. 石井晴之: 続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴—全国調査結果と更なる課題—. *日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌*45: 13-15, 2014.
  25. 皿谷健: 【関節リウマチ・膠原病-症例で学ぶ診断と治療】関節リウマチ・膠原病を疑う時のアプローチ 呼吸器・肺所見から考える膠原病. *Medicina*51(12):2020-2025, 2014.
  26. 中本啓太郎, 滝澤始: 【そうか! そうだったのか! 再確認! 呼吸器ケアの「なぜ?」がわかる黄金解説 解剖生理から呼吸不全病態まで43問ななめヨミ!】(第6章)呼吸機能検査を理解するための「なぜ」なぜ, 術前に多くの項目の呼吸機能検査が必要な?. *呼吸器ケア* 2014(夏季増刊):154-160, 2014.
  27. 皿谷健: 【CT・MRI”戦略的”活用ガイド】各科に直撃! よくある紹介疾患, 紹介前にあるといい検査, 紹介後にする検査 呼吸器内科. *Medicina*51(11):312-318, 2014.
  28. 皿谷健: 【膠原病】症状に対する診断的アプローチ 呼吸器症状 膠原病に特異的な症状はなく, 所見との組み合わせで疑う. *Hospitalist*2(2):335-350, 2014.
  29. 皿谷健, 渡邊崇靖, 辻本直貴, 高田佐織, 荒木光二<sup>1</sup>, 牧野博<sup>1</sup>, 米谷正太<sup>1</sup>, 滝澤始, 後藤元 ( <sup>1</sup>杏林大学医学部附属病院-臨床検査部): 【症例から学ぶ感染症セミナー-症例の疑問点から研究的考察へ-】新たな FKS 遺伝子変異によるミカファンギン耐性獲得の経過を確認できた *Candida Glabrata* 血症の一例. *感染症学雑誌* 88(3付録):1-5, 2014.
  30. 乾俊哉, 中本啓太郎, 和田裕雄, 滝澤始: 【大気汚染と呼吸器疾患】大気汚染と喘息. *呼吸器内科* 25(6):489-496, 2014.
  31. 乾俊哉, 横山琢磨, 高田佐織, 平田彩, 西沢知剛, 肥留川一郎, 和田裕雄, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 進行期非扁平上皮非小細胞肺癌に対する初回治療での cisplatin+pemetrexed 使用症例の臨床的検討. *肺癌* 54(3):128-134, 2014.
  32. 佐田充, 滝澤始: 【最近の大気汚染とアレルギー疾患】環境汚染とアレルギー 過去の大気汚染と喘息・呼吸器疾患. *アレルギー・免疫* 21(10):1484-1491, 2014.
  33. 辻晋吾, 滝澤始: 【環境因子と呼吸器疾患】大気汚染と呼吸器疾患 PM2.5を中心に. *呼吸と循環* 62(10):921-932, 2014.
  34. 中本啓太郎, 辻晋吾, 佐田充, 乾俊哉, 和田裕雄, 滝澤始: 大気汚染と呼吸器疾患. *呼吸* 33(10):953-960, 2014.
  35. 下田真史, 小出卓, 滝澤始: 【好酸球性副鼻腔炎と周辺疾患】好酸球性肉芽腫性血管炎(EGPA)と好酸球性副鼻腔炎. *アレルギー*

ギー・免疫 22(1):88-94, 2014.

36. 中元康雄, 皿谷健, 辻吾吾, 平田彩, 渡邊崇靖, 和田翔子, 大熊康介, 金重真奈美, 下田真史, 西沢知剛, 石田学, 小田未来, 肥留川一郎, 檜垣学, 石井晴之, 小路仁<sup>1</sup>, 軽部美穂<sup>1</sup>, 田中良太<sup>2</sup>, 武井秀史<sup>2</sup>, 呉屋朝幸<sup>2</sup>, 藤原正親<sup>3</sup>, 滝澤始, 後藤元<sup>1</sup>(杏林大・医・内科学教室(腎臓・リウマチ・膠原病内科), <sup>2</sup>杏林大・医・外科学教室(呼吸器・甲状腺), <sup>3</sup>杏林大学・医・病理学教室):PET/CT および胸腔鏡下肺生検による組織学的評価を施行し得た肺リウマチ結節の1例. 日本胸部臨床 73(12): 1472-1477, 2014.
37. Tsujimoto N, Saraya T, Nunokawa H, Ohkuma K, Goto H and Takizawa H: Flapping Tremor as a Diagnostic Tool for Evaluation of Hypercapnia. Pulm Res Respir Med Open J 2(1): 49-51, 2015. Online.
38. Saraya T, Sada M, Ohkuma K, Sakuma S, Tsujimoto N, Yoshida S, Fujiwara M, Tsukahara Y, Kurai D, Ishii H, Takizawa H, Goto H: Evidence of unilateral metastatic pulmonary calcification with a prolonged Fever and arthralgia caused by acute lymphoblastic leukemia in a chronic dialysis patient. Intern Med 54(1):63-67, 2015.
39. Saraya T, Takizawa H: Evidence of pulmonary disseminated cryptococcosis: diffuse multiple micronodules on thoracic computed tomography. Am J Med 128(1):e21, 2015.
40. Kuroda M<sup>1</sup>, Niwa S<sup>2</sup>, Sekizuka T<sup>1</sup>, Tsukagoshi H<sup>2</sup>, Yokoyama M<sup>1</sup>, Ryo A<sup>3</sup>, Sato H<sup>1</sup>, Kiyota N<sup>4</sup>, Noda M<sup>1</sup>, Kozawa K<sup>2</sup>, Shirabe K<sup>5</sup>, Kusaka T<sup>6</sup>, Shimojo N<sup>7</sup>, Hasegawa S<sup>8</sup>, Sugai K<sup>9</sup>, Obuchi M<sup>1</sup>, Tashiro M<sup>1</sup>, Oishi K<sup>1</sup>, Ishii H, Kimura H<sup>10</sup> (<sup>1</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>2</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>3</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>Kumamoto Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>5</sup>Kagawa University, <sup>6</sup>Chiba University, <sup>7</sup>Yamaguchi University Graduate School of Medicine, <sup>8</sup>National Hospital Organization Yokohama Medical Center, <sup>9</sup>Toyama Institute of Health, <sup>10</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences): Molecular evolution of the VP1, VP2, and VP3 genes in human rhinovirus species C 5:8185, 2015.
41. 滝澤始: COPD・喘息オーバーラップ症候群の病態と治療. 東京都医師会雑誌 68(3):190-195, 2015.
42. 滝澤始:【マクロライドの治療効果をめぐる30年の歩み】呼吸器科臨床でのマクロライドの使われ方. 医薬ジャーナル 51(3): 954-958, 2015.
43. 石井晴之: 肺胞蛋白症 pulmonary alveolar proteinosis (PAP). 今日の治療指針・私はこう治療している. 医学書院: 334-335, 2015.

## 著書

1. 滝澤始: 楽しく学べる血液ガスと呼吸生理. 東京, 株式会社文光堂, 2014.
2. 滝澤始: 新呼吸療法テキスト 薬物療法. 3学会(日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会)合同呼吸療法認定士認定委員会. 東京, 株式会社アトムズ, 2014.p.122-140.
3. 滝澤始, 倉井大輔: 免許皆伝! 呼吸療法の考え方, 進め方. 東京, 中外医学社, 2014.
4. 皿谷健: 実践的 抗菌薬の選び方 アジスロマイシンとクラリスロマイシン. Medicina. 東京, 医学書院, 2014. p.184-191.
5. 滝澤始: 臨床検査ガイド 2015年改訂版 炎症・免疫学的検査/A. 炎症・組織障害・線維化マーカー 間質性肺炎マーカー

(KL-6, SP-A, SP-D). 東京, 株式会社文光堂, 2015.p.632-634.

## 特許等知的財産関係, 報告書

1. 滝澤始: 微小粒子状物質をはじめとする大気汚染物質に高感受性を示すぜん息群の抽出とその増悪予防のための効率的な健康管理手法の確立. 独立行政法人 環境再生保全機構委託業務 2014年度 報告書.
2. 小出卓, 皿谷健: サルコイドーシスにおける胸部CT上のGalaxy signの臨床的意義について. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 2014年度 研究報告書.

## その他

1. 皿谷健: 第111回 日本内科学会総会 医学生・研修医の内科学サミット2014 指導医教官賞受賞, 東京, 2014年4月12日.
2. 石井晴之: 第54回日本呼吸器学会学術講演会 学術部優秀賞受賞, 大阪, 2014年4月25日.
3. 滝澤始: 最先端技術と治療で肺難病に立ち向かう, 夕刊フジ, 2014年6月19日.
4. 皿谷健: 第3回杏林医学会研究奨励賞, 三鷹, 2014年11月15日.
5. 滝澤始: 【明日も元気】喘息, TBS ラジオ健康番組, 2015年11月17-21日.
6. 倉井大輔: NHK ニュースウォッチ9, 2015年1月23日.
7. 倉井大輔: NHK 情報まるごと, 2015年1月23日.
8. 倉井大輔: NHK ニュース深読み, 2015年1月24日放送回.

## 第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)

### 講演

1. 駒形嘉紀: 病診連携について —地域一体で実現する最先端のRA診療—. 第1回RA病診連携の会, 調布, 2014年4月3日.
2. Y.Arimura: Infections and the Vasculitis Connection. ANCA - Associated Vasculitis. The 16th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR), Philippines, March 31st, - April 4th, 2014.
3. Y.Arimura: Vasculitis: ANCA-Associated Vasculitis. The 16th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (APLAR), Philippines, March 31, - April 4th, 2014.
4. 福岡利仁, 清水英樹, 池谷紀子, 早川哲, 駒形嘉紀, 軽部美穂, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 慢性腎臓病(CKD)合併浮腫に対するトルバプタンの効果. 第111回日本内科学会総会・講演会, 東京, 2014年4月11-13日.
5. 有村義宏: 顕微鏡的多発血管炎(MPA)の診断と治療 update. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
6. 有村義宏: 合併症マネジメント: 腎臓. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24日-26日.
7. 福岡利仁, 池谷紀子, 早川哲, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 高齢関節リウマチ症例に対する生物学的製剤の効果と安全性. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
8. 福岡利仁: RAの特殊病態. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
9. 村上華奈子, 駒形嘉紀, 森知真子, 磯村杏耶, 遠藤彰子, 川嶋聡子, 池谷紀子, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 好中球産生NETsのANCA関連血管炎の病態への関与. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
10. 川嶋聡子, 窪田沙也花, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義

- 宏, 山田明: MPO-ANCA 陽性の好酸球多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) の再燃には4型がある. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
11. 軽部美穂, 要伸也, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 清水英樹, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 関節リウマチにおける慢性腎臓病 (CKD) 発症の関連因子の検討. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
  12. 清水英樹, 要伸也, 齋藤督芸, 軽部美穂, 池谷紀子, 早川哲, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 生物製剤使用中の当院関節リウマチ患者における慢性腎臓病合併について. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
  13. 遠藤彰子, 駒形嘉紀, 池谷紀子, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 自己免疫性血球減少症を合併した Felty 症候群の一例. 第58回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2014年4月24-26日.
  14. 中本啓太郎, 皿谷健, 乾俊哉, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 有村義宏, 滝澤始, 後藤元: トシリズマブ治療を行った関節リウマチ患者の肺感染症の検討. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都, 2014年5月9-11日.
  15. 有村義宏: 血管炎新分類と顕微鏡的多発血管炎 (MPA) update. International Chapel Hill Consensus Conference 2012をうけて. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会, 京都, 2014年5月10日.
  16. 有村義宏: ANCA 関連血管炎の診療 -腎臓内科の立場より-. CHUGAI KIDNEY RELATED DISEASE SYMPOSIUM -ANCA-associated Vasculitis and Renal Anemia-, 東京, 2014年5月10日.
  17. Karube M, Kaname S, Saito M, Ikegaya N, Fukuoka K, Komagata Y, Arimura Y, Yamada A: A case of nephrotic syndrome due to antiphospholipid syndrome nephropathy. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology, Tokyo, May 14th-17th, 2014.
  18. Shimizu H, Kaname S, Kawashima S, Ikegaya N, Hayakawa S, Fukuoka K, Karube M, Komagata Y, Arimura Y, Yamada A: Renoprotective effect of telmisartan for obese patients. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology, Tokyo, May 14th-17th, 2014.
  19. Sakurai S, Endo A, Shimizu H, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: A case of IgG4-related disease diagnosed 7 years after the start of hemodialysis. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology, Tokyo, May 14th-17th, 2014.
  20. Miyazawa S, Shimizu H, Karube M, Kobayashi M, Nakajima E, Kubota S, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y, Yamada A: A case of TTP associated with stable SLE who showed dramatic improvement by glucocorticoid alone. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology, Tokyo, May 14th-17th, 2014.
  21. 要伸也: なぜ今腎臓病なのか. 第9回三鷹市民公開講座, 腎臓について考えるフォーラム, 三鷹, 2014年5月17日.
  22. 要伸也: aHUS の診断と病態について. 埼玉 aHUS 研究会, 川越, 2014年5月29日.
  23. 有村義宏: 血管炎—最新の話—. 第9回西埼玉地区循環器疾患セミナー, 所沢, 2014年5月19日.
  24. 有村義宏: 血管炎の up to date—ANCA 関連血管炎を中心に—. 第49回日本小児腎臓病学会, 秋田, 2014年6月6日.
  25. 小林昌史, 清水英樹, 軽部美穂, 宮澤さやか, 池谷紀子, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 治療に難渋した膠原病関連非典型溶血性尿毒症症候群の2例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  26. 軽部美穂, 要伸也, 高橋孝幸, 川嶋聡子, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: アルガトロバンにて免疫吸着療法を行い、出産に成功した妊娠合併難治性ループス腎炎の1例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  27. 高橋孝幸, 清水英樹, 要伸也, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 当院における緊急入院を要した CKD 症例の検討. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  28. 中島瑛里子, 清水英樹, 福岡利仁, 高橋孝幸, 窪田沙也花, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 血液透析導入時に内腸骨動脈瘤の切迫破裂をきたした1例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  29. 櫻井仁子, 遠藤彰子, 清水英樹, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 透析導入7年後に IgG4 関連疾患の診断に至った多発性嚢胞腎症例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  30. 小西文晴, 和久昌幸, 佐々木豪, 三宅伸之, 本田恒雄, 佐藤友紀, 喜屋武淳, 有村義宏, 山田明: 両側気腫性腎盂炎の一例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  31. 山田裕信, 白地絢, 村野祐司, 萬知子, 千々和京介, 浜井章, 軽部美穂, 要伸也, 山田明: ポリスルホン膜トレライト NV を導入して. 第59回日本透析医学会学術集会総会, 神戸, 2014年6月12-15日.
  32. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—基礎・臨床の進歩—. 第9回長崎皮膚・膠原病フォーラム, 長崎, 2014年6月19日.
  33. 佐藤綾, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 磯村杏耶, 片岡郁穂, 高橋孝幸, 遠藤彰子, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 早期の治療開始により腎機能が回復した Goodpasture's syndrome の一例. 第67回三多摩腎疾患治療医会, 三鷹, 2014年6月22日.
  34. Kaname S: TMA and aHUS associated with autoimmune diseases including SLE, collagen disease. The 2nd aHUS Extension Meeting for Nephrologists, Tokyo, July 2nd, 2014.
  35. 川嶋聡子, 窪田沙也花, 佐藤綾, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明: MPO-ANCA 陽性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (EGPA) における腎症の検討—再燃との関連—. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  36. 平山浩一, 小林正貴, 臼井丈一, 有村義宏, 杉山新, 新田孝作, 武曾恵理, 和田隆志, 山縣邦弘: ANCA 型 RPGN における肺病変の検討. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  37. 軽部美穂, 要伸也, 清水英樹, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: TMA 合併ループス腎炎2例の von Willebrand 因子発現に関する組織学的検討. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  38. 清水英樹, 要伸也, 齋藤督芸, 軽部美穂, 池谷紀子, 早川哲, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 生物製剤使用中の慢性疾患患者での慢性腎臓病合併について. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  39. 早川哲, 要伸也, 駒形嘉紀, 有村義宏, 山田明: 血液透析中の循環血液量変動と末梢血管抵抗の関連. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  40. 有村義宏: 公的班研究の現状と課題; 難治性血管炎調査研究班の研究成果と課題. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月6日.
  41. 有村義宏: 膠原病内科から見る免疫抑制剤の使い方. 第3回東

- 京西部神経免疫フォーラム, 立川, 2014年7月17日.
42. 清水英樹, 要伸也, 有村義宏, 田坂華世, 長澤理英子, 平松佐紀子: 地域連携を元にPD導入した介護度の高い超高齢者の1例—高齢者 PD/地域連携を含め—. 三鷹 PD 地域連携セミナー, 三鷹, 2014年7月19日.
  43. 駒形嘉紀: 病診連携による地域一体のRA診療. 第2回RA病診連携の会, 三鷹, 2014年7月25日.
  44. 有村義宏: ANCA 関連血管炎に関する検査と診療. 第1回検査と診療. 関西フォーラム, 大阪, 2014年7月26日.
  45. 要伸也: CKD 患者の水電解質管理—夏場の注意を含めて—. 北多摩 CKD 病診連携講演会, 東京, 2014年7月31日.
  46. 要伸也, 柴垣有吾: 低ナトリウム血症—症例検討と鑑別診断・治療—. 第19回臨床研修医のための腎臓セミナー, 新潟, 2014年8月3日.
  47. 有村義宏: 関節リウマチの診断と治療. KYO 学術講演会, 甲府, 2014年8月7日.
  48. 有村義宏: 血管炎診療の進歩. 第26回日本リウマチ学会中部支部学術集会, 新潟, 2014年8月30日.
  49. 福岡利仁: 東京多摩地区のPDの現況について. 第20回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 山形, 2014年9月6日.
  50. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—最新知見—. KIDNEY RELATED DISEASE FORUM ~ANCA-associated Vasculitis~, 名古屋, 2014年9月9日.
  51. 軽部美穂, 要伸也, 前園知宏, 高橋孝幸, 早川哲, 駒形嘉紀, 山田明, 有村義宏: 腎生検にて診断に至った尿細管間質性腎炎合併T細胞リンパ腫の1例. 第18回腎間質障害研究会, 東京, 2014年9月13日.
  52. 有村義宏: 平成26年度: 研究代表者報告(基本方針). 平成26年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)第1回班会議, 東京, 2014年9月14日.
  53. 有村義宏: 血管炎症候群の診断と治療. 平成26年度北海道・東北地区リウマチ教育研修会, 青森, 2014年9月21日.
  54. 有村義宏: 血管炎診療におけるアフェレシス療法の位置付け. 第35回日本アフェレシス学会学術大会, 東京, 2014年9月28日.
  55. 要伸也: 糖尿病性腎症における最近の話題. 武蔵野 DM Forum, 東京, 2014年10月2日.
  56. 有村義宏: ANCA 関連血管炎の病態診断・治療. 第20回白河腎疾患フォーラム, 福島, 2014年10月7日.
  57. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—病態と臨床研究の進歩—. Vasculitis Forum in Fukuoka 2014, 福岡, 2014年10月10日.
  58. 有村義宏: ANCA 関連血管炎の病態と診断・治療. 腎と膠原病フォーラム, 名古屋, 2014年10月16日.
  59. 有村義宏: ANCA 関連血管炎の治療. 全国膠原病フォーラム in 東京, 東京, 2014年10月19日.
  60. 高橋孝幸, 池谷紀子, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 石本麻衣, 千葉厚郎, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 重症筋無力症に緩徐進行1型糖尿病を合併し, 治療経過中に膜性腎症を呈した1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  61. 宮澤さやか, 早川哲, 池谷紀子, 小林昌史, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: ネフローゼ症候群で発症した妊娠高血圧症候群の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  62. 片岡郁穂, 軽部美穂, 磯村杏耶, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 係蹄壁優位にIgA, IgG沈着を認めたネフローゼ症候群の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  63. 遠藤彰子, 高橋孝幸, 池谷紀子, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 難治性喘息, 好中球性中耳炎に合併した膜性腎症の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  64. 前園知宏, 軽部美穂, 高橋孝幸, 早川哲, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 腎生検にてT細胞リンパ腫の診断に至った尿細管間質性腎炎の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  65. 小林昌史, 池谷紀子, 櫻井仁子, 早川哲, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 筋痛を主訴とする, 高齢発症の溶連菌感染後急性糸球体腎炎の1例. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  66. 福岡利仁: シンポジウム・学生・研修医のためのセミナー. 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  67. 要伸也: メタボリックシンドロームと腎(よくわかるシリーズ16). 第44回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2014年10月24-25日.
  68. 有村義宏: 新しい SLE 診断基準とループス腎炎. 第11回神戸CKDフォーラム, 神戸, 2014年10月30日.
  69. 要伸也: CKD における血圧管理. HT フォーラム講演, 東京, 2014年11月6日.
  70. 有村義宏, 川嶋聡子: MPO-ANCA 陽性の好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)の再燃とANCA値の関連. 第20回MPO研究会, 熱海, 2014年11月7-8日.
  71. 有村義宏: 厚生省難病対策 MHLW Project for intractable diseases. 第20回MPO研究会, 熱海, 2014年11月8日.
  72. Fukuoka K, Kaname S, Arimura Y: Effectiveness of tolvaptan in chronic kidney disease patients with systemic edema. American Society of Nephrology meeting, USA, November 13th, 2014.
  73. Endo A, Kaname A, Arimura Y: Fibrillary glomerulonephritis presenting as rapidly progressive glomerulonephritis with linear IgA staining of the glomerular capillary walls. American Society of Nephrology meeting, USA, November 14th, 2014.
  74. 前園知宏, 福岡利仁, 池谷紀子, 國沢恭平, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 長期 SLE 治療経過中に非典型 HUS を発症した1例. 三多摩腎疾患治療医会第68回研究会, 三鷹, 2014年11月9日.
  75. 國沢恭平, 遠藤彰子, 小路仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 2回目の腎生検で診断に至ったC3 glomerulonephritis の1例. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
  76. 前園知宏, 佐藤綾, 池谷紀子, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 松田雄大, 甲能直幸: 繰り返す顔面神経麻痺と肥厚性硬膜炎を合併した ANCA 関連血管炎性中耳炎(Otitis Media with ANCA-Associated Vasculitis: OMAAV)の1例. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
  77. 要伸也: ANCA 関連血管炎・腎炎と透析. 三重透析合併症講演会, 津, 2014年11月29日.
  78. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—Rituximab 治療の現況—. 第29回日本臨床リウマチ学会, 福岡, 2014年11月29-30日.
  79. 有村義宏: 平成26年度: 第2回班会議 研究代表者報告. 平成26年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)難治性血管炎に関する調査研究班, 東京, 2014年12月12日.
  80. 有村義宏: 血管炎診療—最新の治療—. 血管炎フォーラム, 東京, 2014年12月12日.
  81. 有村義宏: ANCA 関連血管炎—基礎・臨床研究の進歩—. 第3回山陰血管炎研究会, 松江, 2014年12月13日.

82. 有村義宏:腎と血管炎について. 第2回和歌山 腎・血管炎・膠原病勉強会, 和歌山, 2015年1月15日.
83. 有村義宏:「血管炎診療の歴史と展望—免疫抑制剤, 生物学的製剤を含めた治療戦略について—」. 信州膠原病セミナー, 長野, 2015年2月14日.
84. 有村義宏:ANCA 関連血管炎—ANCA 測定を中心に—. 第6回愛知県腎機能評価研究会, 名古屋, 2015年2月16日.
85. 有村義宏:我が国における血管炎と ANCA 測定の歴史と変遷. 第2回血管炎早期発見研究会, 東京, 2015年2月21日
86. 富澤綾子, 藤田直巳, 高橋麻奈美, 関本琴恵, 濱井章, 新井由美, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏:血液透析導入クリニカルパスを作成して. 東京透析懇談会, 東京, 2015年2月22日.
87. 有村義宏:関節リウマチにおける病態と治療戦略. 杏林近隣地区 薬業連携講演会, 東京, 2015年2月26日.
88. 有村義宏:RPGN と ANCA 関連腎炎・血管炎のすべて. 第20回臨床研修医のための腎臓セミナー, 東京, 2015年3月1日.
89. 有村義宏:ANCA 関連血管炎の診断と治療の進歩. 第14回関西膠原病フォーラム, 京都, 2015年3月7日.
90. 軽部美穂, 要伸也, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 清水英樹, 池谷紀子, 駒形嘉紀, 有村義宏:妊娠時にネフローゼ症候群を呈しながら出産に成功したクリオグロブリン血症性腎炎の1例. 第25回腎と妊娠研究会, 横浜, 2015年3月7日.
14. 山村昌弘, 佐田憲映, 針谷正祥, 藤井隆夫, 石津明洋, 有村義宏, 榎野博史:1.免疫と内科疾患—その病態と治療最前線 5) 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の病態と治療の最前線. 日本内科学会雑誌 103(9):2121-2129, 2014.
15. 有村義宏, 池谷紀子:血管炎症候群. IV. 関節リウマチ以外の膠原病, 最近の話題. 日本内科学会雑誌 103(10):2492-2500, 2014.
16. 池谷紀子, 有村義宏, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 山田明:膠原病における HPLC による尿中インタクト微量アルブミンの臨床的意義. 杏林医学会雑誌 45(4)125-136, 2014.
17. 有村義宏, 川上民裕, 本間栄, 吉藤元:血管炎:最近の話題. 呼吸 33(11):1082-1095, 2014.
18. 有村義宏:抗 GBM 抗体腎炎へのアフエレスシス療法. 腎と透析78(2):178-181, 2015.
19. 有村義宏:好酸球性多発血管炎性肉芽腫症. 科学評論社 63(3):239-245, 2015.
20. 有村義宏(共著):RPGN 診療ガイドライン作成分科会.エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン2014. 日本腎臓学会誌57(1)139-232, 2014.
21. 有村義宏, 池谷紀子:【リウマチ学:診断と治療の進歩】トピックス 関節リウマチ以外の膠原病, 最近の話題 血管炎症候群. 日本内科学会雑誌 103:2492-2500, 2014.
22. Hirayama K, Kobayashi M, Usui J, Arimura Y, Sugiyama H, Nitta K, Muso E, Wada T, Matsuo S and Yamagata K on behalf of the Japanese RPGN Study Group of Progressive Renal Disease: Pulmonary involvements of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-associated renal vasculitis in Japan. Nephrol Dial Transplant(2015) 30:i83-i93.
23. Ando K, Ohtsu H, Uchida S, Kaname S, Arakawa Y, Fujita T, EVALUATE Study Group: Anti-albuminuric effect of the aldosterone blocker eplerenone in non-diabetic hypertensive patients with albuminuria: a double-blind, randomised, placebo-controlled trial. Lancet Diabetes Endocrinol. 2(12):944-953. 2014.
24. Sawai T, Nangaku M, Ashida A, Fujimaru R, Hataya H, Hidaka Y, Kaname S, Okada H, Sato W, Yasuda T, Yoshida Y, Fujimura Y, Hattori M, Kagami S: Diagnostic criteria for atypical hemolytic uremic syndrome proposed by the Joint Committee of the Japanese Society of Nephrology and the Japan Pediatric Society. Clin Exp Nephrol 18(1):4-9,2014.
25. Igarashi T, Ito S, Sako M, Saitoh A, Hataya H, Mizuguchi M, Morishima T, Ohnishi K, Kawamura N, Kitayama H, Ashida A, Kaname S, Taneichi H, Tang J, Ohnishi M, Study group for establishing guidelines for the diagnosis and therapy of hemolytic uremic syndrome: Guidelines for the management and investigation of hemolytic uremic syndrome. Clin Exp Nephrol 18(4):525-557,2014.
26. 駒形嘉紀:血管炎のバイオマーカーが偽陽性・偽陰性を示す病態. Modern Physician 34:1058-1061, 2014.
27. 駒形嘉紀, 有村義宏:RA 以外の膠原病に対する生物学的製剤治療の可能性 血管炎症候群. 炎症と免疫 23:153-158, 2015.
28. Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Arimura Y, Makino H, Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan: Issues associated with the Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of Remission Induction Therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria. od Rheumatol. 25(4): 657-659, 2015

## 論文

1. 有村義宏:膠原病・血管炎. 腎と透析 76(4):585-589, 2014.
2. 有村義宏:オーバービュー:血管炎の分類と新規病名分類. 呼吸器内科 25(4):289-293, 2014.
3. 清水英樹, 要伸也, 高野秀樹, 石橋由孝, 宮澤さやか, 高橋孝幸, 櫻井仁子, 窪田沙也花, 軽部美穂, 山田明:腹膜透析導入時の医療連携がもたらす効果について. 腹膜透析2014 77(別冊):367-368, 2014.
4. 佐藤綾, 有村義宏, 清水英樹, 窪田沙也花, 磯村杏耶, 小西文晴, 川嶋聡子, 池谷紀子, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 石井誠之, 佐藤衛, 山田明:長期維持透析中に再燃した抗好球性多発血管炎性肉芽腫症(Churg-Strauss 症候群)の1例. 透析会誌 47(7):453-457, 2014.
5. 有村義宏:難治性血管炎の新たな治療法. Modern Physician 34(9):1080-1083, 2014.
6. 有村義宏:急速進行性糸球体腎炎に伴う肺病変. 最新医学社別冊 新しい診断と治療の ABC 85:79-87, 2014.
7. 磯村杏耶, 池谷紀子, 片岡郁穂, 齋藤督芸, 小路仁, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 岡野晴子, 塩川芳明:維持透析中に中枢神経障害を発症して診断された好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA:Churg-Strauss 症候群)の一例. 関東リウマチ 47:202-208, 2014.
8. 高橋孝幸, 要伸也:下痢・嘔吐と水電解質異常. 腎と透析 77(1):71-74, 2014.
9. 要伸也:血管炎・抗 GBM 抗体陽性. 臨床透析 30(9):41-45, 2014.
10. 要伸也:巻頭言:CKD 診療,そして電解質. 腎と透析77(2):133-134, 2014.
11. 要伸也:腎・透析センターにおける地域連携の取り組み. 杏林医会誌46(1):61-65, 2015.
12. 要伸也:AKI 診療の進歩:血栓性微小血管症(TMA). 腎と透析 76(4):601-604, 2014.
13. 要伸也:外来で行う低カリウム血症の治療のすすめかた. Medical Practice 31(5):811-815, 2014.

29. Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Dobashi H, Takasaki Y, Ito S, Yamada H, Wada T, Hirahashi J, Arimura Y, Makino H, Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan: Classification and characteristics of Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody – associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Arthritis Res Ther.* 16(2): R101, 2014.
30. Sada KE, Amano K, Uehara R, Yamamura M, Arimura Y, Nakamura Y, Makino H, Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour, Welfare of Japan: A nationwide survey on the epidemiology and clinical features of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (Churg-Strauss) in Japan. *Mod Rheumatol.* 24(4):640-644, 2014.
31. Nakada Y<sup>1</sup>, Tsuboi N<sup>1</sup>, Takahashi Y<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Hara Y<sup>1</sup>, Okonogi H<sup>1</sup>, Kawamura T<sup>1</sup>, Arimura Y, Yokoo T<sup>1</sup> (Jikei University): A Case of Concurrent MPO-/PR3-Negative ANCA-Associated Glomerulonephritis and Membranous Glomerulopathy. *Case Rep Nephrol.* doi:10.1155/2015/316863. (Epub 2015).

**著書**

1. 有村義宏: 多発血管炎性肉芽腫症候群(Wegener 肉芽腫症). 間質性肺疾患 診療マニュアル. 久保恵嗣, 藤田次郎編集, 東京, 南江堂, 2014.p.302-304.
2. 有村義宏: ANCA 関連血管炎に関する検査と診療. 第1回 検査と診療 関西フォーラム講演録集腎疾患診療のアップフロント. 名古屋, 医学生物学研究所, 2015.p.15-19.
3. 有村義宏: IV. 免疫血清検査. パーフェクトガイド 検査値事典 [第2版]. 中原一彦監修. 東京, 総合医学社, 2014.p.403-412.
4. 有村義宏: RPGN 診療ガイドライン作成分科会. エビデンスに基づく 進行性腎障害診療ガイドライン2014. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班編集. 東京, 東京医学社. 2014.p.vii-x, p.1-5.
5. 有村義宏: RPGN 診療ガイドライン作成分科会. エビデンスに基づく 急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン2014 ダイジェスト版. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班編集. 東京, 東京医学社. 2014.p.42-54.
6. 有村義宏: RPGN 診療ガイドライン作成分科会. エビデンスに基づく 急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン2014準拠急速進行性腎炎症候群. 有村義宏編集. 東京, 東京医学社. 2014.p.2-10.
7. 有村義宏: 急速進行性糸球体腎炎に伴う肺病変. 全身性疾患の肺病変. 杉山幸比古編集. 大阪, 最新医学社, 2014.p.79-87.
8. 要伸也, 有村義宏: 強皮症腎クリーゼ. 腎疾患・透析最新の治療. 横野博史, 秋澤忠男編集, 東京, 南江堂, 2014, p.196-199.
9. 要伸也: 成人の HUS 診断・治療. 溶血性尿毒症症候群の診断・治療ガイドライン. 五十嵐隆 統括責任者, 溶血性尿毒症症候群の診断・治療ガイドライン作成班編集, 東京, 東京医学社, 2014, p.65-69.
10. 要伸也: 高ナトリウム血症. 今日の治療指針2015年度版. 東京, 医学書院, 2015.p.622.

**その他**

1. 要伸也(当番世話人): 臨床研修医のための腎臓セミナー, 東京, 2015年2月28日-3月1日.
2. 有村義宏: ANCA 関連血管炎の治療. 全国膠原病フォーラムブック. 「全国膠原病フォーラム in 東京」報告書. 一般社団法人 全国膠原病友の会主催, 東京, 2014年10月19日.
3. 有村義宏: 広域な多摩地区に不足するRAの医療資源 不可欠

な医療連携の効果的なあり方を考える. Rapport ラポール 第7号. 中外製薬株式会社. 2014.p.1-11.

**第一内科学教室  
(神経内科)**

**講演**

1. 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子, 傳法倫久, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: 高齢者におけるアルテプラーゼ静脈注射療法について. 第27回日本老年脳神経外科学会, 新潟, 2014年4月25日.
2. 木戸直樹, 岡野晴子, 清水英樹, 福岡利仁, 塩川芳昭, 千葉厚郎: 亜急性に好酸球増多を呈しコレステロール塞栓症と診断した73歳男性例. 首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 2014年5月9日.
3. 千葉厚郎, 内堀歩, 加藤知子: 抗 synapsin Ia 抗体測定系の検討. 第55回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014年5月21-24日.
4. 内堀歩, 千葉厚郎: ガングリオシド複合による抗原抗体反応増強の機序に関する検討. 第55回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014年5月21-24日.
5. 大石知瑞子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 下肢末梢神経伝導検査における所謂「50%ルール」の妥当性について. 第55回日本神経学会総会, 福岡, 2014年5月21-24日.
6. 田村暁子, 園生雅弘, 大石知瑞子, 三野俊和, 武田景敏, 山本圭一, 山川義弘, 正木秀樹, 安宅鈴香, 伊藤和博, 葛田強司, 嶋田裕之: 後根神経節炎における頸骨神経刺激体性感覚誘発電位(SEP)の検討. 第55回日本神経学会総会, 福岡, 2014年5月21-24日.
7. 三井純, 松川敬志, 石浦浩之, 市川弥生子, 後藤順, 村山繁雄, 高嶋博, 佐々木秀直, 辻省次, JAMSAC: 多系統萎縮症の疾患関連遺伝子の探索. 第55回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014年5月21-24日.
8. 吉田知礼, 綾野水樹, 傳法倫久, 小川有紀, 毛利崇人, 羽田裕, 岡野晴子, 千葉厚郎: 左被殻出血後にパーキンソンニズムを呈した78歳女性例. 第209回日本神経学会関東甲信越地方会, 東京, 2014年6月7日.
9. 柳葉久実, 山本詞子, 山口哲人, 中馬越清隆, 玉岡晃, 市川弥生子, 後藤順, 辻省次: 運動後の筋痙攣, 筋痛で発症し, 亜急性の進行を呈した家族性筋萎縮性側索硬化症(SOD1 L85F 変異)の32歳女性例. 第209回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2014年6月7日.
10. 内尾直裕, 長島優, 平賢一郎, 市川弥生子, 寺尾安生, 松本直通, 辻省次: 乳児期より精神発達遅滞を伴い, 30歳代から歩行障害と嚥下障害が急速に進行, WDR45遺伝子変異を認めた40歳女性例. 第209回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2014年6月7日.
11. 山上まり, 櫻井靖久, 濱田健介, 杉本泉, 萬年徹, 畑中裕己, 内堀歩, 千葉厚郎: 左優位の顔面・上肢主体の運動麻痺に右の舌下神経麻痺を合併したギラン・バレー症候群. 第209回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2014年6月7日.
12. 千葉厚郎: 長期にわたり IVIg療法を行った全身型重症筋無力症の一例. 第3回東京西部神経免疫フォーラム, 立川, 2014年7月17日.
13. 傳法倫久: 脳梗塞急性期および慢性期治療における時間軸でみた場合の抗血小板療法 ～アスピリンを中心に～. 武田薬品勉強会, 三鷹, 2014年7月31日.

14. 岡村耕一, 佐藤研隆, 笹森寛生, 鳥居正剛, 岡野晴子, 傳法倫久, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: CT-MRI Reversed Discrepancy が認められた急性期アテローム血栓症における脳 CT perfusion 画像. 第33回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 盛岡, 2014年8月30日.
15. Chiba A: Molecular story of Guillain-Barré syndrome. 第26回神経免疫学会, 金沢, 2014年9月4-6日.
16. 千葉厚郎, 内堀歩, 加藤知子: 免疫沈降法による抗 synapsin Ia 抗体測定系の検討. 第26回神経免疫学会, 金沢, 2014年9月4-6日.
17. 内堀歩, 千葉厚郎: Guillain-Barré 症候群におけるガングリオン抗体の抗原抗体反応でのセラミド添加の影響. 第26回神経免疫学会, 金沢, 2014年9月4-6日.
18. 中島昌典, 内堀歩, 小川有紀, 宮崎泰, 市川弥生子, 千葉厚郎: 肺小細胞癌に合併した抗 CV2/CRMP-5抗体陽性傍腫瘍性視神経症 PON の61歳女性例. 第210回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2014年9月6日.
19. 傳法倫久: 脳卒中のチーム医療 内科医である私の血管内治療専門医としての立ち位置. 第8回東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2014年9月20日.
20. Okada K, Maruyama K, Torii M, Okamura K, Seyama H, Yamada S, Dembo T, Shiohara Y: Experience of *In Vivo* Optical Spectroscopy during and after carotid endarterectomy. The 12th Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Osaka, September 26th-27th, 2014.
21. 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子, 傳法倫久, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: 高齢者におけるアルテプラゼ静脈注射療法について. 第73回日本脳神経外科学会学術総会, 東京, 2014年10月9-11日.
22. 吉原智之, 金澤隆三郎, 大淵英徳, 傳法倫久, 嶋口英俊, 大川原舞, 落合育雄: 急性期脳主幹脳脈閉塞に対する血管内治療の成績. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
23. Oishi C, Sonoo M, Chiba A: Validity of the 50% rule for the nerve conduction study of the lower-limb. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine (AANEM) 61th Annual Meeting, USA, October 29th-November 1st, 2014.
24. Chiba T, Imafuku I, Oishi C, Konoeda F, Higashihara M, Hokkoku K, Hatanaka Y, Sonoo M: Cervical spinal nerve 8 and thoracic vertebrae 1 innervation of forearm flexor muscles. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine (AANEM) 61th Annual Meeting, USA, October 29th, -November 1st, 2014.
25. Chiba A, Uchibori A, Kato T: Study on assay system for anti-synapsin Ia antibody. 12th International Congress of Neuroimmunology, Germany, November 9th-13th, 2014.
26. Uchibori A, Chiba A: A study on the mechanism of antigen-antibody reaction increased by ganglioside-complexing in Guillain-Barré syndrome. 12th International Congress of Neuroimmunology, Germany, November 9th-13th, 2014.
27. 大石知瑞子, 園生雅弘, 橘滋國, 千葉厚郎: 脛骨神経の二峰性複合筋活動電位(CMAP)から内側足底神経障害が証明され, 足根管症候群(TTS)と診断した1症例. 第44回日本臨床神経生理学会・学術集会, 福岡, 2014年11月19-21日.
28. 千葉隆司, 此枝史恵, 東原真奈, 神谷久雄, 大石知瑞子, 畑中裕己, 園生雅弘: 前腕筋群の C8と T1の筋節支配. 第44回日本臨床神経生理学会・学術集会, 福岡, 2014年11月19-21日.
29. 田村暁子, 園生雅弘, 大石知瑞子, 伊藤和博, 葛田強司, 島田裕之, 伊藤義彰: 後根神経節炎における頸骨神経刺激体性感覚誘発電位(SEP)の検討. 第44回日本臨床神経生理学会・学術集会, 福岡, 2014年11月19-21日.
30. 中島昌典, 内堀歩, 市川弥生子, 小川有紀, 千葉厚郎: 初期の症状変動と亜急性の瘻性対麻痺・認知機能低下を呈し hereditary diffuse leukoencephalopathy with spheroids(HDLS)と診断した27歳女性例. 第211回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 2014年11月29日.
31. 千葉厚郎: 免疫性末梢神経障害の診断と治療・予後予測: Guillain-Barré/Fisher 症候群・CIDP を中心に. 第4回神経疾患に親しみ強くなる会教育セミナー, 東京, 2014年12月20日.
32. 吉原智之, 金澤隆三郎, 大淵英徳, 嶋口英俊, 傳法倫久, 落合育雄, 大川原舞, 国吉昇: 急性期脳主幹脳脈閉塞に対する血行再建療法の適応と工夫. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月4-6日.
33. 笹森寛生, 鳥居正剛, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 杏林大学における tPA 静注療法無効例に対する血管内治療の現状. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月4-6日.
34. 千葉厚郎, 内堀歩: 免疫沈降アッセイ系による抗 synapsin Ia 抗体の検討. 平成26年度厚生労働省(神経免疫疾患)政策および実用化研究班合同班会議, 東京, 2015年1月21日.
35. 内堀歩, 千葉厚郎: 糖脂質複合による抗原抗体反応増強機序に関する検討. 平成26年度厚生労働省(神経免疫疾患)政策および実用化研究班合同班会議, 東京, 2015年1月21日.
36. 小松原弘一郎, 傳法倫久, 笹森寛生, 鳥居正剛, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: 脳主幹脳脈急性期血行再建術における当施設での現状と課題—時短に向けての取り組み—. 第20回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2015年1月30-31日.
37. 千葉厚郎, 内堀歩: 免疫性神経疾患における新たな診断バイオマーカーの探索: 一次進行型 MS と抗 synapsin Ia 抗体(第2報). 第8回多摩神経免疫研究会, 立川, 2015年2月12日.
38. 綾野水樹, 傳法倫久, 田中雅貴, 平野照之, 塩川芳昭: 肥満および糖尿病の有無がクロビドグレル抵抗性に及ぼす影響. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
39. 金澤隆三郎, 吉原智之, 大淵英徳, 落合育雄, 傳法倫久, 嶋口英俊, 大川原舞, 鈴木直幸, 中野由美子, 赤坂保美: 頸動脈狭窄における, 「定量的」プラーク硬度に関する研究. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
40. 佐藤研隆, 傳法倫久, 笹森寛生, 小松原弘一郎, 鳥居正剛, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: 右腕頭動脈の可動性プラークに対して Hybrid Surgery を行った1症例. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
41. 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 丸山啓介, 山田深, 傳法倫久, 塩川芳昭: CEA 周術期における INVOS のパターン解析. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
42. 吉原智之, 金澤隆三郎, 大淵英徳, 嶋口英俊, 傳法倫久, 落合育雄, 大川原舞: 急性期脳主幹脳脈閉塞に対し血管内治療による早期再開通が予後を改善する可能性. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
43. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 笹森寛生, 鳥居正剛, 傳法倫久, 塩川芳昭: 急性期脳底動脈閉塞に対する血行再建療法の治療成績: 連続13例における画像評価と予後に関する検討. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
44. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤

英仁, 窪田博, 磯村杏耶: 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. 第212回 日本神経学会 関東・甲信越地方会, 東京, 2015年3月14日.

45. 傳法倫久: 急性期脳主幹動脈閉塞に対する血行再建療法 — 現状と最近の話題—. Stroke Core Member Meeting in Koedo, 川越, 2015年3月4日.

**論文**

- 千葉厚郎: 糖脂質抗体関連ニューロパチー: 基本と最近の話題. 神経治療学 31:274-278, 2014.
- 傳法倫久: 脳梗塞急性期治療 update 脳梗塞の脳血管内治療の最前線. 神経内科 81: 535-543, 2014.
- Deguchi I<sup>1</sup>, Dembo T, Yoshimura S<sup>2</sup>, Sakai N<sup>3</sup>, Okada Y<sup>4</sup>, Kitagawa K<sup>5</sup>, Kimura K<sup>6</sup>, Hyogo T<sup>7</sup>, Yamagami H<sup>8</sup>, Egashira Y<sup>9</sup>, Tanahashi N<sup>1</sup> (1Saitama medical University, 2Hyogo College of Medicine, 3Kobe City Medical Center Genrerall Hospital, 4National Hospital Organization, Kyushu medical Center, 5Osaka University, 6Kawasaki Medical School, 7Nakamura Memorial Hospital, 8National Cerebral and Cardiovascular Center, 9Gifu University): Relationship between magnetic resonance angiography - diffusion - weighted imaging mismatch and clinical outcome in endovascular treatment for acute ischemic stroke: subgroup analysis of the Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra - acute Embolism- Japan Registry. J Stroke Cerebrovasc Dis 23(6): 1471-1476, 2014.
- Oishi C, Sonoo M<sup>1</sup>, Kurono H<sup>1</sup>, Hatanaka Y<sup>1</sup>, Shimizu T<sup>1</sup>, Chiba A, Sakuta M (1Teikyo University School of Medicine): A new pitfall in a sensory conduction study of the lateral antebrachial cutaneous nerve: spread to the radial nerve. Muscle Nerve 50(2):186-192, 2014.
- Isose S<sup>1</sup>, Misawa S<sup>1</sup>, Sonoo M<sup>2</sup>, Shimizu T<sup>3</sup>, Oishi C, Shibuya K<sup>1</sup>, Nasu S<sup>1</sup>, Sekiguchi Y<sup>1</sup>, Mitsuma S<sup>1</sup>, Beppu M<sup>1</sup>, Omori S<sup>1</sup>, Komori T<sup>4</sup>, Kokubun N<sup>5</sup>, Inaba A<sup>6</sup>, Hirashima F<sup>7</sup>, Kuwabara S<sup>1</sup>, The Tokyo Metropolitan Neuromuscular Electrodiagnosis Study Group (1Chiba University, 2Teikyo University School of Medicine, 3Tokyo Metropolitan Neurological Hospital, 4National Hakone Hospital, 5Dokkyo Medical University, 6Kanto Central Hospital, 7Nissan Tamagawa Hospital): Duration of the distal compound muscle action potential for diagnosis of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: effects of low-cut filters. J Clin Neurophysiol 31(5): 441-443, 2014.
- Tezenas du Montcel S, Durr A, Bauer P, Figueroa KP, Ichikawa Y, Brussino A, Forlani S, Rakowicz M, Schöls L, Mariotti C, van de Warrenburg BP, Orsi L, Giunti P, Filla A, Szymanski S, Klockgether T, Berciano J, Pandolfo M, Boesch S, Melegh B, Timmann D, Mandich P, Camuzat A, Clinical Research Consortium for Spinocerebellar Ataxia (CRC-SCA), EUROSCA network, Goto J, Ashizawa T, Cazeneuve C, Tsuji S, Pulst SM, Brusco A, Riess O, Brice A, Stevanin G: Modulation of the age at onset in spinocerebellar ataxia by CAG tracts in various genes. Brain. 137 (9): 2444-2455, 2014.
- Saigoh K, Mitsui J, Hirano M, Shioyama M, Samukawa M, Ichikawa Y, Goto J, Tsuji S, Kusunoki S: The first Japanese familial case of spinocerebellar ataxia 23 with a novel mutation in the PDYN gene. Parkinsonism Relat Disord. 21(3): 332-334, 2015.

**著書**

- 内堀歩, 千葉厚郎: 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM). 神経疾患最新の治療 2015-2017. 小林祥泰, 水澤英洋, 山口修平編集.

東京, 南江堂, 2015. p.133-135.

- 大石知瑞子, 千葉厚郎: 無菌性髄膜炎. 新しい診断と資料の ABC82/神経7 神経関連感染症. 水澤英洋編. 大阪, 最新医学社, 2014. p.65-72.
- 市川弥生子, 辻省次: 脊髄小脳変性症. こどもの病気 遺伝についてきかれたら. 松原洋一, 呉繁夫, 左合治彦編集. 東京, 診断と治療社, 2015. p.123-125
- 千葉厚郎: Fisher 症候群. 神経内科研修ノート. 鈴木則宏責任編集, 東京, 診断と治療社, 2015. P.464-466.

**特許等知的財産関係, 報告書**

- 千葉厚郎, 内堀歩: 免疫沈降アッセイ系による抗 synapsin 1a 抗体の検討. 厚生労働科学研究補助金難治性疾患等政策研究事業「エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立に関する研究」2014年度総括分担研究報告書.
- 内堀歩, 千葉厚郎: 糖脂質複合による抗原抗体反応増強機序に関する検討. 厚生労働科学研究委託費 難治性疾患実用化研究事業「免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築」2014年度委託業務成果報告書.

**第二内科学教室  
(循環器内科)**

**講演**

- 坂田好美: 高血圧ガイドライン2014改訂のポイントとみつめていただきたい心不全. 日本高血圧学会. 東京, 2014年4月9日.
- 谷谷誠一, 山崎聡子, 飯島毅彦, 萬知子, 井原玲, 波利井清紀, 佐藤徹, 吉野秀朗: 新方式による非心臓手術前循環器スクリーニングシートの使用経験と有用性. 第111回日本内科学会総会・講演会, 東京, 2014年04月13日.
- 石黒みどり, 坂田好美, 上杉陽一郎, 木村郷, 井坂葵, 南島俊徳, 古谷充史, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 肺動脈性肺高血圧症例における3D Speckle Tracking Strain を用いた右室機能の評価. 第25回日本心エコー学会学術集会, 金沢, 2014年4月17日.
- 上杉陽一郎, 坂田好美, 南島俊徳, 井坂葵, 石黒みどり, 伊波巧, 石黒晴久, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀明: 心エコーを用いた慢性血栓性肺高血圧症における経皮的肺動脈拡張術治療後の再灌流性肺水腫出現の予測. 第25回日本心エコー学会学術集会, 金沢, 2014年4月17日.
- 上田明子: 肥大型心筋症に合併する心室頻拍に対するカテーテル治療. Women in EP, 大阪, 2014年4月18日.
- Sato T, Soejima K, Denpo T, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Shiokawa Y, Yoshino H: High Incidence of Atrial Fibrillation Episodes Prior to the Stroke in Patients with Cardiac Implantable Electrical Devices. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24-26日.
- 佐藤徹: 肺高血圧治療の最新の遅延. ファイザー社内勉強会, 東京, 2014年4月25日.
- 佐藤徹: 肺高血圧症の最新の診断と治療. 第6回大阪肺高血圧症勉強会大阪, 2014年4月26日.
- Sato T, Soejima K, Nagaoka M, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miyakoshi M, Miwa Y, Ueda A, Yoshino H, and Shoda M: Unusual Break in a Durata Lead With Shock Coil Fragmentation and Cable Externalization. Heart Rhythm 35th annual scientific session, USA, May 7th-10th, 2014.
- 伊波巧: PTPA for CTEPH: current status and future prospect.

- 第10回新広島循環器治療研究会, 広島, 2014年5月9日.
11. 坂田好美:心エコーで評価する～右心機能の重要性～. 第63回日本医学検査学会教育講演, 東京, 2014年5月18日.
  12. 三輪陽介:心房細動マネジメント -ガイドライン改定から考える-. 東京都病院薬剤師会 臨床薬学研究会, 東京, 2014年5月21日.
  13. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta Y, Kikuchi H, Yoshino H, Satoh T: A new era of therapeutic strategies for chronic thromboembolic pulmonary hypertension: Contrast among pulmonary endarterectomy, precutaneous transluminal pulmonary hypertension and medical therapy. International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  14. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta Y, Kikuchi H, Yoshino H, Satoh T: Pressure - wire - guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty : a breakthrough in the catheter interventional therapy for the chronic thromboembolic pulmonary hypertension. International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  15. Kikuchi H, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta Y, Yoshino H, Satoh T: A gradual improvement without functional restenosis one year after precutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension, International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  16. Kikuchi H, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta Y, Yoshino H, Satoh T: The most sensible objective marker in echocardiography and electrocardiography to detect an improvement of pulmonary hypertension: a study after precutaneous transluminal pulmonary angioplasty. International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  17. Shigeta Y, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Kikuchi H, Yoshino H, Satoh T : Impact of precutaneous transluminal pulmonary hypertension for chronic thromboembolic pulmonary hypertension with residual pulmonary hypertension after pulmonary endarterectomy, International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  18. Shigeta Y, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Kikuchi H, Yoshino H, Satoh T: Relationship between lipid disorders and chronic thromboembolic pulmonary hypertension, International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  19. Kanaya M, Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Yanagisawa R, Shimura N, Momose Y, Uesugi Y, Yoshino H, Satoh T: A gradual improvement without functional restenosis one year after precutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension. International CTEPH Conference Paris 2014, France, June 2nd-3rd, 2014.
  20. 佐藤徹:エボプロステノール治療について. 第2回日立肺高血圧症勉強会, 日立, 2014年6月16日.
  21. 吉野秀朗:冠攣縮性狭心症とVasospastic Heart failure. 旭川循環器疾患学術講演会, 旭川, 2014年6月19日.
  22. 坂田好美:肺高血圧症と慢性心不全. 第9回秋桜会講演, 秋田, 2014年6月21日.
  23. 岩田真由美, 伊波巧:An early-onset case of right ventricular tumor. 若手医師のため循環器内科セミナー, 東京, 2014年6月21日.
  24. 佐藤徹:肺高血圧症の最新の診断と治療. 第5小児肺循環を考える会 in 神奈川, 横浜, 2014年6月26日.
  25. 副島京子: Epicardial catheter ablation. Japanese Heart Rhythm Society Summer Seminar, 東京, 2014年6月29日.
  26. 吉野秀朗:循環器疾患上手な薬の飲み方. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2014年6月28日.
  27. 佐藤徹:肺高血圧症の最近知見. RD-6 DM 対象社内勉強会プログラム, 東京, 2014年7月16日.
  28. 坂田好美:Speckle-tracking Echocardiographyの strainを用いた心機能評価. 第252回多摩エコー研究会, 東京, 2014年7月17日.
  29. 佐藤徹:最新の肺高血圧症診断と治療. 第15回大阪膠原病と肺循環を考えるフォーラム, 大阪, 2014年7月18日.
  30. 坂田好美, 今井昌康:Multimodality による Strain 評価. 第15回心筋会, 東京, 2014年7月19日.
  31. 佐藤徹:Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty in Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. 6th Long March National Vascular Medicine Conference. China, 2014年7月20日.
  32. 副島京子:Recent Advance in Arrhythmia Therapy. Japanese Heart Rhythm Society Annual Meeting, 東京, 2014年7月22-25日.
  33. 副島京子:Epicardial approach. Japanese Heart Rhythm Society Annual Meeting, 東京, 2014年7月22-25日.
  34. 佐藤俊明, 萩原陽, 吉村高寛, 露口晃, 野澤隆志, 安村佑樹, 川上俊一郎, 村野祐司, 萬知子, 前田明子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗:当院における遠隔モニタリング運用と今後の展望. 第29回日本不整脈学会学術大会, 東京, 2014年7月22-25日.
  35. Ueda A, Oginosawa Y, Soejima K, Abe H, Kohno R, Ohe H, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miyakoshi M, Miwa Y, Sato T, Yoshino H: Outcomes of single- or dual-lead ICD system in Japanese patients - Experience of 2 University hospitals in Japan -. 第29回日本不整脈学会学術集会, 東京, 2014年7月23-25日.
  36. 吉野秀朗:知ってほしい虚血性心疾患の心電図診断の基本. 第29回日本不整脈学会学術大会・第31回日本心電学会学術集会 合同学術大会, 東京, 2014年7月24日.
  37. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shimura N, Yanagisawa R, Yoshino H, Satoh T: Pressure - wire - guided precutaneous transluminal pulmonary angioplasty : a breakthrough in the interventional therapy for chronic thromboembolic pulmonary hypertension. The 23rd Annual Meeting of Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics, Nagoya, July 24th-26th, 2014.
  38. Miwa Y: Risk Stratification of Serious Cardiac Events Using Heart Rate Turbulence in Patients with Myocardial Infarction. Symposium Noninvasive Assessment of Autonomic nerve system. Joint meeting of 29th Japan Heart Rhythm Society and 31st Japanese Society of Electrocardiology, Tokyo, July 25th, 2015.
  39. Miwa Y, Soejima K, Nagaoka N, Momose Y, Matsushita N, Higuchi S, Hoshida K, Miyakoshi M, Ueda A, Sato T, Yoshino H: Arrhythmic Events during Head-up Tilt Test in Patients with Suspected Reflex Syncope or Presyncope. Joint meeting of 29th Japan Heart Rhythm Society and 31st Japanese Society of Electrocardiology, Tokyo, July 25th, 2015.
  40. 吉野秀朗:虚血性心疾患診療の最先端(最新のガイドラインから). 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 2014年7月30日.
  41. 合田あゆみ, 石黒みどり, 長岡身佳, 菊池華子, 志村亘彦, 柳澤亮爾, 伊波巧, 石黒晴久, 吉野秀朗, 佐藤徹:右心カテーテル併用心肺運動負荷試験による肺高血圧症の早期検出に関する検討. PH サミット2014, 岡山, 2014年8月2-3日.

42. 佐藤徹:CTEPH の診断と治療について. バイエル社外講師勉強会, 東京, 2014年8月6日.
43. 佐藤徹:PTEとDVTへの集学的治療:最新の診療の実態とその成績. 第23回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 東京, 2014年8月23日.
44. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Yanagisawa R, Momose Y, Uesugi Y, Kanaya M, Yoshino H, Satoh T: Pressure - wire - guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty : a breakthrough in the catheter interventional therapy for the chronic thromboembolic pulmonary hypertension. European Society of Cardiology Congress 2014, Spain, August 30th, -September 3rd, 2014.
45. Tanai S, Yamasaki S, Goda A, Nagae A, Nishimura T, Shimoyama K, Satoh T, Yoshino H: Chronic kidney disease and stress left ventricular systolic function in adenosine stress myocardial perfusion imaging predict future cardiovascular events . European Society of Cardiology Congress 2014, Barcelona SPAIN, August 30th, -September 3rd, 2014.
46. 谷合誠一:杏林大学方式による非心臓手術前スクリーニングシートの有用性. 第18回関東ハートセミナー, 東京, 2014年9月12日.
47. 吉野秀朗:地域包括ケアと ICT. 医療福祉建築フォーラム2014, 東京, 2014年9月19日.
48. 佐藤徹:心房中隔欠損症からくる肺高血圧症. 医療講演会東京都難病相談・支援センター, 東京, 2014年9月21日.
49. 山岸民治, 上田明子, 福土圭, 若林典弘, 山崎聡子, 松下健一, 坂田好美, 佐藤徹, 吉野秀朗, 稲葉雄亮, 土屋博司, 遠藤英仁, 野間美緒, 窪田博:バルサルバ洞動脈瘤・感染性心内膜炎へ進展した化膿性心外膜炎の一例. 日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2014年9月26日.
50. 副島京子:Ablation of Life Threatening Ventricular. 第62回日本心臓病学会学術集会, 仙台, 2014年9月26-28日.
51. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗:Current status and future prospect of precutaneous transluminal pulmonary angioplasty in our institution. 第62回日本心臓病学会学術集会, 仙台, 2014年9月26-28日.
52. 菊池華子, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 百瀬裕一, 金谷允博, 佐藤徹, 吉野秀朗:慢性血栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術後1年間の血行動態変化. 第62回日本心臓病学会学術集会, 仙台, 2014年9月26-28日.
53. 重田洋平, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 菊池華子, 百瀬裕一, 金谷允博, 佐藤徹, 吉野秀朗:術後残存肺高血圧症に対する経皮的肺動脈形成術の効果. 第62回日本心臓病学会学術集会, 仙台, 2014年9月26-28日.
54. 金谷允博, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗:慢性血栓性肺高血圧症と脂質異常症及び EPA/AA 比の関連性. 第62回日本心臓病学会学術集会, 仙台, 2014年9月26-28日.
55. 佐藤徹:最新の肺高血圧症診断と治療. 第4回東京肺循環セミナー, 東京, 2014年10月2日
56. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 百瀬裕一, 金谷允博, 福土圭, 佐藤徹, 吉野秀朗: Efficacy and Safty of balloon pulmonary angioplasty for inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension in Japan. 第2回肺高血圧学会第3回日本肺循環学会合同学術集会, 東京, 2014年10月3-5日.
57. 佐藤徹:最新の肺高血圧症診断と治療. 第4回岐阜肺高血圧症フォーラム, 岐阜, 2014年10月8日.
58. 富樫郁子, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 樋口聡, 宮越睦, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗:陳旧性前壁心筋梗塞に対し voltage adjustment による isthmus 同定で複数の心室頻拍の焼灼に成功した一例. 第26回カテーテルアブレーション委員会公開研究会, 新潟, 2014年10月9-11日.
59. 坂田好美:当院におけるファブリー病のスクリーニングの現状と循環器画像診断. 多摩ファブリー病セミナー, 東京, 2014年10月16日.
60. 伊波巧:Current status of treatment for chronic thromboembolic pulmonary hypertension in our institution. 第1回群馬CTEPHフォーラム, 前橋, 2014年10月20日.
61. 谷合誠一:高純度EPA製剤を活用した治療戦略. Pure EPA 多摩クリニカルセミナー, 東京, 2014年10月22日.
62. 佐藤徹:最近の肺高血圧症診断・治療の動向. 第3回神奈川肺高血圧症カンファレンス, 横浜, 2014年10月23日.
63. 佐藤徹:講演肺高血圧症を中心に. 第9回患者と医療者が創るフォーラム, 東京, 2014年10月23日.
64. Miwa Y, Soejima K, Sato T, Ueda A, Miyakoshi M, Hoshida K, Higuchi S, Matsushita N, Momose Y, Yoshino H: Unusual Late complications of the catheter ablation: femoral hematoma and cardiac tamponade. 7th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, India, October 29th, 2014.
65. 佐藤徹:肺動脈形成術について. 第9回東京医科歯科大学関連病院 冠動脈治療研究会, 東京, 2014年10月25日.
66. Soejima K: Epicardial catheter ablation: anatomy and complication. APHRS2014, India, October 29th, - November 1, 2014.
67. Soejima K: Entrainment mapping for VT ablation. APHRS2014, India, October 29th, -November 1st, 2014.
68. Soejima K: Ischemic and non-ischemic cardiomyopathy. APHRS2014, India, October 29th, -November 1st, 2014.
69. Yoshino H: A usefulness of novel cardiovascular peri-operative screening for non-cardiac surgery. The 31st Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan . October 31st, -November 2nd, 2014.
70. 吉野秀朗:非心臓手術の術前循環器チェックポイント. 三鷹, 2014年11月12日.
71. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 柳澤亮爾, 志村亘彦, 佐藤徹, 吉野秀朗: Pressure-wire- guided PTPA. Alliance for revolution and international cardiology advancement 2014, 福岡, 2014年11月21-23日.
72. 坂田好美:循環器領域における心臓超音波の今後の展望-最新の循環器診療と心臓超音波, 栃木, 2014年11月25日.
73. 吉野秀朗:安心できる地域医療をめざして. 「みんなで守る地域医療」講演会, 白河, 2014年11月30日.
74. Soejima K: Optimal relationship among regulators, scientific societies, device industries: which future can we foresee?. XVI International Symposium on Progress in Clinical Pacing Euro - japan Arrhythmia Forum, Italy, December 2nd-5th, 2014.
75. 佐藤徹:肺高血圧診断と治療の経験. 第8回東海肺高血圧症フォーラム. 名古屋, 2014年12月6日.
76. 坂田好美, 吉川勉, 馬原啓太郎, 馬原啓太郎, 上田哲郎, 磯貝俊明, 小西裕二, 長尾建, 山本剛, 高山守正:心エコーを用いたたこぼ型心筋症の心機能障害の特徴-東京 CCU ネットワークよりの報告-. 第34回東京CCU研究会, 東京, 2014年12月6日.
77. 田口浩樹, 重田洋平, 山岸民治, 樋口聡, 伊波巧, 石黒晴久, 高昌秀安, 佐藤徹, 吉野秀朗:冠攣縮性狭心症の診断におい

- て iFR が有用であることが示唆された一例. 第234回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2014年12月6日.
78. 坂田好美: HFpEF って何だろう?-心エコーを用いた HFpEF の評価-. 東京, 2014年12月9日.
  79. 上田明子. 抗凝固療法の現状と課題ーワルファリンのメリット・デメリット. 多摩不整脈研究会/エリキュース座談会, 東京, 2014年12月12日.
  80. 坂田好美: 肺高血圧の診断と運動負荷心エコー. 運動負荷心エコー&PH 講演会, 東京, 2014年12月14日.
  81. Soejima K: Sudden cardiac death prevention. Yamaguchi Arrhythmia Forum, Yamaguchi, January 30th, 2015.
  82. 三輪陽介, 副島京子, 佐藤俊明, 上田明子, 富樫郁子, 星田京子, 樋口聡, 松下紀子, 百瀬裕一, 吉野秀朗: 頻脈誘発性心筋症によるQT延長症候群でTorsades de pointesを呈した一例. 第27回臨床不整脈研究会, 東京, 2015年1月10日.
  83. 吉野秀朗: 虚血性心疾患の心電図. 毛呂山抗凝固療法 Network Meeting, 毛呂山, 2015年2月12日.
  84. 佐藤徹: 肺高血圧症と右心機能ー今後の展望と着目点ー. 座談会 CARDIAC PRACTICE. 東京, 2015年1月15日.
  85. 松下紀子, 上田明子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗, 森山久美, 萬知子: 硬膜外麻酔でVF stormを脱し星状神経節レーザー照射でICD作動抑制に至ったTOF根治術後の1例. 第17回日本成人先天性心疾患学会, 東京2015年1月17-18日.
  86. 佐藤徹: 最新の肺高血圧症診断と治療. 肺高血圧症セミナー, 八王子, 2015年2月13日.
  87. 吉野秀朗: 東京都で実施されているCCU大動脈ネットワークについて. 第30回近畿MMC研究会, 大阪, 2015年2月14日.
  88. 上田明子. マグネティックナビゲーションによるカテーテルアブレーション. 第34回阪神アブレーション電気生理研究会, 大阪, 2015年2月14日.
  89. 谷合誠一: 杏林大学方式による非心臓手術前スクリーニングシートの有用性. 第11回メトロポリタンハートクラブ, 東京, 2015年2月16日.
  90. 松下紀子, 佐藤俊明, 百瀬裕一, 樋口聡, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 副島京子, 吉野秀朗: 房室ブロック症例における心筋症の合併: 心臓MRIでの検討. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  91. 奥田健太郎, 渡邊英一, 西井伸洋, 土屋邦彦, 佐藤俊明, 田上和幸, 阿部芳久, 寺田健, 亀谷良介, 山本賢, 祖父江嘉洋, 尾崎行男: 不適切作動を有する患者における予後規定因子. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  92. 前田明子, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 樋口聡, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗: 頻回なショック作動と失神を経験後, 遠隔モニタリングを活用したケアが必要となったICD植込み後の1例. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  93. 前田明子, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 樋口聡, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗: ICD/CR T-D 植込み患者の自動車運転制限に関する認識調査. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  94. 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 樋口聡, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗: 側副血行路よりICDリード追加植え込みをおこなった, ペースメーカー植込み後鎖骨下静脈完全閉塞を合併した透析症例. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  95. 三輪陽介, 副島京子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 松下紀子, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗: 反射性失神が疑われた患者におけるhead-up tilt試験中の不整脈イベント. 第7回植込みデバイス関連冬季大会, 東京, 2015年2月19-21日.
  96. 吉野秀朗: 大動脈解離の成因と疫学. 第3回大動脈解離シンポジウム, 横浜, 2015年3月7日.
  97. 佐藤徹: 最新の肺高血圧症診断と治療. アイミクス配合錠発売2周年記念講演会 in 多摩, 多摩, 2015年3月11日.
  98. Sakata K, Uesugi Y, Isaka A, Minamishima T, Matsushita K, Toru Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Atrial Function and Prognosis Using Speckle - Tracking Imaging in Patients with Pulmonary artery Hypertension. The American College of Cardiology 64th Annual Scientific Session, USA, March 15th, 2015.
  99. Soejima K: Epicardial catheter ablation. Taiwan HRS Annual Meeting, Taiwan, March 7th-8th, 2015.
  100. Soejima K: VT ablation in valve replacement patients. Taiwan, March 7th-8th, 2015.
  101. Soejima K: VT ablation. Kimitsu Arrhythmia Meeting, Kimitsu, March 17th, 2015.
  102. 坂田好美, 今井昌康, 横山健一, 上杉陽一郎, 南島俊徳, 古谷充史, 佐藤徹, 似島俊明, 吉野秀朗: Multimodality imagingによるStrain評価, 北九州, 2015年3月28日.
- ## 論文
- 邦文
1. 吉野秀朗: 不安定狭心症・非ST上昇型心筋梗塞(UA/NSTEMI)に関する2007年ガイドラインの2012年重点改訂—ACCF/AHA. 血栓と循環22(1):131-133, 2014.
  2. 吉野秀朗: 抗血栓薬を服用中の患者が内視鏡検査, 生検, 粘膜切除, 手術をうけることになりました. どうすればよいですか. 循環器科医必携—日常診療の疑問解決します—. Heart View 18(12):257-262, 2014.
  3. 吉野秀朗: 心臓病患者が非心臓手術を受ける際に大丈夫というためのポイントを説明してください. 循環器科医必携—日常診療の疑問解決します—. Heart View 18-12:263-268, 2014.
  4. 吉野秀朗: 心筋梗塞患者をどう管理するか. ICU・CCUにおける循環管理. Heart View 18(13):64-67, 2014.
  5. 吉野秀朗: ICTを用いた地域包括ケアの現状と未来. 杏林医学会雑誌 46(1):77-82, 2015.
  6. 佐藤徹: 肺高血圧. 呼吸と循環 62(4):338-344, 2014.
  7. 佐藤徹: 肺塞栓症患者をどう管理するか. Heart View. 18(13):74-77, 2014.
  8. 佐藤徹: 肺高血圧症の最適治療を目指して a)内科の立場より. 34:43(1403)-48(1408), 2014.
  9. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症薬物治療の最前線. Pharma Medica. 32:72-73, 2014.
  10. 佐藤徹: 特発性肺動脈性肺高血圧症(IPAH)の診断と治療. 呼吸器内科 26(4):245-251, 2014.
  11. 佐藤徹: “肺高血圧症診断のポイントと最近の治療戦略 3)慢性血栓性肺高血圧症 内科の立場より”. Progress in Medicine. 34-8, 2014.
  12. 坂田好美: 最新の循環器診療—どこまで進むか心エコー検査. 東京, 杏林医学会雑誌45(4):175-182, 2014.

13. 村上力<sup>1</sup>,吉川勉<sup>2</sup>,前川裕一郎<sup>3</sup>,上田哲郎<sup>4</sup>,坂田好美,磯貝俊明<sup>4</sup>,山本剛<sup>5</sup>,長尾建<sup>6</sup>,高山守正<sup>2(1東海大医大<sup>2</sup>榊原記念病院<sup>3</sup>慶応医大<sup>4</sup>多摩総合医療センター<sup>5</sup>日本医科大<sup>6</sup>日本大学)</sup>:たこつぼ型心筋症における院内心合併症の予測因子に関する検討. ICUとCCU:38(別冊):S17-18, 2015.
  14. 前川裕一郎<sup>1</sup>,吉川勉<sup>2</sup>,上田哲郎<sup>3</sup>,坂田好美,村上力<sup>4</sup>,磯貝俊明<sup>3</sup>,山本剛<sup>5</sup>,長尾建<sup>6</sup>,高山守正<sup>2(1慶応医大<sup>2</sup>榊原記念病院<sup>3</sup>多摩総合医療センター<sup>4</sup>東海大医大<sup>5</sup>日本医科大<sup>6</sup>日本大学)</sup>:たこつぼ心筋症症例における入院時好中球数増加の意義. ICUとCCU:38(別冊):S53-54, 2015.
  15. 磯貝俊明<sup>1</sup>,吉川勉<sup>2</sup>,上田哲郎<sup>1</sup>,小西裕二<sup>3</sup>,坂田好美,前川裕一郎<sup>4</sup>,村上力<sup>5</sup>,山本剛<sup>6</sup>,長尾建<sup>7</sup>,高山守正<sup>2(1多摩総合医療センター<sup>2</sup>榊原記念病院<sup>3</sup>東京医科歯科医大<sup>4</sup>慶応医大<sup>5</sup>東海大医大<sup>6</sup>日本医科大<sup>7</sup>日本大学)</sup>:たこつぼ心筋症における心電図変化と心臓合併症の関連についての検討—東京 CCU ネットワークデータを用いた多施設共同研究—. ICU と CCU:38(別冊):S58-64, 2015.
  16. 松下紀子,佐藤俊明,金谷允博,百瀬裕一,長岡身佳,樋口聡,星田京子,宮越睦,三輪陽介,上田明子,副島京子,吉野秀朗:致死的不整脈を合併した筋ジストロフィーの2症例. 心臓, 46(2):134-139,2014.
  17. 上田明子,副島京子,三輪陽介,塚田雄大,宮越睦,星田京子,長岡身佳,佐藤俊明,吉野秀朗,新田隆<sup>1</sup>,村田広茂<sup>1(日本医科大)</sup>:二弁置換後の心室頻拍に対する心外膜アブレーションを施行した1例. 臨床心臓電気生理 37:241-249,2014.
  18. 佐藤俊明:心臓植込みデバイスの遠隔モニタリングをもちいた地域医療連携. 杏林医学会雑誌 46(1):67-71,2015
  19. 佐藤俊明:心臓植込みデバイスをもちいた診療の最新. 杏林医学会雑誌 46(1):107-110,2015.
  20. 松下健一:急性心不全. 杏林医学会雑誌45:165-169,2014.
  21. 谷合誠一,山崎聡子,飯島毅彦<sup>1</sup>,萬知子<sup>2</sup>,井原玲<sup>3</sup>,波利井清紀<sup>3</sup>,佐藤徹,吉野秀朗<sup>1(昭和医大)</sup>,<sup>2杏林大学麻酔科学</sup>,<sup>3杏林大学形成外科学</sup>:新方式による非心臓手術前循環器スクリーニングシートの使用経験と有用性. 心臓 46(8):1071-1079, 2014.
  22. 谷合誠一,横山健一<sup>1(杏林大学放射線医学)</sup>:循環器診療を支える最新の非侵襲的検査. 杏林医学会誌 46(1):111-121,2015.
  23. 田口浩樹:PAD と全身疾患. 杏林医学会雑誌 45:159-163, 2014.
- 欧文**
24. Satoh T:Current practice for pulmonary hypertension.Chin Med J (Engl).127(19):3491-3495,2014.
  25. Aizawa Y, Takatsuki S, Kashimura S, Katsumata Y, Nishiyama T, Kimura T, Nishiyama N, Tanimoto Y, Tanimoto K, Fukuda Y, Satoh T, Ogawa S, Fukuda K: Thoracic impedance as a therapeutic marker of acute decompensated heart failure, Int J Cardiol. 174(3):840-2, 2014.
  26. Inami T, Kataoka M<sup>1</sup>, Ando M<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T<sup>(1Keio University, 2Fujita Health University)</sup>: A new era of therapeutic strategies for chronic thromboembolic pulmonary hypertension by two different interventional therapies:pulmonary endarterectomy and percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. PLoS One. 9(4), 2014.
  27. Inami T, Kataoka M<sup>1</sup>, Ishiguro H, Yanagisawa R, Shimura N, Yoshino H,Satoh T<sup>(Keio University)</sup>:Percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for chronic thromboembolic pulmonary hypertension with severe right heart failure. Am J Respir Crit Care Med. 189(11):1437-9, 2014.
  28. Inami T, Kataoka M<sup>1</sup>, Shimura N, Ishiguro H, Yanagisawa R, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T<sup>(1Keio University)</sup>:Pressure-wire-guided precutaneous transluminal pulmonary angioplasty:a breakthrough in catheter-interventional therapy for chronic thromboembolic pulmonary hypertension.JACC Cardiovascular Interv 7(11): 1297-1306,2014.
  29. Kanaya M, Matsushita K, Inami T, Yamasaki S, Mizumi S, Minamishima T, Goda A, Ueda A, Sakata K, Satoh T, Yoshino H. :Successful Treatment of Severe Right-Sided Heart Failure Due to Postoperative Constrictive Pericarditis With Tolvaptan. Am J Ther. (Epub 2014).
  30. Kataoka M<sup>1</sup>, Yanagisawa R, Inami T, Kawakami T, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H,Sano M<sup>1</sup>, Satoh T<sup>(1Keio University)</sup>: Fischer Ratio as Predictor of Severity and Adverse Cardiac Events in Pulmonary Hypertension. Journal of Cardiac Failure 20(10):S146,2014.
  31. Kimura M<sup>1</sup>,Tamura Y<sup>1</sup>,Takei M<sup>1</sup>,Yamamoto T<sup>1</sup>,Ono T<sup>2</sup>,Kawakami T<sup>1</sup>,Kataoka M<sup>1</sup>,Kuwana M<sup>2</sup>,Satoh T,Fukuda K<sup>1(1Keio University 2Hiratsuka City Hospital)</sup>:Article: Rapid Initiation of Intravenous Epoprostenol Infusion Is the Favored Option in Patients with Advanced Pulmonary Arterial Hypertension. Journal of Cardiac Failure 20(10):S163,2014.
  32. Momose Y, Aimi Y, Hirayama T, Kataoka M<sup>1</sup>, Ono M, Yoshino H, Satoh T,Gamou S: De Novo Mutations in the BMPR2 Gene in Patients with Heritable Pulmonary Arterial Hypertension. Ann Hum Genet,79(2):85-91, 2015.
  33. Moriyama K<sup>1</sup>, Satoh T, Motoyasu A<sup>1</sup>, Kohyama T<sup>1</sup>, Kotani M, Kanai R<sup>1</sup>, Ando T<sup>1</sup>, Yorozu T<sup>1(1Dept. of Anesthesiology, Kyorin University School of Medicine)</sup>:High - Flow Nasal Cannula Therapy in a Patient with Reperfusion Pulmonary Edema following Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. Case Rep Pulmonal. doi:org/10.1155/2014/837612.(2014).
  34. Morris DA<sup>1</sup>, Takeuchi M<sup>2</sup>, Krisper M<sup>1</sup>, Köhncke C<sup>2</sup>, Bekfani T<sup>2</sup>, Carstensen T<sup>1</sup>, Hassfeld S<sup>1</sup>, Dorenkamp M<sup>1</sup>, Otani K<sup>1</sup>, Takigiku K<sup>3</sup>,Izumi C<sup>4</sup>,Yuda S<sup>5</sup>,Sakata K,Ohte N<sup>7</sup>, Tanabe K<sup>8</sup>, Osmanoglou E<sup>8</sup>, Kühnle Y<sup>1</sup>, Dungen HD<sup>1</sup>, Nakatani S<sup>9</sup>, Otsuji Y<sup>2</sup>, Haverkamp W<sup>1</sup>,Boldt LH<sup>1(1Charite University Hospital, 2School of Medicine University of Occupational and Environmental Health, 3Nagano Children's Hospital, 4Tenri Hospital, 5Sapporo Medical University School of Medicine, 6Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, 7Shimane University Faculty of Medicine, 8Meoclinic, 9Osaka University Graduate School of Medicine)</sup>:Normal values and clinical relevance of left atrial myocardial function analysed by speckle - tracking echocardiography: multicentre study. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 16(4):364-372,2015.
  35. Morris DA<sup>1</sup>, Otani K<sup>2</sup>, Bekfani T<sup>3</sup>, Takigiku K<sup>4</sup>, Izumi C<sup>5</sup>, Yuda S<sup>6</sup>, Sakata K, Ohte N<sup>7</sup>, Tanabe K<sup>8</sup>, Friedrich K<sup>3</sup>, Kühnle Y<sup>3</sup>, Nakatani S<sup>9</sup>, Otsuji Y<sup>2</sup>, Haverkamp W<sup>3</sup>, Boldt LH<sup>3</sup>, Takeuchi M<sup>2(1Charité University Hospital, 2University of Occupational and Environmental Health, School of Medicine, 3Charité University Hospital, 4Nagano Children's Hospital, 5Tenri Hospital, 6Sapporo Medical University School of Medicine, 7Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences,8Shimane University Faculty of Medicine,9 Osaka University Graduate School of Medicine)</sup>:Multidirectional global left ventricular systolic function in normal subjects and patients with hypertension: multicenter evaluation . J Am Soc

- Echocardiogr. 27:493–500,2014.
36. Murakami T<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>1</sup>, Maekawa Y<sup>2</sup>, Ueda T<sup>3</sup>, Isogai T<sup>3</sup>, Konishi Y<sup>4</sup>, Sakata K, Nagao K<sup>5</sup>, Yamamoto T<sup>6</sup>, Takayama M<sup>1</sup>, the CCU Network Scientific(Sakakibara Heart Institute, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>4</sup>Musashino Red Cross Hospital, <sup>5</sup>Nihon University Surugadai Hospital, <sup>6</sup>Nippon Medical School): Characterization of predictors of in – hospital cardiac complications of takotsubo cardiomyopathy: Multi–center registry from Tokyo CCU Network. *Journal of Cardiology* 63(4):269–273,2014.
  37. Soejima K, Nogami A, Sekiguchi Y, Harada T, Satomi K, Hirose T, Ueda A, et al. :Epicardial catheter ablation of ventricular tachycardia in no entry left ventricle: mechanical aortic and mitral valves. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 8:381–389, (Epub 2015).
  38. Birnie DH<sup>1</sup>, Sauer WH<sup>2</sup>, Bogun F<sup>3</sup>, Cooper JM<sup>4</sup>, Culver DA<sup>5</sup>, Duvernoy CS<sup>6</sup>, Judson MA<sup>7</sup>, Kron J<sup>8</sup>, Mehta D<sup>9</sup>, Cosedis Nielsen J<sup>10</sup>, Patel AR<sup>11</sup>, Ohe T<sup>12</sup>, Raatikainen P<sup>13</sup>, Soejima K(<sup>1</sup>University of Ottawa Heart Institute, <sup>2</sup>University of Colorado, Aurora, Colorado, <sup>3</sup>University of Michigan, <sup>4</sup>Temple University Health System, <sup>5</sup>Cleveland Clinic, <sup>6</sup>VA Ann Arbor Healthcare System and University of Michigan, <sup>7</sup>Albany Medical College, <sup>8</sup>Virginia Commonwealth University, <sup>9</sup> Mount Sinai School of Medicine, <sup>10</sup>Aarhus University Hospital, <sup>11</sup>University of Chicago, <sup>12</sup>Sakakibara Heart Institute of Okayama, <sup>13</sup>Heart Center) : HRS Expert Consensus Statement on the Diagnosis and Management of Arrhythmias Associated With Cardiac Sarcoidosis. *Heart Rhythm.* 11(7):1305–1323,2014.
  39. Pedersen CT, Kay GN, Kalman J, Borggrefe M, Della-Bella P, Dickfeld T, Dorian P, Huikuri H, Kim YH, Knight B, Marchlinski F, Ross D, Sacher F, Sapp J, Shivkumar K, Soejima K, Tada H, Alexander ME, Triedman JK, Yamada T, Kirchhof P, Lip GY, Kuck KH, Mont L, Haines D, Indik J, Dimarco J, Exner D, Iesaka Y, Savelieva I; EHRA/HRS/APHS expert consensus on ventricular arrhythmias. *Heart Rhythm.* 11(10):166–196, 2014.
  40. Yoshida N<sup>1</sup>, Inden Y, Soejima K, Goto H, Murohara T(<sup>1</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine): A novel steerable Foley balloon catheter for preventing phrenic nerve injury during epicardial catheter ablation. *J Interv Card Electrophysiol.* 39(3):259, 2014.
  41. Ritter P<sup>1</sup>, Duray GZ<sup>2</sup>, Steinwender C<sup>3</sup>, Soejima K, Omar R<sup>4</sup>, Mont L<sup>5</sup>, Boersma LV<sup>6</sup>, Knops RE<sup>8</sup>, et al(<sup>1</sup>Hôpital Cardiologique du Haut-Lévêque, <sup>2</sup>Medical Centre, Hungarian Defence Forces, <sup>3</sup>Linz General Hospital, <sup>4</sup>National Heart Institute, <sup>5</sup>Universitat de Barcelona, <sup>6</sup>St Antonius Ziekenhuis, <sup>7</sup>Academisch Medisch Centrum (AMC)):Early performance of a miniaturized leadless cardiac pacemaker: the Micra Transcatheter Pacing Study. *Eur Heart J* 2015 (in press)
  42. Ritter P<sup>1</sup>, Duray GZ<sup>2</sup>, Zhang S<sup>3</sup>, Narasimhan C<sup>4</sup>, Soejima K, Omar R<sup>5</sup>, Laager V(<sup>1</sup>CHU/Université de Bordeaux, Avenue Magellan, <sup>2</sup>Medical Centre, Hungarian Defence Forces, <sup>3</sup>Fuwai Hospital, <sup>4</sup>CARE Hospitals and CARE Foundation, <sup>5</sup>National Heart Institute, <sup>6</sup>Medtronic):The rationale and design of the Micra Transcatheter Pacing Study: safety and efficacy of a novel miniaturized pacemaker. *Europace* 17(5):807–13,2015.
  43. Aizawa Y<sup>1</sup>, Takatsuki S<sup>1</sup>, Kashimura S<sup>1</sup>, Katsumata Y<sup>1</sup>, Nishiyama T<sup>1</sup>, Kimura T<sup>1</sup>, Nishiyama N<sup>1</sup>, Tanimoto Y<sup>1</sup>, Tanimoto K<sup>1</sup>, Fukuda Y<sup>2</sup>, Sato T, Ogawa S<sup>2</sup>, Fukuda K(<sup>1</sup> Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>International University of Health of Welfare, Mita Hospital): Thoracic impedance as a therapeutic marker of acute decompensated heart failure, *Int J Cardiol.* 174(3):840–2, 2014.
  44. Sartipy U<sup>1</sup>, Goda A, Mancini DM<sup>2</sup>, Lund LH<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Karolinska University Hospital, <sup>2</sup>Columbia University ): Assessment of a University of California, Los Angeles 4–variable risk score for advanced heart failure. *J Am Heart Assoc.* 3:e000998,2014.
  45. Sartipy U<sup>1</sup>,Goda A,Yuzefpolskaya M<sup>2</sup>,Mancini DM<sup>2</sup>,Lund LH<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Karolinska University Hospital, <sup>2</sup>Columbia University): Utility of the Seattle Heart Failure Model in patients with cardiac resynchronization therapy and implantable cardioverter defibrillator referred for heart transplantation. *Am Heart J.* 168(3):325–31,2014.
  46. Inohara T<sup>1</sup>,Kohsaka S<sup>1</sup>,Shiraishi Y<sup>1</sup>, Goda A, Sawano M<sup>1</sup>, Yagawa M<sup>2</sup>, Mahara K<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Keio University, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute): West Tokyo Heart Failure Registry Investigators. Prognostic impact of renal and hepatic dysfunction based on the MELD–XI score in patients with acute heart failure. *Int J Cardiol.* 176(3):571–3,2014.
  47. Goda A, Itoh H<sup>1</sup>, Ebi Y<sup>2</sup>, Kondo K<sup>1</sup>, Maeda T<sup>1</sup>, Shimada T<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Sakakibara Heart Institute, <sup>2</sup>Daiyukai General Hospital, <sup>3</sup>Chiba Social Insurance Hospital ). Erythropoietin Treatment Improves Peak VO<sub>2</sub> and Oxygen Uptake Efficiency Slope without Changing VE vs. VCO<sub>2</sub> Slope in Anemic Patients. *Int J Clin Cardiol* 2(2):2378–2951,2015.
  48. Miwa Y, Soejima K, Sato T, Maeda A, Ueda A, Miyakoshi M, Hoshida K, Higuchi S, Matsushita N, Nagaoka M, Momose Y, Kanaya M, Yoshino H: A case of complete atrioventricular block: The use of magnetic resonance imaging conditional pacemakers for diagnosing cardiac sarcoidosis . *Journal of Arrhythmia*, 30:111–114, 2014.
  49. Miwa Y, Soejima K, Sato T, Matsushita K, Sueoka J, Takayama N, Yoshino H:Dramatic improvement of refractory anemia caused by mechanical hemolysis in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy using dual–chamber pacing . *Journal of Arrhythmia*:doi:10.1016/j.joa.2014.12.001.(2015).
  50. Shimura N, Kataoka M<sup>1</sup>, nami T, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kawakami T<sup>1</sup>,Higuchi Y<sup>2</sup>, Ando M<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H,Satoh T (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Fujita Health University): Additional percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for residual or recurrent pulmonary hypertension after pulmonary endarterectomy. *Int J Cardiol* 183: 138–42, 2015.
  51. Shirai Y<sup>1</sup>, Tamura Y<sup>1</sup>, Yasuoka H<sup>1</sup>, Satoh T, Kuwana M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University): IgG4–related disease in pulmonary arterial hypertension on long–term epoprostenol treatment. *Eur Respir J.* : 1516–9, 2014.
  52. Yanagisawa R, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Shimura N, Ishiguro H, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University):Efficacy of 360–degree three–dimensional rotational pulmonary angiography to guide percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. *Eurointervention* 9:1483,2014.
  53. Yanagisawa R, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Shimura N, Ishiguro H, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T. (<sup>1</sup>Keio University): Safety and efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty in elderly patients. *Int J Cardiol.* 175(2):285–9, 2014.

54. Yanagisawa R, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Momose Y, Kawakami T<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Kimura M<sup>1</sup>, Isobe S<sup>1</sup>, Yamakado M<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Sano M<sup>1</sup>, Satoh T (Keio University): Usefulness of circulating amino acid profile and Fischer ratio to predict severity of pulmonary hypertension. AmJCardiol 115:831-6,2015.
55. Gan XT<sup>1</sup>, Tani S, Zhao G, Huang CX, Velenosi YJ, Xue J, Urquhart BL, Karmazyn M (Schulich School of Medicine and Dentistry): DC73-TNAP crosstalk regulates the hypertrophic response and cardiomyocyte calcification due to  $\alpha 1$  adrenoceptor activation. Mol Cell Biochem 394(1-2): 237-246, 2014.

**著書**

1. 吉野秀朗:A. 内科学概論. 臨床工学技士標準テキスト. 小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏. 東京, 金原出版, 2014.p.495-511.
2. 吉野秀朗:虚血の同定-多枝病変で虚血同定をどうする?. PCI・カテーテル室のピンチからの脱出法119. 村松俊哉. 東京, 南江堂, 2014.p.12-14.
3. 佐藤徹:肺高血圧症. 循環器内科医のための非心臓手術必須知識. 吉野秀朗編, 東京, メジカルビュー社, 2014. p.102-109.
4. Sakata K:3. Echocardiography. Nihon Naika Gakkai Zasshi 103(2).2014.p.353-367.
5. 坂田好美:悪性リンパ腫. 心エコー:16-2. 東京, 文光堂, 2015. p.134-141.
6. 坂田好美:弁膜症. ハートナーシング4月号. 大阪, メディカ出版, :2015. p.39-51. 9.佐藤俊明:今後期待される新たなデバイス②:リードレスペーシング.不整脈治療 update 第2巻. 大阪, 医療ジャーナル社, 2014. p.224-229.
7. 佐藤俊明, 林田健太郎, 岡田隆晴, 荒井陽一他:出会えてよかった! II. 先進医療技術を選んだ患者さんたちのエッセイ集・第2集. 東京, 米国医療機器・IVD 工業会 (AMDD), 2014.
8. 合田あゆみ:代替療法 心房細動に対する運動療法. カレントセラピー33(3). 高久史麿, 猿田享男監修, 北村聖編集, 東京, ライフメディコム,2015. p.69-74.
9. 三輪陽介:不整脈(頻脈性不整脈・徐脈性不整脈). <特集2> まる暗記不要! イラストでひと目で理解 心臓の重要疾患の治療と看護. Heart Nursing4 池田隆徳編, 大阪, メディカ出版, 2015. p.52-59.

**その他**

1. 伊波巧:第3回杏林医学会研究奨励賞受賞, 2014年11月15日.

**第二内科学教室  
(血液内科)**

**講演**

1. 高山信之:非血縁者間同種骨髄移植後, 3年半寛解を維持している形質細胞白血病の1例. 第4回多摩骨髄腫研究会, 東京, 2014年6月5日.
2. 高山信之:Diffuse large B-cell lymphoma の治療. 第26回多摩悪性リンパ腫研究会, 東京, 2014年6月27日.
3. 高山信之:杏林大学病院における急性リンパ性白血病の治療成績. 多摩 Ph+ALL セミナー. 東京, 2014年7月11日.
4. 関雅史, 式場星矢, 百瀬恵美, 桑原彩子, 佐藤範英, 平野和彦, 望月眞, 高山信之:ホジキンリンパ腫に対する化学療法後に肺小細胞癌が顕在化した重複癌の1例. 第609回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年10月11日.
5. Momose E, Shikiba S, Kuwabara A, Seki M, Satoh N, Takayama

N: Simultaneous occurrence of GC and non-GC DLBCLs arising as MTX-associated LPD. 第76回日本血液学会学術集会, 大阪, 2014年10月31日.

6. Shikiba S, Kuwabara A, Momose E, Seki M, Satoh N, Kigasawa H, Kamma H, Takayama N: A fatal case of atypical CML showing massive systemic infiltration of differentiated granulocytes. 第76回日本血液学会学術集会, 大阪, 2014年11月1日.
7. 高山信之:Diffuse large B-cell lymphoma の治療 Part2. 第28回多摩悪性リンパ腫研究会, 東京, 2015年2月13日.
8. 高山信之, 桑原彩子, 式場星矢, 関雅史, 百瀬恵美, 佐藤範英:当施設における骨髄破壊の前処置による臍帯血移植の治療成績. 第37本造血細胞移植学会総会, 神戸, 2015年3月6日.
9. 高山信之:多発性骨髄腫に対する自家移植-自験例を踏まえた移植後治療に関する若干の考察-. TAMA Hematology Forum, 東京, 2015年3月13日.
10. 今田枝里, 式場星矢, 百瀬恵美, 佐藤範英, 高山信之. double-hit lymphoma と急性骨髄性白血病の骨髄内同時発症を認めた1例. 第2回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年3月21日.

**論文**

1. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral-domain optical coherence tomography patterns in intraocular lymphoma. Ocul Immunol Inflamm. 11: 1-6, 2015.

**著書**

1. 高山信之: がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編, 東京, 中外医学社, 2014. p45-46, p49-50, p54-55, p63-65, p107-108, p111-112, p114-115, p122-123, p132-133, p137-138, p144-145, p161, p169, p172, p274-275, p278-279, p282-283, p286-287, p317-318, p321, p327-329.

**第三内科学教室  
(消化器内科)**

**講演**

1. 高橋信一:ピロリ菌除菌の実際 -胃炎保険適用後1年を迎えて-. 第11回多摩 GI-Endoscopy 研究会, 小平, 2014年4月9日.
2. 川村直弘:非代償性肝硬変に対するエルカルニチンの効果. 第19回多摩 H.p・肝炎研究会, 立川, 2014年4月12日.
3. 西川かおり:腹部エコーマスター講座 ビギナーセミナー 胆道・膵臓・脾臓. アスリードセミナー, 東京, 2014年4月13日.
4. 森秀明:腹部エコーマスター講座 ビギナー向けセミナー. アスリードセミナー, 東京, 2014年4月13日.
5. 森秀明:カラードブラを使いこなすには. 日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会, 東京, 2014年4月19日.
6. 高橋信一:ピロリ菌感染胃炎診療のこつ. 第29回太田「胃と腸」の会, 太田, 2014年4月22日.
7. 徳永健吾:胃癌ハイリスク検診と実地診療に必要なピロリ菌感染の知識(第1回). 三鷹医師会, 三鷹, 2014年4月23日.
8. 川村直弘:B 型肝炎のおはなし. 西多摩地区市民公開医療講演会, あきる野, 2014年4月27日.
9. Umegaki E, Kato M, Takeda H, Tominaga K, Kusunoki H, Furuta K, Sakurai K, Odaka T, Kinoshita Y, Haruma K, Takahashi S, Higuchi K, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T:

- Clinical Characteristics of Elderly Patients With PPI-Refractory NERD From the G-PRIDE Study Who Responded to Rikkunshito. Digestive Disease Week 2014 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, USA, May 3rd, 2014.
10. Ono A, Hata H, Toki M, Takahashi S: The Nasogastric Lavage Before Endoscopy is Not Absolutely Necessary in Emergency Department Patients With GI Bleeding. Digestive Disease Week 2014 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, USA, May 4th, 2014.
  11. 西川かおり: 見逃してはいけない消化器疾患の超音波所見「肝病変と肝近傍病変の見極めのための着目点」. 日本超音波医学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月9日.
  12. 關里和, 森秀明, 齋藤大祐, 尾股佑, 塚田幾太郎, 山田雄二, 西川かおり, 大倉康男, 正木忠彦, 高橋信一: 体外式腹部超音波検査が術前診断に有用であった Meckel 憩室内翻の一例. 日本超音波医学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月9日.
  13. 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 塚田幾太郎, 尾股佑, 關里和, 峯佳毅, 小樽二世, 高橋信一, 岸野智則, 齋田真由美: 消化器領域における3次元超音波検査-Fly Thru-の検討. 日本超音波医学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月11日.
  14. 森秀明, 畠二郎, 櫻田博史, 関根智紀, 西田睦, 西川かおり, 長谷川雄一, 藤井康友, 本田伸行, 宮本幸夫, 山田博康: 消化管診断基準小委員会からの報告. 日本超音波医学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月11日.
  15. 森秀明: 超音波教育-最前線. 最新シミュレーターによるハンズオン〜心エコー, 腹部エコー, 胎児エコー〜. 日本超音波医学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月11日.
  16. 徳永健吾: 胃癌ハイリスク検診と実地診療で必要なピロリ感染症の知識(第2回). 三鷹医師会. 三鷹, 2014年5月13日.
  17. 森秀明: 消化器疾患知っておきたい超音波診断. 第250回多摩エコー研究会, 東京, 2014年5月15日.
  18. 三浦みき, 林田真理, 三井達也, 落合一成, 齋藤大祐, 塚田幾太郎, 桜庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 森秀明, 高橋信一: 当院におけるパテンシーカプセルの使用経験. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
  19. 箕輪慎太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 大倉康男, 高橋信一: 腸重積を繰り返す Peutz-Jeghers syndrome に対しダブルバルーン内視鏡で小腸ポリープ切除術を施行した1例. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
  20. 神保陽子, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 渡辺俊介, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 平野和彦, 山口康晴, 両角克朗, 大倉康男, 高橋信一: 胃生検にて Group2と判定され最終診断が癌であった11例の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
  21. 齋藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 平野和彦, 桜庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 大倉康男, 高橋信一: 当院における消化管サイトメガロウイルス感染症の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月16日.
  22. 畑英行, 土岐真朗, 山口康晴: 超高齢者上部消化管出血における特徴とその治療戦略. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月16日.
  23. 川村直弘: 慢性肝疾患の栄養療法. ヤンセンファーマ社内勉強会, 東京, 2014年6月13日.
  24. 高橋信一: ピロリ除菌の実際-胃炎保険適用後1年を経過して-. 第98回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年6月14日.
  25. 尾崎良, 三浦みき, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 高橋信一: 癒着性イレウスを契機に診断された小腸腫瘍の1例. 第98回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年6月15日.
  26. 高橋信一: H. pylori 除菌療法ですべては解決されるか?. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日.
  27. 高橋哲史, 松井英則, 高橋信一, 中村正彦: H. heilmannii 感染胃粘膜における IL-10 依存的な CD86-CD28 シグナル活性化. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日.
  28. 正岡建洋, 鈴木秀和, 小俣富美雄, 水野滋章, 伊藤慎芳, 川上浩平, 大草敏史, 徳永健吾, 栗原直人, 松久威史, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 鳥居明, 浅岡大介, 永原章仁, 竹内義明, 森英毅, 松崎潤太郎, 峯徹哉, 河合隆, 高橋信一, 榊信廣: 東京都多施設共同調査における Helicobacter pylori 一次・二次除菌率の経年変化の検討. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日.
  29. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 水野滋章, 松久威史, 浅岡大介, 永原章仁, 小俣富美雄, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 鳥居明, 栗原直人, 正岡建洋, 鈴木秀和, 竹内義明, 川上浩平, 河合隆, 大草敏史, 峯徹哉, 榊信廣, 高橋信一: シタフロキサンをを用いた H. pylori 三次除菌療法-東京都内多施設検討-. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日.
  30. 伊藤慎芳, 佐々木仁, 浅岡大介, 永原章仁, 徳永健吾, 高橋信一, 竹内義明, 松久威史, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 水野滋章, 峯徹哉, 大草敏史, 小俣富美雄, 栗原直人, 正岡建洋, 鈴木秀和, 榊信廣, 川上浩平, 河合隆, 鳥居明: ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月28日.
  31. Takahashi R, Tokunaga K, Tanaka A, Takahashi S: Investigating the effectiveness of third-line H. pylori eradication therapy. The 11th Korea-Japan Joint Symposium on Helicobacter Infection, Tokyo, June 28th, 2014
  32. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S: H. pylori eradication therapy for penicillin-allergic patients. The 11th Korea-Japan Joint Symposium on Helicobacter Infection, Tokyo, June 28th, 2014.
  33. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: 高齢者における H. pylori 一次除菌療法-clarithromycin 耐性率と除菌率による検討- 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会, 東京, 2014年6月29日.
  34. 高橋信一: 胃がん検診とピロリ除菌. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2014年7月8日.
  35. 土岐真朗, 両角克朗, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 三井達也, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 森秀明, 高橋信一: エアネットワークピローで ERCP 後の血中唾液腺アミラーゼ上昇を減らせるか?. 第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  36. 畑英行, 土岐真朗, 高橋信一: 高齢者の非静脈瘤性上部消化管出血の臨床的特徴と止血率向上に向けた治療戦略. 第17回日本高齢消化器病学会総会, 山口, 2014年7月12日.
  37. 倉田勇, 土岐真朗, 太田博崇, 落合一成, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 両角克朗, 山口康晴, 高橋信一: 合併症を有する高齢者内視鏡的截石術困難症例の治療戦略. 第17回日本高齢消化器病学会総会, 山口, 2014年7月12日.

38. 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 高橋信一: 当院における高齢者に対するダブルバルーン内視鏡検査の検討. 第17回日本高齢消化器病学会, 山口, 2014年7月12日.
39. 高橋信一: ピロリ菌ってなあに? 病気と関係あるの?. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集會市民公開講座, 東京, 2014年7月13日.
40. 高橋信一: ピロリ菌除菌の実際 - 胃炎保険適用後1年を迎えて -. 第169回京都消化器病研究会, 京都, 2014年7月17日.
41. 高橋信一: 胃がん検診とピロリ除菌. 横須賀市医師会学術講演会, 横須賀, 2014年7月18日.
42. 高橋信一: ピロリ除菌の実際 - 胃炎保険適用後1年を経過して -. 第319回練馬区医師会学術部内科医会臨床研究会, 東京, 2014年7月22日.
43. 徳永健吾: 変わる慢性胃炎の診療ピロリ感染胃炎と機能性ディスペプシア. 三鷹医師会学術講演会. 三鷹, 2014年7月25日.
44. 高橋信一: ピロリ感染胃炎診療のこつ. 第24回西多摩消化器疾患カンファレンス, 青梅, 2014年7月29日.
45. 高橋信一: 実地診療におけるピロリ除菌の実際. 北町臨床研究会, 東京, 平成26年7月30日.
46. 徳永健吾 : H. pylori 感染胃炎除菌の現状と課題. 第46回胃病態機能研究会, 横浜, 2014年8月1日.
47. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: 高齢者における H. pylori 一次療法 - clarithromycin 耐性率と除菌率による検討 -. 第23回消化器疾患病態治療研究会, 札幌, 2014年8月9日.
48. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 アドバンスドエコーセミナー. アスリードセミナー. 東京, 2014年9月7日.
49. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 アドバンスドセミナー 胆道・膵臓. アスリードセミナー, 東京, 2014年9月7日.
50. 徳永健吾: 変貌する H.pylori 感染症と酸関連疾患の実診療. Next Lecture Meeting, 東京, 2014年9月8日.
51. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S: Evaluation of Helicobacter pylori first line eradication therapy (PPI/AC) in elderly patients - evaluation of clarithromycin resistant rate and eradication rate -. XXVIIth International Workshop on Helicobacter and Microbiota in Chronic Digestive Inflammation and Gastric Cancer, Italy, September 12th, 2014.
52. 高橋信一: これだけは知っておきたいピロリ除菌と胃がん予防. 京都消化器医会定例学術講演会, 京都, 2014年9月13日.
53. 太田博崇, 倉田勇, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 土岐真朗, 徳永健吾, 川村直弘, 森秀明, 高橋信一: 肝原発 G2NET でカルチノイド症候群を合併した稀な1例. 第331回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2014年9月20日.
54. 神保陽子, 徳永健吾, 桜庭彰人, 太田博崇, 新井健介, 渡辺俊介, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 土岐真朗, 林田真理, 高橋信一: 発熱, 上腹部痛を契機に診断された家族性地中海熱の一例. 第331回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2014年9月20日.
55. 落合一成, 土岐真朗, 太田博崇, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一: 急性閉塞性胆管炎の原因がアミオダロンと考えられた1例. 第50回日本胆道学会学術集會, 東京, 2014年9月26日.
56. 森秀明: 超音波検査の優位性 (CT や MRI などの他画像と比較して) 特別発言. 第36回超音波ドプラ研究会, 東京, 2014年9月27日.
57. 徳永健吾: Helicobacter pylori 感染胃炎総除菌時代に向けて. 第17回日本臨床腸内微生物学会総会学術集會, 東京, 2014年10月4日.
58. 森秀明: スクリーニングから精査まで - 消化器 (肝・脾) -. 日本超音波医学会主催超音波診断講習会, 仙台, 2014年10月5日.
59. 西川かおり: スクリーニングから精査まで - 消化器 (胆・膵) -. 日本超音波医学会超音波診断講習会, 仙台, 2014年10月5日.
60. 嶋島直子, 岸野智則, 西川かおり, 板谷直, 浦田毅, 下山田博明, 森秀明, 奴田原紀久雄, 大西宏明, 渡邊卓: 乳頭状腎細胞癌の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第26回学術集會, 東京, 2014年10月18日.
61. 浦田毅, 岸野智則, 大西宏明, 山本明日香, 嶋森直子, 飯田綾子, 渡辺敬子, 森秀明, 楊國昌, 渡邊卓: 腎臓に浸潤したパネキトリンパ腫の一例: 転移性腎腫瘍との鑑別点について. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第26回学術集會, 東京, 2014年10月18日.
62. 宮脇晴子, 岸野智則, 森秀明, 福岡利仁, 下山田博明, 浦田毅, . 嶋森直子, 飯田綾子, 大西宏明, 渡邊卓: 腎辺縁に hypoechoic cortical rim を認めた一例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第26回学術集會, 東京, 2014年10月18日.
63. 森秀明: 超音波ならではの - 超音波の魅力を語る - 「消化器」. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第26回学術集會, 東京, 2014年10月18日.
64. Kawai T, Moriyama F, Gotoda T, Fukuzawa M, Mizuguchi Y, Tokunaga K, Takahashi S : Evaluation of Gastric Cancer Diagnosis Using New Magnification Endoscopy(Near Focus) With NBI. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 19th, 2014.
65. Kawai T, Uematsu J, Fukuzawa M, Sato M, Gotoda T, Moriyama F, Tokunaga K, Takahashi S: Relationship Between Endoscopic Findings and H. pylori Infection. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 20th, 2014.
66. Kawai T, Mizuguchi Y, Tokunaga K, Takahashi S : Usefulness of Measurement of Pepsinogen Value on Diagnosis of H. pylori Infection. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 20th, 2014.
67. Miura M, Saito D, Hayashida M, Sakuraba A, Yamada Y, Koyama G, Takahashi S: The clinical characteristic of patients with pneumatosis cystoides intestinalis in Japan. UEGW, Austria, October 20th, 2014
68. Kawai T, Fukuzawa M, Yanagisawa K<sup>1</sup>, Naito S, Fukuzawa M, Sugimoto H, Yamagisgi T, Gotoda T, Kusano C, Moriyama F, Tokunaga K, Takahashi S: Surveillance of Short Segment Barrett's Esophagus Using Ultrathin Endoscopy. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 21st, 2014.
69. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S : Helicobacter pylori Eradication Therapy for Penicillin - Allergic Patients. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 21st, 2014.
70. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: ペニシリンアレルギー症例に対する H. pylori 除菌療法の検討. JDDW 2014, 神戸, 2014年10月23日.
71. 土岐真朗, 両角克朗, 太田博崇, 落合一成, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 高橋信一: ERCP 関連手技の前処置におけるグルカゴ

- ンの有用性の検討と投与法の工夫. JDDW 2014, 神戸, 2014年10月24日.
72. 田部井弘一, 徳永健吾, 太田博崇, 落合一成, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 土岐真朗, 田中昭文, 高橋信一: ESD 後人工潰瘍に対する並行群間試験-エソメプラゾールの有効性に関する検討. JDDW 2014, 神戸, 2014年10月25日.
  73. 徳永健吾: 変貌する H.pylori 除菌療法の普及は何をもたらすのか?. 第15回消化管疾患研究会熊本, 熊本, 2014年11月13日.
  74. 川村直弘: インターフェロンフリーの C 型肝炎治療 ~経口薬へのパラダイムシフト~. 調布市医師会学術講演会, 調布, 2014年11月21日.
  75. 高橋信一: 実地診療におけるピロリ除菌の実際. 第20回多摩 Hp・肝炎研究会, 立川, 2014年11月26日.
  76. 一瀬由香里, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 須藤恵美, 岡野晴子, 西川かおり, 森秀明, 細井温, 高城靖志, 渡邊卓: 孤立性上腸間膜動脈解離後の広範囲血栓形成と思われる一例 -超音波検査の有用性について-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
  77. 大坂真以子, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 鳥森直子, 寺戸雄一, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 転移性腎腫瘍の3例 -超音波画像所見の考察-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
  78. 須藤恵美, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 大坂真以子, 藤原正親, 板谷直, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 褐色細胞腫との鑑別が困難であった副腎癌の一例 -超音波画像所見の考察-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
  79. Saito D, Hayashida M, Takahashi S :The clinical characteristics of patients with gastrointestinal cytomegalovirus infection in japan. APDW2014, Indonesia, November 24th, 2014.
  80. Minowa S, Saito D, Miura M, Hayashida M, Takahashi S: Capsule endoscopy is a very useful tool as a decision of treatment strategy for neurocysticercosis (NCC). APDW2014, Indonesia, November 24th, 2014.
  81. 林田真理, 齋藤大祐, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 徳永健吾, 小山元一, 高橋信一: 当院で経験した蛋白漏出性胃腸症の4症例について. 第45回日本消化吸収学会, 東京, 2014年11月22日.
  82. 川村直弘: 肝臓病の栄養 何が足りない, 何が余計. 西多摩市民公開講座, あきる野, 2014年11月30日.
  83. 高橋信一: H. pylori 除菌を巡る新しい話題. 酸関連疾患セミナー in yonago, 米子, 2014年12月2日.
  84. 川村直弘: 肝機能検査の見方. 第16回肝臓病治療を考える栄養士の会, 東京, 2014年12月6日.
  85. 高橋信一: Helicobacter pylori との格闘の26年を総括し未来を探る. 第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年12月6日.
  86. 新井健介, 土岐真朗, 楠原光謹, 深沢友里, 箕輪慎太郎, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一: 当院における胃アニサキス症の現況. 第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年12月6日.
  87. 楠原光謹, 菊池翁輝, 深沢友里, 箕輪慎太郎, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 蓮江智彦, 土岐真朗, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 高橋信一: AIDs 関連バーキットリンパ腫により閉塞性黄疸を来したと考えられた稀な1例. 第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年12月7日.
  88. 徳永創太郎, 齋藤大祐, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 大倉康男, 杉山政則, 高橋信一: 発熱を契機に診断された小腸内分泌細胞癌の1例. 第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年12月7日.
  89. 徳永健吾: 変貌する H.pylori 除菌療法の普及は何をもたらすのか?. 第99回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2014年12月7日.
  90. 高橋信一: くすりとピロリ菌と胃潰瘍. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2014年12月13日.
  91. 高橋信一: 胃炎と胃癌-ピロリ菌の係りについて-. 第417回国際治療談話会例会, 東京, 2015年1月15日.
  92. 徳永健吾: Helicobacter pylori 感染症の診断・治療・適応疾患. 日本ヘリコバクター学会 H.pylori 感染症認定医・平成27年度教育講演会, 東京, 2015年1月25日.
  93. 高橋信一: 酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. 藤沢市医師会消化器病医学会学術講演会, 鎌倉, 2015年2月2日.
  94. 徳永健吾: わが国における NSAIDs 潰瘍診療の問題点. 淡青運動器セミナー2015, 東京, 2015年2月7日.
  95. 菊池翁輝, 奥山秀平, 關里和, 塚田幾太郎, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: 原発性胆汁性肝硬変と診断後早期に自己免疫性肝炎へ移行しその後成人型 Still 病を発症した1例. 第55回三多摩肝臓談話会, 武蔵野, 2015年2月13日.
  96. 徳永健吾, 神保陽子, 桜庭彰人, 太田博崇, 新井健介, 渡辺俊介, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 土岐真朗, 林田真理, 田中昭文, 高橋信一: 家族内での発症を確認した家族性地中海熱. 第11回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2015年2月14日.
  97. 後藤知之, 桜庭彰人, 三浦みき, 齋藤大祐, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 高橋信一: 同時に2か所から活動性出血の1例. 第11回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2015年2月14日.
  98. Tanaka A, Tokunaga K, Takahashi S: Evaluation of Helicobacter pylori first line eradication therapy (PPI/AC) in elderly patients -evaluation of clarithromycin resistant rate and eradication rate-. The 8th IGICS, Tokyo, February 14th, 2015.
  99. 三浦みき, 林田真理, 齋藤大祐, 小暮正晴, 桜庭彰人, 吉敷智和, 山田雄二, 小山元一, 正木忠彦, 杉山政則, 大倉康男, 高橋信一: 鉄欠乏性貧血を契機に診断に至ったメッケル憩室を伴わない小腸の異所性胃粘膜の一例. 第8回日本カプセル内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年2月15日.
  100. 高橋信一: 酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキャブ錠承認記念講演会, 東京, 2015年2月18日.
  101. 千野貴子, 奥山秀平, 大浦紀彦: 摂食障害患者への NST 介入の有用性. 第30回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015年2月12日.
  102. 高橋信一: ピロリ除菌と胃がん検診. 平成26年度胃がん検診講習会, 久留米, 2015年2月25日.
  103. 池崎修, 武田雄一, 田代祥博, 田村皓子, 平昭衣梨, 矢内真人, 柴田勇, 山地統, 浦牛原幸治, 小野圭一, 小島茂, 野内俊彦, 清水誠一郎, 太田博崇, 川村直弘, 高橋信一: 診断が困難であった C 型非代償性肝硬変に合併した特発性細菌性胸膜炎の1剖検例. 日本消化器病学会 関東支部第333回例会, 東京, 2015年2月28日.

104. 高橋信一:酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキヤブ錠発売記念講演会, 大磯, 2015年3月4日.
105. 徳永健吾:H.pylori 感染胃炎と内視鏡所見. 若手内視鏡医の会, 橋本, 2015年3月6日.
106. 高橋信一:酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキヤブ錠発売記念講演会, 調布, 2015年3月9日.
107. 高橋信一:酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキヤブ錠発売記念講演会, 川崎, 2015年3月11日.
108. 田中昭文:酸関連疾患と H. pylori 除菌における最新の話題. 府中市薬剤師会定例研修会, 府中, 2015年3月18日.
109. 高橋信一:酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキヤブ錠発売記念講演会, 柏, 2015年3月19日.
110. Tokunaga T, Tanaka A, Takahashi R, Takahashi S: The marked increase of primary and secondary drug resistance in *Helicobacter pylori* necessitates the establishment of more reliable eradication protocols in Japan. The 12th Annual Conference of Korea-Japan Joint Meeting on *Helicobacter* Infection. Korea, March 22nd, 2015.
111. 高橋信一:酸関連疾患と H. pylori 除菌の最新の話題について. タケキヤブ錠発売記念講演会, 府中, 2015年3月24日.
112. 田中昭文:酸関連疾患と H.pylori 除菌における最新の話題. 国分寺市医師会学術講演会, 国分寺, 2015年3月24日.
- 論文**
- Matsui H<sup>1</sup>, Takahashi T<sup>2</sup>, Murayama SY<sup>3</sup>, Uchiyama I<sup>4</sup>, Yamaguchi K<sup>5</sup>, Shigenobu S<sup>5</sup>, Matsumoto T<sup>6</sup>, Kawakubo M<sup>6</sup>, Horiuchi K<sup>6</sup>, Ota H<sup>6</sup>, Osaki T<sup>7</sup>, Kamiya S<sup>7</sup>, Smet A<sup>8</sup>, Flahou B<sup>8</sup>, Ducatelle R<sup>8</sup>, Haesebrouck F<sup>8</sup>, Takahashi S, Nakamura S<sup>9</sup>, Nakamura M<sup>2</sup>(<sup>1</sup>Kitasato Institute for Life Sciences and Graduate School of Control Sciences, Kitasato University, <sup>2</sup>School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, <sup>3</sup>School of Pharmacy, Nihon University, <sup>4</sup>Data Integration and Analysis Facility, National Institute for Basic Biology (NIBB), <sup>5</sup>Functional Genomic Facility, National Institute for Basic Biology (NIBB), <sup>6</sup>School of Health Sciences, Shinshu University School of Medicine, <sup>7</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>8</sup>Department of Pathology, Bacteriology and Avian Diseases, Faculty of Veterinary Medicine, Ghent University, <sup>9</sup>Institute of Gastroenterology, Tokyo Women's Medical University): Development of New PCR Primers by Comparative Genomics for the Detection of *Helicobacter suis* in Gastric Biopsy Specimens. *Helicobacter* 19(4):260-271, 2014.
  - Tominaga K, Kato M, Takeda H, Shimoyama Y, Umegaki E, Iwakiri R, Furuta K, Sakurai K, Odaka T, Kusunoki H, Nagahara A, Iwakiri K, Furuta K, Murakami K, Miwa H, Kinoshita Y, Haruma K, Takahashi S, Watanabe S, Higuchi K, Kusano M, Fujimoto K, Arakawa T (C-PRIDE study group): A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor: the G-PRIDE study. *J Gastroenterol* 49:1392-1405,2014.
  - Kawai T, Takahashi S, Suzuki H, Sasaki H, Nagahara A, Asaoka D, Matsuhisa T, Masaoka T, Nishizawa T, Suzuki M, Ito M, Kurihara N, Omata F, Mizuno S, Torri A, Kawakami K, Ohkusa T, Tokunaga K, Mine T, Sakaki N: Changes in the first line *Helicobacter pylori* Eradication rates using the triple therapy—a multicenter study in the Tokyo metropolitan area (Tokyo Hp Study Group). *J. Gastroenterol. Hepatol.* 29 (Suppl. 4): 29-32,2014.
  - Nakamura M<sup>1</sup>, Takahashi T<sup>1</sup>, Matui H<sup>2</sup>, Baniwa Y<sup>1</sup>, Takahashi S, Murayama S<sup>4</sup>, Serizawa H<sup>3</sup>, Suzuki H<sup>3</sup>, Hibi T<sup>3</sup> (<sup>1</sup>School of pharmaceutical sciences, Kitasato Univ. <sup>2</sup> Kitasato institute for life sciences, Kitasato Univ. <sup>3</sup>Department of Internal Medicine, Keio Univ. <sup>4</sup>School of pharmacy, Nihon University): Alteration of angiogenesis in *Helicobacter heilmannii* -induced mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma: Interaction with c-Met and hepatocyte growth factor. *J. Gastroenterol. Hepatol.* 29 (Suppl. 4): 70-76,2014.
  - 北原るり子,山崎昭, 高橋信一:医療安全管理部における地域貢献. 杏林医会誌 46(1):57-59,2015.
  - Fukudo S, Hahm K.B, Zhu Q, Sollano J.D, Rani A.A, Syam A.F, Kachintorn U, Suzuki H, Kamiya T, Joh T, Uchiyama K, Naito Y, Takahashi S, Kinoshita Y, Ueno F, Yamagami H, Chan F.K.L, Fock K., Arakawa T(C-PRIDE study group):Survey of Clinical Practice for Irritable Bowel Syndrome in East Asian Countries. *Digestion.* 91:99-109, 2015.
  - 三浦みき, 齋藤大祐, 林田真理, 徳永健吾, 高橋信一:当院における高齢者に対するダブルバルーン内視鏡検査に関する検討. 日本高齢消化器病学会, 17 (2) 58-62:2014.
  - 齋藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 徳永健吾, 高橋信一:腸管嚢胞様気腫症の臨床的検漏. 日本消化器病学会雑誌 112 (3): 494-499, 2015.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一:H.pylori 耐性菌の現状とその対策.クラリスロマイシン耐性の獲得機序と対策. *Helicobacter Research* 18: 130-134, 2014.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一:実臨床における慢性胃炎の意味. *消化器内視鏡* 26:1152-1153,2014.
  - 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一:*Helicobacter pylori* 除菌の副作用.*Helicobacter Rsearch* 18:406-411, 2014.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一:H.pylori 除菌療法(一次～三次以降)の実際と課題. *消化器の臨床* 18: 181-185, 2015.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *Helicobacter pylori* 感染胃炎総除菌時代に向けて. *日本臨床腸内微生物学会誌* 17:44-46, 2014.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *Helicobacter pylori* 除菌適応拡大 臨床からの問題点. *無菌生物* 44:38-40, 2014.
  - 田部井弘一, 徳永健吾, 権藤興一, 太田博崇, 落合一成, 新井健介, 倉田勇, 大野亜希子, 内田康人, 畑 英行, 蓮江智彦, 土岐真朗, 田中昭文, 高橋信一:出血性消化性潰瘍患者に対する並行群間比較試験 エソメプラゾールの有効性に関する検討. *潰瘍*41:23-25, 2014.
  - 伊藤慎芳, 佐々木仁, 永原章仁, 浅岡大介, 高橋信一, 徳永健吾, 竹内義明, 松久威史, 西澤俊宏, 鈴木雅之, 水野滋章, 峯徹哉, 大草敏史, 小俣富美雄, 栗原直人, 正岡建洋, 鈴木秀和, 榊信廣, 川上浩平, 河合隆, 鳥居明 (Tokyo Hp Study Group):ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療. *日本ヘリコバクター学会誌*16:30, 2015.
  - 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一:*Helicobacter pylori* と胃癌. 杏林医会誌 特集 悪性腫瘍:41-52, 2014.
  - Kishino T<sup>1,2</sup>, Mori T<sup>3</sup>, Kawai S<sup>2</sup>, Mori H, Nishikawa K, Hirano K<sup>4</sup>, Matsushima S<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>1,2</sup>, Ohnishi H<sup>1,2</sup>, Watanabe T<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>Department of Laboratory Medicine, <sup>2</sup>Department of Clinical Laboratory, <sup>3</sup>Department of Surgery, <sup>4</sup>Department of Pathology):Carcinoma, an atypical subset

of gallbladder malignancies. J Med Ultrason 41:487-490, 2014.

19. Watanabe K<sup>1</sup>, Kishino T<sup>1,2,3</sup>, Sano J<sup>1</sup>, Ariga T<sup>1</sup>, Okuyama S, Mori H, Matsushima S<sup>2</sup>, Ohtsuka K<sup>1,2</sup>, Ohnishi H<sup>1,2</sup>, Watanabe T<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>Department of Clinical Laboratory, <sup>2</sup>Department of Laboratory Medicine, <sup>3</sup>Department of Clinical Engineering, Kyorin University Faculty of Health Sciences): Relationship between epicardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular systolic function in patients with preserved ejection fraction. Heart Vessels (in press)

20. 森秀明:日経メディクイズ. Nikkei medical 562:85-86,2014.

21. Kawaguchi T<sup>1</sup>, Shiraishi K<sup>2</sup>, Ito T<sup>3</sup>, Suzuki K<sup>4</sup>, Koreeda C<sup>5</sup>, Ohtake T<sup>6</sup>, Iwasa M<sup>7</sup>, Tokumoto Y<sup>8</sup>, Endo R<sup>9</sup>, Kawamura N, Shiraki M<sup>10</sup>, Habu D<sup>11</sup>, Tsuruta S<sup>12</sup>, Miwa Y<sup>13</sup>, Kawaguchi A<sup>14</sup>, Kakuma T<sup>14</sup>, Sakai H<sup>12</sup>, Kawada N<sup>15</sup>, Hanai T<sup>10</sup>, Takahashi S, Kato A<sup>9</sup>, Onji M<sup>8</sup>, Takei Y<sup>7</sup>, Kohgo Y<sup>6</sup>, Seki T<sup>5</sup>, Tamano M<sup>4</sup>, Katayama K<sup>16</sup>, Mine T<sup>2</sup>, Sata M<sup>1</sup>, Moriwaki H<sup>10</sup>, Suzuki K<sup>17</sup>(<sup>1</sup>Kurume University, <sup>2</sup>Tokai University,<sup>3</sup>Osaka Kosei-Nenkin Hospital,<sup>4</sup>Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital, <sup>5</sup>Kansai Medical University Takii Hospital, <sup>6</sup>Asahikawa Medical University, <sup>7</sup>Mie University, <sup>8</sup>Ehime University, <sup>9</sup>Iwate Medical University, <sup>10</sup>Gifu University,<sup>11</sup>Osaka City University, <sup>12</sup>NHO Beppu Medical Center, <sup>13</sup>Miwa Clinic, <sup>14</sup>Kurume University, <sup>15</sup>Osaka City University, <sup>16</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>17</sup>Iwate Medical University): Branched-Chain Amino Acids Prevent Hepatocarcinogenesis and Prolong Survival of Patients With Cirrhosis.Clinical Gastroenterology and Hepatology 12(6):1012-1018, 2014.

## 著書

1. 土岐真朗, 高橋信一:胃潰瘍. Clinical Study 35(4). 東京, メヂカルフレンド社, 2014. p.26-32.

2. 齋藤大祐, 林田真理, 高橋信一:原因不明消化管出血(OGIB)の対処のコツ. 診断と治療 102(7). 東京, 診療と治療社, 2014. p.53-58, 2014.

3. 倉田勇, 土岐正朗, 高橋信一:胃潰瘍・十二指腸潰瘍. ガイドライン外来診療2014. 泉孝英編, 東京, 日経メディカル開発, 2014.p.145-153.

4. 土岐正朗, 高橋信一:消化性潰瘍. 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2014-2015. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹監修, 東京, メディカルレビュー社, 2014.p.224-232.

5. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: H. pylori 感染性胃炎は, H. pylori 関連ディスペプシアか, それとも? 機能性ディスペプシア. 荒川哲男監修, 大阪, フジメディカル出版, 2014. p.116-122.

6. 徳永健吾, 高橋信一:機能性ディスペプシア. 消化性潰瘍. 内科外来処方 navi. 富野康日己監修, 東京, 中外医学社, 2015. p.42,43-44.

7. 徳永健吾, 高橋信一:ヘリコバクター・ピロリ感染症. 今日の臨床検査 2015-2016. 櫻林郁之介監修, 東京, 南江堂, 2015. p.14.

8. 高橋信一:胃の検査. 別冊 NHK きょうの健康「検査でわかること」. 安倍美和子編, 東京, NHK 出版, 2015.p.66-73.

9. 高橋信一:日本消化器内視鏡学会における卒後教育制度の理念と現状. 消化器内視鏡. 消化器内視鏡編集委員会編, 東京, 東京医学社, 2015.p.142-143.

10. 土岐真朗:胆道癌. 3.テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム / 5.ゲムシタピン / 11.シスプラチン. がん薬物療法キードラッグ 65. 古瀬純司編著. 東京, 中外医学社, 2014. p.22-23 /

p.36-37 / p.77-78.

11. 大野亜希子, 徳永健吾, 高橋信一:ヘリコバクター・ピロリ感染症. 今日の臨床検査. 東京, 南江堂, 2014. p.2015-2016.

12. 土岐真朗, 森秀明:B 胆嚢疾患 B12 コレステロール. 画像で見ぬく消化器疾患 vol.4 胆道・膵臓. 東京, 医学出版, 2014. p.112-113.

13. 齋藤大祐, 林田真理, 高橋信一:原因不明消化管出血(OGIB)の対処のコツ. 診断と治療 102(7). 2014. p.993-998.

14. 森秀明:IV 消化管. 超音波検査の考え方, おさえどころ, 新技術. 新腹部画像診断の勘どころ. 兼松雅之, 高橋雅士監修. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.214-221.

15. 森秀明:V. 副腎・後腹膜. 超音波検査の考え方, おさえどころ, 新技術. 新腹部画像診断の勘どころ. 兼松雅之, 高橋雅士監修. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.266-270.

## その他

1. 高橋信一(インタビュー):ピロリ菌除去で, 胃の疾患が予防できる!. 家の光 90(7):64-65,2014.(7.1)

2. 高橋信一(インタビュー):食道裂孔ヘルニアとは. 読売新聞 2014年8月24日発行.

3. 高橋信一(インタビュー):胃がんの原因「ピロリ菌」除菌を助ける乳酸菌. The Wine Kingdom 84:77,2014.

4. 高橋信一(インタビュー):ピロリ菌の除菌で胃がんを予防できますか?. 消化器のひろば 6:10-11, 2015.

5. 徳永健吾(監修):機能性ディスペプシア. クレデンシャル:12-13, 2014.

6. 徳永健吾:胃に不快感 機能性ディスペプシア ストレス社会で急増. 河北新報 朝刊, 2014年10月17日.

7. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一:第20回日本ヘリコバクター学会学術集会(臨床より) (Helicobacter pylori ニュース). Helicobacter Ressearch 18:452-455, 2014.

8. 川村直弘:「教えてドクター」C 型肝炎をテーマに解説, リビング 東京西, 2014年9月6日.

9. 川村直弘:「紙上医療講座 肝炎治療の最前線」西多摩市民公開講座から肝発がんと栄養治療について解説, 西多摩新聞, 2015年1月30日.

## 第三内科学教室 (糖尿病・内分泌・代謝内科)

### 講演

1. 石田均:日本人のための糖尿病食事療法—食品交換表の改訂を踏まえて—. 第35回筑豊糖尿病懇話会勉強会, 飯塚, 2014年4月4日.

2. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 町田市医師会学術講演会, 町田, 2014年4月11日.

3. 小沼裕寿, 犬飼浩一, 北原敦子, 森谷理恵, 炭谷由計, 村嶋俊隆, 勝田秀紀, 西田進, 高橋和人, 石田均:インクレチンシグナルとPPAR $\gamma$  活性化代謝経路の血管内皮細胞におけるクロストーク. 第111回日本内科学会総会, 東京, 2014年4月11-13日.

4. 栗原進, 保坂利男, 小野啓, 井上郁夫, 片山茂裕, 栗田卓也:(肥満2型糖尿病のリラグルチド長期投与の有用性の検討(心理面の介入も含めて). 第111回日本内科学会総会, 東京, 2014年4月11-13日.

5. 保坂利男:栄養と糖に関する深い話. 糖尿病三位一体セミナー, 武蔵野, 2014年4月12日.

6. 石田均:「食品交換表の改訂とそのポイント」—日本人にふさわしい糖尿病食事療法とは?—. 第2回北区 Diabetes Medical

- Care Conference. 東京, 2014年4月15日.
7. 近藤琢磨:病態に応じた糖尿病治療. 第2回多摩糖尿病若手研究会, 武蔵野, 2014年4月18日.
  8. 保坂利男:知って得する2型糖尿病治療トピックス-大血管障害予防のための良質な血糖コントロールを目指して! ~. 東大和医師会学術講演会, 東大和, 2014年4月18日.
  9. 石田均:健康寿命をのばそう! 一食で元気に健康長寿を目指した食事の基本. 第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡, 2014年4月24-26日.
  10. 石本麻衣, 炭谷由計, 菅原祥子, 永瀬惟, 比佐有紀, 盛田久美, 近藤健, 高橋聡, 森田奈瑠, 貞苺利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 勝田秀紀, 田中利明, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均:胸腺腫を伴った重症筋無力症, 抗VGKC抗体関連疾患および緩徐進行1型糖尿病を合併した1例. 第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡, 2014年4月24-26日.
  11. 勝田秀紀, 田中利明, 森谷理恵, 高橋和人, 炭谷由計, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均:内科的治療により甲状腺機能を長期的にコントロールし得た TSH 産生下垂体腺腫の一例. 第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡, 2014年4月24-26日.
  12. 興津理絵, 阪上浩, 保坂利男, 高橋友奈, 黒田雅士, Bayasgalan Jambaldorj, 原田永勝, 中屋豊(:細胞骨格制御分子による糖取り込み機構の解析. 第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡, 2014年4月24-26日.
  13. 北原敦子:食品交換表の改訂のポイント. 長野栄養士会, 長野, 2014年4月26日.
  14. 石田均:「食品交換表の改訂とそのポイント」—日本人にふさわしい糖尿病食事療法を含めて—. 第1回八女筑後 CDE 研究会, 八女, 2014年5月9日.
  15. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法—糖質の意義とインクレチンの役割について—. 第18回名古屋循環器 生活習慣病カンファレンス, 名古屋, 2014年5月10日.
  16. 石田均:日本人のための糖尿病食事療法—「食品交換表」の改訂とその新たな方向性—. 平成26年度公益法人兵庫県栄養士会第3回通常総会, 神戸, 2014年度5月17日.
  17. 齊藤雅一, 新倉奈緒美, 齊藤妙子, 山岡美穂, 保坂利男, 栗田卓也, 池淵研二:NST 介入における CONUT(Controlling Nutritional Status)法の有用性について. 第63回日本医学検査学会, 新潟, 2014年 5月17-18日
  18. 石田均:糖尿病の食事療法の課題と展望. 食品交換表第7版への改訂の概要. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  19. 北原敦子, 高橋和人, 森谷理恵, 小沼裕寿, 半田桂子, 森田奈瑠, 石本麻衣, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 犬飼浩一, 石田均:膵β細胞保護効果に対するアスタキサンチンの細胞内作用機構に関する検討—ケモカインの MCP-1の分泌動態への影響—. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  20. 西田進, 鈴木清, 近藤健, 高橋聡, 村嶋俊隆, 貞苺利彦, 信太暁子, 森谷理恵, 北原敦子, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 勝田秀紀, 犬飼浩一, 石田均:糖・脂質代謝異常や高血圧が男性の骨代謝マーカーに及ぼす影響とその成因について. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  21. 高橋和人, 森谷理恵, 北原敦子, 半田桂子, 小沼裕寿, 村嶋俊隆, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 犬飼浩一, 石田均:糖尿病での骨代謝異常における基盤病態の解明とそれに対する温熱処理の影響の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  22. 森谷理恵, 高橋和人, 北原敦子, 小沼裕寿, 半田桂子, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均:骨芽細胞からのサイトカイン分泌に及ぼす飽和脂肪酸の影響とその細胞内シグナル伝達経路に関する検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  23. 勝田秀紀, 盛田久美, 比佐有紀, 石本麻衣, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 北原敦子, 高橋和人, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 小澤幸彦, 犬飼浩一, 石田均:プロインスリン変換酵素活性に基づく膵β細胞機能評価による2型糖尿病症例におけるシタグリプチンの膵β細胞保護効果の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  24. 高橋久子, 今野里美, 下田ゆかり, 栗山絹世, 塚田美裕, 小林庸子, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 吉元勝彦, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均:妊娠糖尿病における妊娠中の食事摂取量と妊娠経過ならびに新生児の状況との関連について. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  25. 鈴木清, 服部隆一, 岡西大介, 菊山宗嗣, 松林直, 森谷理恵, 高橋和人, 北原敦子, 西田進, 犬飼浩一, 石田均:2型糖尿病での破骨細胞機能の異常に及ぼす肥満の影響と動脈硬化との関連について. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  26. 炭谷由計, 須崎由香, 藤澤祐基, 盛田久美, 比佐有紀, 菅原祥子, 永瀬惟, 森田奈瑠, 石本麻衣, 近藤健, 五林可織, 北原敦子, 高橋和人, 岡島康友, 犬飼浩一, 石田均:携帯型脈拍計を活用した運動療法の確立とその血糖コントロールに及ぼす臨床的效果の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  27. 浅間泉, 小林庸子, 高橋和人, 五林可織, 炭谷由計, 勝田秀紀, 田中利明, 吉元勝彦, 西田進, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均:当院における造影 CT 施行時のビグアナイド薬休薬の取組みと現状報告. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  28. 小沼裕寿, 犬飼浩一, 炭谷由計, 保坂利男, 近藤健, 高橋聡, 貞苺利彦, 信太暁子, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 板垣英二, 石田均:CKD を合併した2型糖尿病患者における DPP-4阻害薬リナグリプチンの有用性. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  29. 須崎由香, 炭谷由計, 藤澤祐基, 長谷川純子, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均:脈拍を指標にした運動療法の効果—携帯型脈拍計を使用した慢性運動療法—. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  30. 栗山絹世, 高橋久子, 下田ゆかり, 小林庸子, 渡邊美津子, 佐藤真由美, 田中耕史, 相原圭太, 塚田芳枝, 犬飼浩一, 石田均:糖尿病透析予防指導の導入から現状分析まで. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  31. 犬飼浩一, 半田桂子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 保坂利男, 北原敦子, 森谷理恵, 高橋和人, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 板垣英二, 石田均:糖尿病モデルマウスにおける長期糖質制限食投与の影響に関する遺伝子学的検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  32. 井内卓次郎, 保坂利男, 城石雅弘, 住田崇, 片山茂裕, 栗田卓也:ブナシメジ抽出物の2型糖尿病モデルマウスにおける肥満抑制効果. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  33. 住田崇, 保坂利男, 井内卓次郎, 大竹啓之, 片山茂裕, 栗田卓也:ドラクナイーブ及び SU 薬治療中患者における GLP-1

- 受容体作用薬リラグリチド12ヶ月以上の長期投与の有用性. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
34. 諏訪絵美, 栗原進, 保坂利男, 小野啓, 井上郁夫, 片山茂裕, 栗田卓也: コントロール不良2型糖尿病のインスリン・シタグリプチン併用療法でシタグリプチンからビルダグリプチンへ切替えの有用性の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  35. 大竹啓之, 保坂利男, 住田崇, 井内卓次郎, 片山茂裕, 栗田卓也: インスリン治療中の2型糖尿病患者におけるリナグリプチン併用効果の検討. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  36. 保坂利男, 大竹啓之, 住田崇, 井内卓次郎, 片山茂裕, 栗田卓也: eGFR 経度低下高齢2型糖尿病患者におけるリナグリプチンの使用経験. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  37. 興津理絵, 黒田雅士, 保坂利男, 坂東正浩, 原田永勝, 中屋豊, 阪上浩: 細胞骨格制御分子による糖取り込み機構の解析. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  38. 保川信行, 栗原進, 今井健太, 小池裕之, 井口篤志, 新浪博, 保坂利男, 小野啓, 井上郁夫, 片山茂裕, 栗田卓也: 周術期における人工膵臓の使用経験. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  39. 保坂利男: 糖尿病療養指導と薬物療法の Up to date-食品成分の糖尿病に対する基礎研究もふくめて-. 吉祥寺 Diabetic Seminar, 武蔵野, 2014年5月27日.
  40. 保坂利男, 井内卓次郎, 城石雅弘, 住田崇, 犬飼浩一, 石田均, 栗田卓也: プナシメジ抽出物の2型糖尿病マウスモデルにおける内臓脂肪蓄積抑制効果. 第68回日本栄養・食糧学会大会, 札幌, 2014年5月30日-6月1日.
  41. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 静岡糖尿病学術講演会, 静岡, 2014年6月3日.
  42. 石田均: 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 第20回 Diabetes Care Yokohama-Yokosuka Study, 横浜, 2014年6月6日.
  43. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法への新たな展開. 第3回 CST 研究会, 武蔵野, 2014年6月7日.
  44. Katsuta H, Suzuki K, Ozawa S, Moriya R, Onuma H, Takahashi K, Tanaka T, Nishida S, Inukai K, Ishida H: Decreased proinsulin convertase enzyme 1/3 activity in type 2 diabetes would be restored by additional sitagliptin treatment. The American Diabetes Association's 74th Scientific Sessions, USA, June 13th-17th, 2014.
  45. Moriya R, Takahashi K, Kitahara A, Onuma H, Handa K, Sumitani Y, Tanaka T, Katsuta H, Nishida S, Itagaki E, Inukai K, Ishida H: VEGF<sub>120</sub> secretion from palmitate-preloaded osteoblastic cells is enhanced through the activation of PI3K-dependent pathways. The American Diabetes Association's 74th Scientific Sessions, USA, June 13th-17th, 2014.
  46. Kitahara A, Takahashi K, Moriya R, Onuma H, Handa K, Sumitani Y, Tanaka T, Katsuta H, Nishida S, Sakurai T, Inukai K, Ohno H, Ishida H. Direct action of ghrelin enhance the secretions of proinflammatory adipokines from mature 3T3-L1 adipocytes in vitro. The American Diabetes Association's 74th Scientific Sessions, USA, June 13th-17th, 2014.
  47. Nomoto H, Kondo T, Nakamura A, Miyoshi H, Atsumi T. Inhibition of small-Maf function in pancreatic beta-cells ameliorates insulin secretion due to enhancement of insulin and glucokinase gene expression. The American Diabetes Association's 74th Scientific Sessions, USA, June 13th-17th, 2014.
  48. 保坂利男: 再考, 療養指導とともに DPP4阻害薬をうまく使うコツ! 東葛北部糖尿病治療懇話会. 東葛北部糖尿病治療懇話会, 柏, 2014年6月24日.
  49. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法—インクレチンとの関連も含めて—. 第27回糖尿病フォーラム・イン・広島, 広島, 2014年6月25日.
  50. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法を考える. 第18回糖尿病治療・看護・療養指導を考える試行錯誤の会, 秋田, 2014年6月28日.
  51. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法—食品交換表の改訂と今後の展開—. 第13回東京 CDE フォーラム, 東京, 2014年7月5日.
  52. 北原敦子: 食品交換表の改訂のポイント. 新潟栄養士会, 新潟, 2014年7月5日.
  53. 近藤琢磨: 膵β細胞研究と糖尿病治療—それぞれの変遷. 第4回中東京臨床糖尿病フォーラム, 武蔵野, 2014年7月9日.
  54. 保坂利男: 食品成分の可能性—動物実験から生活習慣病予防のアプローチ—. 武蔵野, 2014年7月9日.
  55. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法—食品交換表の改訂ポイントとともに—. 第2回生活習慣病研究会, 沼津, 2014年7月10日.
  56. 勝田秀紀: 2型糖尿病の指標としてのプロインスリンの活用について. Diabetes Summer Seminar 糖尿病と膵β細胞, 東京, 2014年7月12日.
  57. 石田均: 「糖尿病食事療法新たな出発点」—その人にあった栄養食事指導を目指して—「糖尿病食事療法のための食品交換表第7版」改訂のポイント. 臨床栄養学セミナー I, 横浜, 2014年7月19日.
  58. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法—インクレチンとの関連も含めて—. 東東京糖尿病医療研究会第12回学術講演会, 東京, 2014年7月22日.
  59. 近藤琢磨: 日常診療における糖尿病合併症の管理. 第35回糖尿病連絡会, 小平, 2014年7月24日.
  60. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法—食品交換表第7版の改訂ポイントとともに—. 第17回熊本糖尿病フォーラム, 熊本, 2014年7月25日.
  61. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法とその将来への展望. 第15回長崎県糖尿病・妊娠研究会, 長崎, 2014年7月26日.
  62. 近藤琢磨: 糖尿病研究の成果を日常診療に生かそう!. E-quality meeting 2014, 武蔵野, 2014年7月29日.
  63. 保坂利男: 糖尿病治療に於ける DPP4阻害薬の位置づけ. E-quality meeting 2014, 武蔵野, 2014年7月29日.
  64. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法—インクレチンとの関連も含めて—. 東葛糖尿病研究会, 野田, 2014年7月30日.
  65. 近藤琢磨: Maf 転写因子群によるβ細胞の機能制御. Ten Topics in Endocrinology and Metabolism, 札幌, 2014年8月2日.
  66. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法とは. 学術講演会—糖尿病治療 Up To Date—, 対馬, 2014年8月8日.
  67. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法を考える. 2014年度糖尿病療養支援ネットワーク研修会, 東京, 2014年8月24日.
  68. 近藤琢磨: 高齢者糖尿病患者とどう向き合うか?. 北多摩地区糖尿病学術講演会, 武蔵野, 2014年9月2日.

69. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 糖尿病フォーラム in 大分(TOFO), 大分, 2014年9月3日.
70. 石田均:日本人の健康長寿を目指す食事療法とは?. 糖尿病・栄養研究会 Diabetes and Nutrition Research Conference 2014, 大阪, 2014年9月4日.
71. 石田均:健康長寿を目指す食事療法について. 富山県女性薬剤師会学術講演会, 富山, 2014年9月7日.
72. 北原敦子:食品交換表の改訂のポイント. 世田谷保健所, 東京, 2014年9月9日.
73. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 郡山 Diabetes Educators Network Forum, 郡山, 2014年9月11日.
74. 石田均:日本人の健康長寿を目指す食事療法を考える. 宮崎インスリン療法研究会, 宮崎, 2014年9月13日.
75. 石田均:日本人に適した糖尿病食事療法とは. 糖尿病地域連携セミナー in 春の町, 北九州, 2014年9月25日.
76. 近藤琢磨:糖尿病研究から考える糖尿病治療戦略. Incretin Forum in Tama 2014, 立川, 2014年9月30日.
77. 石田均:糖尿病合併症から考える食事療法・運動療法. 第29回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2014年10月3-4日.
78. 小沼裕寿, 犬飼浩一, 北原敦子, 森谷理恵, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均:インクレチンシグナルと PPAR $\gamma$  活性化代謝経路の血管内皮細胞におけるクロストーク. 第29回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2014年10月3-4日.
79. 西田進, 鈴木清, 近藤健, 高橋聡, 貞苺利彦, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 北原敦子, 高橋和人, 田中利明, 勝田秀紀, 犬飼浩一, 石田均:男性において糖・脂質代謝異常や高血圧が, 骨代謝異常に及ぼす影響についての検討. 第29回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2014年10月3-4日.
80. 石田均:糖尿病における食事療法の意義と今後の課題. 第36回日本臨床栄養学会総会, 第35回日本臨床栄養協会総会, 第12回大連合大会, 東京, 2014年10月4-5日.
81. 保坂利男:最新外来インスリン治療マニュアル. 岩国内科医会学術講演会, 岩国, 2014年10月10日.
82. 近藤琢磨:肥満合併糖尿病に優先される治療は?. 3rd T-LED Conference, 立川, 2014年10月14日.
83. 石田均:日本人のための食事療法を考える—カーボカウントの本来の意義—. 第44回城北肥満研究会, 東京, 2014年10月17日.
84. 石田均:日本人のための糖尿病食事療法—「食品交換表」改訂のポイントと今後の方向性—. 平成26年度地域活動事業部健康づくり推進研修会, 静岡, 2014年10月18日.
85. 北原敦子, 高橋和人, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均:Ghrelin 刺激性アディポカイン分泌制御機構の解明. 第35回日本肥満学会, 宮崎, 2014年10月24日-25日.
86. 炭谷由計, 須崎由香, 藤澤祐基, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均:携帯型脈拍計を活用した運動療法の確立とその血糖コントロールに及ぼす臨床的効果の検討. 第35回日本肥満学会, 宮崎, 2014年10月24-25日.
87. 黒田雅史, 阪上浩, 保坂利男, 興津理絵, 原田永勝, 中屋豊:細胞骨格制御分子 $\gamma$ -synuclein による糖取り込み機構の解析. 第35回日本肥満学会, 宮崎, 2014年10月24-25日.
88. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法—食品交換表の改訂とその新しい方向性—. 第28回若小牧糖尿病勉強会, 若小牧, 2014年10月29日.
89. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法を考える. 2014年度第1回米沢地区CDE研修会, 米沢, 2014年11月1日.
90. 保坂利男:2型糖尿病治療に於ける DPP4阻害薬, SGLT2阻害薬のポジショニング. 第3回日本くすりと糖尿病学会学術集会, 福岡, 2014年11月2日.
91. 近藤琢磨:経口血糖降下薬に伴う低血糖の実例と留意点. 平成26年度東京糖尿病治療セミナー(多摩地区), 武蔵野, 2014年11月8日.
92. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 第131回糖尿病症例研究談話会, 東京, 2014年11月11日.
93. 犬飼浩一, 半田桂子, 小沼裕寿, 森谷理恵, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均:糖尿病モデルマウスにおける糖質制限食投与による遺伝子学的影響の検討. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
94. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木本紀代子, 高橋和人, 炭谷由計, 石田均, 大野秀樹, 木崎節子:高グルコース培養によるマクロファージの時計遺伝子 Rev-erb $\alpha$  の発現変化とその生理的役割. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
95. 石田均:日本人に相応しい糖尿病食事療法への展開. 第10回 Current Topics lecture in Endocrinology & Metabolism, 出雲, 2014年11月20日.
96. 石田均:日本人の健康長寿を目指す食事療法. 釧路市医師会学術講演会, 釧路, 2014年11月22日.
97. 保坂利男:高齢糖尿病患者における DPP4阻害薬のポジショニングと使い分け. 生活習慣病セミナー, 金沢, 2014年11月25日.
98. 高橋久子, 下田ゆかり, 栗山絹世, 塚田美祐, 小林庸子, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 吉元勝彦, 保坂利男, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均:妊娠糖尿病妊婦へのインスリン導入受容までの看護・助産支援についての検討. 第30回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 長崎, 2014年11月28-29日.
99. 井内卓次郎, 住田崇, 波多野雅子, 酒井豪太, 深堀賢人, 田口亮, 保川信行, 保坂利男, 大竹啓之, 池上裕一, 安田重光, 片上秀喜, 片山茂裕, 栗田卓也:先端巨大症に合併した褐色細胞腫の一例. 第24回内分泌 Update, 大宮, 2014年11月28-29日.
100. 石田均:日本人に相応しい糖尿病食事療法とその新たな展開. 糖尿病治療を考える会~糖尿病治療における食事療法の大切さについて~, 横須賀, 2014年12月10日.
101. 保坂利男:SGLT2阻害薬適正使用マニュアル. 西多摩地区糖尿病と合併症予防の為の講演会, 昭島, 2014年12月4日.
102. 保坂利男:糖尿病療養指導とDPP4阻害薬治療の Up To Date. 第124回岩国・柳井臨床糖尿病懇話会, 岩国, 2014年12月5日.
103. 保坂利男:高齢者糖尿病患者における DPP-4阻害薬のポジショニングと使い分け. M3 Web 講演会, 東京, 2014年12月11日.
104. 保坂利男:最新2型糖尿病経口血糖降下薬治療マニュアル. Meet the Expert~専門医に聞く治療薬の処方意図~, 三鷹, 2014年12月17日.
105. 北原敦子, 高橋和人, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均:2型糖尿病状態下の膵 $\beta$ 細胞での慢性炎症に対するアスタキサンチンの保護作用との機序について. 第18回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2015年1月10-11日.
106. 近藤琢磨:膵 $\beta$ 細胞研究からみた糖尿病治療戦略. Diabetes Expert Forum 2015, 立川, 2015年1月14日.
107. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 日本医師会生涯教育講座セミナー, 東京, 2015年1月15日.

108. 保坂利男:最新外来インスリン治療マニュアル.インスリン最新治療研究会,福井,2015年1月16日.
109. 近藤琢磨:病態を意識した糖尿病治療薬の選択～多種類のお薬をどう使いこなす?～.平成26年度北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク 医療従事者向け研修会,西東京,2015年1月17日.
110. 石田均:日本人の健康長寿を保つための食事療法.第10回千葉糖尿病眼合併症研究会,千葉,2015年1月22日.
111. 比佐有紀,炭谷由計,永瀬惟,盛田久美,石本麻衣,森田奈瑠,田中利明,勝田秀紀,保坂利男,犬飼浩一,石田均:肥満2型糖尿病における BOT からリキナセチドによる BPT へ切り換え効果の検討.第52回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,横浜,2015年1月24日.
112. 森田奈瑠,炭谷由計,石本麻衣,高橋聡,村嶋俊隆,勝田秀紀,田中利明,保坂利男,板垣英二,犬飼浩一,石田均:術後に著しい血糖改善を認めたサブクリニカルクッシング症候群合併褐色細胞腫の一例.第52回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,横浜,2015年1月24日.
113. 盛田久美,村嶋俊隆,炭谷由計,比佐有紀,永瀬惟,石本麻衣,森田奈瑠,保坂利男,犬飼浩一,石田均:糖尿病性動眼神経麻痺の重症化再発を認めた緩徐進行型1型糖尿病の一例.第52回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,横浜,2015年1月24日.
114. 高橋奈央,東海俊史,三橋順子,池田和穂,田中直見,田中利明,西田進,石田均:当院における初診時から1年間の糖尿病栄養指導の臨床的效果.第52回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,横浜,2015年1月24日.
115. 近藤健,大久保佳昭,村嶋俊隆,伊藤新,金子松五,西田次郎,武井泉:慢性 C 型肝炎に対するインターフェロン治療により誘発された1型糖尿病の1例.第52回日本糖尿病学会関東甲信越地方会,横浜,2015年1月24日.
116. 近藤琢磨: $\beta$ 細胞研究の現状から将来の糖尿病治療を考える.第6回 Metropolitan Diabetes Conference,東京,2015年1月24日.
117. 北原敦子:食品交換表の改訂のポイント.特別区研究所,東京,2015年1月27日.
118. 石田均:日本人の健康寿命を保つための食事療法を考える.糖尿病学術セミナー,市川,2015年1月28日.
119. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.東久留米医師会学術講演会,東久留米,2015年2月10日.
120. 千野貴子,種山小栗,塚田美裕,丹波光子,奥山秀平,小嶋幸一郎,保坂利男,大浦紀彦:摂食障害患者への NST 介入の有用性.第30回日本静脈経腸栄養学会,神戸,2015年2月12-13日.
121. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.糖尿病 Workshop in 葛飾,荒川,2015年2月19日.
122. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法.第49回糖尿病学の進歩,岡山,2015年2月20日.
123. 石田均:食品交換表の改訂とそのポイント—「活用編」の応用ならびに実践を含めて—.第49回糖尿病学の進歩,岡山,2015年2月20-21日.
124. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.国分寺・小金井医師会 合同学術講演会,国分寺,2015年2月25日.
125. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.Diabetes Expert Meeting,田無,2015年2月26日.
126. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.糖尿病を考える会 in 荒川,浅草,2015年2月27日.
127. 近藤琢磨:肥満合併糖尿病:10年後の人生を変えるのはどちら?～BG 薬追加の立場から～.第6回多摩糖尿病先端医療研究会,立川,2015年3月3日.
128. 石田均:眼科と内科の新たな連携—糖尿病療養指導チームの役割とその重要性も含めて—.第20回日本糖尿病眼学会総会,東京,2015年3月6-8日.
129. 久須見有美,佐野公彦,中山真紀子,厚東隆志,井上真,山本実,石田均,平形明人:非散瞳下超広角眼底撮影を用いた人間ドック健診での糖尿病網膜症の検出.第20回日本糖尿病眼学会総会,東京,2015年3月6-8日.
130. 保坂利男:SGLT2阻害薬 臨床経験から発売1年経って見えてきたこと,またこれからの課題.東京都病院薬剤師会 臨床薬学研究会,2015年3月5日.
131. 前川亜樹,安部晶子,浅間泉,島村祥子,平形明人,石田均:眼科領域の糖尿病療養指導士による糖尿病教室.第20回日本糖尿病眼学会総会,東京,2015年3月6-8日.
132. 保坂利男:SGLT2阻害薬外来適正使用マニュアル.新潟市糖尿病治療セミナー,新潟,2015年3月11日.
133. 北原敦子:「低血糖」.第18回TAMA生活習慣病フォーラム,東京,2015年3月14日.
134. 保坂利男:SGLT2阻害薬外来適正使用マニュアル.新宿区糖尿病懇話会,新宿,2015年3月15日.
135. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法.茨城県保険医協会 第54回コモンディーズ研究会,土浦,2015年3月17日.
136. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.Tachikawa Diabetes Meeting,立川,2015年3月17日.
137. 石田均:日本人の体質に適した糖尿病食事療法を考える.城北地区4区(板橋区・練馬区・豊島区・北区)合同 糖尿病区民公開講座,東京,2015年3月21日.
138. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.坂戸地区糖尿病懇話会,坂戸,2015年3月24日.
139. 保坂利男:SGLT2阻害薬外来適正使用マニュアル.本庄市児玉医師会学術講演会,本庄,2015年3月27日.
140. 保坂利男:照らし出される SGLT2阻害薬の可能性とポジショニング.名古屋内科医会第531回例会・愛知県下内科医会第64回合同例会,名古屋,2015年3月28日.

## 論文

- Ozawa S<sup>1</sup>,Katsuta H<sup>1</sup>,Suzuki K,Takahashi K,Tanaka T,Sumitani Y,Nishida S,Yoshimoto K,Ishida H(=equally contributed) : Estimated proinsulin processing activity of prohormone convertase (PC) 1/3 rather than PC2 is decreased in pancreatic  $\beta$ -cells of type 2 diabetic patients. *Endocr J* 61(6): 607-614, 2014.
- Ogasawara J, Ito T, Wakame K, Kitadate K, Sakurai T, Sato S,Ishibashi Y, Izawa T,Takahashi T, Ishida H, Kizaki T, Ohno H : ETAS, an enzyme - treated asparagus extract, attenuates amyloid  $\beta$ -induced cellular disorder in PC12 cells. *Natural Product Commun* 9(4): 561-564, 2014.
- Handa K, Inukai K, Onuma O, Kudo A, Nakagawa F, Tsuruga K, Kitahara A, Moriya R, Takahashi K, Sumitani Y, Hosaka T, Kawakami H,Oyadomari S,Ishida H:Long-term low carbohydrate diet leads to deleterious metabolic manifestations in diabetic mice. *PLoS One* 9(8): e104948, 2014.
- Onuma H, Inukai K, Kitahara A, Moriya R, Nishida S, Tanaka T,

- Katsuta H, Takahashi K, Sumitani Y, Hosaka T, Ishida H: The glucagon-like peptide 1 receptor agonist enhances intrinsic peroxisome proliferator - activated receptor  $\gamma$  activity in endothelial cells. *Biochem Biophys Res Commun* 451: 339-344, 2014.
5. Hirata T, Inukai K, Morimoto J, Katayama S, Ishida H: Effects of concomitant drugs on sitagliptin - mediated improvement in glycemic control in Japanese patients with type 2 diabetes. *Prim Care Diabetes* 8 : 265-270, 2014.
  6. Onuma H, Inukai K, Watanabe M, Sumitani Y, Hosaka T, Ishida H: Effects of long - term monotherapy with glimepiride vs glibenclamide on glycemic control and macrovascular events in Japanese Type 2 diabetic patients. *J Diabetes Mellitus* 4 : 33-37, 2014.
  7. Inukai K, Hirata T, Sumita T, Watanabe M, Ikegami Y, Ito D, Kurihara S, Yasukawa N, Morimoto J, Takata N, Kanazawa K, Neda T, Sumitani Y, Inoue K, Noguchi Y, Hosaka T, Ishida H, Katayama S: Clinical Characteristics of Japanese Type 2 Diabetic Patients Responsive to Sitagliptin. *J Diabetes Mellitus* 4 : 172-178, 2014.
  8. Sumita T, Ono H, Suzuki T, Sakai G, Inukai K, Katagiri H, Asano T, Katayama S, Awata T: Mediobasal hypothalamic PTEN modulates hepatic insulin resistance independently of food intake in rats. *Am J Physiol Endocrinol Metab* 307 : E47-60, 2014.
  9. Hosaka T, Sasaga S, Yamasaka Y, Nii Y, Edazawa K, Tsutsumi R, Shuto E, Okahisa N, Iwata S, Tomotake H, Sakai T: Treatment with buckwheat bran extract prevents the elevation of serum triglyceride levels and fatty liver in KK-Ay mice. *J Med Invest* 61(3-4) : 345-352, 2014.
  10. Tsutsumi R, Yoshida T, Nii Y, Okahisa N, Iwata S, Tsukayama M, Hashimoto R, Taniguchi Y, Sakaue H, Hosaka T, Shuto E, Sakai T: Sudachitin, a polymethoxylated flavone, improves glucose and lipid metabolism by increasing mitochondrial biogenesis in skeletal muscle. *Nutrition & Metabolism (Lond)* Jul 4;11:32, eCollection 2014.
  11. Chung L.T.K, Hosaka T, Tam L.T.T, Giang N.T, Binh T.Q, Hao L.T.H, Da P.X: Oral administration of *Bifidobacterium* spp. improves insulin resistance, induces adiponectin and prevents inflammatory adipokine expressions. *BIOMEDICAL RESEARCH* 35(5) : 303-310, 2014.
  12. Kameda H, Miyoshi H, Shimizu C, Nagai S, Nakamura A, Kondo T, Chida D, Atsumi T: Expression and regulation of neuromedin B in pituitary corticotrophs of male melanocortin 2 receptor-deficient mice. *Endocrinology* 155 : 2492-2499, 2014.
  13. Miyoshi A, Nagai S, Takeda M, Kondo T, Nomoto H, Kameda H, Hirai A, Cho K, Kimachi K, Shimizu C, Atsumi T, Miyoshi H: Ovarian morphology and prevalence of polycystic ovary syndrome in Japanese women with type 1 diabetes mellitus. *J Diabetes Investig* 4 : 326-329, 2014.
  14. Kitahara A, Takahashi K, Moriya R, Onuma H, Handa K, Sumitani S, Tanaka T, Katsuta H, Nishida S, Sakurai T, Inukai K, Ohno H, Ishida H: Ghrelin augments the expressions and secretions of proinflammatory adipokines, VEGF120 and MCP-1, in differentiated 3T3-L1 adipocytes. *J Cell Physiol* 230: 199-209, 2015.
  15. Hirota K, Keino H, Inoue M, Ishida H, Hirakata A: Comparisons of microRNA expression profiles in vitreous humor between eyes with macular hole and eyes with proliferative diabetic retinopathy. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253 : 335-342, 2015.
  16. Chung L.T.K, Hosaka T, Trung N.T, Kassa A, Oanh D.T, Ba T.H, Phuong P.T, QuangBinh T: *Bifidobacterium* species lower serum glucose, increase insulin signaling protein expressions and improve adipokine profile in diabetic mice. *BIOMEDICAL RESEARCH* 36(1) : 63-70, 2015.
  17. Nomoto H, Kondo T, Miyoshi H, Nakamura A, Hida Y, Yamashita K.I, Sharma A.J, Atsumi T: Inhibition of small Maf function in pancreatic beta cells improves glucose tolerance through the enhancement of insulin gene transcription and insulin secretion. *Endocrinology* Mar 12 : en20141906, 2015.
  18. 石田均: 日本人にふさわしい糖尿病の食事療法—食品交換表の第7版の改訂と今後の方向性—. *糖尿病と妊娠* 14(1): 22-26, 2014.
  19. 石田均: 糖尿病食事療法の実際と糖尿病治療におけるその意義—糖質制限食の功罪も含めて—. *Current Therapy* 32(4): 379-384, 2014.
  20. 勝田秀紀, 石田均: SU 薬はどのような患者に適していますか? . *治療* 96(6): 944-945, 2014.
  21. 石田均: 医師が把握すべき食品交換表第7版への改訂のポイント. *Medical Asahi* 43(9): 26-28, 2014.
  22. 石田均: 食事療法の考え方と今後の課題. *日本医師会雑誌* 143(8): 1673-1677, 2014.
  23. 保坂利男, 炭谷由計, 犬飼浩一: 外来通院患者における強化インスリン療法でのインスリングルリジンへの切り替え後の有効性および安全性の検討. *新薬と臨床* 63(6) : 924, 2014.
  24. 炭谷由計, 保坂利男, 小沼裕寿, 犬飼浩一: CKD を有する2型糖尿病患者におけるリナグリブチンの有用性の検討. *Diabetes Frontier* 25(5) : 621-625, 2014.
- 著書**
1. 石田均: 糖尿病食事療法のための食品交換表活用編第2版—献立例とその実践—. 日本糖尿病学会編・著. 日本糖尿病協会, 東京, 文光堂, 2015.
  2. 志村二三夫, 石田均(編集): カレント: 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち2. 東京, 建帛社, 2015.
  3. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病の食事療法を考えよう. ベんちのーと24(4). 東京, メディカル・ジャーナル社, 2014. p.12-13.
  4. 石田均: 糖尿病における食事療法の在り方—インクレチンとの関連を中心に—. *Medical View Point* 35(4). 2014. p.3.
  5. 石田均, 井口登與志, 前川聡(Round Table Discussions): 選択的 SGLT2 阻害薬の適正使用のために. *日経メディカル* (2014.07). 2014. p.071-073.
  6. 西田進, 鈴木清, 近藤健, 貞苺利彦, 信太暁子, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 小沼裕寿, 炭谷由計, 犬飼浩一, 板垣英二, 石田均: 男性2型糖尿病における骨代謝異常の解析とその成因ならびにシタグリブチン投与の効果に関する臨床的研究. 日本人の糖尿病を考える会業績集. 2014. p.7-12.
  7. 石田均: 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える—極端な糖質制限食と動脈硬化との関連から—. *EYE-DIA* Vol2. 2014. p.3-4.
  8. 石田均: メディカル eye「日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える」. 東京保険医新聞第1614号. 東京, 東京保険医協会, 2015. p.4.

9. 保坂利男, 炭谷由計, 根田保, 犬飼浩一: BOT (Basal-supported Oral Therapy)療法の課題と今後の展望. 新薬と臨床 63(6). 東京, 医薬情報研究所, 2014. p.837.
10. 保坂利男: [夏季特集=主な疾患の治療とその展望]「糖尿病 ～膵β細胞の保護を目指した治療～». MEDICAMENT NEWS 第2165号. メディカルオンライン, 2014. p.9-10.
11. 保坂利男: インスリン抵抗性と境界型糖尿病の病態－基礎研究の治験より－. 月刊糖尿病6(8). 東京, 医学出版, 2014. p.8-13.
12. 保坂利男: プナシメジの抗・脱メタボ体型の可能性～プナシメジ抽出物の肥満かつ糖尿病マウスにおける体脂肪蓄積抑制効果～. 信州のそ菜 712. 長野, 全国農業組合連合会長野県本部, 2014. p.39-41.
13. 井内卓次郎, 保坂利男: プナシメジの抗・脱メタボ体型の可能性～プナシメジ抽出物の肥満糖尿病マウスにおける内臓脂肪蓄積抑制効果. MP(MICOPHAGIST) 10. 2014. p.2-3.
14. 板垣英二: year note 2016 視床下部・下垂体疾患. D14-29 岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄編. 東京, メディックメディア, 2015.

### 腫瘍内科学教室

#### 講演

1. 古瀬純司: 膵がん化学療法の最新情報. ～エビデンスからプラクティスへ～. 鹿児島膵癌研究会, 鹿児島, 2014年4月18日.
2. 上野秀樹, 池田公史, 古瀬純司: 膵癌患者に対するABI-007(nab-paclitaxel)の臨床開発: 日本人におけるABI-007+ Gemcitabine 療法第I/II相試験. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月24日.
3. 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司: 高度肝障害を伴う多発肝転移大腸癌患者における化学療法の妥当性の検討. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月26日.
4. 古瀬純司: 切除不能膵癌の二次化学療法(CQ5-4)に関する改訂. 膵癌診療ガイドライン拡大改訂委員会(公聴会). 日本膵臓学会, 東京, 2014年4月26日.
5. 弦間昭彦, 古瀬純司, 羽鳥隆, 市川度, 奥坂拓志, 荒川浩明, 井上義一, 海老名雅仁, 加藤晃史, 楠本昌彦, 桑野和善, 齋藤好信, 酒井文和, 上甲剛, 谷口博之, 福田悠, 関頭洋: タルセバ錠 膵癌 特定使用成績調査(全例調査)における300例中間結果報告. 第54回日本呼吸器学会, 大阪, 2014年4月26日.
6. Nagashima F: Geriatric Oncology in Japan. Asian Clinical Oncology Society, Taiwan, May 2nd-4th, 2014.
7. Furuse J: Current status and future directions of chemotherapy for pancreatic cancer. Asian KOLs Meeting in Taipei, Taipei, May 4th, 2014
8. 古瀬純司: 膵がん化学療法の最新情報. ～エビデンスからプラクティスへ～. オンコロジーフォーラム in 札幌, 札幌, 2014年5月8日.
9. 古瀬純司: 消化器がん領域. 肝胆膵. CINV に関する日本の新しいエビデンス. CINV Forum, 東京, 2014年5月11日.
10. 古瀬純司: 膵癌治療の新時代に向けて－FOLFIRINOX の実践. Clinical Symposium in Kyushu & Yamaguchi, 福岡, 2014年5月23日.
11. 寺島健志, 鈴木英一郎, 奥坂拓志, 金子周一, 池田公史, 山口研成, 森口理久, 杉本理恵, 佐野圭二, 安居幸一郎, 細川歩, 井口東郎, 石井浩, 大川伸一, 山口武人, 行澤齊悟, 森本学, 横須賀収, 稲葉吉隆, 中森正二, 古瀬純司: 肝細胞癌

に対するソラフェニブの国内多施設共同第II相試験－Child-Pugh分類A又はB患者に対する有効性と安全性の検討. 第50回日本肝臓学会総会, 東京, 2014年5月29日.

12. Morizane C, Okusaka T, Mizusawa J, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Ishii H, Azuma T, Iguchi H, Nakamori S, Mizuno N, Sata N, Sugimori K, Yamaguchi K, Mine T, Sano K, Maguchi H, Shimizu K, Furuse J, Japan Clinical Oncology Group: Randomized phase III study of gemcitabine plus S-1 combination therapy versus gemcitabine plus cisplatin combination therapy in advanced biliary tract cancer: Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1113). 2014 ASCO Annual Meeting, USA, May 31st, 2014.
13. Kondo S, Ikeda M, Kudo M, Nadano S, Furuse J, Osaki Y, Kumada T, Ohkawa K, Mizokami M: Multicenter observational study of reactivation of hepatitis B virus caused by chemotherapy for solid tumors. 2014 ASCO Annual Meeting, USA, May 31st, 2014.
14. Abou-Alfa GK, Cheng AL, Meyer T, El-Khoueiry A, Ikeda M, Chun HG, Fairvire S, Furuse J, Knox J, Okusaka T, Ping J, Borgman A, Kelley RK: Phase 3 Randomized, Double-blind, Controlled Study of Cabozantinib (XL184) vs Placebo in Subjects with Hepatocellular Carcinoma Who have Received Prior Sorafenib (CELESTIAL) (NCT01908426). 2014 ASCO Annual Meeting, USA, May 31st, 2014.
15. Furuse J: Current ongoing clinical trials for pancreatic cancer in Japan. NCI Pancreas Task Force's meeting, USA, June 1st, 2014.
16. 清水怜, 池田公史, 森本学, 加藤弥菜, 河田則文, 工藤正俊, 中森正二, 金子周一, 杉本理恵, 古瀬純司, 奥坂拓志: 進行肝細胞癌を対象としたソラフェニブとシスプラチン肝動注の併用療法. 第50回日本肝臓学会, 京都, 2014年6月5日.
17. 角谷眞澄, 池田公史, 高山忠利, 沼田和司, 泉並木, 國土典宏, 古瀬純司, 奥坂拓志, 伊藤雄一郎, 工藤正俊: ソラフェニブ国際共同非介入試験 GIDEON 最終解析 (Global Investigation of therapeutic DEcisions in unresectable HCC and Of its treatment with sorafenib) ～日本における肝臓治療の実態～. 第19回肝動脈塞栓療法研究会, 奈良, 2014年6月7日.
18. 古瀬純司: 膵癌の集学的治療の最新トピックス. 膵臓治療の最前線: エビデンスと治療選択. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 和歌山, 2014年6月11日.
19. 古瀬純司: エビデンスに基づいた肝・胆・膵悪性腫瘍の化学療法. 胆道癌に対する切除手術の補助療法. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 和歌山, 2014年6月12日.
20. 古瀬純司: 膵癌治療の新時代に向けて－FOLFIRINOX の実践. 第29回北海道消化器癌化学療法研究会学術講演会, 札幌, 2014年6月20日.
21. 古瀬純司: 糖尿病と膵臓がんを考える. 膵がん診療の最前線－診断から治療まで. SEM～糖尿病と膵臓がん～, 長野, 2014年6月27日.
22. Furuse J: Current ongoing clinical trials for pancreatic cancer in Japan. IAP/ECP consensus review of guidelines for the clinical management of pancreatic cancer, England, June 25th, 2014.
23. 長島文夫, 北村浩, 宮島謙介, 春日章良, 成毛大輔, 岡野尚弘, 古瀬純司, 松岡弘芳, 正木忠彦, 松井敏史, 須藤紀子, 神崎恒一, 奥山徹, 明智龍男, 安藤昌彦: 高齢者切除不能大腸癌において治療方針決定に用いる高齢者機能評価の実態とその応用について. 第81回大腸癌研究会, 名古屋, 2014年7

- 月4日.
24. 古瀬純司:最新の抗がん剤治療と治療の選択. 平成26年度連携大学合同市民公開シンポジウム. がんと上手につきあうために〜抗がん剤治療の専門家からのアドバイス,三鷹, 2014年7月5日.
  25. 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司:切除不能膵癌における局所進行例と遠隔転移例の臨床的特徴の検討. 第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  26. 春日章良, 奥坂拓志, 池田公史, 福富晃, 井岡達也, 古瀬純司, 伊佐山浩通, 大川伸一, 朴成和:化学療法未治療の遠隔転移を有する膵癌に対するFOLFIRINOX療法の第II相臨床試験.第45回日本膵臓学会大会, 北九州市, 2014年7月11日.
  27. 伊佐山浩通, 奥坂拓志, 猪狩功遺, 古瀬純司, 石井浩, 中井陽介, 今井翔悟, 岡村正太, 浜田知久馬:膵癌無作為化比較試験(GEST, JACCRO PC-01, GEMSAP)統合解析研究探索解析結果報告.第45回日本膵臓学会大会, 北九州市, 2014年7月11日.
  28. 羽鳥隆, 古瀬純司, 弦間昭彦, 市川度, 奥坂拓志, 関頭洋:タルセバ錠 膵癌 特定使用成績調査(全例調査)における800例最終解析結果報告.第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  29. 古瀬純司:膵がん化学療法ー有効性・安全性から薬剤選択を考えるー.第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  30. 古瀬純司:切除不能膵がんの治療戦略ー薬物療法の最新情報ー.第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  31. 古瀬純司, 大東弘明, 中郡聡夫, 菅野敦, 上坂克彦, 中村聡明, 奥坂拓志:膵癌診療ガイドライン2013を巡って 今後の課題「補助療法」.第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11日.
  32. Nagashima F : JCOG activities in Geriatric Oncology. SIOG APAC, Singapore, July 12th-13th, 2014.
  33. 古瀬純司:肝細胞癌の治療戦略.第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2014年7月17日.
  34. Ikeda M,Ueno H,Ueno M,Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima T, Furuse J : A phase I /II trial of weekly nab-paclitaxel (nab-P) + Gemcitabine (GEM) in Japanese patients (pts) with metastatic pancreatic cancer (MPC).第12回日本臨床腫瘍学会学術集, 福岡, 2014年7月17日.
  35. 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司:切除不能膵癌の転移形式による治療成績の検討.第12回日本臨床腫瘍学会学術集会,福岡, 2014年7月17日.
  36. 古瀬純司:肝・胆道・膵がん-疫学・診断・治療の実際-. 10期がん情報ナビゲーター養成講座消化器がん,東京,2014年8月1日.
  37. 古瀬純司:肝臓がんの薬物治療. Akiba Cancer Forum, 東京, 2014年8月9日.
  38. 古瀬純司:膵癌化学療法の最新知見 ー多様化の時代に向けた取り組み. 第6回北陸消化器癌治療FORUM, 金沢, 2014年8月9日.
  39. 古瀬純司:もっと知ってほしい がんと化学療法のこと. アピタルがん夜間学校, 東京, 2014年8月20日.
  40. 古瀬純司:膵癌化学療法の現状と今後の展望. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月28日.
  41. 長島文夫:高齢者がんにおける総合的機能評価(JCOG 高齢者研究小委員会からの報告). 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月28日.
  42. 伊藤雄一郎, 古瀬純司, 奥坂拓志, 池田公史, 谷河賞彦, 橋爪憲聖, 佐々木康綱 :Regorafenib pharmacokinetic (PK) data: The result of an integrated analysis. 口演. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月29日.
  43. 長島文夫, 中村健一, 小川朝生, 濱口哲弥, 北村浩, 古瀬純司 :高齢者がんにおける総合的機能評価(JCOG 高齢者研究小委員会からの報告). 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月29日.
  44. 大川伸一, 馬場秀夫, 杉森一哉, 古瀬純司, 山本和秀, 南博信, 北川雄光, 林和彦, 権雅憲, 若林剛, 相羽恵介:肝胆膵がんにおける化学療法の悪心嘔吐観察研究. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月29日.
  45. 市川度, 古瀬純司, 弦間昭彦, 羽鳥隆, 奥坂拓志, 関頭洋:エルロチニブ 膵癌 特定使用成績調査(全例調査)800例の安全性・有効性最終解析結果. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月29日.
  46. 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 高須充子, 長島文夫, 古瀬純司 :当科での切除不能再発膵癌における治療成績の検討. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月30日.
  47. 高橋秀明, 森実千種, 桑原明子, 奥山浩之, 大野泉, 清水怜, 光永修一, 林直美, 篠原旭, 小林美沙樹, 近藤俊輔, 上野秀樹, 奥坂拓志, 古瀬純司, 池田公史:進行膵がんにおける悪性腫瘍の家族歴と治療効果の検討. 第52回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2014年8月30日.
  48. 古瀬純司:がん医療の現状. 平成25年杏林大学病院度がん看護研修 基礎編 特別講義, 三鷹, 2014年9月6日.
  49. 古瀬純司:膵癌化学療法の最新情報ーFOLFIRINOX と新たな展望. 第8回消化器がん化学療法におけるチーム医療を考える会. 松山, 2014年9月6日.
  50. 古瀬純司:標準治療の確立と臨床試験. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン特別講義II. 帝京大学, 東京, 2014年9月8日.
  51. 古瀬純司:膵癌化学療法の最新情報ーFOLFIRINOX をどう使うか. 第128回信州膵胆管研究会, 長野, 2014年9月20日.
  52. 古瀬純司, 水野伸匡, 森実千種, 仲地耕平, 池田公史, 小西大, 奥坂拓志 :肝門部胆管癌に対する薬物療法の役割と治療成績. 第50回日本胆道学会学術集会, 東京, 2014年9月26日.
  53. Furuse j, Gemma A, Hatori T, Okusaka T, Seki A : 704P – Final safety analysis of erlotinib plus gemcitabine in a post-marketing surveillance study (POLARIS) of >800 Japanese pancreatic cancer patients. ESMO 2014, Spain, September 29th, 2014 .
  54. Kasuga A, Okano N, Naruge D, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Furuse J : 714P – Fixed dose rate gemcitabine and S-1 combination therapy (FGS) as salvage chemotherapy for gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer. ESMO 2014, Spain, September 29th, 2014 .
  55. Abou-Alfa G,Cheng AL,Meyer T,El-Khoueiry A,Ikeda M,Chun H,Furuse J,Knox J,Okusaka T,Colombo M,Merle P,Santoro A,Gallagher D, Janczewska E, Trojan J, Klumpen HJ, Cicin I, Ping J, Borgman – Hagey A, Kelley RK : 742TiP-Phase 3 randomized, double – blind, controlled study of cabozantinib (XL184) vs placebo in subjects with hepatocellular carcinoma who have received prior sorafenib(CELESTIAL) (NCT01908426). ESMO 2014,Spain,September 29th, 2014 .
  56. 古瀬純司:がん化学療法の進歩と腫瘍内科医の役割. 第13回消化器低侵襲治療研究会, 成田, 2014年10月2日.
  57. 古瀬純司:膵・胆道癌化学療法の変遷と今後の展望. 第7回

- Kyushu Panc-Bil Meeting, 福岡, 2014年10月4日.
58. 長島文夫:高齢がんリスク評価と意思決定支援の取組み (がん薬物療法の視点). 第27回日本サイコロコロジー学会総会, 東京, 2014年10月4日.
  59. 古瀬純司:膵癌化学療法の最新情報-多様化の時代に向けて. 第6回四国消化器癌フォーラム, 徳島, 2014年10月10日.
  60. 古瀬純司:がん化学療法と低栄養への対策. 東京医科大学八王子医療センター 第10回 NST 勉強会, 八王子, 2014年10月16日.
  61. 本告成淳, 坪井優, 天野祐二, 税所宏光, 古瀬純司:High volume center から緩和医療士サルベージ化学療法を行うべく紹介され当院で化学療法を行った消化器癌症例の予後の検討. JDDW2014, 神戸, 2014年10月25日.
  62. 古瀬純司:消化器がん化学療法の最近の話題. 第3回がん・緩和ケアフォーラム in 八王子, 八王子, 2014年10月30日.
  63. Furuse J : S-1: A Hope from the east? Innovation in pancreatic cancer treatment. 2014 Joint APA/JPS Anniversary Meeting, USA, November 7th, 2014.
  64. Kasuga A, Ueno H, Ikeda M, Ueno M, Mizuno N, Ioka T, Omuro Y, Nakajima T, Furuse J : Efficacy, safety and pharmacokinetics (PK) of weekly *nab*-paclitaxel (*nab*-P) plus Gemcitabine (G) in Japanese patients (pts) with metastatic pancreatic cancer (MPC): phase I/ II trial. 2014 Joint APA/JPS Anniversary Meeting, USA, November 8th, 2014.
  65. 古瀬純司:膵癌化学療法の変遷と最新情報. 第7回胆がん化学療法研究会, 苫小牧, 2014年11月28日.
  66. 長島文夫:杏林大学腫瘍内科における抗悪性腫瘍薬の開発試験登録患者に占める高齢者の特徴. 第35回日本臨床薬理学会学術総会, 松山, 2014年12月4日.
  67. 古瀬純司:肝・胆道・膵がんの薬物療法. 平成26年度 がん専門薬剤師集中教育講座, 福岡, 2014年12月6日.
  68. 古瀬純司:膵癌化学療法の変遷と最新情報. THE 5th BILIARY TRACT & PANCREATIC CANCER CONFERENCE, 岡山, 2014年12月6日.
  69. 古瀬純司:消化器がんの患者さんから学ぶ. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン. 連携4大学合同市民公開シンポジウム, 東京, 2014年12月20日.
  70. 古瀬純司:膵がん治療の進歩-新しい時代への期待. 第5回クリスマス・スペシャル勉強会, 東京, 2014年12月23日.
  71. Aiba K, Tamura K, Saeki T, Baba H, Kitagawa Y, Yoshida K, Furuse J, Kakeji Y, Wakabayashi G : Patterns and severity of chemotherapy - induced nausea (CIN) in patients with gastrointestinal cancers associated with highly to moderately emetogenic chemotherapy (HEC and MEC). 2015 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 15th-17th, 2015.
  72. Abou-Alfa GK, Cheng AL, Meyer T, El-Khoueiry AB, Ikeda M, Chun HG, Furuse J, Knox JJ, Okusaka T, Ping J, Borgman-Hagey AE, Kelley RK : Phase 3 randomized, double-blind, controlled study of cabozantinib (XL184) versus placebo in subjects with hepatocellular carcinoma who have received prior sorafenib (CELESTIAL ; NCT01908426). 2015 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 15th-17th, 2015.
  73. Shitara K, Fujii S, Denda T, Kajiwara T, Yuki S, Nakajima TE, Takashima A, Kawasaki K, Tamura T, Esaki T, Naruge D, Ebi H, Kudo T, Taniguchi H, Akagi K, Yamanaka T, Ochiai A, Doi T, Ohtsu A, Yoshino T : The nationwide genomic screening project for gastrointestinal cancer in Japan (GI-SCREEN): Simultaneous identification of KRAS, NRAS, BRAF, and PIK3CA mutation in advanced colorectal cancer (aCRC) (GI-SCREEN 2013-01). 2015 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 15th-17th, 2015.
  74. 長島文夫:高齢者の化学療法:高齢者研究の考え方 本邦の現状と課題. 第3回広島がん薬物療法研究会, 広島, 2015年2月20日.
  75. 古瀬純司:肝胆膵がんの最新の薬物療法. 第10回日本癌治療学会アップデート教育コース, 東京, 2015年3月7日.
  76. Furuse J, Masafumi Ikeda M, Kondo S, Kudo M, Nadano S, Osaki Y, Kumada T, Ohkawa K, Mizokami M : Multicenter observational study of reactivation of hepatitis B virus caused by chemotherapy for solid tumors. 24<sup>th</sup> Asian Pacific association for the study of the liver, Turkey, March 13th, 2015.
- ### 論文 和文
1. 成毛大輔, 岡野尚弘, 春日章良, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司:当院における進行肝細胞癌に対するソラフェニブ療法中止後の動向. 後治療としての治験について. The Liver Cancer Journal 6(2):134-135, 2014.
  2. 古瀬純司:膵がん退治の始まり. 臨床試験の現状. 内科. 肝胆膵 68(6):911-919, 2014.
  3. 春日章良, 岡野尚弘, 成毛大輔, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司:膵 NET : ガイドラインの解釈と診療の実際. 膵 NEC G3の化学療法. 胆と膵 35(7):651-655, 2014.
  4. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 長島文夫:悪性胆道狭窄に対する診断・治療の進歩. 胆道癌に対する化学療法・免疫療法. 臨床消化器内科 29(9): 1255-1262, 2014.
  5. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 長島文夫:消化器がん化学療法の最先端. 膵癌. 医学と薬学 71(10):1799-1808, 2014.
  6. 古瀬純司, 成毛大輔, 岡野尚弘, 春日章良, 北村浩, 長島文夫:肝癌のトピックス. 肝細胞癌の分子標的治療. 病理と臨床 32(12):1326-1330, 2014.
  7. 古瀬純司:肝胆膵診療の New Horizon. 膵疾患:膵がん. 切除不能膵癌に対する化学療法-1st line, 2nd line およびそれ以降の選択方法. 肝胆膵 69(6):1185-1191, 2014.
  8. 長島文夫, 濱口哲弥<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>国立がん研究センター消化器内科):大腸癌治療-課題克服のための新たな戦略. 高齢者大腸癌の臨床的問題と化学療法の実践. 消化器の臨床 17(4):350-354, 2014.
  9. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 田原純子, 春日章良, 北村浩, 長島文夫:消化器診療-30年と今後の展望. 化学療法領域の変遷と展望. 肝胆膵. 臨床消化器内科 30(1):91-100, 2014.
  10. 長島文夫, 濱口哲弥<sup>1</sup>, 古瀬純司 ( <sup>1</sup>国立がん研究センター): JCOG 高齢者研究小委員会の活動と高齢大腸癌を対象とした臨床研究について. 癌と化学療法42(1):16-20, 2015.
  11. 古瀬純司:胆膵. 膵癌治療の新たな展開. FOLFIRINOXへの期待と課題. Annual Review 消化器 2015:189-195, 2015.
  12. 成毛大輔, 古瀬純司:最新肝癌学-基礎と臨床の最新研究動向-. 肝癌の治療. 化学療法・分子標的治療. 現在開発中の分子標的薬. 日本臨床73suppl1最新肝癌学:743-747, 2015.
  13. 古瀬純司:膵・胆道癌診療の新時代へ-診断と治療の新たな展開-. 胆道癌に血管新生阻害薬は有効か. 臨床試験からの可能性. 胆と膵36(2):163-166, 2015.

14. 横山政明<sup>1</sup>, 大西宏明<sup>2</sup>, 大塚弘毅<sup>2</sup>, 渡邊卓<sup>2</sup>, 大倉康男<sup>3</sup>, 古瀬純司, 杉山政則<sup>1</sup> (杏林大学医学部消化器・一般外科, <sup>2</sup>杏林大学医学部臨床検査医学, <sup>3</sup>杏林大学医学部病理学). 膵・胆道癌診療の新時代へ-診断と治療の新たな展開-. 胆道癌における増殖シグナル伝達因子の発現と遺伝子変異の多様性. KRAS 変異, HER2過剰発現の胆道癌バイオマーカーとしての可能性. 胆と膵36(2):143-151, 2015.
15. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 田原純子, 春日章良, 北村浩, 長島文夫: 癌治療この10年(2004~2014年), そして未来への展望. 内科領域(癌薬物療法). 膵癌化学療法. 癌の臨床60(6):587-595, 2015.
16. 成毛大輔, 古瀬純司: 胆道癌 GEM+CDDP 療法. 抗がん剤の副作用と支持療法. 日本臨床 73(suppl 2):592-596, 2015.
17. 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: 胆嚢癌化学療法の現状と展望. 膵癌・胆道癌. 日本臨床73(suppl 3):585-589, 2015.
18. 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能膵癌の全身化学療法. 膵癌・胆道癌. 日本臨床73(suppl 3):148-151, 2015.
19. 長島文夫, 北村浩, 春日章良, 成毛大輔, 岡野尚弘, 宮島謙介, 古瀬純司: がん薬物療法の副作用とその対策(補助・支持療法を含む). 高齢がん患者のケア. 腫瘍内科 15(3):268-272, 2015.
20. 長島文夫, 古瀬純司: 老年腫瘍学の現状と地域医療. 杏林医学会雑誌46(1):83-86, 2015.
21. 長島文夫: がん薬物療法の進歩と外来在宅がん診療について. 杏林医学会雑誌 46(1):27-28, 2015.
2. Yamaguchi Y<sup>1</sup>, Yamaue H, Okusaka T, Okuno K, Suzuki H, Fujioka T, Otsu A, Ohashi Y, Shimazawa R, Nishio K, Furuse J, Minami H, Tsunoda T, Hayashi Y, Nakamura Y (Kawasaki Medical School): Committee of Guidance for Peptide Vaccines for the Treatment of Cancer, The Japanese Society for Biological Therapy. Guidance for peptide vaccines for the treatment of cancer. Cancer Sci 105(7):924-931, 2014.
7. Kishiki T<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>2</sup>, Masaki T<sup>1</sup>, Ohtsuka K<sup>2</sup>, Ohkura Y<sup>3</sup>, Furuse J, Sugiyama M<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>2</sup> (Department of Surgery, Kyorin University, <sup>2</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University): Impact of genetic profiles on the efficacy of anti-EGFR antibodies in metastatic colorectal cancer with KRAS mutation. Oncol Rep 32(1):57-64, 2014.
8. Yamaguchi K<sup>1</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Shimizu K<sup>3</sup>, Furuse J, Ito Y<sup>4</sup>, Hanada K<sup>5</sup>, Shimosegawa T<sup>6</sup> (University of Occupational and Environment Health, <sup>2</sup>National Cancer Center, <sup>3</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>4</sup>National Cancer Center, <sup>5</sup>JA Onomichi General Hospital, <sup>6</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine): Committee for revision of clinical guidelines for pancreatic cancer of Japan Pancreas Society. EBM-based Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer (2013) Issued by the Japan Pancreas Society: A Synopsis. Jpn J Clin Oncol 44(10):883-888, 2014.
9. Okusaka T<sup>1</sup>, Ikeda M, Fukutomi A, Ioka T, Furuse J, Ohkawa S, Isayama H, Boku N (National Cancer Center Hospital): Phase II study of FOLFIRINOX for chemotherapy-naïve Japanese patients with metastatic pancreatic cancer. Cancer Sci 105(10):1321-1326, 2014.
10. Yamaguchi T<sup>1</sup>, Machida N, Morizane C, Kasuga A, Takahashi H, Sudo K, Nishina T, Tobimatsu K, Ishido K, Furuse J, Boku N, Okusaka T (National Cancer Center Hospital): Multicenter retrospective analysis of systemic chemotherapy for advanced neuroendocrine carcinoma of the digestive system. Cancer Sci 105(9):1176-1181, 2014.
11. Takahashi H<sup>1</sup>, Ojima H<sup>2</sup>, Shimizu H<sup>3</sup>, Furuse J, Furukawa H<sup>4</sup>, Shibata T<sup>5</sup> (Asahikawa Medical University, <sup>2</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>3</sup>National Cancer Center Research Institute, <sup>4</sup>Asahikawa Medical University, <sup>5</sup>National Cancer Center Research Institute): Axitinib (AG-013736), an oral specific VEGFR TKI, shows potential therapeutic utility against cholangiocarcinoma. Jpn J Clin Oncol 44(6):570-578, 2014.
12. Miyazaki M<sup>1</sup>, Ohtsuka M, Miyakawa S, Nagino M, Yamamoto M, Kokudo N, Sano K, Endo I, Unno M, Chijiwa K, Horiguchi A, Kinoshita H, Oka M, Kubota K, Sugiyama M, Uemoto S, Shimada M, Suzuki Y, Inui K, Tazuma S, Furuse J, Yanagisawa A, Nord De France, <sup>5</sup>University of Ulsan College of Medicine, <sup>6</sup>Sungkyunkwan University School of Medicine, <sup>7</sup>University of Hong Kong Queen Mary Hospital, <sup>8</sup>Hospital Saint Andre, <sup>9</sup>Medical School Hannover, <sup>10</sup>Kaohshing Chang Gung Memorial Hospital, <sup>11</sup>CHRU de Tours, <sup>12</sup>Medical University of Vienna, <sup>13</sup>Humanitas Cancer Center, <sup>14</sup>G Rummo Hospital, <sup>15</sup>Novartis Phama, <sup>16</sup>Novartis : Pharmaceuticals, <sup>17</sup>National Institute of Cancer Research): Effect of everolimus on survival in advanced hepatocellular carcinoma after failure of sorafenib: the EVOLVE-1 randomized clinical trial. JAMA 312(1):57-67, 2014.

#### 英文

- Inada-Inoue M<sup>1</sup>, Ando Y, Kawada K, Mitsuma A, Sawaki M, Yokoyama T, Sunakawa Y, Ishida H, Araki K, Yamashita K, Mizuno K, Nagashima F, Takekura A, Nagamatsu K, Sasaki Y (Nagoya University Hospital): Phase I study of pazopanib alone or combined with lapatinib in Japanese patients with solid tumors. Cancer Chemother Pharmacol 73(4):673-683, 2014
- Matsuyama M<sup>1</sup>, Ishii H, Furuse J, Ohkawa S, Maguchi H, Mizuno N, Yamaguchi T, Ioka T, Ajiki T, Ikeda M, Hakamada K, Yamamoto M, Yamaue H, Eguchi K, Ichikawa W, Miyazaki M, Ohashi Y, Sasaki Y (Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research): Phase II trial of combination therapy of gemcitabine plus anti-angiogenic vaccination of elpamotide in patients with advanced or recurrent biliary tract cancer. Invest New Drugs, 2014. (Epub).
- Ikeda M<sup>1</sup>, Ohkawa S, Okusaka T, Mitsunaga S, Kobayashi S, Morizane C, Suzuki I, Yamamoto S, Furuse J (National Cancer Center Hospital East) : Japanese phase I study of GC33, a humanized antibody against glypican-3 for advanced hepatocellular carcinoma. Cancer Sci 105(4): 455-462, 2014.
- Kishiki T<sup>1</sup>, Ohnishi H, Masaki T, Ohtsuka K, Ohkura Y, Furuse J, Watanabe T, Sugiyama M (Department of Surgery, Kyorin University School of Medicine) : Overexpression of MET is a new predictive marker for anti-EGFR therapy in metastatic colorectal cancer with wild-type KRAS. Cancer Chemother Pharmacol 73(4):749-757, 2014.
- Zhu AX<sup>1</sup>, Kudo M<sup>2</sup>, Assenat E<sup>3</sup>, Cattani S<sup>4</sup>, Kang YK<sup>5</sup>, Lim HY<sup>6</sup>, Poon RT<sup>7</sup>, Blanc JF<sup>8</sup>, Vogel A<sup>9</sup>, Chen CL<sup>10</sup>, Dorval E<sup>11</sup>, Peck - Radosavljevic M<sup>12</sup>, Santoro A<sup>13</sup>, Daniele B<sup>14</sup>, Furuse J, Jappe A<sup>15</sup>, Perraud K<sup>15</sup>, Anak O<sup>15</sup>, Sellami DB<sup>16</sup>, Chen LT<sup>17</sup> (Massachusetts General Hospital Cancer Center, <sup>2</sup>Kinki University School of Medicine, <sup>3</sup>ICM Val d'Aurelle, <sup>4</sup>University

Nakanuma Y, Kijima H, Takada T<sup>(Chiba University)</sup>: Classification of biliary tract cancers established by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery :3(rd) English edition. J Hepatobiliary Pancreat Sci 22(3):181-196, 2015.

13. Takahashi H<sup>1</sup>, Ikeda M, Kumada T, Osaki Y, Kondo S, Kusumoto S, Ohkawa K, Nadano S, Furuse J, Kudo M, Ito K, Yokoyama M, Okusaka T, Shimoyama M, Mizokami M<sup>(National Cancer Center Hospital East)</sup>: Multicenter cooperative case survey of hepatitis B virus reactivation by chemotherapeutic agents. Hepatol Res. doi: 10.1111/hepr.12496, 2015.(Epub).
14. Kasuga A, Okano N, Naruge D, Kitamura H, Takasu A, Nagashima F, Furuse J: Retrospective analysis of fixed dose rate infusion of gemcitabine and S-1 combination therapy (FGS) as salvage chemotherapy in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer: inflammation-based prognostic score predicts survival. Cancer Chemother Pharmacol 75(3):457-464, 2015.

## 著書

1. 古瀬純司編著: やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理. 大阪, 医薬ジャーナル, 2014.
2. 古瀬純司: がん治療について. やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2014. p.10-12.
3. 古瀬純司: 膵・胆道がんの特徴. 治療方針をどう決めるか〜化学療法の役割と位置付け〜. やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2014. p.25-29.
4. 古瀬純司: 膵・胆道がんの標準化学療法の治療方法. 膵がん. 概要. やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2014. p.30-35.
5. 古瀬純司: 膵・胆道がんの標準化学療法の治療方法. 胆道がん. 概要. やさしい膵・胆道がん外来化学療法の自己管理. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2014. p.52-54.
6. 古瀬純司編著: がん薬物療法キードラッグ65. 東京, 中外医薬社, 2014.
7. 古瀬純司: ピリミジン薬. フルオロウラシル. 小腸がん. がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.7.
8. 古瀬純司: プラチナ(白金)製剤. シスプラチン. 肝がん. がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.76-77.
9. 古瀬純司: VEGF などの血管新生阻害薬. ソラフェニブ. 肝がん. がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.303-305.
10. 古瀬純司: 膵がん・胆道がん薬物療法ハンドブック. 奥坂拓志編. 東京, 南江堂, 2014.
11. 古瀬純司: 胆道がん薬物療法の概要と今後の展望. 膵がん・胆道がん薬物療法ハンドブック. 古瀬純司, 奥坂拓志編. 東京, 南江堂, 2014. p.17-20.
12. 岡野尚弘, 古瀬純司: 薬物療法の実践. 膵がん・胆道がん共通のレジメン. Gemcitabine 単独療法. 膵がん・胆道がん薬物療法ハンドブック. 古瀬純司, 奥坂拓志編. 東京, 南江堂, 2014. p.28-32.
13. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編著: 分子標的治療薬マスターガイド. 東京, 中外医薬社, 2014.
14. 野村久祥, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. EGFR. セツキシマブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.58-61.
15. 野村久祥, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. EGFR. パニツムマブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.62-64.
16. 関礼輔, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. KIT(CD117). イマチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.127-131.
17. 関礼輔, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. ベバシズマブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.139-143.
18. 野村久祥, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. ソラフェニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.144-146.
19. 野村久祥, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. スニチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.147-150.
20. 川上英泰, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. アキシチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.167-170.
21. 臼井浩明, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. パゾパニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.171-177.
22. 川上英泰, 古瀬純司: 分子標的と薬剤. VEGF などの血管新生阻害. レゴラフェニブ. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.178-181.
23. 古瀬純司: 臓器別分子標的薬の位置づけ. 消化器がん. 分子標的治療薬マスターガイド. 弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司編. 東京, 中外医薬社, 2014. p.224-231.
24. 岡野尚弘, 古瀬純司: レジメン別プロのコツ. 胆道がん. GEM±CDDP(GC)-腎障害, 間質性肺炎に注意-. 消化器がん化学療法 副作用マネジメント プロのコツ. 小松嘉人編. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.139-143.
25. 岡野尚弘, 古瀬純司: レジメン別プロのコツ. 胆道がん. S-1単剤一下痢に注意し, 場合によっては患者の自己判断で中止も考慮-. 消化器がん化学療法 副作用マネジメント プロのコツ. 小松嘉人編. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.144-148.
26. 古瀬純司: 分子標的薬の開発状況. Hepatology Practice 第5巻 肝臓の診療を極める 基本から最前線まで. 金子周一, 竹原徹郎, 持田智編. 東京, 文光堂, 2014. p.203-205.
27. 岡野尚弘, 長島文夫, 北村浩, 春日章良, 成毛大輔, 高須充子, 古瀬純司: レジメン+症例. 大腸がん. UFT+LV. 消化器がん化学療法レジメンブック2版. 室圭編. 東京, 日本医事新報社, 2014. p.151-153.
28. 岡野尚弘, 長島文夫, 北村浩, 春日章良, 成毛大輔, 高須充子, 古瀬純司: レジメン+症例. 大腸がん. S-1(TS-1)+CPT-11 [IRIS 療法]. 消化器がん化学療法レジメンブック2版. 室圭編. 東京, 日本医事新報社, 2014. p.154-156.
29. 古瀬純司: がんの薬物療法・緩和医療. 胆道癌. 消化器病診療第2版. 一般財団法人日本消化器病学会監修. 消化器病診療第2版編集委員会編. 東京, 医学書院, 2014. p.440-443.

30. 古瀬純司:消化器癌化学療法の実際. わが国における大規模無作為化比較試験. 現在進行中の大規模臨床試験-肝・胆・膵. オンコロジー臨床ガイド 消化器癌化学療法改訂4版. 大村健二編. 東京, 南山堂, 2014. p.163-167.
31. 成毛大輔, 岡野尚弘, 春日章良, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司:抗がん剤・分子標的治療による膵癌治療. 膵癌治療の現状と将来展望. 膵癌治療 up-to-date. 跡見裕監修. 海野倫明, 土田明彦編. 東京, 医学図書出版, 2014. p.37-45.

## 報告書

1. 古瀬純司:切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究. 厚生労働科学研究費委託費(革新的がん医療実用化研究事業)2014年度 委託業務成果報告書.
2. 長島文夫:高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究. 厚生労働科学研究費委託費(革新的がん医療実用化研究事業)2014年度 委託業務成果報告書.

## その他

1. 長島文夫:医療. 老いとともに 6月葉. 朝日新聞, 2014年6月3日.
2. 古瀬純司:【専門】肝がん 各論. e-learning. 日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター用講義.

## 高齢医学教室

## 講演

1. 神崎恒一:生活習慣病と認知症. 第3回糖尿病合併症研究会, 名古屋, 2014年4月10日.
2. 長谷川浩:認知症をみるということ. 青木病院講演会, 調布, 2014年4月11日.
3. 神崎恒一:三鷹市武蔵野市における認知症連携の取り組みについて. 第10回練馬区医師会認知研究会, 東京, 2014年5月8日.
4. 長谷川浩:認知症連携について:杏林大学病院もの忘れセンターでのこころみ. 第2回岡山西認知症連携懇話会, 倉敷, 2014年5月15日.
5. 神崎恒一:三鷹市, 武蔵野市の認知症連携-これまでと今後-. 府中市認知症セミナー, 府中, 2014年5月23日.
6. 神崎恒一:認知症に伴う運動器の障害. 山武郡市薬剤師会, 城西国際大学薬学部保険薬局部会, 東金, 2014年5月30日.
7. 神崎恒一:フレイル研究の最前線-診断から介入への展望-. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
8. 町田綾子, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:認知症の心理・行動症状の認知症疾患別検討. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
9. 小原聡将, 田中政道, 佐藤道子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:脳血管性病変を有する認知機能低下患者の総合機能評価における特徴. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
10. 小柴ひとみ, 永井久美子, 田中政道, 松井敏史, 神崎恒一:もの忘れ外来通院高齢者における転倒歴と血中カルニチン値との関連. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
11. 田中政道, 永井久美子, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一:高齢者における転倒歴と身体機能の低下との関連について. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
12. 宮澤太機, 柴田茂貴, 永井久美子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一:高齢者における認知機能低下と脳血流自己調整機能の関連性. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
13. 永井久美子, 宮澤太機, 柴田茂貴, 小林義雄, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一:経頭蓋超音波ドプラー法による脳血流動態評価と大脳白質病変との関連. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
14. 宮澤太機, 柴田茂貴, 永井久美子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一:経頭蓋超音波ドプラー法とSPECTを用いた脳血流量測定と比較. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
15. 宮城島慶, 輪千督高, 杉山小百合, 小林義雄, 須藤紀子, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:医療・介護関連肺炎入院患者の予後規定因子について. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
16. 杉山小百合, 山田如子, 小柴ひとみ, 小林義雄, 長谷川浩, 松井敏史, 鳥羽研二, 神崎恒一:もの忘れ外来診療におけるCGA7の妥当性の検討. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
17. 山田如子, 松井敏史, 竹下実希, 佐藤道子, 守屋佑貴子, 輪千安希子, 小柴ひとみ, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一:もの忘れ外来患者の外来通院継続(健在率)の関わる因子の研究-historical cohort study. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
18. 名古屋恵美子, 松井敏史, 竹下実希, 井上慎一郎, 長谷川浩, 神崎恒一:高齢医学病棟入院患者におけるソーシャルワークの実際. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
19. 永井久美子, 小柴ひとみ, 小林義雄, 山田如子, 須藤紀子, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:老年症候群の適切な把握のためのもの忘れセンター予診票の作成と妥当性・信頼性の検証. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
20. 里村元, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:もの忘れ外来患者の周辺症状と入院後の認知機能低下の関与. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
21. 井上慎一郎, 長谷川浩, 船曳茜, 小原聡将, 松井敏史, 神崎恒一:高齢者偽痛風の臨床的特徴の検討. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
22. 輪千督高, 長谷川浩, 輪千安希子, 宮城島慶, 松井敏史, 神崎恒一:当科における尿路感染症の背景についての検討. 第56回日本老年医学会学術集会, 福岡, 2014年6月12-14日.
23. 永井久美子, 柴田茂貴, 小柴ひとみ, 宮澤太機, 神崎恒一, 鳥羽研二:認知機能障害に対する動脈硬化の関与-認知症病型別解析-. 第46回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2014年7月10-11日.
24. Shibata S, Nagai K, Miyazawa T, Koshiba H, Levine B, Kozaki K: Effects of advanced glycation end-product inhibition with alagebrium and exercise training on age-related arterial stiffening in healthy elderly humans. 第46回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2014年7月10-11日.
25. 宮澤太機, 柴田茂貴, 永井久美子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一:認知機能が低下した高齢者における脈波伝播速度と中大脳動脈血流速度の関連性. 第46回日本動脈硬化学会学術集会, 東京, 2014年7月10-11日.
26. 神崎恒一:認知症を正しく理解しよう. フォーラム認知症 in 調布, 調布, 2014年6月17日.
27. 神崎恒一:認知症診療のポイントと連携の必要性. 第2回あきる野ADカンファレンス, あきる野, 2014年6月18日.

28. 松井敏史:物忘れセンターにおける服薬アンケートの中間報告. 認知症治療フォーラム in 多摩2014, 武蔵野, 2014年6月26日.
29. 神崎恒一:認知症の症状・診断と治療について. 秋川流域第13回市民健康フォーラム, あきる野, 2014年6月28日.
30. 神崎恒一:認知症に伴う運動器の障害. 第26回日本運動器科学会, 浜松, 2014年7月5日.
31. 神崎恒一:認知症医療連携の現状と将来像について. メマリー錠3周年記念講演会, 武蔵野, 2014年7月7日.
32. Kozaki K, Matsui T, Matsushita S, Higuchi S, Toba K: Involvement of limbic-diencephalic Circuits in Alcoholics with Cognitive Decline—an MRI Study by Voxel-based Morphometric Analysis. Alzheimer's Association International Conference, Denmark, July 12th-17th, 2014.
33. 長谷川浩:「地域で認知症をみる」杏林大学・三鷹ネットワーク大学公開講座, 三鷹, 2014年7月12日.
34. 神崎恒一:生活習慣病と認知症. 第70回青梅糖尿病内分泌研究会, 青梅, 2014年7月23日.
35. 松井敏史:内臓脂肪と病気の防ぎ方. 平成26年度 NTT データ公開講座, 東京, 2014年7月24日.
36. 長谷川浩:医療・介護の地域連携ともの忘れ相談シートの活用／認知症連携について. 平成26年度府中市地域包括相談員研修会, 府中, 2014年7月29日.
37. 長谷川浩: 認知症の診断・治療／認知症疾患医療センターの取り組み. 東京都医療社会事業協会研修会, 三鷹, 2014年7月30日.
38. 神崎恒一:高齢者の機能とその評価. 2014年老年医学サマーセミナー in 軽井沢, 北佐久, 2014年7月31日.
39. 神崎恒一:認知症. 市民公開講座「ストップ・ザ・ロコモ全国キャラバン in 大阪」, 大阪, 2014年8月9日.
40. 神崎恒一:三鷹市・武蔵野市における認知症地域連携の現状. Expert of Dementia, 東京, 2014年9月2日.
41. 長谷川浩:地域でみる認知症. 精神科専門薬剤師養成研究会, 東京, 2014年9月6日.
42. 神崎恒一:生活習慣病と認知症. 稲城市・多摩市・川崎市多摩区医師会共催学術講演会, 稲城, 2014年9月10日.
43. 松井敏史:認知症の最新情報-理解と対応-. 平成26年度介護保険施設等看護研修 公益社団法人神奈川県看護協会, 横浜, 2014年9月11日.
44. 小池裕美子, 田中政道, 長田正史, 竹下実希, 長谷川浩, 松井敏史, 神崎恒一:誤嚥性肺炎の治療後に間質性肺炎を発症した高齢女性の一例. 第60回日本老年医学会関東甲信越地方会, 三鷹, 2014年9月20日.
45. 新井さおり, 竹下実希, 井上慎一郎, 松井敏史, 長谷川浩, 神崎恒一, 佐藤範英, 高山信之, 大西宏明:急性胃腸炎を契機に溶血性貧血を来し自然軽快した認知症高齢者女性の一例. 第60回日本老年医学会関東甲信越地方会, 三鷹, 2014年9月20日.
46. 神崎恒一:認知症の薬物療法. 第1回老人保健施設管理医師研修会, 東京, 2014年9月27日.
47. 神崎恒一:老年医学の立場から見た認知症治療. 第4回関西脳神経外科認知症研究会, 大阪, 2014年9月27日.
48. 神崎恒一:認知症にならないために. 三鷹市老人クラブ連合会健康長寿講演会, 三鷹, 2014年9月30日.
49. 大荷満生:Body compositional disorder(BCD)と栄養. 第36回日本臨床栄養学会総会, 東京, 2014年10月4日.
50. 保田直美, 望月豊, 寺島直樹, 中島久美子, 大荷満生, 秦葭哉:慢性心不全における身体組成の変化-浮腫による水分量の増加と筋肉喪失量を検討した一例. 第36回日本臨床栄養学会総会, 東京, 2014年10月4日.
51. 松井敏史:飲酒と脳神経疾患. 第4回飲酒と健康に関する講演会 公益社団法人アルコール健康医学協会, 東京, 2014年10月9日.
52. 大荷満生:健康管理概論・介護予防概論. 平成26年度健康運動指導士養成講習会, 公益社団法人健康・体力づくり事業団主催, 東京, 2014年10月11日.
53. 神崎恒一:認知症を正しく理解するために. 地域医療セミナー, 三鷹, 2014年10月12日.
54. 神崎恒一:認知症を正しく理解するために. 地域医療セミナー, 調布, 2014年10月18日.
55. 神崎恒一:認知症と骨折・転倒. 第1回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2014年10月19日.
56. 田中政道, 松井敏史, 小柴ひとみ, 永井久美子, 長谷川浩, 神崎恒一:もの忘れ外来通院患者におけるサルコペニアの実態調査と臨床測定値に関する検討. 第1回日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2014年10月19日.
57. 松井敏史:生活習慣病の予防・改善について. 平成26年度宇宙航空研究開発機構公開講座, 調布, 2014年10月23日.
58. Kozaki K:Efforts to improve dementia care from primary care setting. 32nd World Congress of Internal Medicine, Korea, October 26th, 2014.
59. Hasegawa H. Short lecture for surgeons: To know the characteristics of the elderly patients. The 31st Congress of the Pan-Pacific Surgical Association. Taiwan, October 31st,-November 2nd, 2014.
60. 長谷川浩:認知症と排尿障害について. 第22回三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会, 武蔵野, 2014年11月1日.
61. 神崎恒一:認知症にやさしいコミュニティとITの活用. 認知症サミット日本後継イベント, 東京, 2014年11月5-6日.
62. 神崎恒一:「認知症患者の身体的合併症」転倒・骨折. 第33回日本認知症学会学術集会, 横浜, 2014年11月29日-12月1日.
63. 小原聡将, 長谷川浩, 田中政道, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 小原史絵, 山田如子, 松井敏史, 神崎恒一:脳血管性病変を有する軽度認知機能障害と脳血管性認知症の総合機能評価における特徴. 第33回日本認知症学会学術集会, 横浜, 2014年11月29日-12月1日.
64. 中居龍平, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一:認知症患者の単純・連続繰り返し動作におけるfNIRSによる血流評価と転倒傾向. 第33回日本認知症学会学術集会, 横浜, 2014年11月29日-12月1日.
65. 大荷満生:食事脂肪・脂肪酸組成と炎症プロセスによるメタボリック症候群の制御. 第3回残存リスクカンファレンス, 東京, 2015年1月15日.
66. 神崎恒一:認知症を正しく理解するために. 地域医療セミナー, 三鷹, 2015年1月18日.
67. 長谷川浩:認知症の理解と対応. 小金井市認知症講演会, 小金井, 2015年1月27日.
68. 神崎恒一:病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク今地区に関する研究事業. 平成26年度長寿科学研究・認知症対策総合研究事業研究成果発表会, 東京, 2015年1月30日.
69. 長谷川浩:みんなで支える認知症. ベネッセスタイルケア講演会, 東京, 2015年2月6日.
70. 神崎恒一:認知症を正しく理解するために. 地域医療セミナー, 調布, 2015年2月11日.
71. 神崎恒一:認知症患者の転倒・骨折. 高齢者 Total Care

Support セミナー, 新潟, 2015年2月12日.

72. 大荷満生:健康管理概論・介護予防概論. 平成27年度健康運動指導士養成講習会・公益社団法人健康・体力づくり事業団主催, 東京, 2015年2月12日.
73. 神崎恒一:認知症高齢者の歩行障害と転倒. 第4回ADL懇話会, 燕, 2015年2月18日.
74. 大荷満生:我が国の介護予防施策の現状と課題. 第11回上級介護予防運動スペシャリスト養成講習会, 公益財団法人日本スポーツクラブ(JSCA)主催, 東京, 2015年2月21日.
75. 神崎恒一:サルコペニア・フレイルとは?. 第14回生活習慣病フォーラム, 郡山, 2015年2月26日.
76. 大荷満生:動脈硬化の危険因子としての高トリグリセライド血症のように管理し治療すべきか. 第二回 Primary Care Conference-生活習慣病を考える, 東京, 2015年2月26日.
77. 神崎恒一:認知症に伴う運動器の障害. 第95回中部地区老年医学談話会, 名古屋, 2015年2月28日.
78. 神崎恒一:調布で認知症をみるために. 認知症カンファレンス in 調布, 調布, 2015年3月5日.
79. 神崎恒一:加齢に伴う心身の機能の低下(認知症, サルコペニア, フレイル)の考え方とその対処. 東大和市医師会学術講演会, 東大和, 2015年3月6日.
80. 神崎恒一:認知症診療における地域連携と診断/治療のポイント. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2015年3月17日.
81. 三ツ間小百合, 輪千督高, 長田正史, 新井さおり, 竹下実希, 井上慎一郎, 松井敏史, 長谷川浩, 神崎恒一:失行と意識障害で発見された頭蓋内リンパ腫の2例. 第61回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年3月21日.
82. 井上慎一郎, 竹下実希, 船曳茜, 高附里江, 三ツ間小百合, 輪千督高, 小原聡将, 松井敏史, 長谷川浩, 神崎恒一:脾動脈-左腎静脈シャントによる高アンモニア血症に対しB-RTOを施行した症例. 第61回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年3月21日.

## 論文

1. 松井敏史, 横山顕<sup>1</sup>, 松下幸生<sup>1</sup>, 神崎恒一, 樋口進<sup>1</sup>(<sup>1</sup>国立病院機構久里浜医療センター):特集. 生活習慣病と認知機能アルコール. 日本臨牀72(4):749-756, 2014.
2. 長谷川浩, 神崎恒一:病診連携. 月刊糖尿病 6(3):68-72, 2014.
3. 神崎恒一, 松井敏史:高齢アルコール依存症者の断酒による骨代謝マーカーの変動. 日本骨粗鬆症学会雑誌22(2):167(369)-168(370),2014.
4. 松井敏史, 竹下実希, 井上慎一郎, 里村元, 神崎恒一:介護施設における薬物療法の優先順位をどのように考えたらよいでしょうか. Geriatric Medicine 52(8):947-953, 2014.
5. 松井敏史, 神崎恒一, 松下幸生, 樋口進:高齢者における飲酒コントロールと認知症予防. 認知神経科学 16(1):9-17,2014.
6. 神崎恒一:サルコペニアの定義と診断. 整形・災害外科57:1389-1396, 2014.
7. 長谷川浩:生活習慣病対策から認知症予防を考える・認知症診療に対するチーム医療 病診連携. 月刊糖尿病 6:68-72,2014.
8. 長谷川浩:ICU・CCUにおける循環管理. ICU・CCU患者における高齢者のもつ問題点を把握する. HeartView18:1242-1247,2014.
9. 長谷川浩:精神心理状態からみたフレイル. MEDICAMENT NEWS2180:9-11,2014.
10. 長田正史, 長谷川浩, 井上慎一郎, 守屋佑貴子, 輪千督高,

須藤紀子, 神崎恒一:急激に悪化した経過をたどり病理解剖で確定診断された肺動脈弁の孤発性感染性心内膜炎の1例. 日本老年医学会雑誌51(5):453-459, 2014.

11. 小原聡将, 長谷川浩, 船曳茜, 井上慎一郎, 杉山小百合, 宮城島慶, 八反丸美喜子, 里村元, 竹下実希, 松井敏史, 神崎恒一:炎症性疾患に続発した高齢者偽痛風症例の検討. 日本老年医学会雑誌51(6):554-559, 2014.
12. Yokoyama A, Yokoyama T, Mizukami T, Matsui T, Shiraishi K, Kimura M, Matsushita S, Higuchi S, Maruyama K:Alcoholic Ketosis: Prevalence, Determinants, and Ketohepatitis in Japanese Alcoholic Men. Alcohol Alcohol 49:618-625,2014.
13. 横山顕, 松井敏史, 水上健, 松下幸生, 樋口進, 丸山勝也, 横山徹爾:アルコール脱水素酵素1Bの遺伝子多型はアルコール依存症男性の体重と飲酒量との関連の強力な規定因子である. アルコールと医学生物学 32:80-83,2014.
14. 横山顕, 水上健, 松井敏史, 木村充, 松下幸生, 樋口進, 丸山勝也, 横山徹爾:アルコール依存症男性のアルコール脱水素酵素1Bとアルデヒド脱水素酵素2と肝硬変, 硝石灰化, 糖尿病, 高血圧の合併との関連. アルコールと医学生物学 32:102-107,2014.
15. 神崎恒一:地域の中でのもの忘れセンターの役割. 杏林医学雑誌46(1):41-44, 2015.
16. 大野一将<sup>1</sup>, 平昭衣梨<sup>1</sup>, 矢内真人<sup>1</sup>, 永田紘子<sup>1</sup>, 山地統<sup>1</sup>, 浦牛原幸治<sup>1</sup>, 小野圭一<sup>1</sup>, 小島茂<sup>1</sup>, 野内俊彦<sup>1</sup>, 太田博崇<sup>1</sup>, 武田雄一<sup>1</sup>, 川口淳<sup>1</sup>, 白田剛<sup>1</sup>, 長谷川浩, 神崎恒一(<sup>1</sup>公立昭和病院消化器内科):消化管出血を呈した胆囊十二指腸瘻の一例. 多摩消化器シンポジウム誌 29:17-23, 2015.

## 著書

1. 神崎恒一:総論 フレイルと老年症候群. フレイル-超高齢社会における最重要課題と予防戦略. 葛谷雅文, 雨海照祥編集. 東京, 医歯薬出版, 2014. p.23-30.
2. 松井敏史, 横山顕, 水上健, 木村充, 松下幸生, 神崎恒一, 丸山勝也, 樋口進:第2章病理・病態生理 病理・画像所見. アルコール依存症. 齋藤利和編集. 大阪, 最新医学社, 2014. p.30-43.
3. 宮城島慶, 神崎恒一:介護老人保健施設入所者の血圧管理で注意すべきことを教えてください. 荻原俊男監修, 楽木宏実編集. 東京, 先端医学社, 2014. p.198-199.
4. 宮城島慶, 須藤紀子:高齢者の誤嚥性肺炎と栄養. 最新情報をおさえる! 臨床栄養の活用ガイド. 東京, 医学書院, medicina December2014, 2014. p.2386-2390.
5. 大荷満生:栄養障害-疾病の成り立ち, 新スタンダード栄養・食物シリーズ4. 東京, 東京化学同人, 2015. p.93-100.
6. 大荷満生:運動器(骨格筋)系の疾患-疾病の成り立ち. 新スタンダード栄養・食物シリーズ4. 東京, 東京化学同人, 2015. p.252-256.
7. 大荷満生:ライフステージと栄養-高齢期. 応用栄養学・新スタンダード栄養・食物シリーズ10. 東京, 東京化学同人, 2015. p.139-152.

## 特許等知的財産関係, 報告書

1. 神崎恒一:大脳皮質下病変に関連する認知障害および機能障害とアミノ酸トランスポーターの関与. 科学研究費補助金(基盤研究(C))2014年度 実績報告書.
2. 神崎恒一:病・診・介護の連携による認知症ケアネットワーク構築に関する研究事業. 厚生労働科学研究費補助金(認知症対策総合研究事業)2014年度 総括研究報告書. 2012-2014年度 総合研究報告書.

3. 神崎恒一:被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)2014年度 分担研究報告書.
4. 神崎恒一:高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する教育システムの構築に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)2014年度 分担研究報告書.
5. 神崎恒一:認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括的ケア研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症対策総合研究事業)2014年度 分担研究報告書.
6. 神崎恒一:加齢による運動器への影響に関する研究—サルコペニアに関する包括的検討—. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)2014年度 分担研究報告書.
7. 神崎恒一:日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究. 長寿医療研究開発費 2014年度 分担研究報告書.
8. 神崎恒一:フレイルの進行に関わる要因に関する研究. 長寿医療研究開発費 2014年度 分担研究報告書.
9. 松井敏史:高齢者の薬物治療の安全性に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)2014年度 分担研究報告書.
10. 松井敏史:アルコール依存による認知症の責任病変の同一画像解析と ALDH2遺伝子多型の関与. 科学研究費補助金(基盤研究(C))2014年度 実績報告書.
11. 長谷川浩:高齢者の認知機能低下に対する, 心機能の向上を介した新規治療概念の構築(副題:PDEⅢ阻害薬であるプレタールのもつ心拍数増加と強心作用に着目した, 高齢者の認知機能低下に対する新規予防法・治療法の開発). 長寿医療研究開発費 2014年度 分担研究報告書. 科学研究費補助金(基盤研究(C))2014年度 実績報告書.

#### その他

1. 神崎恒一:フォーラム認知症 in 調布「認知症と転倒・骨折の危険な関係」, NHK テレビ E テレ出演, 2014年7月12日.
2. 松井敏史:「知れば防げる認知症7大リスク」, 週刊朝日2014年8月22日号.
3. 神崎恒一:第60回日本老年医学会関東甲信越地方会主催, 三鷹, 2014年9月20日.
4. 長谷川浩:認知症について. 看護師認知症対応力向上研修, 三鷹, 2014年10月4日.
5. 長谷川浩:地域で認知症をみるには. 越谷市認知症ネットワーク懇話会, 越谷, 2014年10月8日.
6. 長谷川浩:認知症高齢者を地域で支えるには. 介護支援専門員調布市連絡協議会:平成26年度研修会, 調布, 2014年10月16日.
7. 長谷川浩:「増える高齢者の救急搬送」, 産経新聞2015年2月3日.
8. 長谷川浩:認知症について～その病状と治療～. 平成26年度調布市認知症サポーターフォローアップ講座, 調布, 2015年2月9日.
9. 長谷川浩:高齢者虐待について. 認知症高齢者虐待防止勉強会, 三鷹, 2015年2月13日.
10. 長谷川浩:認知症多職種協働とは. 武蔵野市全市地域ケア会議, 武蔵野, 2015年2月26日.
11. 長谷川浩:なぜ多職種協働が必要か. 武蔵野市認知症 DASC 研修, 武蔵野, 2015年3月18日.

#### 講演

1. 渡邊衡一郎:ベンゾジアゼピン系抗不安薬の使い方再考. 第14回多摩精神科医学会学術講演会, 東京, 2014年4月11日.
2. 渡邊衡一郎:当事者との新しい双方向性の治療方針決定法 Shared Decision Making (SDM) の精神科臨床における実現可能性. 第15回奈良精神科薬物療法研究会, 奈良, 2014年4月17日.
3. 渡邊衡一郎:さまざまなタイプのうつ病の鑑別及び適切な対応. 第13回京浜産業精神保健研究会学術講演会, 東京, 2014年4月18日.
4. 田中伸一郎:精神病理学入門. 第1回精神科臨床研究会アプリコット, 東京, 2014年5月15日.
5. 森千夏:アスペルガー障害と統合失調症を疑われた事例. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第20回記念大会ワークショップ, 東京, 2014年5月16日.
6. 田中伸一郎:うつ病(DSM)から抽出された「統合失調症らしさ」について. 第18回統合失調症臨床研究会, 名古屋, 2014年5月24日.
7. 渡邊衡一郎:企業のメンタルヘルス—メンタルヘルス不調の予防・対応をめぐる最近の動向—. 第3回公益財団法人精神分析武田こころの健康財団シンポジウム, 東京, 2014年6月10日.
8. 渡邊衡一郎:老年期精神障害と非定型抗精神病薬との関係—リスクとベネフィットのバランスを考慮して—. 第29回日本老年精神医学会, 東京, 2014年6月13日.
9. Kito S:Transcranial magnetic stimulation (TMS) in the treatment of depression:TMS-SPECT/EEG studies.Korean Psychosomatic Society Meeting, South Korea, June 20th, 2014.
10. Nozaki K, Kikuchi T, Watanabe K: Patient's preference for treatment of bipolar disorder: An internet survey. 29th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology, Canada, June 24th, 2014.
11. Mizuno Y, Suzuki T, Hofer A, Fleischhacker WW, Uchida T, Yoshida K, Sakurai H, Watanabe K, Mimura M, Uchida H: Clinical and Biological Correlates of Resilience in Patients with Schizophrenia: A Cross - sectional Study. 29th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology, Canada, June 24th, 2014.
12. 青木裕見, 渡邊衡一郎, 古野毅彦, 小林靖, 千葉裕美, 垣田康秀, 井上真郷, 堀正士:Shared Decision Making7日間プログラムの有効性の検討:ランダム化比較試験 第一報. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2014年6月26日.
13. 鬼頭伸輔:国内外におけるrTMSの現況, 安全性に関する留意点. Clinical Application and Safety of rTMS in Japan and Overseas. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2014年6月26-28日.
14. 菊地俊暁:薬物療法を受ける患者の気持ち. 第110回日本精神神経学会総会, 横浜, 2014年6月26-28日.
15. 渡邊衡一郎:リハビリ達成を支援する薬物療法. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2014年6月27日.
16. 田中伸一郎, 森 千夏, 戸部有希子:統合失調症様の特徴をもつうつ病の多面的診断の方法について. 第110回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2014年6月28日.
17. 田中伸一郎:統合失調症様うつ病 (schizophrenia-like depression)の臨床特徴について. 第2回杏林大学精神神経科臨床研究報告会, 三鷹, 2014年7月12日.

18. 田中伸一郎: 注意欠如・多動症 (ADHD) の事例検討. 第1回発達障害臨床研究会アプリッコ, 三鷹, 2014年7月16日.
19. 渡邊衡一郎: 改めて考える気分安定薬の副作用及びそのマネージメント. 第11回日本うつ病学会総会, 広島, 2014年7月18日.
20. 鬼頭伸輔: うつ病の rTMS「特殊形状コイルを使用した deep TMSによるうつ病の治療」. 第11回日本うつ病学会総会, 広島, 2014年7月18-19日.
21. 田中伸一郎, 戸部有希子, 森千夏: 大うつ病に対する多面的評価を用いた臨床診断について(1)—統合失調症様うつ病の場合—. 第11回日本うつ病学会総会, 広島, 2014年7月19日.
22. 田中伸一郎, 戸部有希子: 大うつ病に対する多面的評価を用いた臨床診断について(2)—自閉症スペクトラム関連性うつ病の場合—. 第11回日本うつ病学会総会, 広島, 2014年7月18日.
23. 田中伸一郎, 戸部有希子: 大うつ病に対する多面的評価を用いた臨床診断について(3)—精神病性うつ病の場合—. 第11回日本うつ病学会総会, 広島, 2014年7月19日.
24. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療: How to stimulate. 第5回 Stimulation Therapy 研究会, 東京, 2014年8月2-3日.
25. Kito S, Pascual - Marqui RD, Hasegawa T, Koga Y: Transcranial magnetic stimulation modulates resting EEG functional connectivity in depression: a TMS-EEG study. XVI World Congress of Psychiatry, Spain, September 14th-18th, 2014.
26. 鬼頭伸輔: 反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) によるうつ病の治療と機能的結合性の変化: rTMS-EEG 研究. 第36回日本生物学的精神医学会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.
27. 長谷川崇, 中島亨: REM 睡眠時行動障害に対し催眠暗示が有効であった可能性がある1例. 第30回日本催眠学会学術大会, 東京, 2014年10月4日.
28. 森千夏: 催眠感受性に関わるパーソナリティ特性について—リラクゼーションの効果に注目して—. 第30回日本催眠学会学術大会, 東京, 2014年10月4日.
29. 岡一太郎, 田中伸一郎, 日野原圭: 統合失調症の精神病理. 第37回日本精神病理学会, 東京, 2014年10月4-5日.
30. 田中伸一郎: 統合失調症 (DSM) の診断基準を満たさないが, それでも統合失調症であるような一群について. 第37回日本精神病理学会, 東京, 2014年10月5日.
31. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激概論. 磁気刺激によるうつ病治療の実際. 第1回磁気刺激療法研究会, 東京, 2014年10月12日.
32. 渡邊衡一郎: 精神疾患のリハビリ回復に向けた治療アプローチにおけるレジリエンス概念の重要性. 第3回日本ポジティブサイコロジー医学会学術集会, 東京, 2014年10月26日.
33. Kito S: Transcranial magnetic stimulation (TMS) in the treatment of depression. Brain Conference 2014. Korean Society for Brain and Neural Science (KSBNS), the 3rd Congress of Asian Society for Neuropathology (CASN), and Korean Society for Neurodegenerative Disease (KSND), South Korea, November 6th-8th 2014.
34. 田中伸一郎: うつ病 (DSM) 診療の基礎から応用まで. 吉富・田辺三菱勉強会, 三鷹, 2014年11月7日.
35. 平野祥子, 戸部有希子, 田中伸一郎, 中島亨, 渡邊衡一郎: ステロイドの乱用・依存により様々な精神神経症状を呈した1例. 第102回東京精神医学会学術集会, 東京, 2014年11月8日.
36. 長谷川崇, 鬼頭伸輔, 古賀良彦: 治療抵抗性うつ病への左前頭前野高頻度 TMS の有効性及び安全性に関する予備的研究: わが国への導入を目指して. 第25回磁気刺激法の臨床応用と安全性に関する研究会, 福岡, 2014年11月19日.
37. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激の現状, 機序, 展望. 第44回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2014年11月19-21日.
38. 渡邊衡一郎: うつ病治療における『真の recovery』達成のために抗うつ薬が出来ること. 第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会, 名古屋, 2014年11月20日.
39. 菊地俊暁: レギュラトリーサイエンス (指定発言). 第24回日本臨床精神神経薬理学会, 名古屋, 2014年11月20-22日.
40. 渡邊衡一郎: Shared Decision Making (SDM) の意義と実践. 第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会, 名古屋, 2014年11月21日.
41. 渡邊衡一郎: 精神科治療における服薬アドヒアランスの問題をどのように理解するか. 第24回日本臨床精神神経薬理学会・第44回日本神経精神薬理学会, 名古屋, 2014年11月22日.
42. 渡邊衡一郎: うつを正しく診断し適切に対処するには. 慶應義塾大学薬学部公開講座, 東京, 2014年11月29日.
43. 渡邊衡一郎: 精神科治療における服薬アドヒアランスの問題をどのように理解するか. 第35回日本臨床薬理学会学術総会, 松山, 2014年12月4日.
44. 鬼頭伸輔: 経頭蓋磁気刺激 (TMS) によるうつ病のニューロモデュレーション. 第44回ヒューマンサイエンス総合研究セミナー, 東京, 2014年12月4日.
45. 渡邊衡一郎: 不安症治療における当事者の好みや印象を活かした薬剤選択. 第7回日本不安症学会学術大会, 広島, 2015年2月14日.
46. 渡邊衡一郎: 当事者との新しい双方向性の治療方針決定法 Shared Decision Making (SDM) の精神科臨床における実現可能性. PPST 研究会中国ブロック講演会, 岡山, 2015年2月20日.
47. 青木裕見, 古野毅彦, 小林靖, 千葉裕美, 垣田康秀, 渡邊衡一郎, 井上真郷: 注意欠如・多動症を持つ大学生の特徴と学内精神科での対応について. 第34回日本社会精神医学会, 富山, 2015年3月5日.
48. 田中伸一郎: DSM-5 の診断基準を満たさないが, それでも統合失調症であるような患者の診断方法について. 自治医科大学精神医学教室集談会, 宇都宮, 2015年3月10日.
49. 田中伸一郎: 患者さんはこんなときどうしてほしいか? —支持しながら指示する精神療法をめざして—. 第5回精神科臨床研究会アプリッコット, 東京, 2015年3月26日.

論文

1. Ishida T<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Watanabe K, Sakurai H<sup>2</sup>, Uchida H<sup>3</sup>, Mimura M<sup>3</sup> (<sup>1</sup>National Hospital Organization Chiba Medical Center, <sup>2</sup>Inokashira Hospital, <sup>3</sup>Keio University): Prophylactic use of heparin for deep vein thrombosis in restrained psychiatric patients: a chart review. *Gen Hosp Psychiatry* 36(6):690-693, 2014.
2. Takeuchi H<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Remington G<sup>1</sup>, Watanabe K, Mimura M<sup>3</sup>, Uchida H<sup>3</sup> (<sup>1</sup>University of Toronto, <sup>2</sup>Inokashira Hospital, <sup>3</sup>Keio University): Lack of effect of risperidone or olanzapine dose reduction on metabolic parameters, prolactin, and corrected QT interval in stable patients with schizophrenia. *J Clin Psychopharmacol* 34(4): 517-520, 2014.
3. Takeuchi H<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Remington G<sup>1</sup>, Watanabe K, Mimura M<sup>3</sup>, Uchida H<sup>3</sup> (<sup>1</sup>University of Toronto, <sup>2</sup>Inokashira Hospital, <sup>3</sup>Keio University): Lack of effect of risperidone or olanzapine dose reduction on subjective experiences in stable patients with schizophrenia. *Psychiatry Res* 218(1-2):244-246, 2014.

4. Kumazaki H<sup>1</sup>, Watanabe K, Imasaka Y<sup>2</sup>, Iwata K<sup>1</sup>, Tomoda A<sup>1</sup>, Mimura M<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Fukui University, <sup>2</sup>Oizumi Hospital, <sup>3</sup>Keio University) : Risperidone - Associated Urinary Incontinence in Patients With Autistic Disorder With Mental Retardation. J Clin Psychopharmacol 34(5):624-626, 2014.
5. Takeuchi H<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Bies R R<sup>3</sup>, Remington G<sup>1</sup>, Watanabe K, Mimura M<sup>4</sup>, Uchida H<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>University of Toronto, <sup>2</sup>Inokashira Hospital, <sup>3</sup>University of Pittsburgh, <sup>4</sup>Keio University) :Dose reduction of risperidone and olanzapine and estimated dopamine D<sub>2</sub> receptor occupancy in stable patients with schizophrenia: findings from an open-label, randomized, controlled study. J Clin Psychiatry 75(11):1209-1214, 2014.
6. 渡邊衡一郎, 菊地俊暁:改めて注目すべき向精神薬の副作用 Update—気分安定薬, 抗うつ薬, 抗精神病薬に焦点をあてて—. 精神誌 116(4):323-331, 2014.
7. 渡邊衡一郎:国内外のうつ病治療ガイドラインにみる薬物治療の立ち位置,そしてその適切な使用方法とは. カレントセラピー 32(6):29-35, 2014.
8. 渡邊衡一郎:境界例に対する薬物療法. 精神 25(1): 22-27, 2014.
9. 渡邊衡一郎:双極うつ病における不安の併存に対し,薬物療法ではどう取り組めるか. 臨精薬理 17(8):1107-1112, 2014.
10. 渡邊衡一郎, 竹内啓善<sup>1</sup>(トロント大):各種向精神薬の主たる特徴とその問題点. 日医師会誌 143(7):1441-1451, 2014.
11. 渡邊衡一郎:抗不安薬,睡眠薬をいかに減らしていくか. メンタルヘルスマガジン こころの元気+ 8(11):20-22, 2014.
12. 吉田和生<sup>1</sup>, 渡邊衡一郎<sup>1</sup>(慶應義塾大):特集 I 新規抗うつ薬の特徴と使用法 ミルタザピン. 精神 25(5):498-504, 2014.
13. 日比慎太郎<sup>1</sup>, 渡邊衡一郎<sup>1</sup>(東京海道病院):【向精神薬の副作用と対策 Update】抗うつ薬による中断症候群(解説/特集). 臨精医 43(11):1661-1666,2014.
14. 青木裕見<sup>1</sup>, 渡邊衡一郎<sup>1</sup>(早稲田大):精神科治療における双方向性の意思決定 shared decision making の実現可能性. 精神科治療 30(1):99-104, 2015.
15. Kito S, Pascual-Marqui RD<sup>1</sup>, Hasegawa T, Koga Y (1University of Zurich, Kansai Medical University) : High-frequency left prefrontal transcranial magnetic stimulation modulates resting EEG functional connectivity for gamma band between the left dorsolateral prefrontal cortex and precuneus in depression. Brain Stimul 7:145-146, 2014.
16. 鬼頭伸輔:経頭蓋磁気刺激療法—治療器としての我が国への導入を目指して. カレントセラピー 32:66-70, 2014.
17. 鬼頭伸輔:うつ病の Brain Stimulation 療法:経頭蓋磁気刺激 (TMS). 最新医 69:1732-1734, 2014.
18. 鬼頭伸輔:経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療と機能的結合性:TMS-EEG 研究. 日薬物脳波会誌 15:15-19, 2014.
19. 菊地俊暁:治療関係と薬物療法—薬物療法を受ける患者の気持ちとは. 精神誌116(9) :752-757, 2014.
20. 菊地俊暁, 今中雄一<sup>1</sup>, 堀越勝<sup>2</sup>, 宗未来<sup>3</sup>, 牛島洋景<sup>4</sup>(<sup>1</sup>京都大, <sup>2</sup>国立精神神経医療研究センター, <sup>3</sup>英国王立精神科研究所, <sup>4</sup>国立国際医療研究センター国府台病院):精神療法のクオリティコントロールについて. 認知療法研究7(2) :159-167, 2014.
21. Nakagawa A<sup>1</sup>, Sado M<sup>1</sup>, Mitsuda D<sup>2</sup>, Fujisawa D<sup>1</sup>, Kikuchi T, Abe T<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Iwashita S<sup>2</sup>, Mimura M<sup>1</sup>, Ono Y<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Sakuragaoka Memorial Hospital, <sup>3</sup>National Center of Neurology and Psychiatry) : Effectiveness of cognitive behavioural therapy augmentation in major depression treatment (ECAM study):

study protocol for a randomized clinical trial. BMJ Open. 4(10):e006359.doi:10.1136/bmjopen-2014-006359.

22. 田中伸一郎:患者の心の動き(転移)から自分の心理状態(逆転移)に気づく. 治療増刊号96:736-737, 2014.

## 著書

1. 鈴木利人, 渡邊衡一郎, 松田公子, 林昌洋編:精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法—多職種連携から生まれる新しいコミュニケーションの提案—. 東京, 南山堂, 2014.
2. 八木剛平, 渡邊衡一郎編:レジリアンス症候学・脳科学・治療学. 東京, 金原出版, 2014.
3. 渡邊衡一郎, 竹内啓善:なぜドパミンD2受容体遮断薬は抗精神病薬となりうるのか? POWER MOOK 精神医学の基盤. 石郷岡純, 加藤敏編, 東京, 学術出版, 2015. p.196-202.
4. 菊地俊暁うつ病. 精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法. 鈴木利人ら編, 東京, 南山堂, 2014. p.131-135, p.145-150.
5. 菊地俊暁:抗うつ薬とレジリアンスについて. レジリアンス—症候学・脳科学・治療学. 八木剛平, 渡邊衡一郎編. 東京, 金原出版, 2014. p.170-180.

## その他

1. 渡邊衡一郎:「きょうの健康」うつ病が治らないあなたに, NHK E テレ放送, 2014年9月29日-10月2日.
2. 鬼頭伸輔:特殊形状のコイルによる deep TMS で深部脳領域への刺激が可能に. Medical Tribune, 2014年9月4日, 12頁.
3. 鬼頭伸輔:うつ病治療に新たな可能性をもたらす反復経頭蓋磁気刺激 (rTMS) への期待. 医学書院, 週刊医学界新聞, 2014年10月27日, 第3098号4面.
4. 菊地俊暁:講演:NHK 秋田放送局主催 NHK ハートフルフォーラム in 秋田市「こころの元気をまもる」, 秋田市, 2014年11月9日.
5. 田中伸一郎:書評・神田橋條治著「医学部講義」. 精神経誌 116(4), 350, 2014.
6. 田中伸一郎:書評・津田均著「気分障害は, いま—うつと躁を精神病理学から問い直す」. 精神経誌117(3), 2015. (in print).
7. Shekhar S, 瀬戸屋雄太郎, 武田雅俊, 神庭重信, 張賢徳, 大塚耕太郎, 河西千秋, 高橋祥友, 大森哲郎, 田中伸一郎:精神神経学会の座談会の企画・編集 日本の精神医学・医療の現状と自殺対策—WHO 世界自殺レポート会議において—. 精神経誌, 116(11) :897-906, 2014.

## 小児科学教室

### 講演

1. 中村由紀子, 島崎真希子, 宮田世羽, 小松祐美子, 細井健一郎, 保科弘明, 保崎明, 野村優子, 楊國昌:大学病院小児科における在宅医療ケアを必要とする児の検討. 第117回日本小児科学会総会, 名古屋, 2014年4月12日.
2. 木内善太郎, 伊藤雄伍, 西堀由紀野, 楊國昌:胸腺 T 細胞アポトーシスにおける glucocorticoid induced transcript1の役割. 第117回日本小児科学会学術集会, 名古屋, 2014年4月11-13日.
3. 楊國昌:プライマリ・ケアにおける小児腎疾患. 第18回稲城市小児臨床研究会, 稲城, 2014年4月25日.
4. 楊國昌:プライマリ・ケアにおける小児腎疾患. 武蔵野医師会講演会. 武蔵野, 2014年5月28日.
5. 宮田世羽, 池上弓子, 中野瑛子, 松岡雄一郎, 島崎真希子,

小松祐美子, 中村由紀子, 岡明: 当院におけるレベチラセタムの使用経験. 第56回日本小児神経学会総会, 浜松, 2014年5月30日.

6. 中野瑛子, 池上弓子, 松岡雄一郎, 島崎真希子, 宮田世羽, 小松祐美子, 中村由紀子, 岡明: タクロリムスが有効であったステロイド依存性重症筋無力症の女児例. 第56回日本小児神経学会学術集会, 浜松, 2014年5月30日.
7. 高木永, 木内善太郎, 伊藤雄伍, 倉山亮太, 楊國昌: 非典型的発症の溶連菌感染後急性糸球体腎炎の3例. 第49回日本小児腎臓病学会学術集会, 秋田, 2014年6月5-7日.
8. 木内善太郎, 西堀由紀野, 木村徹, 福富俊之, 竹松弘, 楊國昌: 糖質ステロイドの新規抗 T 細胞作用機序の同一 Glucocorticoid induced transcript1 (GLCCI1) のタンパク機能解析をもとに. 第49回日本小児腎臓病学会学術集会, 秋田, 2014年6月5-7日.
9. 羽田伊知郎, 伊藤紀子, 伊藤雄伍, 倉山亮太, 福原大介, 西堀由紀野, 清水章, 長田道夫, 楊國昌: 経時的腎生検で異なったバリエントを呈した FSGS の1例. 第49回日本小児腎臓病学会学術集会, 秋田, 2014年6月5-7日.
10. 田中佐門, 保崎明, 楊國昌: 最近経験した異物誤飲の2例. 第110回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2014年6月20日.
11. 楊國昌: 小児のプライマリケアにおける腎尿路疾患の見方・考え方. 第4回多摩小児プライマリケア研究会, 東京, 2014年7月19日.
12. 楊國昌: プライマリ・ケアにおける小児腎・尿路疾患の診断のすすめかた. 第105回日本小児科学会秋田地方会, 秋田, 2014年7月26日.
13. 鴫田雅俊, 細井健一郎: 当院における Late Preterm 児の検討. 第3回多摩周産期新生児フォーラム, 立川, 2014年9月30日.
14. 楊國昌: プライマリ・ケアにおける小児腎・尿路疾患の診断のすすめかた. 杉並医師会, 東京, 2014年10月7日.
15. 楊國昌: ネフローゼにおけるステロイド感受性機序と GLCCI1 分子機能のクロストーク. 多摩小児腎セミナー, 東京, 2014年10月7日.
16. 大泉亜友美, 高木永, 楊國昌: 急速に進行し呼吸障害を来した扁桃周囲膿瘍の乳児例. 第111回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2014年10月17日.
17. 牧野篤司, 山本明日香, 楊國昌: CAP-RAST が陰性化し, 除去解除後にアナフィラキシーを生じたカカオアレルギーの一例. 第51回日本小児アレルギー学会, 四日市, 2014年11月8日.
18. 田中佐門, 保崎明, 楊國昌: コイン型リチウム電池誤飲の1例. 第43回杏林医学会, 三鷹, 2014年11月15日.
19. 安藤理恵, 弦間友紀, 宮澤永尚, 吉野浩, 別所文雄, 楊國昌: Sulfamethoxazole-trimethoprim(ST) 合剤により血糖低下を来した ALL の一例. 第56回日本小児血液・がん学会学術集会, 2014年11月28日.
20. 吉野浩: 外来で遭遇する小児がんの症状-小児がん診断ハンドブックを参考に-. 第112回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2015年2月6日.
21. 小谷昌史, 杉本雅子, 大越陽一, 宮田世羽, 弦間友紀, 吉野浩: 片側の視力低下から診断された神経線維腫症 I 型に伴う視神経膠腫の一例. 第112回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2015年2月6日.
22. 田中佐門, 松岡雄一郎, 高木永, 保崎明, 吉野浩, 楊國昌: 深頸部感染症の2乳児例. 第22回多摩小児感染・免疫研究会, 武蔵野, 2015年2月28日.
23. 鴫田雅俊, 大越陽一, 尾戸真由, 小林智恵, 保崎明: 吐血と顔

色不良を主訴に搬送された心原性ショックの女児例. 第19回東京循環器小児科治療 Arora, 東京, 2015年3月7日.

24. 安藤理恵, 那須ゆかり, 高木永, 吉野浩, 楊國昌, 井原哲: 大後頭孔狭窄による四肢不全麻痺, 呼吸障害が急速に進行した軟骨無形成症の1例. 第617回日本小児科学会東京都地方会講和会, 2015年3月14日.

## 論文

1. Miyai T, Aya K, akaiwa M, Yan K, Sado Y, Tanaka H, Morishima T: Functional analysis of NPHS1 mutations in Japanese patients. *Histol Histopathol* 29:279-284, 2014.
2. Fumoto S, Hosoi K, Ohnishi H, Hoshina H, Yan K, Saji H, Oka A: Chimerism of buccal membrane cells in a monozygotic dizygotic twin. *Pediatrics* 133(4):e1097-100. doi: 10.1542.(2014).
3. Kimura T, Takahashi M, Yan K, Sakurai H: Expression of SLC2A9 Isoforms in the Kidney and Their Localization in Polarized Epithelial Cells. *PLoS One*. 9(1): e84996. doi: 10.1371 / journal.pone.0084996. (2014).
4. Oka M, Nozu K, Kaito H, Fu XJ, Nakanishi K, Hashimura Y, Morisada N, Yan K, Matsuo M, Yoshikawa N, Vorechovsky I, Iijima K. Natural history of genetically proven autosomal recessive Alport syndrome. *Pediatr Nephrol*. 29(9): 1535-1544, 2014.
5. 保科弘明, 大越陽一, 岡明: 神経原性先天性多関節拘縮を呈した一絨毛一羊膜性双胎の1例. *日本未熟児新生児学会雑誌* 26(2): 315-319, 2014.
6. 中村由紀子, 島崎真希子, 小松祐美子, 三輪真美, 別所文雄, 岡明: 注意欠陥/多動性障害(AD/HD)を合併した前頭前野巨大脳動静脈奇形の1例. *脳と発達* 46(5): 359-362, 2014.
7. 宮田世羽, 島崎真希子, 小松祐美子, 中村由紀子, 岡明: 非けいれん性てんかん重積状態を初発症状とした前頭葉てんかんの1小児例. *脳と発達* 46(4): 301-306, 2014.

## その他

### 学会・研究会主催

1. 第110回多摩小児科臨床懇話会: 三鷹, 2014年6月20日.
2. 第12回三鷹小児内分泌セミナー: 三鷹, 2014年7月4日.
3. 第111回多摩小児科臨床懇話会: 三鷹, 2014年10月17日.
4. 第13回三鷹小児内分泌セミナー: 三鷹, 2015年1月30日.
5. 第112回多摩小児科臨床懇話会: 三鷹, 2015年2月6日.
6. 第22回多摩小児感染・免疫研究会: 武蔵野, 2015年2月28日.

### 外科学教室 (消化器・一般外科)

## 講演

1. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 松岡弘芳, 杉山政則: CurB が得られた Stage4症例の期間別の再発, 予後に関する検討. 大腸癌術後フォローアップ研究会, 東京, 2014年1月30日.
2. Kojima K, Masaki T, Matsuoka H, Takayasu K, Kishiki T, Suzuki Y, Abe N, Mori N, Sugiyama M: Short term results of our treatment strategy for perforated colonic diverticulitis. 25th Jagelman/35th Turnbull International Colorectal Disease Symposium, U.S.A. February 11th-14th, 2014.
3. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小林敬明, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 古瀬純司, 杉山政則, 跡見裕: 大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における新しい効果予測因子の検討. 第8回多摩消化器がん化学療法シンポジウム, 東京, 2014年2月18日.

4. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:左側型穿孔性大腸憩室炎に対する治療の検討. 第50回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2014年3月6-7日.
5. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:重症急性膵炎における血液浄化療法の有用性について. 第50回日本腹部救急医学会, 東京, 2014年3月7日.
6. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 杉山政則:胃ESD中に発生した空気塞栓症の1例. 第50回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2014年3月7日.
7. 麻生喜祥, 下位洋史, 長尾美智子, 百名祐介, 大倉史典, 岡田夢, 伊藤雄二:S状結腸捻転内視鏡的整復後に発症した腸間膜血腫の一例. 第832回外科集談会, 東京, 2014年3月8日.
8. 吉本恵理, 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 橋本佳和, 得津敬之, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:胃ESD後大量出血の一例. 第832回外科集談会, 東京, 2014年3月8日.
9. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 橋本佳和, 長尾玄, 森俊幸, 杉山政則:胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡的筋層剥離術と腹腔鏡補助下/非補助下内視鏡的全層切除術の成績. 第86回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014年3月20-22日.
10. 橋本佳和, 阿部展次, 得津敬之, 大木亜津子, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 望月眞, 大倉康男:進行胃癌術後10年目にKrukenberg腫瘍および腹膜播種再発を来した1例. 第86回日本胃癌学会総会, 横浜, 2014年3月21日.
11. 正木忠彦:消化器がん治療の進歩. 平成25年度連携4大学合同市民公開講座シンポジウム, 東京, 2014年3月29日.
12. 横山政明, 鈴木裕, 中里徹矢, 杉山政則:術前診断に難渋した膵嚢胞性疾患の一例. 多摩肝胆膵クラブ, 東京, 2014年3月8日.
13. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:非乳頭部表在性十二指腸腫瘍に対する内視鏡的切除・腹腔鏡内視鏡合同手術・開腹手術の成績. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3日.
14. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 中里徹矢, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:全国多施設調査からみた肝内結石症診療の現状. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3日.
15. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 水野英彰, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:Reduced port surgeryにおける新しい方向性-ショートタイプ軟性内視鏡補助下单孔式手術-. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3日.
16. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:IPMNにおけるreprimo遺伝子メチル化の検討. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3-5日.
17. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:ESMOガイドラインを利用した大腸癌StageIV患者の予後予測因子の検討. 日本外科学会, 京都, 2014年4月3-5日.
18. 横山政明, 森俊幸, 鈴木裕, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:肝内胆管癌偽陽性症例の調査研究. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3-5日.
19. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則:胃癌における胃内洗浄液細胞診の検討. 第114回日本外科学会総会, 京都, 2014年4月5日.
20. Sugiyama M: Technical refinement of pancreatic surgery. Korea Pancreas Surgery Club. Korea Japan Pancreas Surgery Joint Symposium, Korea, April 12th, 2014.
21. Masaki T: Treatment strategy for intra-pelvic recurrence of rectal cancer. Japan-Korea Joint Symposium, 47th KSCP meeting, Korea, April 12th, 2014.
22. Sugiyama M: Technical refinement of pancreatic surgery. 5th International Conference of Asian Oceanic Pancreas Association, India, April 20th, 2014.
23. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:IPMNにおけるreprimo遺伝子メチル化異常と発癌の関連. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月23-26日.
24. Yokoyama M, Ohnishi H, Ohtsuka K, Ookura Y, Furuse J, Matsuoka H, Watanabe T, Sugiyama M: Investigation of biological characteristics of biliary tract cancers to establish a novel molecular-targeted therapy. 第100回日本消化器病学会総会国際フォーラム, 東京, 2014年4月23-26日.
25. Mori T: Plenary Lecture II Technical Qualification system of JSES KSELS. 34th Annual Meeting, Korea, April 24th, 2014.
26. 阿部展次:非治療切除に終わったESD後の対応:超高齢者ではどうする?. 消化管疾患研究会熊本, 熊本, 2014年4月25日.
27. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則:胃癌における胃内洗浄液細胞診の検討-遊離癌細胞は検出されるのか?-. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月26日.
28. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:直腸癌StageIV症例の予後予測因子についての検討. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月26日.
29. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則:内腔からの内視鏡処置を最優先させる胃粘膜下腫瘍に対する摘出戦略-内視鏡的筋層剥離術, 内視鏡的全層切除術, 腹腔鏡補助下内視鏡的胃全層切除術-. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
30. 竹内弘久, 小柏靖直, 阿部展次, 大木亜津子, 森俊幸, 甲能直幸, 杉山政則:中・下咽頭表在癌に対する経口的内視鏡切除の有用性について. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2014年5月15日.
31. 橋本佳和, 阿部展次, 鈴木裕, 得津敬之, 横山政明, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:ESDが追加治療としてのLADGに及ぼす影響に関する検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
32. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 杉山政則:超高齢者(85歳以上)早期胃癌に対するESDは妥当か?. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 京都, 2014年5月16日.
33. 吉本恵理, 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 橋本佳和, 得津敬之, 長尾玄, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:胃ESD後第11病日に大量後出血を来した一例. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月16日.
34. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸:腸回転解除術を用いた膵頭十二指腸切除術. 第68回手術手技研究会, 東京, 2014年5月17日.
35. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 得津敬之, 橋本佳和, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:内視鏡的切除適応外早期胃癌に対する姑息的ESDの意義. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月16日.

36. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸:腸回転解除術を用いた臍頭十二指腸切除術. 第68回手術手技研究会, 東京, 2014年5月17日.
37. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:スコアリングシステムを用いた臍 IPMN の治療戦略—手術適応と術式, 至適郭清範囲について—. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 和歌山, 2014年6月11日.
38. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:妊娠出産を経て増大した巨大肝血管腫の一切除例. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 和歌山, 2014年6月11-13日.
39. Yokoyama M, Mori T, Suzuki Y, Nakazato T, Sugiyama M: Analysis of false-positive intrahepatic cholangiocarcinoma. 第26回日本肝胆膵外科学会学術集会, 和歌山, 2014年6月11-13日.
40. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 長尾玄, 高橋信一, 杉山政則:急性膵炎重症化における内臓脂肪の影響. 第31回日本胆膵病態・生理研究会, 東京, 2014年6月14日.
41. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則:胃癌における胃内洗浄液細胞診の検討. 第98回消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2014年6月15日.
42. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:保険診療における問題点:消化器疾患について. 第39回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2014年6月20日.
43. 杉山政則:膵嚢胞性腫瘍の診断と治療. 日本消化器病学会関東支部第24回教育講演会, 東京, 2014年6月22日.
44. Abe N: Single-incision multiport laparoendoscopic surgery using a newly - developed short - type flexible endoscope. NOTES symposium, Korea, July 5th, 2014.
45. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:IPMN 組織異型度と represso 遺伝子の関連. 第45回日本膵臓学会大会, 北九州, 2014年7月11-12日.
46. 横山政明, 鈴木裕, 中里徹矢, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:膵管ホルダー, 及び mucosa squeeze-out 法を用いた膵管空腸粘膜吻合. 第45回日本膵臓学会大会, 小倉, 2014年7月11-12日.
47. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 渡邊武志, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:穿孔性大腸憩室炎に対する新しい治療指針における短期的治療成績の検討. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月16-18日.
48. 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:手技・器機の改良による膵管空腸粘膜吻合の標準化. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月16-18日.
49. 横山政明, 森俊幸, 鈴木裕, 中里徹矢, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:肝内胆管癌偽陽性症例の調査研究. 第69回日本消化器外科学会総会, 福島, 2014年7月16-18日.
50. 阿部展次, 竹内弘久, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 森俊幸, 杉山政則:Beyond ESD-胃粘膜下腫瘍に対する筋層以深での内視鏡的切除. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月17日.
51. 竹内弘久, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:前方アプローチ(メッシュ使用)法後の再発鼠径部ヘルニアに対する検討. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月17日.
52. 橋本佳和, 森俊幸, 鈴木裕, 得津敬之, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:当院における Reduced Port Surgery Nissen 噴門形成術の実際と工夫. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月17日.
53. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:大腸癌の抗 EGFR 抗体薬治療における, さらなる個別化治療を目指して. 日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月18日.
54. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:予測式による臍 IPMN の治療戦略—手術適応と術式選択, 至適郭清範囲—. 第69回日本消化器外科学会総会, 福島, 2014年7月18日.
55. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:直腸癌肛門括約筋温存手術後排便障害の影響について. 第69回日本消化器外科学会総会, 福島, 2014年7月18日.
56. 森俊幸, 山口茂樹, 万代恭嗣:日本内視鏡外科学会技術認定制度による技術評価, 外科医養成, 手術リスクマネージメント. 第69回日本消化器外科学会総会, 郡山, 2014年7月18日.
57. Kojima K, Masaki T, Takayasu K, Kishiki T, Watanabe T, Suzuki Y, Matsuoka H, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Transanal drainage tube insertion following low anterior resection in rectal cancer patients; is it worthwhile?. The 8th Colorectal Disease Symposium in Tokyo, Tokyo, 2014年7月26日.
58. 山岸夢希, 橋本佳和, 小島洋平, 近藤恵里, 横山政明, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:横行結腸および全胃が脱出した混合型食道裂孔ヘルニアに対し腹腔鏡下 Nissen 噴門形成術を施行した1例. 第330回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2014年7月26日.
59. Masaki T : 3-D Laparoscopy vs. 2-D Laparoscopy -pros and cons. 8th Colorectal Disease Symposium in Tokyo, Tokyo, July 26th, 2014.
60. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: MRI has dominated US in staging rectal cancer. 8th. Colorectal Disease Symposium in Tokyo. Tokyo, July 26th, 2014.
61. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Why do some patients complain severe evacuatory disorder following low anterior resection?. 17th Annual Conference on Functional Disorder in Anorectal Disease, Tokyo, August 9th. 2014.
62. 鈴木裕, 近藤恵里, 中里徹矢, 横山政明, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:術前に診断しえた Portal annular pancreas の1例. 第41回日本膵切研究会, 東京, 2014年8月23日.
63. 藤井肇, 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:十二指腸 NET に対して腹腔鏡内視鏡合同手術を施行した1例. 第834回外科集談会, 東京, 2014年9月6日.
64. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 渡邊武志, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:各再建法における直腸癌術後臨床生理学的検討. 第20回大腸肛門機能障害研究会, 東京, 2014年9月6日.
65. 荻原利弥, 近藤恵里, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:感染性心内膜炎の加療中に胆嚢出血をきたした1例. 第331回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2014年9月20日.

66. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 渡邊武志, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:左側型穿孔性大腸憩室炎に対する治療戦略. 第6回 Acute Care Surgery 学会学術集会, 青森, 2014年9月20-21日.
67. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山政則, 大塚弘毅, 大西宏明, 渡邊卓, 大倉康男:胆道癌におけるシグナル伝達系および細胞周期関連分子の解析. 第50回日本胆道学会学術集, 東京, 2014年9月26-27日.
68. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 中里徹矢, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:全国多施設調査からみた肝内結石症診療の現状. 第50回日本胆道学会学術集会, 東京, 2014年9月27日.
69. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 森俊幸, 杉山政則:腹腔鏡(補助)下尾側膵切除の手法と成績. 第6回膵臓内視鏡外科研究会, 盛岡, 2014年10月1日.
70. 吉敷智和, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 橋本佳和, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:腹腔鏡下に修復した内ヘルニアの1例. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月2日.
71. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則:中・下咽頭表在癌に対する経口的内視鏡切除治療とセンチネルリンパ節生検による Hybrid 手術の有用性について. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月2日.
72. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 渡邊武志, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:腹腔鏡下復辟癒痕ヘルニア修復術の短期的治療成績. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月2-4日.
73. 渡邊武志, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:当院における腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術の Reduced port surgery への工夫. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月2-4日.
74. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 橋本佳和, 森俊幸, 杉山政則:軟性内視鏡と腹腔鏡を用いた低侵襲 hybrid 手術. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月3日.
75. 森俊幸:高精細画像が腹腔鏡下手術に及ぼしたインパクト. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月3日.
76. 橋本佳和, 森俊幸, 小島洋平, 紅谷鮎美, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:サンダービートを用いた腹腔鏡下噴門再形成術の1例. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月4日.
77. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則:ESD と LECS の bridge-胃 GIST に対する内視鏡的全層切除術(endoscopic full-thickness resection: EFTR). 第88回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2014年10月25日.
78. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:StageIV 大腸癌の予後予測因子はなにか?. JDDW, 神戸, 2014年10月25日
79. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:ESD 後2nd look 内視鏡検査の意義. 第22回 JDDW, 神戸, 2014年10月25日.
80. 鈴木裕, 杉山政則:分枝型 IPMN における国際ガイドラインの検証-手術適応決定に EUS は必須か?. 第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014), 神戸, 2014年10月25日.
81. 竹内弘久, 阿部展次, 堀合真一, 橋本佳和, 水野英彰, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:十二指腸非乳頭部表在性腫瘍に対する内視鏡観察を併用した腹腔鏡補助下経十二指腸の粘膜切除術(laparoscopy-assisted transduodenal resection:LATDR). 第10回 LECS 研究会, 神戸, 2014年10月25日.
82. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 平野和彦, 大倉康男, 杉山政則:未分化・分化型組織混在早期胃癌に対する ESD の適応拡大について. JDDW2014, 神戸, 2014年10月25日.
83. 橋本佳和, 阿部展次, 横山政明, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:腹腔鏡補助下幽門側胃切除術におけるバイポーラ・超音波凝固切開統合デバイスの有用性. 第12回日本消化器外科学会大会(JDDW2014), 神戸, 2014年10月25日.
84. 吉本恵理, 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 橋本佳和, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則
85. 題名:胃 ESD 症例における遅発性後出血(5日目以降)リスク因子の検討. JDDW, 神戸, 2014年10月25日.
86. 阿部展次, 竹内弘久, 杉山政則:NOTES への bridge:シヨートタイプ軟性内視鏡補助下单孔式手術. 第12回日本消化器外科学会大会, 神戸, 2014年10月26日.
87. 小島洋平, 中里徹矢, 横山政明, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 原由紀子, 大倉康男:退形成性膵管癌4例の検討. JDDW2014, 神戸, 2014年10月26日.
88. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 吉敷智和, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:診断に苦慮した腹腔内膿瘍の一例. 第8回多摩腸疾患カンファレンス, 立川, 2014年10月10日.
89. Kojima K, Masaki T, Takayasu K, Kishiki T, Watanabe T, Suzuki Y, Matsuoka H, Abe N, Mori T, Sugiyama M, Ohata T, Sano Y, Tanbo M, Matsuda T: A case of necrotizing fasciitis following chemoradiotherapy for recurrent rectal cancer. The 31th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, October 31st, - November 2nd, 2014.
90. Masaki T: 3-D imaging of laparoscopic colorectal surgery - A new option. 3rd Taipei International Symposium of MIDS, Taiwan, November 1st, 2014.
91. Sugiyama M, Suzuki Y, Yokoyama M, Nakazato T, Matsuoka H, Abe N, Masakai T, Mori T: Technical refinement of pancreatoduodenectomy. 31st Congress of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taipei, November 2nd, 2014.
92. Takeuchi H, Abe N, Ohki A, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Expanding the indications of endoscopic resection for early gastric cancer with mucosal invasion and submucosal invasion within 500 μm. The 31 th PPSA, Taipei, November 2nd, 2014.
93. Suzuki Y, Sugiyama M, Inui K, Igarashi Y, Ohara H, Tazuma S, Tsuji T, Miyagawa H, Atomi Y: Management of pancreatolithiasis - A Japanese multicenter study. APA / JPS Meeting 2014, USA, November 7th, 2014.
94. Sugiyama M, Suzuki Y, Yokoyama M, Nakazato T, Abe N, Masakai T, Mori T: Technical refinement of pancreatoduodenectomy. 45th Meeting of American Pancreatic Association, USA, November 8th, 2014.
95. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則, 杉原健一: Stage4大腸癌根治切除後の短期再発の危険因子は何か?. 日本大腸肛門病学会, 横浜, 2014年11月7日.
96. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 渡邊武志, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 傾向スコアマッチング分析を用いた直腸癌手術における系肛門ドレーンの有

- 用性の検討. 第69回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2014年11月7-8日.
97. 紅谷鮎美, 松岡弘芳, 正木忠彦, 吉敷智和, 小嶋幸一郎, 杉山政則: 直腸癌低位前方切除術の縫合不全危険因子の検討. 第69回日本大腸肛門病学会学術集会, 横浜, 2014年11月7-8日.
  98. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸癌における血清 p53 抗体測定の意義. 多摩大腸疾患懇話会, 東京, 2014年11月11日.
  99. 吉敷智和, 正木忠彦, 松岡弘芳, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 鈴木裕, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸癌における KRAS 変異と BRAF 変異の比較. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月20日.
  100. 近藤恵里, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 術前診断しえた腎細胞癌胆嚢転移の1例. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月20日.
  101. 麻生喜祥, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 腹腔鏡下腹壁瘻痕ヘルニア修復術後に漿液腫感染を合併した1例. 第76回日本臨床外科学会総会, 福島, 2014年11月20-22日.
  102. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 渡邊武志, 高安甲平, 吉敷智和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 穿孔性大腸憩室炎に対する保存的治療の有効性. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月20-22日.
  103. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松木亮太, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 腸回転解除を用いた膵頭十二指腸切除術の工夫. 第76回日本臨床外科学会総会, 福島, 2014年11月21日.
  104. 橋本佳和, 森俊幸, 小島洋平, 紅谷鮎美, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 腹腔鏡下噴門形成術における Reduced Port Surgery の手技と工夫. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月22日.
  105. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 渡邊武志, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 直腸癌肛門温存手術の功罪. 第1回東海大学外科医会, 神奈川, 2014年11月26日.
  106. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Rectal prolapse: our experience. Annual Congress of Korean Surgical Society, Korea, November 28th, 2014.
  107. 近藤恵里, 長尾玄, 堀合真市, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 人工血管感染を合併した食道穿孔に対し, 食道切除, グラフト再置換にて救命しえた1例. 第27回日本感染症外科学会総会学術集会, 東京, 2014年12月4日.
- 論文**
1. Abe N, Suzuki Y, Masaki T, Mori T, Sugiyama M : Surgical management of superficial non - mpullary duodenal tumors. Dig Endosc Supple 2:57-63, 2014.
  2. Abe N, Mori T, Sugiyama M : Tips on laparoscopic distal pancreatectomy. J Hepatobiliary Pancreat Sci 21:E41-47,2014.
  3. Kishiki T, Ohnishi H<sup>1</sup>, Masaki T, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Ohkura Y<sup>2</sup>, Furuse J<sup>3</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Sugiyama M <sup>1</sup>Laboratory Medicine, <sup>2</sup>Pathology <sup>3</sup>Medical Oncology) : Overexpression of MET is a New Predictive Marker for Anti-EGFR Therapy in Metastatic Colorectal Cancer with Wild-Type KRAS. Cancer Chemother Pharmacol 73:749-757,2014.
  4. Kishiki T, Ohnishi H<sup>1</sup>, Masaki T, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Ohkura Y<sup>2</sup>, Furuse J<sup>3</sup>, Sugiyama M, Watanabe T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Laboratory Medicine, <sup>2</sup>Pathology, <sup>3</sup>Medical Oncology) : Impact of genetic profiles on the efficacy of anti-EGFR antibodies in metastatic colorectal cancer with KRAS mutation. ONCOLOGY REPORTS 32: 57-64, 2014.
  5. 杉山政則: 乳頭を攻略する-カニューレ-の基本と困難例への対処. 消化器内視鏡 26: 158,2014.
  6. 鈴木裕, 杉山政則: 手術記録の書き方 胆道の手術 中・下部胆管癌・乳頭部癌 径十二指腸的乳頭部切除術. 消化器外科 37: 864-866, 2014.
  7. Suzuki Y, Mori T, Yokoyama M, Nakazato T, Abe N, Tsubouchi H, Nakanuma Y, Sugiyama M: Hepatolithiasis: Analysis of Japanese nationwide surveys over a period of 40 years. J Hepato-biliary-pancreatic science. 21: 617-622, 2014.
  8. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: IPMN の外科治療. 臨床消化器内科 29: 1727-1731, 2014.
  9. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: IPMN と MRCP. 臨床画像 30: 1320-1327, 2014.
  10. 竹内弘久, 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: 全体に褪色調を呈し, 発赤とひきつれを伴う陥凹性病変. 消化器内視鏡 26(7):995-996,2014.
  11. 竹内弘久, 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: 隆起を呈する病変 悪性 食道原発悪性黒色腫. 消化器内視鏡 26(10):1620-1621,2014.
  12. 長尾玄, 杉山政則, 阿部展次: 特殊な形態を呈する病変 大動脈人工血管置換術後の縦隔食道瘻. 消化器内視鏡 26(10): 1764-1765,2014.
  13. 長尾玄, 杉山政則: 糖尿病(重症例を含む)がある患者さんの術後ケアは, どんなことに注意したらよい?. ナーシングケア Q&A 49:276-277,2014.
  14. 中里徹矢, 横山政明, 鈴木裕, 杉山政則: 胆管内乳頭状腫瘍 (IPNB) と肝粘液性嚢胞性腫瘍 (肝 MCN). 消化器内視鏡 26(1):148-9,2014.
  15. 橋本佳和, 阿部展次, 杉山政則: 術後の食道吻合部狭窄. 消化器内視鏡 10:1732-1733, 2014.
  16. 森俊幸, 得津敬之, 杉山政則: Reduced Port Surgery の現況と課題. Annual Review 消化器2014:278-283,2014.
  17. Mori T: Concept of Reduced Port Laparoscopic Surgery in Eds. springer:11-22,2014.
  18. 森俊幸, 跡見裕: 肝胆膵低侵襲外科の新潮流 日医雑誌 143:1212-1213,2014.
  19. 森俊幸: 手術技能の見える化. Surgery Frontier 21(4): 358-362,2014.
  20. 森俊幸: 難治性肝疾患の診療を極める 基本から最前線まで. 肝内結石症の疫学:262-265,2014.
  21. Yamaguchi T, Abe N, Matsunobu S, Mizuno H, Yanagida O, Takeuchi H, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Single-incision multiport laparoendoscopic surgery using a short-type flexible endoscope and its usefulness in cholecystectomy. Asian J Surg Endosc 8:48-53, 2014.
  22. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山 政則: 術式別の術前・術中・術後管理 胆道・胆嚢 胆嚢摘出術. 臨床外科 69(11): 185-187,2014.
- 著書**
1. 阿部展次, 跡見裕: 「膵がん」と言われたら... 東京, 保健同人社, 2014.

2. 正木忠彦:痔核, 裂肛, 肛門周囲膿瘍, 痔瘻, 粘膜脱症候群. 今日の治療指針2015. 山口徹, 北原光夫監修. 東京, 医学書院, 2015. p.503-505.
3. 横山政明, 杉山政則:胆道・胆嚢. 消化器外科看護まるごと図解ブック 解剖生理からケアまで網羅!必修事項がサクッとわかる 2014春季増刊. 大阪, メディカ出版, 2014.p.118-141.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 正木忠彦:進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術と開腹手術の根治性に関するランダム化比較試験. 厚生労働科学研究費「消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究」2013年度 分担研究報告書.
2. 正木忠彦:Stage III 治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法として Capecitabine 療法と S-1 療法とのランダム化第 III 相比較臨床試験. 厚生労働科学研究費「消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究」2013年度 分担研究報告書.

#### その他

1. 鈴木裕:第114回第日本外科学会定期学術集会優秀演題, 京都, 2014年4月3日.
2. 竹内弘久: 座長 一般演題1:症例報告. 第6回日本静脈経腸栄養学会 首都圏支部会学術集会, 東京, 2014年5月31日.
3. 中里徹矢: 座長, 膝・脾・血管. 第833回外科集談会, 東京, 2014年6月28日.
4. 阿部展次:「胃癌手術の新展開」, 日経ラジオ, 2014年8月19日.
5. 竹内弘久:デジタルポスターセッション優秀演題, 第88回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2014年10月25日.
6. 阿部展次:逆引き病気事典, 週刊現代, 2014年11月1日.
7. 鈴木裕:第22回(平成26年度)日本膵臓病研究財団, 膵臓病研究奨励賞.
8. 正木忠彦:ここに注目! 知っているようで知らない疾患のトリセツ(file\_060) 腸閉塞(解説). Credentials 78: 12-13, 2015.

### 外科学教室 (呼吸器・甲状腺)

#### 講演

1. Kondo H : Tracheobronchoplasty : from the viewpoint of technical education. 18th WCBIP / WCBE World Congress joint meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology and the International Bronchoesophagology Society, Kyoto, April 14th, 2014.
2. Kawachi R, Shimizu R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Nagashima Y, Takei H, Kondo H, Goya T : What kind of surgical intervention should be performed for postoperative bronchopleural fistula?. 18th WCBIP / WCBE World Congress joint meeting of the World Association for Bronchology and Interventional Pulmonology and the International Bronchoesophagology Society, Kyoto, April 16th, 2014.
3. 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: SST (superior sulcus tumor)に対する胸腔鏡アプローチ. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月29日.
4. 喜多秀文, 藤田敦, 中里宜正, 飯島美砂, 山崎真美, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:中縦隔に発生した異型性線維性組織球腫の1切除例. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月29日.
5. 河内利賢, 平田佳史, 清水麗子, 橘啓盛, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:自然気胸に対する胸

腔鏡下胸膜テント法. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.

6. 橘啓盛, 平田佳史, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:中葉肺癌に対するリンパ系路を意識したリンパ節郭清. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.
7. 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:完全鏡視下による拡大手術の検討と工夫. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.
8. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:当施設における完全胸腔鏡下肺区域切除. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.
9. 藤田敦, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:非接触型レーザーキーボードによる術中画像ナビゲーションシステム. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.
10. 藤田敦, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:人工気胸による胸腔鏡下胸膜癒着剥離術. 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014年5月30日.
11. 新井信晃, 橘啓盛, 平田佳史, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:肺癌術後の Mediastinal chyloma に対して頸部アプローチによるドレナージが有効であった1例. 第165回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 横浜, 2014年6月7日.
12. 神尾幸見, 橘啓盛, 武井秀史, 新井信晃, 三ツ間智也, 清水麗子, 平田佳史, 松脇りえ, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 平野浩一, 望月眞, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦:高周波スネアを用いて気管支鏡下に切除した腎細胞癌気管支転移の1例. 第149回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2014年6月14日.
13. 近藤晴彦:肺がんに対する拡大手術ーパンスト型肺がんを中心にー. 福岡胸部外科疾患研究会, 福岡, 2014年6月14日.
14. 平田佳史, 橘啓盛, 三ツ間智也, 新井信晃, 松脇りえ, 河内利賢, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 平野浩一, 近藤晴彦:転移性肺腫瘍に対してペバシズマブ投与中に両側難治性気胸を発生した1例. 第170回日本肺癌学会関東支部会, 東京, 2014年6月21日.
15. 橘啓盛:低肺機能症例への手術適応について(症例提示). 第3回 Thoracic surgical oncology conference in West Tokyo, 東京, 2014年7月4日.
16. 近藤晴彦:間質性肺炎合併肺癌の外科治療. 長野胸部疾患懇話会, 松本, 2014年7月5日.
17. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:当院での完全鏡視下区域切除術. 第1回 TS 区域切除勉強会, 軽井沢, 2014年8月30日.
18. 中里陽子, 平野浩一, 藤原正親, 菅間博:甲状腺粘表皮癌の1例. 第47回日本甲状腺外科学会学術集会, 福岡, 2014年10月31日.
19. 武井秀史, 近藤晴彦, 宮岡悦郎, 浅村尚生, 吉野一郎, 伊達洋至, 奥村明之進, 多田弘人, 中西洋一, 江口研二, 秋田弘俊, 小林英夫, 横井香平:小細胞肺癌に対する手術治療ー肺癌登録合同委員会2004年外科切除例の全国集計からー. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月15日.
20. 河内利賢, 松脇りえ, 橘啓盛, 苅田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦:メディカルスタッフのためのよくわかる肺がん診療「手術」 チーム医療推進プログラム2 メディカルスタッフのためのよくわかる肺がん診療. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月15日.

21. 橋啓盛, 新井信晃, 三ツ間智也, 平田佳史, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 喜多秀文, 須田一晴, 藤田敦, 古屋敷剛, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 中葉発生原発性肺癌における#11s リンパ節郭清の重要性. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月15日.
22. 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 分葉不全肺癌に対する完全鏡視下肺葉切除術. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月16日.
23. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全胸腔鏡下手術での季肋部切開法の有用性~当施設での最新の取り出し法・応用~. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月16日.
24. 松脇りえ, 祢里真也, 永井完治, 青景圭樹, 菱田智之, 吉田純司, 坪井正博, 近藤晴彦, 石井源一郎: pN2肺扁平上皮癌の再発予測因子-原発巣およびリンパ節転移巣における腫瘍組織の性状と再発への影響-. 第55回日本肺癌学会学術集会, 京都, 2014年11月16日.
25. 中里陽子, 新井信晃, 三ツ間智也, 平田佳史, 松脇りえ, 橋啓盛, 河内利賢, 荻田真, 長島鎮, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 医局長のあり方~女性外科医の視点から~ Japan Association of Women Surgeons 共催企画3. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月21日.
26. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 当科における完全鏡視下肺全摘術の検討. 第23回長岡肺癌研究会, 長岡, 2015年2月6日.
27. 荻原利弥, 河内利賢, 平田佳史, 松脇りえ, 橋啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 縦隔結腸瘻により胸骨正中切開創の便汁汚染を併発した1例. 第24回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 軽井沢, 2015年2月20日.
28. 平野浩一, 菅間博: 甲状腺癌は怖くない? -甲状腺癌の病理を知る. 市民公開講座, 三鷹, 2015年3月11日.
29. Tanaka R, Schindler N, Deasis FJ, Derevianko AY, Zhao JC, Ujiki M: Dedicated two week proficiency-based simulation curriculum for surgical residents. 8th Annual Meeting of the Consortium of ACS - Accredited Education Institutes, USA, March 13th, 2015.

論文  
和文

1. 近藤晴彦: 知らない? 知りたい? 術者がこっそり教える解剖はなし 呼吸器外科. オペナーシング 29(8): 683, 2014.
2. 橋啓盛, 近藤晴彦: 画像診断 Q&A. 胸部外科67(2): 142-145, 2014.

欧文

1. Takei H, Kondo H, Miyaoka E<sup>1</sup>, Asamura H<sup>2</sup>, Yoshino I<sup>3</sup>, Date H<sup>4</sup>, Okumura M<sup>5</sup>, Tada H<sup>6</sup>, Fujii Y<sup>7</sup>, Nakanishi Y<sup>8</sup>, Eguchi K<sup>9</sup>, Dosaka-Akita H<sup>10</sup>, Kobayashi H<sup>11</sup>, Sawabata N<sup>5</sup>, Yokoi K<sup>12</sup>; Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry. (1Univ of Tokyo, 2National Cancer Center Hospital, 3Chiba Univ, 4Kyoto Univ, 5Osaka Univ, 6Osaka City General Hospital, 7Nagoya City Univ, 8Kyushu Univ, 9Teikyo Univ, 10Hokkaido Univ, 11National Defense Medical College, 12Nagoya Univ): Surgery for small cell lung cancer: a retrospective analysis of 243 patients from Japanese Lung Cancer Registry in 2004. J Thorac Oncol 9(8): 1140-1145, 2014.
2. Sato T<sup>1</sup>, Teramukai S<sup>2</sup>, Kondo H, Watanabe A<sup>3</sup>, Ebina M<sup>4</sup>, Kishi K<sup>5</sup>, Fujii Y<sup>6</sup>, Mitsudomi T<sup>7</sup>, Yoshimura M<sup>8</sup>, Maniwa T<sup>9</sup>, Suzuki K<sup>10</sup>, Kataoka K<sup>11</sup>, Sugiyama Y<sup>12</sup>, Kondo T<sup>4</sup>, Date H<sup>1</sup>; the Japanese

Association for Chest Surgery (1Kyoto Univ, 2Kanazawa Univ, 3Sapporo Medical Univ, 4Tohoku Univ, 5Toranomon Hospital, 6Nagoya City Univ, 7Aichi Cancer Center Hospital, 8Hyogo Cancer Center, 9Shizuoka Cancer Center, 10Juntendo Univ, 11Hiroshima City Hospital, 12Jichi Medical Univ): Impact and predictors of acute exacerbation of interstitial lung disease after pulmonary resection for lung cancer. J Thorac Cardiovasc Surg 147(5): 1604-1611, 2014.

3. Yamatani C<sup>1</sup>, Abe M<sup>1</sup>, Shimoji M<sup>1</sup>, Maniwa T<sup>1</sup>, Takahashi S<sup>1</sup>, Isaka M<sup>1</sup>, Ohde Y<sup>1</sup>, Watanabe R<sup>1</sup>, Ito I<sup>1</sup>, Kondo H, Nakajima T<sup>1</sup> (1Shizuoka Cancer Center): Pulmonary adenosquamous carcinoma with mucoepidermoid carcinoma-like component with characteristic p63 staining pattern: either a novel subtype originating from bronchial epithelium or variant mucoepidermoid carcinoma. Lung Cancer 84(1): 45-50, 2014.
4. Maniwa T<sup>1</sup>, Endo M<sup>1</sup>, Isaka M<sup>1</sup>, Nakagawa K<sup>1</sup>, Ohde Y<sup>1</sup>, Okumura T<sup>1</sup>, Kondo H (1Shizuoka Cancer Center) : Acute exacerbation of interstitial lung disease with lung cancer after surgery : evaluation with 2-[18]-fluoro-2-deoxy-D-glucose positron emission tomography. Surg Today 44(3): 494-498, 2014.
5. Endo T<sup>1</sup>, Yazawa T<sup>1</sup>, Shishido-Hara Y<sup>1</sup>, Fujiwara M<sup>1</sup>, Shimoyamada H<sup>1</sup>, Ishii J<sup>2</sup>, Sato H<sup>2</sup>, Tachibana K, Takei H, Kondo H, Goya T, Endo S<sup>3</sup>, Kamma H<sup>1</sup> (1Pathol, Kyorin Univ, 2Yokohama City Univ, 3Jichi Medical School): Expression of developing neural transcription factors in lung carcinoid tumors. Pathol Int 64(8): 365-374, 2014.
6. Sato T<sup>1</sup>, Watanabe A<sup>2</sup>, Kondo H, Kanzaki M<sup>3</sup>, Okubo K<sup>4</sup>, Yokoi K<sup>5</sup>, Matsumoto K<sup>6</sup>, Marutsuka T<sup>7</sup>, Shinohara H<sup>8</sup>, Teramukai S<sup>9</sup>, Kishi K<sup>10</sup>, Ebina M<sup>11</sup>, Sugiyama Y<sup>12</sup>, Meinoshin O<sup>13</sup>, Date H<sup>1</sup>; Japanese Association for Chest Surgery (1Kyoto Univ, 2Sapporo Medical Univ, 3Tokyo Women's Medical Univ, 4Tokyo Medical & Dental Univ, 5Nagoya Univ, 6Kishiwada City Hospital, 7Kumamoto Chuo Hospital, 8Niigata Univ, 9Kanazawa Univ, 10Toranomon Hospital, 11Tohoku Pharmaceutical Univ, 12Jichi Medical Univ, 13Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases): Long-term results and predictors of survival after surgical resection of patients with lung cancer and interstitial lung diseases. J Thorac Cardiovasc Surg 149(1): 64-69, 2015.
7. Sato T<sup>1</sup>, Kondo H, Watanabe A<sup>2</sup>, Nakajima J<sup>3</sup>, Niwa H<sup>4</sup>, Horio H<sup>5</sup>, Okami J<sup>6</sup>, Okumura N<sup>7</sup>, Sugio K<sup>8</sup>, Teramukai S<sup>9</sup>, Kishi K<sup>10</sup>, Ebina M<sup>11</sup>, Sugiyama Y<sup>12</sup>, Kondo T<sup>13</sup>, Date H<sup>1</sup> (1Kyoto Univ, 2Sapporo Medical Univ, 3Univ of Tokyo, 4Seirei Mikatahara General Hospital, 5Tottori Univ, 6Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, 7Kurashiki Central Hospital, 8Kyushu Univ, 9Kanazawa Univ, 10Toranomon Hospital, 11Tohoku Pharmaceutical Univ, 12Jichi Medical Univ, 13Tohoku Univ) : A simple risk scoring system for predicting acute exacerbation of interstitial pneumonia after pulmonary resection in lung cancer patients. Gen Thorac Cardiovasc Surg 63(3): 164-172, 2015.
8. Matsuwaki R<sup>1</sup>, Ishii G<sup>1</sup>, Zenke Y<sup>1</sup>, Neri S<sup>1</sup>, Aokage K<sup>1</sup>, Hishida T<sup>1</sup>, Yoshida J<sup>1</sup>, Fujii S<sup>1</sup>, Kondo H, Goya T, Nagai K<sup>1</sup>, Ochiai A<sup>1</sup> (1National Cancer Center Hospital East): Immunophenotypic features of metastatic lymph node tumors to predict recurrence in N2 lung squamous cell carcinoma. Cancer Sci. 105(7): 905-911, 2014.

その他

1. 近藤晴彦:「話題の医学」肺癌診療における腫瘍マーカーの意義についてコメント, 地デジ7ch, 2014年7月20日.

### 外科学教室 (乳腺外科)

#### 講演

1. 伊美建太郎, 井本滋, 上野貴之, 伊東大樹, 宮本快介, 北村真奈美: BONENAVI を用いた乳癌骨転移の定量診断の試み. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3-5日.
2. Yip KW, Zhang Z, Sakemura-Nakatsugawa N, Huang JW, Vu NM, Chiang YK, Lin CL, Kwan JY, Yue S, Jitkova Y, To T, Zahedi P, Pai EF, Schimmer AD, Lovell JF, Sessler JL, Liu FF: A porphodimethene chemical inhibitor of uroporphyrinogen decarboxylase. American Association for Cancer Research Annual Meeting, USA, April 5th-9th, 2014.
3. 上野貴之: 臨床試験の結果からみえる個別化治療の今後の展望. Oncotype Dx セミナー, 東京, 2014年6月21日.
4. 井本滋, 愛甲孝, 坂本純一, 北島政樹: センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩治療の観察研究. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10日.
5. 井本滋, 和田徳昭: ラジオ波焼灼治療のピットフォール. 第10回乳癌低侵襲治療研究会, 大阪, 2014年7月12日.
6. 上野貴之: 血中循環がん細胞・循環ゲノムの検出法と臨床応用. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10-12日.
7. 宮本快介, 伊坂泰嗣, 伊東大樹, 伊美建太郎, 北村真奈美, 上野貴之, 井本滋: 手術療法が施行された IV 期乳癌の検討. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10-12日.
8. 伊東大樹, 井本滋, 上野貴之, 伊美建太郎, 宮本快介, 多田真奈美: Trastuzumab/vinorelbine 療法を施行した HER2陽性進行再発乳癌患者における2次治療に関する検討. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10-12日.
9. 北村真奈美, 上野貴之, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 井本滋: 閉経後HR陽性進行再発乳癌に対するフルベストラント長期使用症例の検討. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10-12日.
10. 上野貴之: 乳癌個別化治療の現状と展望. 第22回日本乳癌学会学術総会 モーニングセミナー, 大阪, 2014年7月10-12日.
11. 上野貴之: HER2陽性 MBC 治療の New Standard. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2014年7月17-19日.
12. Ueno T: Preoperative systemic therapy for HER2 positive breast cancer. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡, 2014年7月17-19日.
13. 上野貴之: イントリンジックサブタイプ. 日本乳癌学会専門医セミナー, 東京, 2014年8月9日.
14. 上野貴之: HER2陰性 MBC の個別化への挑戦. 静岡乳癌シンポジウム, 静岡, 2014年8月23日.
15. 上野貴之: HER2陰性進行再発乳癌に対する1次化学療法のエビデンス. 第52回日本癌治療学会学術集会 イブニングセミナー, 横浜, 2014年8月28日-30日.
16. 伊坂泰嗣: 乳がん検診を正しく受けるために. 久我山地域住民・一般公開講座, 東京, 2014年9月13日.
17. Imoto S, Ueno T, Ito H, Imi K, Miyamoto K, Kitamura M: Phase II study on radiofrequency ablation in early breast cancer. Presented at the scientific meeting of the Japan-Hungary-Poland Surgical Society. Tokyo, September 17th, 2014.
18. 上野貴之: 新規分子標的治療薬の意義と今後の展望. 横浜乳癌シンポジウム, 横浜, 2014年9月20日.
19. Ueno T, Tanaka S, Fujisawa N, Imoto S, Toi M: Circulating epithelial and endothelial cells in breast cancer patients— Its implications in cancer treatment. 第73回日本癌学会学術集会, 横浜, 2014年9月25-27日.
20. Tanaka S, Ueno T, Ishiguro H, Morita S, Toi M :The alteration of circulating endothelial progenitor cell counts during neoadjuvant chemotherapy. 第73回日本癌学会学術集会, 横浜, 2014年9月25-27日.
21. Imoto S, Nakatsugawa N, Ueno T, Isaka H, Ito H, Imi K, Nakatsura T: Host-tumor immune response for breast cancer patients treated with radiofrequency ablation. 第73回日本癌学会学術集会, 横浜, 2014年9月25-27日.
22. Imoto S, Ueno T, Ito H, Imi K, Miyamoto K, Kitamura M: Can radiofrequency ablation be an alternative to breast-conserving surgery in early breast cancer?. Presented at 34th congress of the European Society of Surgical Oncology. UK, October 29th, 2014.
23. 上野貴之: HER2陰性 MBC の個別化治療戦略. 多摩乳癌分子標的治療研究会, 東京, 2014年11月28日.
24. 上野貴之: 進行再発乳癌のホルモン治療. 多摩乳癌懇話会, 東京, 2014年12月4日.
25. 上野貴之: 薬剤作用から考えるハラヴェンの可能性. 第11回日本乳癌学会関東地方会, 大宮, 2014年12月6日.
26. Imoto S, Nagamine S, Ito T, Tsuda H, Yoshida M, Tozaki M, Morita S, Ueno T: Phase II study on radiofrequency ablation in stage 0 and I breast cancer without extensive intraductal components. Presented at 37th San Antonio Breast Cancer Symposium. USA, December 10th, 2014.
27. 上野貴之: 乳癌治療の基礎と今後の展望. 三鷹市医師会, 東京, 2015年2月20日.
28. 上野貴之: ER 陽性 HER2陰性進行再発乳癌のメカニズムと新しい治療戦略. 桶狭間BCキャンプ, 名古屋, 2015年2月21日.

#### 論文

1. Ueno T, Masuda N, Yamanaka T, Saji S, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Sasano H, Toi M: Evaluating the 21-gene assay Recurrence Score® as a predictor of clinical response to 24weeks of neoadjuvant exemestane in estrogen receptor-positive breast cancer. *Int J Clin Oncol*.19(4): 607-13, 2014.
2. Shibayama O, Yoshiuchi K, Inagaki M, Matsuoka Y, Yoshikawa E, Sugawara Y, Akechi T, Wada N, Imoto S, Murakami K, Ogawa A, Akabayashi A, Uchitomi Y: Association between adjuvant regional radiotherapy and cognitive function in breast cancer patients treated with conservation therapy. *Cancer Med* 3(3):702-709, 2014.
3. Oba MS, Imoto S, Toh U, Wada N, Kawada M, Kitada M, Masuda N, Taguchi T, Minami S, Jinno H, Sakamoto J, Morita S: Observational Study of Axilla Treatment for Breast Cancer Patients with 1-3 Positive Micrometastases or Macrometastases in Sentinel Lymph Nodes. *Jpn J Clin Oncol* 44(9):876-879, 2014.
4. 上野貴之: 多重遺伝子診断と HER2陽性乳がん. *腫瘍内科* 14: 208-212, 2014.
5. 上野貴之: 細胞増殖と細胞死の評価. *Pharma Medica* 32: 19-23, 2014.

6. 上野貴之:個別化医療の今後. Mebio 31: 52-57, 2014.
7. 井本滋, 白石知大:皮膚温存乳房切除術. 外科 76(9): 963-968,2014.
8. 野村久祥, 川上英泰, 臼井浩昭, 鈴木真也, 井本滋, 齋藤真一郎:第一世代セロトニン拮抗薬とリン酸デキサメタゾン2 剤による乳がん AC 療法点滴投与開始時刻に合わせた薬剤師内服指導による悪心・嘔吐の報告(第2報). 癌と化学療法 41(9):1129-1133,2014.
9. 井本滋:センチネルリンパ節転移陽性乳癌の治療方針. 癌と化学療法 41(13):2560-2562,2014.
10. Mukai H, Noguchi S, Akiyama F, Inaji H, Iwase H, Horiguchi J, Kurebayashi J, Hirata K, Toi M, Kurosumi M, Kohno N, Nishimura R, Nakamura S, Imoto S, Iwase T, Endo T, Saeki T, Ogawa Y, Ito Y, Tokuda Y, Ikeda T: 2013 clinical practice guidelines (The Japanese Breast Cancer Society): history, policy and mission. Breast Cancer 22(1):1-4,2015.

### 著書

1. 井本滋:がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編. 東京, 中外医学社, 2014.
2. 井本滋:乳癌. ガイドライン外来診療2014. 泉孝英編. 東京, 日経メディカル開発, 2014.

### 小児外科学教室

#### 講演

1. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 望月智弘, 佐藤順一郎:当院における膈ヘルニア手術の工夫(簡単に誰でもできる切り株法). 第51回小児外科学会総会, 大阪, 2014年5月8日.
2. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友:膈部小切開で手術を行った7例の検討. 第51回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2014年5月8日.
3. 浮山越史, 長村敏生, 岩中督:「小児腸重積症の診療ガイドライン」公表後調査, 第51回日本小児外科学会学術集会, 大阪, 2014年5月10日.
4. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友:当科における術後イレウスの検討, 第28回日本小児救急医学会学術集会, 横浜, 2014年6月6日.
5. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一郎:先天性小腸閉鎖症と胎便性腹膜炎. 第112回東京小児外科研究会, 東京, 2014年6月17日.
6. 浮山越史:小児救急における小児外科疾患-臨床・看護の現場で役立つ知識-. 第9回小児救急医療ワークショップ in 北九州, 北九州市, 2014年8月2日.
7. 浮山越史:こどもにもアンチエイジングは必要だ. 日本抗加齢医学会専門医・指導士認定委員会主催講演会, 名古屋, 2014年10月5日.
8. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一郎:先天性食道閉鎖症の特殊型-Kluth IIIb3型. 第49回関東甲信越地方会, 千葉, 2014年10月11日.
9. 佐藤順一郎, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友:上顎体と鑑別を要した右頬粘膜の骨外性歯牙腫の一例. 第49回日本小児外科学会関東甲信越地方会, 千葉, 2014年10月11日.
10. Ikeda T, Ukiyama E, Nirasawa Y, Kohno N: A case of ectopic odontoma : a rare and unusual case report of eruption of compound odontoma.The 31st Congress of the Pan - Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taipei,November 2nd,2014.

11. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一郎, 楊国昌, 野村優子, 保科弘明:当院における外科疾患を伴った13, 18trisomy 症例の検討. 第30回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 淡路島, 2014年11月1日.
12. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 佐藤順一郎:当院で経験したボタン電池誤飲症例の検討. 第76回日本臨床外科学会総会, 郡山, 2014年11月21日.
13. 浮山越史:小児救急における超音波検査. 第5回東京井の頭教育セミナー, 三鷹市, 2014年12月6日.

### 平成25年度追加分

#### 講演

1. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 望月智弘, 鮫島由友:当院で経験したボタン電池誤飲症例の検討. 第50回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2014年3月6日.
2. 望月智弘, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友:DIC を初発症状として診断された先天性胆道拡張症の1例. 第832回外科集談会, 東京, 2014年3月8日.

#### 論文

1. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 望月智弘, 鮫島由友:腹部救急における超音波検査のpitfall. 小児外科 46: 360-364, 2014.
2. 浮山越史:腸重積症の非観血的整復. 小児科診療 77: 1521-1524, 2014.
3. 渡邊佳子, 葦澤融司:直腸肛門奇形. こどもケア 9(3):58-61, 2014.

### 救急医学教室

#### 講演

1. 樽井武彦, 大田原正幸, 宮国泰彦, 玉田尚, 山口芳裕:救命救急センターにおける一般外科手術症例の変遷~外科系救急医の果たす役割について~. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月5日.
2. 山田賢治, 海田賢彦, 山口芳裕:重症熱傷に合併した手熱傷の治療について. 第57回日本手外科学会学術集会, 宜野湾, 2014年4月18日.
3. 大畑徹也, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市川正一:ガス壊疽に対する予後予測因子の検討-救命と機能を中心に-. 第87回日本整形外科学会, 神戸, 2014年5月24日.
4. 大森達矢, 山田賢治, 守永広征, 松田岳人, 八木橋巖, 樽井武彦, 松田剛明, 山口芳裕:胸骨圧迫に伴う肋骨骨折の発生について. 第17回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 宇都宮, 2014年5月31日.
5. 海田賢彦, 加藤聡一郎, 宮国泰彦, 庄司高裕, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕:広範囲熱傷における自家培養表皮移植の意義. 第40回日本熱傷学会総会・学術集会, さいたま, 2014年6月5日.
6. 加藤聡一郎, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕:重症熱傷患者の集学的治療と広域医療連携における当院の役割. 第40回日本熱傷学会総会・学術集会, さいたま, 2014年6月6日.
7. 宮国泰彦, 山田賢治, 守永広征, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 海田賢彦, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕:左心房破裂の診断に難渋した墜落外傷の一救命例. 第28回日本外傷学会, 東京, 2014年6月26日.
8. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 山口芳裕, 市村正一:精神疾患患者における骨盤輪骨折の検討. 第40回日本骨折治療学会, 熊

- 本, 2014年6月27日.
9. 松隈卓徳, 大畑徹也, 丸野秀人, 山口芳裕, 市村正一: 多発外傷に伴う踵骨骨折の治療成績. 第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月27日.
  10. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 山下紗季, 星亨, 市村正一, 山口芳裕: 右肩甲帯部重複損傷に同側鎖骨複合骨折と伴った重症外傷の治療経験. 第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月28日.
  11. 大畑徹也: imeractive ease presertation 症例4. 第1回重症四肢外傷シンポジウム, 札幌, 2014年7月19日.
  12. 大畑徹也: この重症解放骨折 貴方ならどうする? 症例10. 第1回重症四肢外傷シンポジウム, 札幌, 2014年7月19日.
  13. 山口芳裕: 足もとの化学兵器. 第36回日本中毒学会総会・学術集会, 東京, 2014年7月26日.
  14. 山口芳裕: 爆発の話～血漿分画製剤の必要性～. 第9回岐阜救急集中治療セミナー, 岐阜, 2014年9月26日.
  15. 山口芳裕: 有事における我が国の医療の対応能力を問う. 名古屋市などの地方都市では, その対応と現状は?. 第4回安全保障・危機管理セミナー, 名古屋, 2014年10月25日.
  16. 大畑徹也, 樽井武彦, 加藤聡一郎, 山口芳裕: 外傷に起因する急性四肢コンパートメント症候群の治療成績の検討. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28日.
  17. 海田賢彦, 宮国泰彦, 庄司高裕, 玉田尚, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 熱傷患者における新しい鎮静鎮痛管理法の功罪. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28日.
  18. 小泉健雄, 和田貴子, 千田晋治, 井田善明, 神山麻由子, 久保祐美子, 久米梢子, 山口芳裕: いのちを守ることを伝えるために. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28日.
  19. 加藤聡一郎, 守永広征, 大田原正幸, 玉田尚, 松田岳人, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 重篤な成人発症インフルエンザ脳症の臨床像と検査結果の推移. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28日.
  20. 大田原正幸, 玉田尚, 伊東杏里, 鈴木準, 小野寺亮, 守永広征, 松田岳人, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: Segmental arterial mediolysis (SAM) による腹部内臓動脈瘤破裂の2例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28日.
  21. 樽井武彦, 西沢良平, 大畑徹也, 松田岳人, 福島秀起, 山田賢治, 松田剛明, 山口芳裕: 重症敗血症の予後は変えられるか. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月29日.
  22. 山田賢治, 海田賢彦, 大畑徹也, 庄司高裕, 井上孝隆, 玉田尚, 松田岳人, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 人工呼吸管理を要した頸髄損傷の6例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月29日.
  23. 小倉裕司, 丸藤哲, 齋藤大蔵, 武山直志, 久志本成樹, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 荒木恒敏, 池田弘人, 小谷穰治, 三木靖雄, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木泰, 田熊清継, 鶴田良介, 山口芳裕, 山下典雄, 相川直樹: sepsis 患者における急性期 DIC スコアの意義. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月29日.
  24. 西沢良平, 宮国泰彦, 山田賢治, 笹沢俊吉, 宮方基行, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 重症発生し重篤化した院内クレブシエラ肺炎の1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月30日.
  25. Tarui T, Yamada K, Matsuda T, Yamaguchi Y: Emergency Medicine in Japan. The 32nd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, November 1st, 2014.
  26. Miyakuni Y, Tarui T, Suzuki J, Onodera R, Shoji T, Kaita Y, Miyauchi H, Fukushima H, Yamada K, Matsuda T, Yamaguchi Y: A survival case of severe deep neck abscess required extensive cervical excision. The 32nd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, November 1st, 2014.
  27. 山口芳裕: 脳卒中診療を支える救急医療システム. 第20回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2015年1月30日.
  28. 松田剛明: ER体制について. 第20回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2015年1月30日.
  29. 笹沢俊吉, 伊東杏里, 鈴木準, 西沢良平, 小野寺亮, 宮国泰彦, 庄司高裕, 宮内洋, 福島秀起, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 鏡視下手術を併用し低侵襲に外科性横隔膜損傷を修復し得た鋭的胸腹部外傷の1例. 第65回日本救急医学会関東地方会, 横浜, 2015年2月7日.
  30. 伊東杏里, 守永広征, 笹沢俊吉, 鈴木準, 西沢良平, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 松田岳人, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 腎動脈瘤破裂による出血性ショックに対しバルーンカテーテルによるflow control下にコイル塞栓術を行い救命し得た1例. 第65回日本救急医学会関東地方会, 横浜, 2015年2月7日.
  31. 鈴木準, 大田原正幸, 伊東杏里, 笹沢俊吉, 鈴木準, 西沢良平, 切刀主税, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 市販薬大量服用による重症カフェイン中毒に対し経時的に血中濃度測定を行い治療した3症例の検討. 第65回日本救急医学会関東地方会, 横浜, 2015年2月7日.
  32. 山口芳裕: 足下の危機管理～遺棄化学兵器の処理と血漿分画製剤の有用性と確保の重要性～. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月26日.
  33. 山口芳裕: 原発事故の特殊性と対応の留意点. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月26日.
  34. 山口芳裕: 海洋国日本の災害対応の未来～艦船を利用した災害医療の組織的介入～. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月27日.
  35. 加藤聡一郎, 山田賢治, 宮内洋, 山口芳裕: 重症熱傷患者都内後方搬送訓練からみた今後の東京DMATの役割. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月27日.
  36. 山口芳裕: 東京オリンピックの医療対応. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月28日.
  37. 山口芳裕: 東京DMAT NBC 特殊チーム. 第20回日本集団災害医学会総会・学術集会, 立川, 2015年2月28日.

## 論文

1. Ogura H, Yamaguchi Y<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Fujishima S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Araki T<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Miki Y<sup>1</sup>, Shiraishi S<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Aikawa N<sup>1</sup> (The Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group): Epidemiology of severe sepsis in Japanese intensive care units: prospective multicenter study. *Journal of Infection and Chemotherapy* 20:157-162, 2014.
2. Fujishima S, Yamaguchi Y<sup>1</sup>, Gando S<sup>1</sup>, Saitoh D<sup>1</sup>, Takeyama N<sup>1</sup>, Kushimoto S<sup>1</sup>, Mayumi T<sup>1</sup>, Araki T<sup>1</sup>, Ikeda H<sup>1</sup>, Kotani J<sup>1</sup>, Miki Y<sup>1</sup>, Shiraishi S<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Suzuki Y<sup>1</sup>, Ogura H<sup>1</sup>, Takuma K<sup>1</sup>, Tsuruta R<sup>1</sup>, Yamashita N<sup>1</sup>, Aikawa N<sup>1</sup> (The Japanese Association

for Acute Medicine Sepsis Registry Study Group) : A multicenter, prospective evaluation of quality of care and mortality in Japan based on the Surviving Sepsis Campaign guidelines. *Journal of Infection and Chemotherapy* 20:115-120, 2014.

- 久保佑美子, 岡本博照<sup>1</sup>, 小泉健雄<sup>2</sup>, 山口芳裕<sup>3</sup>, 松田剛明<sup>3</sup>, 照屋浩司<sup>4</sup>, 和田貴子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・公衆衛生, <sup>2</sup>杏林大・保・救急救命, <sup>3</sup>杏林大・医・救急医学, <sup>4</sup>杏林大・保・公衆衛生): 西多摩医療圏の一病院における二次救急患者の搬送実態: 地理的要因からみた分析. *日臨救医学会誌* 17:522-529, 2014.
- 宇野重起, 山口芳裕<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・救急医学): 高齢者の救命の限界に挑戦する. *救急医* 38:1039-1046, 2014.
- 玉田尚, 山口芳裕<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・救急医学): 熱傷患者に対する麻酔と周術期管理. *救急医* 38:1278-1283, 2014.
- 山口芳裕: 地域の災害対応(東京 DMAT). *日病院会誌* 61:1114-1120, 2014.
- 石川幸史, 山田賢治<sup>1</sup>, 樽井武彦<sup>1</sup>, 海田賢彦<sup>1</sup>, 八木橋巖<sup>1,2</sup>, 松田剛明<sup>1</sup>, 島崎修次<sup>1,3</sup>, 山口芳裕<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医・救急医学, <sup>2</sup>救急救命東京研修所, <sup>3</sup>国士舘大): 病院前救護における熱傷面積評価と気道熱傷を疑う要因について. *日臨救医学会誌* 17:782-788, 2014.
- 道廣岳, 星亨<sup>1</sup>, 工藤文孝<sup>1</sup>, 山岸賢一郎<sup>1</sup>, 大畑徹也<sup>2</sup>, 加藤聡一郎<sup>2</sup>, 市村正一<sup>3</sup>(<sup>1</sup>東大和病院, <sup>2</sup>杏林大・医・救急医学, <sup>3</sup>杏林大・医・整形外科): ガス壊疽の治療成績. *日本骨・関節感染症学会誌* 28:1-4, 2015.
- 加藤聡一郎, 星亨<sup>1</sup>, 大畑徹也<sup>2</sup>, 工藤文孝<sup>1</sup>, 山岸賢一郎<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東大和病院, <sup>2</sup>杏林大・医・救急医学): 創外固定器を definitive fixator として用いた下肢重度開放骨折の検討. *日本創外固定・骨延長学会誌* 26:69-75, 2015.

## 著書

- 山田賢治, 山口芳裕: 7むち打ち症(むち打ち損傷 whiplash injury). *M.P. Medical Practice 内科総合誌*. 東京, 文光堂, 2014. p.140-142.
- 玉田尚, 山口芳裕: 症例検討9熱傷患者「病態変化を見極め, 二手三手を見据えた対応を」. *LiSA コレクション「症例で学ぶ新しい周術期の輸液管理」*. 松永明. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014. p.96-105.
- 山口芳裕: N 災害の現場で, 医療支援を得ることの意義～福島原発事故対応を踏まえて～. *NBC 災害活動マニュアル*. 東京, イカロス出版, 2014. p.32-38.
- 山口芳裕: 「失敗の本質」に学ぶ災害時の医療の組織戦のありかた. *Pharma Medica*. 東京, メディカルレビュー社, 2015. p.45-48.

## 特許等知的財産関係, 報告書

- 山口芳裕: 消防力の整備指針及び消防水利の基準について. 消防力の整備指針及び消防水利の基準に関する検討会報告書 2014年度.

## その他

- 山口芳裕: 救急ワークステーションについてコメント, *日本経済新聞*, 2014年7月10日.
- 山口芳裕: 「生活 患者を生きる」東京 DMAT 6 情報編～阪神大震災の反省から～, *朝日新聞*, 2014年8月3日.
- 山口芳裕: 「情報まるごと」熱中症について解説, *NHK*, 2014年8月8日.
- 山口芳裕: 「モーニングバード」ズズメバチに刺された時の対処法について解説, *テレビ朝日*, 2014年8月18日.

- 山口芳裕: 福島第一原発での教訓を踏まえた突入撤退判断システムの開発について紹介, *産経新聞*, 2014年10月12日.
- 山口芳裕: 「テレ玉イブニング NEWS」原発事故を教訓に「突入撤退判断システム」を開発したことが紹介, *テレビ埼玉*, 2015年3月4日.
- 山口芳裕: 「ニュースウォッチ9」乳頭温泉での硫化水素ガス事故について危険性について解説, *NHK*, 2015年3月18日.

## 脳神経外科学教室

### 講演

- Maruyama K, Yokoi H, Yamaguchi R, Noguchi A, Kono N, Shiohara Y: Optimization of the role of endoscope in transsphenoidal surgery. The 6th World Congress for Endoscopic Surgery of the Brain, Skull Base and Spine, Italy, April 4th, 2014.
- 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 山田深, 傳法倫久, 塩川芳昭: CEA 周術期における INVOS の使用経験. 第23回脳神経外科手術と機器学会, 福岡, 2014年4月18日.
- 岡村耕一, 脊山英徳, 岡野晴子, 傳法倫久, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: 高齢者におけるアルテプラゼ静脈注射療法について. 第27回日本老年脳神経外科学会, 新潟, 2014年4月25日.
- 永根基雄: 神経膠腫の標準治療と多施設共同臨床試験. 第32回日本脳腫瘍病理学会, 徳島, 2014年5月23日.
- 永根基雄: Glioma の遺伝子異常と治療成績. 第32回日本脳腫瘍病理学会, 徳島, 2014年5月23日.
- 永根基雄: 膠芽腫に対するベバシズマブ治療と効果判定. 第32回日本脳腫瘍病理学会, 徳島, 2014年5月24日.
- 小林啓一: Bevacitumab の導入で何が変わったか? ～初発例・再発例をあげて. 脳腫瘍治療セミナー, 東京, 2014年5月30日.
- 岡村耕一: 日本人の脳梗塞治療を考える. 第9回富士・玄海 Stroke Conference, 福岡, 2014年5月30日.
- 岡村耕一, 坪川 民治, 城下博夫, 塩川芳昭, 轉石小百合, 松原幸枝, 宮東 昭彦, 川上 速人: フリーラジカルスカベンジャー, エダラボンによる出血性脳梗塞の抑制, 高血糖ラットモデルを用いた実験. 第14回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2014年6月6日.
- 野口明男, 塩川芳昭: 日本人における MRI 皮質下病変の実態調査. 第23回日本脳ドック学会総会, 下関, 2014年6月7日.
- 横井秀格, 丸山啓介, 高山信之, 田中秀峰, 松本祐磨, 木村奈津子, 塩川芳昭, 甲能直幸: 脊索腫との鑑別が困難であった斜体部悪性リンパ腫の一例. 第26回日本頭蓋底外科学会, 千葉, 2014年6月19日.
- 丸山啓介, 横井秀格, 山口竜一, 野口明男, 甲能直幸, 塩川芳昭: 傍鞍部腫瘍に対する endoscopic skull basesurgery の適応と限界. 第26回日本頭蓋底外科学会, 千葉, 2014年6月19日.
- 佐藤栄志, 小西善史, 林基高, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の初期・中期治療成績. 第20回日本血管内治療学会, 和歌山, 2014年6月20-21日.
- 永根基雄: 再発膠芽腫に対する標準治療: ベバシズマブ単独療法の再発形態解析とベバシズマブ基盤療法の展望. 第21回多摩脳腫瘍研究会, 三鷹, 2014年6月21日.
- 齊藤邦昭, 小林啓一, 千葉知宏, 戸原由紀子, 五明美穂, 岡田啓, 野口明男, 塩川芳昭, 菅間博, 永根基雄: Genetic marker 陰性の Anaplastic Oligodendroglioma の症例, 第21回多摩脳腫瘍研究会, 東京, 2014年6月21日.

16. 久米賢, 田中雅樹, 李政勲, 島田篤, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 治療に難渋している Long-standing overt ventriculomegaly in adults (LOVA)の1例. 三鷹ニューロカンファレンス, 多摩, 2014年6月26日.
17. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 経静脈的塞栓にて access に困難を要した Cavernous Sinus dural AVF の1症例. 第11回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2014年7月12日.
18. 岡田啓, 丸山啓介, 金太一, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: コンピュータグラフィックスによる術前シミュレーションと iPad での閲覧の有用性. 第14回日本術中画像情報学会, 東京, 2014年7月12日.
19. 齊藤邦昭, 武笠晃丈, 鈴木雄一, 井野賢司, 国松聡, 増谷佳孝, 大谷亮平, 高柳俊作, 田中将太, 齊藤延人: Q ball imaging トラクトグラフィ融合ナビゲーションの有用性. 第14回日本術中画像情報学会, 東京, 2014年7月12日.
20. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 岡田啓, 塩川芳昭: Temozolomide-refractory 再発膠芽腫に対する bevacizumab 基盤療法. 第27回東京脳腫瘍治療懇話会, 東京, 2014年7月4日.
21. Nagane M, Lee J, Shishido-Hara Y, Suzuki K, Shimizu S, Umino M, Kobayashi K, Shiokawa Y (Lecture): Prognostic factors for primary central nervous system lymphomas treated with high-dose methotrexate-based chemo-radiotherapy. The 20<sup>th</sup> International Conference on Brain Tumor Research and Therapy, U.S.A, July 23rd, 2014.
22. 永根基雄: 悪性神経膠腫に対する Bevacizumab 治療: Arms or Foe?. 第52回春秋コンgres, 東京, 2014年8月2日.
23. 久米賢, 田中雅樹, 丸山啓介, 横井秀格, 塩川芳昭: transthemoidal meningoencephalocele により中年以降に非外傷性髄液鼻漏を発症した1例. 第124回脳神経外科関東地方会, 東京, 2014年9月6日.
24. 末松慎也, 高井敬介, 石田渉, 岩室宏一, 谷口真: 胸椎部脊髄症: 軽微な脊髄圧迫症例の画像所見の特徴と手術転帰. 杏林大学脳神経外科夏季セミナー, 多摩, 2015年9月12日.
25. 岡田啓, 小林啓一, 野口明男, 齊藤邦昭, 永根基雄, 塩川芳昭: 術中モニタリング及び術中受注蛍光診断を併用したナビゲーション下腫瘍摘出の pitfall. 第19回日本脳腫瘍の外科学会, 東京, 2014年9月12日.
26. 久米賢, 丸山啓介, 山口竜一, 野口明男, 塩川芳昭: 傍鞍部腫瘍に対する endoscopic skull base surgery. 第19回日本脳腫瘍の外科学会, 東京, 2014年9月12日.
27. 佐藤栄志: 破裂脳底動脈先端部動脈瘤の一例. 第8回東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2014年9月20日.
28. 永根基雄: 中枢神経系原発悪性リンパ腫: 治療の進歩と展望. PCNSL - 頭蓋内悪性リンパ腫. 広島, 2014年9月26日.
29. Okada K, Maruyama K, Torii M, Okamura K, Seyama H, Yamada S, Dembo T, Shiokawa Y: Experience of in Vivo Optical Spectroscopy during and after carotid endarterectomy. 12th Japanese - Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Osaka, September 26th, 2014.
30. Maruyama K, Tanaka M, Okada K, Noguchi A, Shiokawa Y: Multimodality surgery including preoperative simulation for vascular malformations in the eloquent area. 12th Japanese - Korean Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke, Osaka, September 26th, 2014.
31. 木村唯子, 川崎隆, 谷口真, 横地房子, 海津敬倫, 塩川芳昭, 渡辺英寿: DBS 手術で視床亜核のMRIターゲットングは可能か?. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
32. 野口明男, 塩川芳昭: Trans laminar terminalis approach における術野の定量解析. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
33. 武笠晃丈, 相原功輝, 齊藤邦昭, Johnson Brett E, 高柳俊作, 上田宏生, 山本尚吾, 辰野健二, 永江玄太, 成田善孝, 永根基雄, 西川亮, 植木敬介, Costello Joseph F, 油谷浩幸, 齊藤延人: 化学療法剤による神経膠腫ゲノム不安定性の加速の可能性. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
34. 田中雅樹, 塩川芳昭: DICOM データ計測による後角穿刺点の検討. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
35. 岡田恭子, 永根基雄, Wendy Ha, Mustafa Khasraw, Kerrie L McDonald: PARP inhibitor 併用 TMZ 療法の再発及び temozolomide 耐性膠芽腫細胞株に対する効果. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
36. 岡田啓, 小林啓一, 野口明男, 齊藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 膠芽腫における accelerated failure time モデルを用いた自験例の検討. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
37. 佐藤研隆, 塩川芳昭, 鳥居正剛, 脊山英徳, 岡村耕一: 高齢者における STA-MCA bypass 術の治療成績. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
38. 相原功輝, 武笠晃丈, 後藤健吾, 永江玄太, 齊藤邦昭, 成田善孝, 油谷浩幸, 齊藤延人: ゲノム解析に基づいた小児脳腫瘍治療戦略の成人脳腫瘍への応用の可能性. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
39. 佐々木重嘉, 岡村耕一, 熊切敦, 河合拓也, 田中雅樹, 塩川芳昭: SAH 患者における PiCCO モニタリングの使用経験. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月9日.
40. 丸山啓介, 金太一, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: iPad を用いたコンピュータグラフィックスによる術前シミュレーション操作. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月10日.
41. 熊切敦, 塩川芳昭, 小林祥泰: くも膜下出血における脳血管攣縮の頻度と合併症の関係. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月10日.
42. 鳥居正剛, 脊山英徳, 岡村耕一, 小松原弘一郎, 佐藤研隆, 佐藤栄志, 小西善史, 塩川芳昭: 頸動脈狭窄症に対する当施設での血行再建術の適応と治療成績. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月10日.
43. 齊藤邦昭, 武笠晃丈, 永江玄太, 相原功輝, 大谷亮平, 高柳俊作, 小俣麻友, 田中将太, 成田善孝, 植木敬介, 西川亮, 永根基雄, 油谷浩幸, 齊藤延人: メチル化網羅的解析により同定された神経膠腫悪性転化に伴う脱メチル化. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月10日.
44. 小林啓一, 齊藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫に対する各種化学療法における再発形態と予後の解析. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月10日.
45. 永根基雄: 再発膠芽腫に対する標準治療: ベバシズマブ単独療法の再発形態解析とベバシズマブ基盤療法の展望. 第73回日本脳神経外科学会学術総会, 東京, 2014年10月10日.
46. 島田大輔, 堂福翔吾, 野村昌志, 広川大輔, 齊藤徹, 寺西裕, 堀川弘史, 太田貴裕, 水谷 徹: 高齢者の CEA についての検

- 討. 第71回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
47. 佐藤栄志, 小松原弘一郎, 島田篤, 林基高, 笹森寛生, 河合拓也, 脊山英徳, 小西善史, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の初期・中期治療成績—特に虚血性合併症について. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  48. 岡村耕一, 鳥居正剛, 傳法倫久, 山田深, 岡島康友, 塩川芳昭: 高齢者におけるアルテプラザー静脈注射療法について. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  49. 山口竜一, 野口明男, 丸山啓介, 田中雅樹, 小林啓一, 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 当院における未破裂脳動脈瘤診療の実態. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  50. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 笹森寛生, 鳥居正剛, 傳法倫久, 塩川芳昭: 急性期脳底動脈閉塞に対する血行再建療法の治療成績. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  51. 本田有子, 野口明男, 牛場克明, 田村晃, 櫻井孝, 塩川芳昭: 日本人における MRI 皮質下病変の実態調査. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  52. 阿部泰明, 横矢重臣, 丸山啓介, 野口明男, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 意識障害を伴う基礎疾患を有する慢性硬膜下血腫患者の重症化の検討. 第73回日本脳神経外科学会総会, 東京, 2014年10月11日.
  53. 久米賢, 田中雅樹, 李政勲, 島田篤, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 治療に難渋した Long-standing overt ventriculomegaly in adults (LOVA)の1例. 日本水頭症脳脊髄液学会第7回学術集会, 東京, 2014年10月26日.
  54. 久米賢, 丸山啓介, 田中雅樹, 野口明男, 塩川芳昭: 視床への進展を二期的に全摘出した松果体部巨大奇形腫の1例. 第11回脳神経外科手術夜話, 多摩, 2014年10月31日.
  55. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の化学療法: Current Trends and Challenges. 平成26年度鹿児島県医師会生涯教育認定申請講座, 鹿児島, 2014年11月7日.
  56. 小林啓一, 野口明男, 斎藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 術後不全麻痺と後頭葉脳梗塞を生じた痛恨の側頭葉巨大膠芽腫の1例. 第50回多摩脳神経外科懇話会, 武蔵野, 2014年11月13日.
  57. 今井大也, 佐藤研隆, 田中雅樹, 永根基雄, 塩川芳昭: 膠芽腫の放射線化学療法後に発症した中大脳動脈閉塞を呈した1例. 第43回杏林医学会総会, 多摩, 2014年11月15日.
  58. 川井田善太郎, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 横・S 状静脈洞部硬膜動静脈瘻に対し観血的導入動脈遮断術が有効であった1例. 第43回杏林医学会総会, 多摩, 2014年11月15日.
  59. 久米賢, 田中雅樹, 李政勲, 島田篤, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 治療に難渋した Long-standing overt ventriculomegaly in adults (LOVA)の1例. 第43回杏林医学会総会, 多摩, 2014年11月15日.
  60. Nagane M, Kobayashi K, Saito K, Shiokawa Y: Recurrent patterns of bevacizumab monotherapy for recurrent primary glioblastoma. The 19th Annual Scientific Meeting and Education Day of the Society for Neuro-Oncology, U.S.A. November 13th-16th, 2014.
  61. Saito K, Mukasa A, Nagae G, Aihara K, Omata M, Otani R, Takayanagi S, Tanaka S, Shibahara J, Takahashi M, Momose T, Shimamura T, Narita Y, Ueki K, Nishikawa R, Nagane M, Miyano S, Aburatani H, Saito N: Genome-wide methylation analysis identifies genomic DNA demethylation during malignant progression of gliomas. 19th Annual Scientific Meeting of the Society for Neuro-Oncology, U.S.A, November 16th, 2014.
  62. 齊藤邦昭, 武笠晃丈, 鈴木雄一, 井野賢司, 大谷亮平, 高柳俊作, 田中將太, 国松聡, 増谷佳孝, 齊藤延人: Q ball imaging tractographyを用いた脳腫瘍手術. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 浦安, 2014年11月30日.
  63. 岡田啓, 小林啓一, 野口明男, 斎藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 膠芽腫における accelerated failure time モデルを用いた自験例の検討. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年11月30日.
  64. 永根基雄, 福村知隆, 上野敏秀, 李政勲, 原由紀子, 三島一彦, 市村幸一, 武笠晃丈, 成田善孝, 西川亮, 間野博行: 中枢神経系原発悪性リンパ腫における全エクソシーケンスによる遺伝子異常解析. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年12月1日.
  65. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 塩川芳昭: ベバシズマブ単独療法の再発形態と予後解析. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年12月1日.
  66. 小林啓一, 斎藤邦昭, 佐々木重嘉, 岡田啓, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する R-MPV 療法の治療成績. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年12月1日.
  67. 小林啓一, 斎藤邦昭, 佐々木重嘉, 岡田啓, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発悪性神経膠腫に対するベバシズマブ+ニムスチン併用療法 (BEVAC 療法) の試み. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年12月1日.
  68. 岡田恭子, 永根基雄, Wendy Ha, Chung Sylvia, Mustafa Khasraw, Kerrie L McDonald: PARP inhibitor 併用 TMZ 療法の再発及び temozolomide 耐性膠芽腫細胞株に対する効果. 第32回日本脳腫瘍学会学術集会, 千葉, 2014年12月1日.
  69. 佐藤栄志, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 島田篤, 林基高, 河合拓也, 脊山英徳, 小西善史, 塩川芳昭: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の中期治療成績. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月4日.
  70. 笹森寛生, 鳥居正剛, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 杏林大学における tPA 静注療法無効例に対する血管内治療の現状. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月4日.
  71. 林基高, 畑中良, 宇都宮利史, 山下圭一, 原田洋一, 畑山徹, 河野拓司, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 小西善史, 土屋一洋, 飯塚有応: 手術加療を要した硬膜動静脈瘻の2例. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月6日.
  72. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 笹森寛生, 鳥居正剛, 傳法倫久, 塩川芳昭: 破裂前交通動脈瘤不完全クリッピングに対してコイル塞栓術を行った1例. 第30回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 横浜, 2014年12月4-6日.
  73. 久米賢, 阿部泰明, 田中雅樹, 丸山啓介, 野口明男, 永根基雄, 塩川芳昭: 顎関節に浸潤し, めまいにて発症した中頭蓋底巨細胞腫の1例. 第125回脳神経外科関東地方会, 東京, 2015年12月6日.
  74. 山口竜一, 野口明男, 岡村耕一, 熊切敦, 岡田啓, 佐々木重嘉, 塩川芳昭: 前回手術による癒着が強く, 再手術の際に内頸動脈損傷を来した SAH の1例. 第7回南十字星手術カンファレンス, 千葉, 2015年1月11日.

75. 塩川芳昭:脳血管外科から入る脳神経外科手術修練. 第2回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス, 東京, 2015年1月24日.
76. 丸山啓介, 横井秀格, 山口竜一, 野口明男, 甲能直幸, 塩川芳昭:傍鞍部腫瘍に対する耳鼻科との4 hands endonasal surgery.第2回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス, 東京, 2015年1月24日.
77. 鳥居正剛:CEA 術中のブレード摘出前後での頸動脈超音波内頸動脈血流量評価の有用性-過還流症候群の予知を念頭ににした-. 第44回日本脳卒中の外科学会学術集会, 広島, 2015年3月26日.
78. 正木瑤子, 山田深, 仁科彩子, 岡島康友, 鳥居正剛, 平野照之, 塩川芳昭:90歳以上の急性期脳卒中患者におけるADLに与える因子の検討. 第40回日本脳卒中学会学術集会, 広島, 2015年3月26日.
79. 佐々木重嘉, 岡村耕一, 熊切敦, 河合拓也, 田中雅樹, 塩川芳昭:SAH患者におけるPiCCOモニタリングの使用経験. 第40回日本脳卒中学会学術集会, 広島, 2015年3月26日.
80. 林良幸, 山田深, 鳥居正剛, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭:頸動脈内膜剥離術後の迷走および舌下神経麻痺による嚥下障害を呈した1例. 第40回日本脳卒中学会学術集会, 広島, 2015年3月26日.
81. 丸山啓介:Eloquent AVMに対するiPadでの術前シミュレーション. 第44回日本脳卒中の外科学会学術集会, 広島, 2015年3月27日.
82. 山口竜一, 野口明男, 丸山啓介, 田中雅樹, 小林啓一, 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 塩川芳昭:当院における未破裂脳動脈瘤診療の実態. 第44回日本脳卒中の外科学会学術集会, 広島, 2015年3月27日.
83. 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 丸山啓介, 山田深, 傳法倫久, 塩川芳昭:CEA周術期におけるINVOSのパターン解析. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月27日.
84. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 笹森寛生, 傳法倫久, 塩川芳昭:急性期脳底動脈閉塞に対する血行再建療法の治療成績:連続13例における画像評価と予後に関する検討. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月27日.
85. 佐藤栄志, 島田篤, 林基高, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 脊山英徳, 小西善史, 塩川芳昭:ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の中期治療成績. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月28日.
86. 佐藤栄志, 島田篤, 林基高, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 小西善史, 野口明男, 塩川芳昭:直達手術後の脳動脈瘤内コイル塞栓術-不完全クリッピング術またはクリッピング術後再発例に対する再治療-. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月28日.
- hemorrhage study.Stroke. 45(3):868-870,2014.
4. 塩川芳昭:comments 高精細融合3次元画像を用いた術中支援. CI研究(35)2:103,2014.
5. Iihara K, Nishimura K, Kada A, Nakagawara J, Ogasawara K, Ono J, Shiokawa Y, Aruga T, Miyachi S, Nagata I, Toyoda K, Matsuda S, Miyamoto Y, Suzuki A, Ishikawa K B, Kataoka H, Nakamura F, Kamitani S: Effects of Comprehensive Stroke Care Capabilities on In-Hospital Mortality of Patients with Ischemic and Hemorrhagic Stroke:J - ASPECT Study. PLoS ONE 9(5): e96819,2014.
6. Nishimura K,Nakamura F,Takegami M,Fukuhara S,Nakagawara J, Ogasawara K,Ono J,Shiokawa Y,Miyachi S,Nagata I,Toyoda K, Matsuda S,Kataoka H,Miyamoto Y,Kitaoka K, Kada A,Iihara K, J-ASPECT Study Group: Cross-sectional survey of workload and burnout among Japanese physicians working in stroke care: the nationwide survey of acute stroke care capacity for proper designation of comprehensive stroke center in Japan (J-ASPECT) study. Circ Cardiovasc Qual Outcomes 7(3):414-422,2014.
7. Koga M, Arihiro S, Hasegawa Y, Shiokawa Y, Okada Y,Kimura K, Furui E, Nakagawara J, Yamagami J, Kario K,Okuda S,Tokunaga K,Takizawa H, Takasugi J, Sato S, Nagatsuka K, Minematsu K, Toyoda K, and for the Stroke Acute Management with Urgent Risk - factor Assessment and Improvement ( SAM for Blood Pressure Lowering in Acute InURAI) Study Investigators: Intravenous Nicardipine Dosingtracerebral Hemorrhage : The Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement-Intracerebral Hemorrhage Study. J J Stroke Cerebrovasc Dis. 23(10):2780-7 2014 .
8. Nagane M, Kobayashi K, Tanaka M, Sato K, Tsuchiya K, Shishido - Hara Y, Shiokawa Y. Predictive significance of mean apparent diffusion coefficient value for responsiveness of temozolomide - refractory malignant glioma to bevacizumab: preliminary report. Int J Clin Oncol 19: 16-23, 2014.
9. Shishido-Hara Y, Yazawa T, Nagane M, Higuchi K, Abe-Suzuki S, Kurata M, Kitagawa M, Kamma H, Uchihara T : JC viral inclusions in progressive multifocal leukoencephalopathy : Scaffolding promyelocytic leukemia nuclear bodies grow with cell cycle transition through an S-to-G2-like state in enlarging oligodendrocyte nuclei. J Neuropathol Exp Neurol 73(5): 442-453, 2014.
10. Feng H, Lopez GY, Kim CK, Alvarez A, Duncan CG, Nishikawa R, Nagane M, Su A-J, Auron PE, Hedberg ML, Wang L, Raizer JJ, Kessler JA, Parsa AT, Gao W, Kim S, Jashi K, Nakano I, Grandis JR, McLendon RE, Bigner DD, Lin H-K, Furnari FB, Cavene WK, Hu B, Yan H, Cheng S-Y: EGFR Phosphorylation of DCBLD2 Recruits TRAF6 and Stimulates Akt-promoted Tumorigenesis. J Clin Invest. 124(9):3741-3756,2014.
11. Keino H,Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral - domain optical coherence tomography patterns in intraocular lymphoma. Ocular Immunology and Inflammation, :1-15, 2015.
12. 永根基雄:神経膠腫の化学療法トピックス. 治療の最前線「第20回」. BRAIN 114: 6-7, 2014.
13. 永根基雄:再発膠芽腫 (in Japanese). 脳21, 17 (1): 20-28, 2014.
14. 永根基雄:悪性神経膠腫に対する抗血管新生療法と課題 (Anti-angiogenic therapy for malignant glioma). 癌と化学療法

## 論文

1. 塩川芳昭:くも膜下出血. 今日の治療指針 私はこう治療している TODAY'S THERAPY 56:836-839, 2014.
2. 塩川芳昭:穿頭脳室ドレナージ術の新技术. 脳神経外科ジャーナル23(4):330,2014.
3. Kobayashi J,Koga M,Tanaka E,Okada Y,Kimura K,Yamagami H,Okuda S,Hasegawa Y,Shiokawa Y,Furui E,Nakagawara J,Kario K,Okata T,Arihiro S,Sato S,Nagatsuka K,Minematsu K,Toyoda K ; SAMURAI Study Investigators : Continuous antihypertensive therapy throughout the initial 24 hours of intracerebral hemorrhage: the stroke acute management with urgent risk-factor assessment and improvement-intracerebral

- 41 (2): 141-147, 2014.
15. 永根基雄: Key Note Lecture ベバシズマブが治療イノベーションを起こした意義と初期治療での意義～膠芽腫～. がんと抗血管新生療法: 17, 2014.
  16. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の治療効果判定の画像診断. CI 研究 36 (2): 2014(in press).
  17. 永根基雄: ベバシズマブによる初発膠芽腫治療. 腫瘍内科 13 (2): 278-288, 2014.
  18. 永根基雄: 膠芽腫. In 神経症候群 III—その他の神経疾患を含めて— [第2版]. 日本臨牀 別冊 28: 47-52, 2014.
  19. 永根基雄: 脳神経外科医が解説する血液腫瘍: 悪性リンパ腫. 脳神経外科速報 24 (6): 658-668, 2014.
  20. Nagane M: Dose-dense temozolomide - Is it still promising?. Neurol Med Chir 55(1):38-49, 2015.
  21. 佐藤栄志: 橋出血後の予後-高血圧性橋出血の急性期の生命予後と慢性期の機能予後について. 日本臨牀 72(増刊7):373-375, 2014.
  22. 佐藤栄志: 脳血管撮影. 神経内科研修ノート:101-104, 2014.
  23. 野口明男: Extradural temporopolar approach の進め方と考え方. 脳神経外科速報 24:952-958, 2014.
  24. 野口明男, 佐藤栄志, 小西善史, 清水淑恵, 田中雅樹, 山口竜一, 丸山啓介, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 脳動静脈奇形の治療. The Mt. Fuji Workshop on CVD 32: 93-96, 2014.
  25. 丸山啓介, 小林啓一, 田中雅樹, 野口明男, 土屋一洋, 小林邦典<sup>1</sup>, 永根基雄, 塩川芳昭<sup>1</sup>(杏林大学放射線科): 脳腫瘍の術中 navigation で参照する適切な融合画像の選択. PROGRESS IN COMPUTED IMAGING 35(1):13-20, 2014.
  26. 丸山啓介: 「速い」「安い」「旨い」パソコン選び, 日常診療に役立つ IT. 脳神経外科速報 24 (3): 337-341, 2014.
  27. 丸山啓介: 動画扱いのスペシャリストになろう, 日常診療に役立つ IT. 脳神経外科速報 24 (5): 582-586, 2014.
  28. 丸山啓介: iMovie での手術ビデオ編集の基本, 日常診療に役立つ IT. 脳神経外科速報 24 (7): 798-802, 2014.
  29. 丸山啓介: iMovie で格調高い手術ビデオを作ろう, 日常診療に役立つ IT. 脳神経外科速報 24 (9): 1026-1029, 2014
  30. 丸山啓介: 医学書の整理術/活用術, 日常診療に役立つ IT. 脳神経外科速報 24 (11): 1250-1253, 2014
  31. 丸山啓介, 塩川芳昭: 側頭葉およびその近傍の腫瘍(中頭蓋窩も含む). 神経症候群[第2版]—その他の神経疾患を含めて— III. 日本臨牀社 別冊 31:454-457, 2014.
  32. Maruyama K, Kin T<sup>1</sup>, Saito T<sup>2</sup>, Suematsu S, Gomyo M<sup>3</sup>, Noguchi A, Nagane M, Shiokawa Y: Neurosurgical simulation by interactive computer graphics on iPad. Int J Comput Assist Radiol Surg 9:1073-1078, 2014.
  33. 丸山啓介, 山口竜一, 野口明男, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 脳室内出血を主体とする破裂脳動脈瘤の治療. 脳卒中の外科 42 (6): 447-452, 2014.
  34. 野口明男, 佐藤栄志, 小西善史, 清水淑恵, 田中雅樹, 山口竜一, 丸山啓介, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 脳動静脈奇形の治療. The Mt Fuji workshop on CVD 32:93-96, 2014.
  35. 小林啓一, 永根基雄, 河合拓也, 野口明男, 塩川芳昭: 高齢者中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する大量 methotrexate 基盤初期治療の成績と展望. Geriatric Neurosurgery 26:63-70, 2014.
  36. Okamura K, Tsubokawa T<sup>1</sup>, Johshita H<sup>1</sup>, Miyazaki H<sup>2</sup>, Shiokawa Y<sup>1</sup>(Department of Neurosurgery, Saitama Cardiovascular and Respiratory Center, <sup>2</sup>Department of Neurosurgery, Kugayama Hospital): Edaravone, a free radical scavenger, attenuates cerebral infarction and hemorrhagic infarction in rats with hyperglycemia. Neurological Reserch 36(1):65-69, 2014.
  37. 岡村耕一, 塩川芳昭: くも膜下出血の原因(脳動脈瘤以外). 日本臨牀72(7):445-448, 2014.
  38. Saito K, Mukasa A, Narita Y, Tabei Y, Shinoura N, Shibui S, Saito N: Toxicity and outcome of radiotherapy with concomitant and adjuvant temozolomide in elderly patients with glioblastoma: a retrospective study. Neurol Med Chir 54(4): 272-9, 2014.
  39. Aihara K, Mukasa A, Gotoh K, Saito K, Nagae G, Tsuji S, Tatsuno K, Yamamoto S, Takayanagi S, Narita Y, Shibui S, Aburatani H, Saito N: H3F3A K27M mutations in thalamic gliomas from young adult patients. Neuro Oncol. 16(1): 140-6, 2014.
  40. Igaki H, Sakumi A, Mukasa A, Saito K, Kunimatsu A, Masutani Y, Hanakita S, Ino K, Haga A, Nakagawa K, Ohtomo K: Corticospinal tract - sparing intensity - modulated radiotherapy treatment planning. Rep Pract Oncol Radiother. 19(5): 310-6, 2014.
  41. Fukushima Y, Imai H, Yoshino M, Kin T, Takasago M, Saito K, Nakatomi H, Saito N: Ptoisis as partial oculomotor nerve palsy due to compression by infundibular dilatation of posterior communicating artery, visualized with three - dimensional computer graphics: case report. Neurol Med Chir 54(3): 214-8, 2014.
- 著書**
1. 塩川芳昭: 脳動脈, 脳室およびくも膜下腔, 脊柱, 脊髄. 標準脳神経外科学第13. 版東京, 医学書院, 2014. p.20-32.
  2. 塩川芳昭: 脳卒中(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・もやもや病). year noteTOPICS 2014-2015内科・外科疾患4th edition 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向. 東京, メディックメディア, 2014. p.307-311.
  3. 永井良三, 鈴木則宏, 荒木信夫, 神田隆, 吉良潤一, 塩川芳昭, 西野一三, 水澤英洋編集: 神経内科 研修ノート, 東京, 診断と治療社, 2014.
  4. 有賀徹, 奥寺敬, 片山容一, 加藤庸子, 栗栖薫, 黒岩敏彦, 塩川芳昭, 平山昌康, 松前光紀編集: すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック改訂2版. 日本脳神経外科救急学会. 東京, メディカ出版, 2015.
  5. 佐藤栄志: 脳血管内治療-メスを使わずに脳の血管の病気に立ち向かう!. 集中ケアナーシングのための急性・上昇患者ケア vol.3, No.2, 東京, 総合医学社, 2014.
  6. 丸山啓介, 塩川芳昭: シミュレーションと手術の実際 末梢, その他②. 中大脳動脈瘤のすべて —シミュレーションで経験する手術・IVR. 井川房夫, 宮地茂編, 大阪, メディカ出版, 2014. p.131-133, .
  7. 丸山啓介, 塩川芳昭: 側頭葉およびその近傍の腫瘍(中頭蓋窩も含む). 日本臨牀(別冊), 神経症候群(第2版) III. 大阪, 日本臨床社, 2014. p.454-457.
  8. 小林啓一: 脳腫瘍～静かに忍び寄る脳腫瘍—神経症状の変化を見逃さない!～. 集中ケアナーシングのための急性・重症患者ケア vol.3 No.2. 東京, 日総研出版, 2014. p.281-292.
  9. 小林啓一, 永根基雄: 放射線治療・化学療法: 成人. 脳神経外科周術期管理のすべて 第4版. 松谷雅生, 田村晃, 藤巻高光, 森田明夫編. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.233-261.
  10. 岡村耕一: 脳神経外科. 新人から使える! 保存版 56術式の看護のツボがわかる! 超早わかり手術看護のササッと先読みポイ

ント, オペナーシング2013年秋季増刊. 東京, メディカ出版, 2014. p.11.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 塩川芳昭, 本田有子, 丸山啓介, 野口明男, 清一美, 曾我隆正, 牛場克明, 田村晃: 日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究(25-6). 長寿医療研究開発費 2014年度分担研究報告書.
2. 塩川芳昭: 包括的脳卒中センターの整備に向けた脳卒中の救急医療に関する研究. 厚生労働科学研究委託費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 2014年度分担研究報告書.
3. 塩川芳昭: 急性期脳卒中への内科複合治療の確立に関する研究. 厚生労働科学研究委託費(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 2014年度分担研究報告書.

#### その他

1. 塩川芳昭: 掲載記事 憂楽帳 家族の病氣. 毎日新聞2014年4月19日夕刊:7.
2. 塩川芳昭: テレビ出演 医 TV スペシャル 脳卒中治療の現場から 脳卒中の再発予防について. BS朝日, 2014年12月27日.
3. 永根基雄: ASCO DIRECT ASCO 公式オンラインプログラム解説. American Society of Clinical Oncology (ASCO), Chicago, 2014年5月30日-6月5日.
4. 永根基雄: 5-ALA による光線力学診断と適正使用. 第31回日本脳腫瘍学会学術集会ランチョンセミナー1 紙上座談会, 2015.

### 心臓血管外科学教室

#### 講演

1. 庄司高裕, 原田裕久, 茅原昭子, 二瓶ゆかり, 中村ゆかり, 池添亨, 山添真治, 内田崇之: 当施設における Vascular access(VA)トラブルに対する Vascular Access Intervention Therapy(VAIVT)の検討. 第34回日本静脈学会, 名護, 2014年4月17日.
2. 山添真治, 庄司高裕, 原田裕久, 池添亨, 中村ゆかり, 茅原昭子, 二瓶ゆかり, 中村ゆかり, 内田崇之: 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療の初期成績. 第34回日本静脈学会, 名護, 2014年4月17日.
3. Kubota H, Endo H, Noma M, Tsuchiya H, Takahashi Y, Inaba Y: Equine Pericardial Roll Graft Replacement of Infected Pseudoaneurysm of the Thoracic Aorta for "Initial Treatment" "IAATSAorticSymposium2014. USA, April 24th, 2014.
4. 池添亨, 布川雅雄, 細井温, 窪田博: 腹部大動脈瘤術後 perigraft seroma に感染をきたした開腹手術を施行した一例. 第42回日本血管外科学会学術総会, 弘前, 2014年5月22日.
5. 西野純史, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 土屋博司, 野間美緒, 窪田博: LIDA-LAD 開存3症例の再開心術における心筋保護法の工夫. 第11回多摩心臓外科学会, 立川, 平成24年5月31日.
6. 土屋博司, 遠藤英仁, 野間美緒, 稲葉雄亮, 窪田博: 感染性心内膜炎術後 PVE に対し 2 度の再手術を施行した 1 例. 胸部外科学会関東甲信越地方会, 横浜, 2014年6月7日.
7. 窪田博, 稲葉雄亮: A 型急性大動脈解離の弓部 tear に対し内膜固定を行い, 弓部置換術を回避した超高齢者の一例. 第34回東京胸部外科懇話会, 東京, 2014年7月19日.
8. 布川雅雄, 池添亨, 根本卓, 細井温, 窪田博: 突発性縦隔血腫の一例. 第14回血管外科アカデミー, 鳴門, 2014年9月6日.
9. 池添亨, 根本卓, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 正中弓状靱帯圧

迫による腹腔動脈狭を伴う十二指腸動脈瘤の一例. 第161回血管外科症例検討会, 三鷹, 2014年9月27日.

10. 根本卓, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 多発塞栓症による重傷虚血肢に対し, 血管内治療と末梢バイパス術を行った一例. 第二回 KPAC, 武蔵野, 2014年9月19日.
11. 遠藤英仁, 野間美緒, 土屋博司, 稲葉雄亮, 西野純史, 平形明人, 窪田博: 間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法施行時の眼底鏡を用いた網膜動静脈観察-臨床例における検討-. 第67回日本胸部外科学会定期学術集会, 福岡, 2014年10月2日.
12. 稲葉雄亮, 野間美緒, 遠藤英仁, 土屋博司, 西野純史, 窪田博: 感染性胸部動脈瘤・人工血管感染に対し Xenopericardial roll graft を用いた8例の手術成績. 第67回日本胸部外科学会定期学術集会, 福岡, 2014年10月2日.
13. Kubota H, Endo H, Noma M, Tsuchiya H, Takahashi Y, Inaba Y, Nishino Y, Tsuboi A: Xenopericardial Roll Graft Replacement to Treat Infectious Pseudoaneurysm or Graft Infection of Thoracic and Thoraco - abdominal Aorta. The 28th European Association Cardio-Thoracic Surgery (EACTS 2014), Italy, October 14th, 2014.
14. 土屋博司, 遠藤英仁, 西野純史, 稲葉雄亮, 野間美緒, 窪田博, 竹谷剛: 緊急 TEVAR 術後の遅延性対麻痺に対し CSFD が著効した一例. 第55回日本脈管学会総会, 倉敷, 2014年10月30日.
15. 根本卓, 細井温, 池添亨, 布川雅雄, 窪田博: 下腿限局型深部静脈血栓症における血栓の経時的変化に関する検討. 第55回日本脈管学会総会, 倉敷, 2014年10月30日.
16. 池添亨, 原田裕久, 庄司隆裕, 山添真治, 疋田聡, 内田崇之: 当施設における Vascular access(VA)トラブルに対する Vascular Access Intervention Therapy(VAIVT)の検討. 第55回日本脈管学会総会, 倉敷, 2014年10月31日.
17. 遠藤英仁, 細井温, 土屋博司, 稲葉雄亮, 高橋雄, 窪田博: 間歇的静脈圧増強逆行性脳灌流法 (Intermittent Pressure Augment-Retrograde Cerebral Perfusion; IPA-RCP) の NIRS による評価. 医用近赤外線分光法研究会, 倉敷, 2014年11月1日.
18. 高橋雄, 遠藤英仁, 土屋博司, 根本卓, 西野純史, 窪田博: 原発性肺高血圧症に伴う LMCA compression syndrome により ACS を発症した一例. 第12回多摩心臓血管外科学会, 立川, 2015年2月7日.
19. 根本卓, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 低心機能を合併した左室内血栓による上腸間膜動脈閉塞症に対する血管内治療の一例. 第24回東京血管外科画像診断治療研究会, 東京, 2015年3月13日.

#### 論文

1. Kubota H: Xenopericardial Roll Graft Replacement to Treat Infectious Pseudoaneurysm or Graft Infection of Thoracic and Thoraco-Abdominal Aorta, Interact CardioVasc Thorac Surg 19 (suppl 1): S97. doi:10.1093/icvts/ivu276.327.(2014).

#### 著書

1. 窪田博: 脈管系疾患による痛みの臨床. ペインクリニック, Vol. 36 No. 2. 東京, 真興交易医書出版部, 2015.
2. 窪田博: TAVI(Transcatheter aortic valve implantation). 杏林医学雑誌46巻1号. 2015.
3. 布川雅雄: 胸部大動脈瘤のステンドグラフト治療. 杏林医学雑誌46巻2号. 2015.
4. 遠藤英仁: 冠動脈バイパス術—変遷と展望—. 杏林医学雑誌46巻1号. 2015.

#### その他

1. 窪田博:高齢者の心臓弁膜症治療. ラジオ NIKKEI「医学講座」. 2014年4月10日.
2. 細井温:座長, 深部静脈血栓症3, 第34回日本静脈学会総会, 沖縄, 2014年4月17日.
3. 西野純史:多摩心臓血管外科学会奨励賞受賞 2014年5月31日.
4. 窪田博:座長, 第233回 日本循環器学会関東甲信越地方会大動脈II, 東京 2014年9月6日.
5. 窪田博:座長, 第67回日本胸部外科学会定期学術集会, 福岡, 2014年10月1日.
6. 細井温:座長, 第55回日本脈管学会総会 その他2, 倉敷, 2014年10月30日.
7. 細井温:会長, 医用近赤外線分光法研究会, 倉敷, 2014年11月1日.
8. 布川雅雄:座長, 「重傷虚血肢に対する外科治療の実際」虚血と感染との戦いー江戸川病院より, 第6回多摩フットケアセミナー, 立川, 2015年3月6日.

### 整形外科学教室

#### 講演 口演

1. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柁英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一:頭蓋刺激一複合筋活動電位による術中脊髄モニタリングの疾患別有効性. 第43回日本脊椎脊髄病学会, 京都, 2014年4月17-19日.
2. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宮坂芳郎, 森脇孝博:ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第4回骨粗鬆症治療研究会, 三鷹, 2014年5月10日.
3. 小谷明弘, 阿部哲士, 石井朝夫, 梶山史郎, 正岡利紀, 齊藤政克, 松下和彦, 山田浩司, 勝呂徹:骨・関節術後感染予防ガイドラインの改正にあたり 術前・術中での術後感染予防のための管理, 対策-縫合糸は SSI に影響するか-. 第87回日本整形外科学会, 神戸, 2014年5月22-25日.
4. 大畑徹也, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一:ガス壊疽に対する予後予測因子の検討(救命と機能を中心に). 第87回日本整形外科学会, 神戸, 2014年5月22-25日.
5. 田島崇, 太田力, 向井原健太, 浅野尚文, 川井章, 森井健司, 近藤格:FUS-CHOP 融合遺伝子産物結合タンパクに着目した粘液型脂肪肉腫のプロテオーム解析. 第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
6. 森井健司, 吉山晶, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一:骨・軟部悪性腫瘍に対する化学療法効果判定における血清 D-dimer 値の有用性. 第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
7. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宝亀登, 宮坂芳郎, 森脇孝博:ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第87回日本整形外科学会, 神戸, 2014年5月22-25日.
8. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 中村克司, 市村正一:変形性膝関節症による慢性疼痛に対するトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の有効性.第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
9. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 望月一男, 市村正一:軟部悪性腫瘍における unplanned resection の実態調査ー臨床的特徴および治療成績への影響ー. 第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
10. 吉山晶, 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一:脂肪腫と高分化型脂肪肉腫の鑑別における血清 D-dimer 値の有用性. 第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
11. Morii T, Yoshiyama A, Tajima T, Aoyagi T, Ichimura S : Endoprosthesis reconstruction for the treatment of musculoskeletal tumors in adult: Present status, limitations and perspe, 第87回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
12. 長谷川雅一, 佐野秀仁, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 高橋雅人, 市村正一:腰椎椎間板ヘルニアに対するMED 後の再手術例の検討. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2014年5月22-25日.
13. 林光俊, 安部学, 上菌紗映, 奥出聡, 加藤英之, 平川淳一, 川上純範, 岡島康友:精神病院における身体リハビリテーション第2報-高所飛び降りによる多発外傷例を主として-. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5日.
14. 大畑徹也:右大腿骨近位部骨折術後インプラント破損. stryker: Kuntscher 75th Anniversary Symposium , 東京, 2014年6月14-15日.
15. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一:骨軟部悪性腫瘍の化学療法における発熱性好中球減少症のリスクについて. 第37回日本骨・関節感染症学会, 東京, 2014年6月21日.
16. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作, 松隈卓徳, 市村正一, 木下欣明, 大柁英明:肘頭骨折に対する LCP olecranon plate の使用経験. 第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月27-28日.
17. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作, 松隈卓徳, 市村正一:橈骨頭骨折に対する DTJ スクリュー®の使用経験. 第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月27-28日.
18. 大畑徹也, 星亨, 丸野秀人, 山口芳裕, 里見和彦:精神疾患患者における骨盤輪骨折の検討. 第40回日本骨折治療学会, 熊本, 2014年6月27-28日.
19. 篠塚信行, 上菌紗映, 林光俊, 平川淳一:精神科病院入院患者のADL 調査 -Barthel Index を用いて-. 第33回東京都理学療法士学術大会, 東京, 2014年7月6日.
20. 奥出聡, 濱田賢二, 篠塚信行, 林光俊, 平川淳一:飛び降りによる多発外傷患者に対する理学療法のアウトカム. 第33回東京都理学療法士学術大会, 東京, 2014年7月6日.
21. 吉山晶, 渡部逸央, 須佐美知郎, 田島崇, 青柳貴之, 森岡秀夫, 戸山芳昭, 市村正一, 森井健司:腎細胞癌骨転移例の治療成績. 第47回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014年7月17-18日.
22. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一:骨軟部悪性腫瘍の化学療法における発熱性好中球減少症. 第47回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014年7月17-18日.
23. 田島崇, 浅野尚文, 向井原健太, 窪田大介, 森井健司, 川井章, 近藤格:Calreticulin の発現差は粘液型脂肪肉腫の悪性度を反映する. 第47回 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会, 大阪, 2014年7月17-18日.
24. 大畑徹也:開放骨折や断端を伴った重症多発四肢外傷症例 salvage or amputation?. 第1回日本重症四肢外傷シンポジウム, 札幌, 2014年7月19-20日.
25. 大畑徹也:治療に難渋した右下腿開放骨折 Gustilo Type III B

- の感染症例. 第1回日本重症四肢外傷シンポジウム, 札幌, 2014年7月19-20日.
26. 長谷川雅一, 井上功三郎, 宮坂芳郎, 市村正一:ビスフォスホネート静注剤の使用経験. 第11回ビスフォスホネート up date, 大阪, 2014年7月24日.
  27. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 坂倉健吾, 市村正一:大腿骨上顆軸と脛骨内反角の相関. 6th JOSKAS, 広島, 2014年7月24-26日.
  28. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 中村克司, 市村正一:変形性膝関節症による慢性疼痛に対するトラマドール塩酸塩/アセアミノフェン配合錠の有効性. 6th JOSKAS, 広島, 2014年7月24-26日.
  29. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 市村正一:当院での BKP の術後新規椎体骨折の実態. 第49回日本脊髄障害医学会, 旭川, 2014年9月11-12日.
  30. 西野衆文, 橋本吉登, 今給黎直明, 林光俊:ユニバシアード代表男女バレーボール選手のメディカルチェック. 日本整形外科スポーツ医学会, 東京, 2014年9月12日.
  31. 藤田耕司, 林光俊, 山口博, 小原和宏, 荒木大輔, 中島耕平:全日本女子バレーボールの障害について. 日本整形外科スポーツ医学会, 東京, 2014年9月12日.
  32. 今給黎直明, 林光俊, 西野衆文, 中嶋耕平:全日本男子シニアバレーボール選手の外傷と障害-11年間の JISS 受診歴を Sports Injury Surveillance program で分類-. 日本整形外科スポーツ医学会, 東京, 2014年9月12日.
  33. 今給黎直明, 林光俊, 福井勉, 西野衆文:バレーボール選手における腹直筋損傷の検討. 日本整形外科スポーツ医学会, 東京, 2014年9月12日.
  34. Inoue K, Hasegawa M, Ichimura S, Inoue T, Hoki N, Miyasaka Y, Moriwaki T: The effects of combination therapy of Raloxifene with Eldecacitol in postmenopausal osteoporosis ~switching from Alfacalcidol to Eldecacitol~. The American Society for Bone and Mineral Research 2014 Annual Meeting, USA, September 12th,-15th, 2014.
  35. 小谷明弘:感染予防の工夫/周術期管理の留意点(骨・関節術後感染予防ガイドライン改定にあたり). 第63回東日本整形災害外科学会, 東京, 2014年9月19-20日.
  36. 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 市村正一:当科での透析性脊椎患者の手術成績. 第63回東日本整形災害外科学会, 東京, 2014年9月19-20日.
  37. 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 吉山晶, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: BH-3 mimetic を用いた軟骨肉腫に対する新規分子標的治療の開発. 第29 回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014年10月9-10日.
  38. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 坂倉健吾, 市村正一:大腿骨上顆軸と脛骨内反角の相関. 第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014年10月9-10日.
  39. 長谷川雅一, 井上功三郎, 宮坂芳郎, 市村正一:ビスホスホネート静注剤の使用経験. 第16回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014年10月23-25日.
  40. 井上功三郎, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宝亀登, 宮坂芳郎, 森脇孝博:ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第16回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014年10月23-25日.
  41. 大畑徹也, 樽井武彦, 加藤総一郎, 市村正一, 山口芳裕:外傷に起因する急性四肢コンパートメント症候群の治療成績の検討. 日本救急医学会, 福岡, 2014年10月28日.
  42. 飯田貴俊, 平井みつよ, 猪股裕子, 津川美木, 土井淳, 平川淳一, 植田耕一郎, 林光俊:精神科病院でおこなう, 摂食嚥下リハビリテーションビデオ嚥下内視鏡検査の導入-. 第28回東京都精神病院協会学会, 東京, 2014年10月28日.
  43. 井上功三郎, 小寺正純, 森脇孝博, 市村正一:寛骨臼に放射線骨壊死を発生した2例. 第41回日本股関節学会, 東京, 2014年10月31日-11月1日.
  44. Ohata T, Hoshi T, Maruno H, Tarui T, Yamaguchi, Ichimura S: Examination of Serum Lactate as a Predictor of Mortality in polytrauma patients with pelvic ring fractures: The 31st Congress of PPSA JC, Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  45. 坂倉健吾, 小谷明弘, 佐々木茂, 市村正一:肩腱板修復術の治療経験-mini-open 法と鏡視下腱板修復術の比較-. 第42回日本関節病学会, 東京, 2014年11月6-7日.
  46. 友利杏奈, 村田光範, 土肥美智子, 林光俊, 三枝大地, 高梨泰彦, 奥脇透, 俵紀行, 川原貴:少年バレーボール選手の最終身長に基づいた予測方法. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014年11月8-9日.
  47. 太田武雄, 萩原芳幸, 岩崎圭祐, 林光俊, 上野俊明, 添島紗夜香, 田中沙織:ナショナルチーム男女バレーボール選手の歯科調査. 第25回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2014年11月8-9日.
  48. 西野雅人, 吉山晶, 青柳貴之, 森井健司, 市村正一:肩甲部に発生した glomus 腫瘍の一例. 第43回杏林医学会総会, 東京, 2014年11月15日.
  49. 渡邊隼人, 青柳貴之, 吉山晶, 森井健司, 小柏靖直, 今西順久, 望月眞, 甲能直幸, 市村正一:悪性傍神経節腫大腿骨骨転移病的骨折の治療経験. 第43回杏林医学会総会, 東京, 2014年11月15日.
  50. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 市村正一:当院での BKP の術後隣接椎体骨折の予防対策. 第22回日本腰痛学会, 幕張, 2014年11月15-16日.
  51. 大畑徹也:大腿骨近位部骨折 Short Femoral Nail 使用時の Tips & Tricks 大腿骨近位部骨折の前方アプローチ . Private Cadaver Training Course, タイ, 2014年11月25-26日.
  52. 小寺正純, 井上功三郎, 市村正一, 森脇孝博:不安定型大腿骨頭すべり症の治療成績. 第25回日本小児整形外科学会, 浦安, 2014年11月27-28日.
  53. 大畑徹也:予防的内腸骨動脈バルーンカテーテル留置し加療を行った高齢者寛骨臼骨折の1例~大量出血リスクを回避するための戦略~. 5th Zimmer Trauma Symposium, 東京, 2015年1月23-24日.
  54. 森井健司, 吉山晶, 青柳貴之, 田島崇, 小菅みづ穂, 村山みゆき, 市村正一, 大塚弘毅, 大西宏明:ドキシソリン耐性骨肉腫細胞株における癌幹細胞性発現とオートファジー. 第6回アクリジンオレンジ治療研究会, 京都, 2015年1月24日.
  55. 長谷川雅一, 長谷川淳, 佐野秀仁, 高橋雅人, 市村正一:治療に難渋したシャルコー脊椎症(Charcot Spine)の1例. 2015脊椎脊髄病研究会, 東京, 2015年2月20日.
  56. 小寺正純, 井上功三郎, 市村正一, 森脇孝博:サポートリングを用いた寛骨臼再剣術の中期成績. 第45回日本人工関節学会, 福岡, 2015年2月27-28日.
  57. 佐藤行紀, 小谷明弘, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 市村正一:変形性膝関節症の進行に伴う大腿骨上顆軸の変化. 第45回日本人工関節学会, 福岡, 2015年2月27-28日.

58. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 市村正一: 当院での BKP の術後新規椎体骨折の実態. 第55回関東整形災害外科学会, さいたま, 2015年3月27-28日.
59. 佐藤行紀, 小谷明弘, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 佐々木茂, 市村正一: 当院における人工膝関節置換術後感染に対する治療成績. 第55回関東整形災害外科学会, 大宮, 2015年3月27-28日.

#### 講演

1. 市村正一: テリパラチドの特徴と臨床応用. Bone Master Course III 福岡会場, 福岡, 2014年4月5日.
2. 市村正一: テリパラチドの脊椎疾患における応用. 第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 京都, 2014年4月18日.
3. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の臨床的課題—予防から保存療法と手術療法まで—. 第87回日本整形外科学会学術集会, 神戸, 2014年5月23日.
4. 長谷川雅一: 日常診療における骨粗鬆症の診断と治療 ~脊椎椎体骨折の早期診断のコツ~. 三鷹市医師会講演会, 三鷹, 2014年5月28日.
5. 長谷川雅一: 日常診療における骨粗鬆症の診断と治療. 乳がん治療と Bone Health を考える, 東京, 2014年6月11日.
6. 市村正一: 骨粗鬆症治療における骨形成促進薬の役割. 会津医学会学術講演会, 会津若松, 2014年6月12日.
7. 長谷川雅一: 骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療. 第7回多摩整形外科病診連携の会, 武蔵野, 2014年7月10日.
8. 市村正一: 骨粗鬆症におけるテリパラチドの有用性. 第1回新発田北蒲原地区骨折予防骨形成講演会, 新発田, 2014年7月11日.
9. 市村正一: 脆弱性椎体骨折の予防と保存療法. 骨粗鬆症の圧迫骨折を治す会, 広島, 2014年7月12日.
10. 市村正一: 骨粗鬆症関連領域におけるテリパラチドの臨床応用. Bone Masters Course III, 大阪, 2014年7月19日.
11. 市村正一: ロコモティブシンドローム(ロコモ)を知っていますか?. 杏林大学市民公開講座, 三鷹, 2014年7月26日.
12. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるビスホスホネート静注剤の使い方. 第2回北多摩北部整形外科フォーラム, 武蔵野, 2014年8月9日.
13. 市村正一: 脊椎代謝性疾患の診断と治療(主として骨粗鬆症). 第12回日本整形外科学会脊椎脊髄病医研修会, 東京, 2014年8月23日.
14. 市村正一: 女性の骨粗鬆症の治療戦略—薬物療法と手術療法の実際—. 日本医師会障害教育講座, 東京, 2014年9月4日.
15. 林光俊: 本学会活性化に向けて 競技種目別スモールグループ新設の提言—スポーツ現場に携わっている整形外科医の立場より—. 日本整形外科スポーツ医学会, 東京, 2014年9月12日.
16. 大畑徹也: Gustilo III B lower leg of acute compartment syndrome. Gustilo III B open fracture management course ~今, 日本の重度開放骨折治療の極みへ~, 東京, 2014年9月20-21日.
17. 市村正一: ロコモを知っていますか? ~介護を受けない健康な毎日を過ごすために~. 杏林大学文化講演, 羽村, 2014年9月27日.
18. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折予防のための薬物治療戦略. 第123回中部日本整形災害外科学会学術集会, 名古屋, 2014年10月3日.
19. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する低侵襲手術—Ballon Kyphoplasty (BKP)を中心に—. 第16回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014年10月23日.

20. 市村正一: 骨粗鬆症性椎体骨折の病態と手術治療. 第16回日本骨粗鬆症学会教育研修講演, 東京, 2014年10月24日.
21. 市村正一: テリパラチドによる骨粗鬆症治療の最前線. 稲城多摩学術講演会, 東京, 2014年10月30日.
22. 市村正一: 骨粗鬆症性脆弱骨折予防のための新しい治療戦略—ビスホスホネート静注剤を中心に—. 第41回日本股関節学会, 東京, 2014年11月1日.
23. 林光俊: 生涯スポーツ活動—オリンピック選手からあなたまで—. 国分寺医師会法人取得40周年記念市民健康講演会, 立川, 2014年11月1日.
24. 市村正一: 整形外科領域におけるテリパラチドの応用. 佐世保PTH研究会, 佐世保, 2014年11月6日.
25. 市村正一: 脆弱性椎体骨折の予防における薬物療法の実際—テリパラチド weekly 製剤を中心に—. 第13回大阪最新整形外科研修セミナー, 大阪, 2014年11月8日.
26. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるテリパラチドの実際. さいたま脆弱性骨折を考える会, 東京, 2014年11月21日.
27. 森井健司: 脂肪性腫瘍への対応と最近の話題. Orthopaedic conference 2014, 東京, 2014年11月28日.
28. 市村正一: ロコモを知っていますか? ~介護を受けない健康な毎日を過ごすために~. 杏林大学文化講演会, 八王子, 2014年11月29日.
29. 市村正一: 骨粗鬆症治療の最近の話題—ビスホスホネート静注製剤を中心に—. 徳島 Osteoporosis セミナー, 徳島, 2014年12月3日.
30. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の実際—ビスホスホネート静注製剤を中心に—. 第15回熊本骨折セミナー学術講演会, 熊本, 2015年1月17日.
31. 森井健司: がん診療連携拠点病院における緩和医療の動向. 久光製薬株式会社研修会, 東京, 2015年1月28日.
32. 林光俊: スポーツによるアキレス腱断裂とリハビリテーション—保存療法を主として—. 第25回近畿足の外科症例検討会, 大阪, 2015年2月14日.
33. 森井健司: 肋骨腫瘍の診断と治療. 第2回多摩地区の整形外科疾患を考える会, 東京, 2015年2月18日.
34. 市村正一: ロコモを知っていますか? ~介護を受けない健康な毎日を過ごすために~. 三鷹市市民公開講演会, 三鷹, 2015年2月20日.
35. 林光俊: スポーツ障害とリハビリテーションにおけるスポーツドクターの役割—バレーボールナショナルチームドクターを例に—. 第7回さいたま市整形外科学会さいたま市臨床整形外科学協議会, さいたま, 2015年2月26日.
36. 森井健司: 症例から学ぶ骨軟部腫瘍診療の勘どころ. 東海整形外科学会 (2014年度横浜公開セミナー), 横浜, 2015年3月8日.
37. 市村正一: 骨粗鬆症診療における骨形成促進剤の臨床応用. 第二回東葛地区骨粗鬆症を考える会, 柏, 2015年3月14日.

#### 論文

1. 林光俊, 安部学<sup>1</sup>, 平川淳一<sup>2</sup>, 加藤英之<sup>2</sup>, 上園紗映<sup>2</sup>, 奥出聡<sup>2</sup>, 川上純範<sup>3</sup>, 岡島康友<sup>6</sup>(<sup>1</sup>目白第2病院, <sup>2</sup>平川病院, <sup>3</sup>山梨リハビリテーション病院, <sup>4</sup>杏林大・医・リハビリテーション医学): Topics 精神科病院における身体リハビリテーション—高所飛び降りによる多発外傷例を主として—. Journal of Clinical Rehabilitation 23 (12): 1222-1229, 2014.
2. 林光俊: スポーツに整形外科医はどうかかわるか—メディカルチェックおよびメディカルサポート— ⑤バレーボール. 関節外科 33(12): 1270-1275, 2014.

3. 西野衆文<sup>1</sup>, 林光俊<sup>1</sup>(筑波大): バレーボール選手の下肢疲労性障害-メディカルチェックにおける下肢圧痛点調査. 日本整形外科学スポーツ医学雑誌34(1):90-93, 2014.
  4. Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M, Nakamura H, Morii T, Goto H, Watanabe T: V843I, a lung cancer predisposing EGFR mutation, is responsible for resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors. *J Thorac Oncol.* 9(9):1377-1384. doi: 10.1097. 2014.
  5. Yoshiyama A, Morii T, Tajima T, Aoyagi T, Honya K, Mochizuki K, Satomi K, Ichimura S: D-dimer Levels in the Differential Diagnosis Between Lipoma and Well-differentiated Liposarcoma. *Anticancer Res* 34:5181-5185, 2014.
  6. Morii T, Ohtsuka K, Ohnishi H, Mochizuki K, Yoshiyama A, Aoyagi T, Hornicek FJ, Ichimura S: BH3 mimetics inhibit growth of chondrosarcoma - a novel targeted-therapy for candidate models. *Anticancer Res* 34:6423-6430, 2014.
  7. Morii T, Aoyagi T, Tajima T, Yoshiyama A, Ichimura S, Mochizuki K: Unplanned resection of a soft tissue sarcoma: Clinical characteristics and impact on oncological and functional outcomes. *J Orthop Sci.* 20(2):373-379. doi: 10.1007/s00776-014-0689-x. (Epub 2015).
  8. Nakajima M<sup>1</sup>, Takahashi A<sup>2</sup>, Tsuji T<sup>3</sup>, Karasugi T<sup>4</sup>, Baba H<sup>5</sup>, Uchida K<sup>5</sup>, Kawabata S<sup>6</sup>, Okawa A<sup>6</sup>, Shindo S<sup>7</sup>, Takeuchi K<sup>8</sup>, Taniguchi Y<sup>9</sup>, Maeda S<sup>10</sup>, Kashii M<sup>11</sup>, Seichi A<sup>12</sup>, Nakajima H<sup>5</sup>, Kawaguchi Y<sup>13</sup>, Fujibayashi S<sup>14</sup>, Takahata M<sup>15</sup>, Tanaka T<sup>16</sup>, Watanabe K<sup>17</sup>, Kida K<sup>18</sup>, Kanchiku T<sup>19</sup>, Ito Z<sup>20</sup>, Mori K<sup>21</sup>, Kaito T<sup>22</sup>, Kobayashi S<sup>23</sup>, Yamada K<sup>24</sup>, Takahashi M, Chiba K<sup>3</sup>, Matsumoto M<sup>25</sup>, Furukawa K<sup>26</sup>, Kubo M<sup>27</sup>, Toyama Y<sup>25</sup>, Genetic Study Group of Investigation Committee on Ossification of the Spinal Ligaments, Ikegawa S<sup>28</sup>(<sup>1</sup>Laboratory for Bone and Joint Diseases, RIKEN, <sup>2</sup>Laboratory for Statistical Analysis, RIKEN, <sup>3</sup>Keio University, <sup>4</sup>RIKEN, Kumamoto University, <sup>5</sup>University of Fukui, <sup>6</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>7</sup>Kudanzaka Hospital, <sup>8</sup>National Okayama Medical Center, <sup>9</sup>The University of Tokyo, <sup>10</sup>Kagoshima University, <sup>11</sup>Osaka University, <sup>12</sup>Jichi Medical University, <sup>13</sup>Toyama University, <sup>14</sup>Kyoto University, <sup>15</sup>Hokkaido University, <sup>16</sup>Hirosaki University, <sup>17</sup>Niigata University Medical and Dental General Hospital, <sup>18</sup>Kochi Medical School, <sup>19</sup>Yamaguchi University, <sup>20</sup>Nagoya University, <sup>21</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>22</sup>National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center, <sup>23</sup>Hamamatsu University School of Medicine, <sup>24</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>25</sup>Keio University, <sup>26</sup>Hirosaki University Graduate School of Medicine, <sup>27</sup>Laboratory for Genotyping Development, RIKEN, <sup>28</sup>Laboratory for Bone and Joint Diseases, RIKEN): A genome-wide association study identifies susceptibility loci for ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine. *Nat Genet* 46: 1012-1016, 2014.
  9. Kobayashi S<sup>1</sup>, Matsuyama Y<sup>1</sup>, Shinomiya K<sup>2</sup>, Kawabata S<sup>3</sup>, Ando M<sup>4</sup>, Kanchiku T<sup>5</sup>, Saito T<sup>6</sup>, Takahashi M, Ito Z<sup>7</sup>, Muramoto A<sup>7</sup>, Fujiwara Y<sup>8</sup>, Kida K<sup>9</sup>, Yamada K<sup>10</sup>, Wada K<sup>11</sup>, Yamamoto N<sup>12</sup>, Satomi K<sup>13</sup>, Tani T<sup>9</sup>(<sup>1</sup>Hamamatsu University School of Medicine, <sup>2</sup>Yokohama City Minato Red Cross Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Medical and Dental University, <sup>4</sup>Wakayama Rosai Hospital, <sup>5</sup>Yamaguchi University, <sup>6</sup>Kansai Medical University Takii Hospital, <sup>7</sup>Nagoya University, <sup>8</sup>Hiroshima City Asa Hospital, <sup>9</sup>Kochi Medical School, <sup>10</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>11</sup>Hirosaki University, <sup>12</sup>Tokyo Women's Medical University Yachiyo Medical Center, <sup>13</sup>Kugayama Hospital). A new alarm point of transcranial electrical stimulation motorevoked potentials for intraoperative spinal cord monitoring: a prospective multicenter study from the Spinal Cord Monitoring Working Group of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *J Neurosurg Spine.* 20(1):102-107, 2014.
  10. Aoyagi T, Morii T, Tajima T, Yoshiyama A, Ichimura S: Analysis of the Risk Factor for Febrile Neutropenia in Patient with Bone and Soft tissue Sarcoma. *ANTICANCER RESEARCH* 35: 2375-2384, 2015.
  11. 竹内拓海, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 大柘英昭, 佐藤俊輔, 里見和彦, 市村正一: 脊椎回旋角度と片開き式椎弓形成術後 C5麻痺の関係. *関東整災誌* 45(4):211-214, 2014.
- 著書**
1. 市村正一: 骨粗鬆症. 今日の治療指針—私はこう治療している—TOADY'S THERAPY 2015. 山口徹, 北原光夫監修. 東京, 医学書院, 2015. p.1047-1049.
  2. 林光俊: ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療. 改訂第2版. 東京, 南江堂, 2014.
  3. 林光俊, 中島靖弘: トライアスロン. 種目別にみる スポーツ外傷・障害とリハビリテーション. 東京, 医歯薬出版株式会社, 2014. p.114-119.
  4. 林光俊: 精神科・身体合併症のリハビリテーション. 東京, 協同医書出版社, 2015.
  5. 大畑徹也: 第2章 精神科における身体合併症のリハビリテーション: 救命救急センターとの連携, 実態について. 精神科・身体合併症のリハビリテーション. 平川純一, 林光俊, 仙波浩幸, 上藺紗映編集. 東京, 協同医書出版社, 2015. p.27-34.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 森井健司: 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究. 厚生労働省がん臨床研究事業 分担研究報告書.
- その他**
1. 森井健司: 第11回関東骨軟部腫瘍の基礎を語る会春セミナー 主催, 伊豆, 2014年4月26-27日.
  2. 市村正一: インタビュー, 脊椎圧迫骨折—診断のポイントと新治療法 BKP—. 日本臨床内科医会 リーフレット, 2014年11月11日.
- 皮膚科学教室**
- 講演**
1. Shiohara T, Takahashi R, Kano Y, Ushigome Y: Monocytes control Treg in severe drug eruption. The 6th Drug Hypersensitivity Meeting (DHM6), Switzerland, April 9th-12th, 2014.
  2. Takahashi R, Ushigome Y, Shiohara T: Mycoplasma Pneumoniae infections serve to enhance the risk of subsequently developing severe allergic diseases by chronically abrogating Treg-mediated suppression. The 6th Drug Hypersensitivity Meeting (DHM6), Switzerland, April 9th-12th, 2014.
  3. Ushigome Y, Takahashi R, Shiohara T: Patrolling monocytes sensing herpes simplex virus in severe drug eruption. The 6th Drug Hypersensitivity Meeting (DHM6), Switzerland, April 9th-12th, 2014.
  4. Kano Y, Ushigome Y, Horie C, Mizukawa Y, Shiohara T: Immune reconstitution inflammatory syndrome (IRIS) observed in the setting of drug - induced hypersensitivity syndrome / drug

- reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DIHS/DRESS). The 6th Drug Hypersensitivity Meeting (DHM6), Switzerland, April 9th-12th, 2014.
5. 塩原哲夫: 眼合併症を伴う重症薬疹とアトピー性皮膚炎. 第5回東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 2014年4月19日.
  6. Mizukawa Y, Takahashi R, Kano Y, Shiohara T: Mycoplasma infection as an inhibitory factor for developing DIHS/DRESS. The 6th Drug Hypersensitivity Meeting (DHM6), Switzerland, April 9th-12th, 2014.
  7. 塩原哲夫: 皮膚アレルギーに汗は善玉か. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月30日.
  8. 塩原哲夫: 本講演を理解するための解説. GVHD, IRS, DIHSの類似性について. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月31日.
  9. 塩原哲夫: IRS(Immune Reconstitution Syndrome)としてのDIHS, GVHD, サルコイドーシス. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月31日.
  10. 加藤峰幸: ウイルス性急性発疹症. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月30日-6月1日.
  11. 堀江千穂: 薬剤性過敏症症候群と移植片対宿主病の類似性はヘルペスウイルスの再活性化がもたらす?. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月31日.
  12. 堀江千穂, 平原和久, 塩原哲夫, 高木永, 楊國昌: アシクロビル(ACV)と $\gamma$ -グロブリンの併用療法が奏功した新生児ヘルペスの1例. 第113回日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月30日-6月1日.
  13. 佐藤洋平, 堀江千穂, 平原和久, 水川良子, 狩野葉子: 人工透析患者に生じた多発性固定薬疹の1例. 第113回 日本皮膚科学会総会, 京都, 2014年5月30日-6月1日.
  14. 新田桐子, 牛込悠紀子, 早川順, 塩原哲夫, 遠藤彰子, 清水英樹, 笹沢俊吉: 紫斑の消退とともに急速に腎不全が進行したアナフィラクトイド紫斑の1例. 第398回日本皮膚科学会北海道地方会, 旭川, 2014年6月7-8日.
  15. Komatsu Y: Sweating disturbance as a triggering event that drives atopic dermatitis process forward. German-Japanese Society of Dermatology, Germany, June 11th-14th, 2014.
  16. Horie C: Disseminated neonatal herpes simplex virus -1 infection successfully treated with intravenous immunoglobulin (IVIg) in addition to acyclovir. German-Japanese Society of Dermatology, Germany, June 14th-15th, 2014.
  17. Kurata M, Sato Y, Hirahara K, Kano Y, Shiohara T: GVHD-like HSV reactivation in a DIHS/ DRESS patient. Post Congress Meeting in the German-Japanese Society of Dermatology, Germany, June 14th-15th, 2014.
  18. Kano Y, Kurata M, Sato Y, Shiohara T: Mycoplasma pneumoniae infection for the development of Stevens-Johnson syndrome. Post Congress Meeting in the German-Japanese Society of Dermatology, Germany, June 14th-15th, 2014.
  19. 成田陽子, 堀江千穂, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: サイトメガロウイルス感染症を合併した水疱性類天疱瘡-教室例の検討. 日本皮膚科学会第854回東京地方会, 東京, 2014年6月21日.
  20. 福田知雄: 顔面および上腕に生じたクロモミコーシスの2例. 第63回神奈川県真菌研究会, 横浜, 2014年6月28日.
  21. 三友貴代, 堀江千穂, 倉田麻衣子, 福田知雄, 平田彩, 蘇原慧伶, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: Intravascular large B-cell lymphoma の2例-皮膚所見と生検のポイント-. 日本皮膚科学会第855回東京地方会, 東京, 2014年7月12日.
  22. 小松由莉江, 牛込悠紀子, 佐藤洋平, 水川良子, 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎における発汗障害. 第1回汗と皮膚疾患の研究会, 東京, 2014年8月2日.
  23. 佐藤典子, 水川良子, 塩原哲夫, 坂田好美: 右室内血栓を生じ血管 Behçet 病を考えた1例. 日本皮膚科学会第856回東京地方会, 東京, 2014年9月20日.
  24. 塩原哲夫: 重症薬疹に対する IVIG の有用性. 第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 青森, 2014年10月4日.
  25. 佐藤洋平, 三友貴代, 福田知雄: 上皮系腫瘍-再発転移後, 強皮症様症状を生じた有棘細胞癌の1例. 第78回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 青森, 2014年10月4-5日.
  26. 五味方樹, 牛込悠紀子, 早川順, 塩原哲夫: シェーグレン症候群を合併し, 汗腺を中心に類上皮細胞肉芽腫を形成した皮膚サルコイドの1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 大阪, 2014年10月25-26日.
  27. 福田知雄: 爪白癬治療の現状と課題. 第58回日本医真菌学会総会, 横浜, 2014年11月1日.
  28. 三友貴代, 牛込悠紀子, 狩野葉子, 塩原哲夫, 渡邊淳: Ehlers-Danlos 症候群の1例. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
  29. 倉田麻衣子, 堀江千穂, 早川順, 狩野葉子, 塩原哲夫: 免疫グロブリン上昇に伴い汗疱を生じたテグレトールによる薬剤性過敏症候群(DIHS)の1例. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 仙台, 2014年11月21-23日.
  30. 佐藤洋平, 三友貴代, 狩野葉子, 塩原哲夫: プレドニゾロン内服自己中断後に増悪した Stevens-Johnson 症候群(SJS)の1例. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 仙台, 2014年11月21-23日.
  31. 水川良子: 角質水分量が接触反応の強さを決めている. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 仙台, 2014年11月21-23日.
  32. Aoyama T, Morizane S, Hamada T, Shiohara T, Iwatsuki K: Elevated IL-10 levels are associated with beneficial responses to plasmapheresis while predicting progression to cytomegalovirus disease. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka, December 12th-14th, 2014.
  33. Takahashi R, Ushigome Y, Shiohara T: Monocytes are crucial for a shift away from a Treg to Th17 response in mycoplasma pneumoniae infection and SJS/TEN. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka, December 12th-14th, 2014.
  34. 新田桐子, 牛込悠紀子, 早川順, 狩野葉子, 塩原哲夫: クリンダマイシンゲル外用後に広範囲に紅斑・膿疱が出現し, 経皮感作が示唆された2例. 第438回日本皮膚科学会京滋地方会, 京都, 2014年12月20日.
  35. 三友貴代, 堀江千穂, 早川順, 水川良子, 狩野葉子, 塩原哲夫: Mycoplasma が関与したと考えられる急性陰門潰瘍. 日本皮膚科学会第859回東京地方会, 東京, 2015年1月17日.
  36. 牛込悠紀子, 高橋良, 塩原哲夫: 重症薬疹の発症における patrolling monocyte の相反する役割. 第78回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2015年2月21-22日.
  37. 塩原哲夫, 小松由莉江, 水川良子, 牛込悠紀子: 発汗障害をもたらす意外な皮膚疾患. 第78回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2015年2月21-22日.
  38. 堀江千穂, 小松由莉江, 早川順, 塩原哲夫, 山田昌和: 髄膜炎様の症状・ぶどう膜炎・白斑を伴った顔面帯状疱疹の1例. 第78

回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2015年2月21-22日.

39. 塩原哲夫:「皮膚疾患において汗は悪玉?善玉?」発汗障害と皮膚アレルギー. 第78回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2015年2月22日.

## 論文

1. Shiohara T, Ushigome Y, Kano Y, Takahashi R: Crucial role of viral reactivation in the development of severe drug eruptions: a comprehensive review. *Clin Rev Allergy Immunol*, Published online, 2014.
2. 狩野葉子: 薬剤性過敏症候群(DIHS)の治療と管理. *アレルギーの臨床*34:92-95, 2014.
3. 塩原哲夫: 医学・医療のいまがわかるキーワード 2014 皮膚・感覚器(眼科・耳鼻咽喉)薬剤性過敏症候群. *医のあゆみ* 249:479, 2014.
4. 水川良子, 塩原哲夫: 固定薬疹の発症機序. *臨床免疫・アレルギー科* 61:581-584, 2014.
5. Ishida T, Kano Y, Mizukawa Y, Shiohara T: The dynamics of herpesvirus reactivations during and after severe drug eruptions: their relation to the clinical phenotype and therapeutic outcome. *Allergy* 69: 798-805, 2014.
6. 塩原哲夫: 知っておきたい汗の必須知識 発汗異常とアレルギー. *Derma*. 220:61-65, 2014.
7. 塩原哲夫, 小松由莉江: 発汗異常にもたらされるアレルギー性疾患. *皮アレルギーフロンテ* 12:79- 83, 2014.
8. 塩原哲夫: 重症薬疹の診断と治療 アップデート 序 薬疹が“重症”になるとき. *アレルギー免疫* 21:1185-1188, 2014.
9. 平原和久: 薬剤性過敏症候群(DIHS)の診断と治療. *アレルギー免疫* 21:1227-1233, 2014.
10. 狩野葉子: 重症薬疹の予後 重症薬疹の診断と治療 アップデート. *アレルギー・免疫* 21:1248-1254, 2014.
11. Ogawa K<sup>1</sup>, Morito H<sup>1</sup>, Hasegawa A<sup>1</sup>, Miyagawa F<sup>1</sup>, Kano Y, Shiohara T (<sup>1</sup>Nara Medical Univ) et al: Elevated serum thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) relates to reactivation of human herpesvirus 6 in drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS)/drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS). *Br J Dermatol* 171: 425-427, 2014.
12. Kurata M, Mizukawa Y, Aoyama Y<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Okayama Univ): Herpes simplex virus reactivation as a trigger of mucous lesions in pemphigus vulgaris. *Br J Dermatol* 171: 554-560, 2014.
13. 塩原哲夫: 貼付剤による皮膚へのトラブルとその対策. *日本薬剤師会誌* 66:1203-1207, 2014.
14. 佐藤洋平, 平原和久, 狩野葉子, 塩原哲夫: 肺真菌症患者に生じた急性汎発性発疹性膿疱症(AGEP)の1例. *臨床皮* 68: 775-780, 2014.
15. Shiohara T, Takahashi R, Ushigome Y, Kano Y: Regulatory T cells in severe drug eruptions. *Curr Immunol Rev* 10: 41-50, 2014.
16. 平原和久, 塩原哲夫: 皮膚疾患の診かた 発熱を伴う発疹への対応 薬疹. *レジデントノート* 16:2095-2102, 2014.
17. 石田正: 皮膚診断学: 知っておくべき検査法とその考え方(2) 様々な皮膚疾患におけるウイルス再活性化の読み方. *日皮会誌* 124:2111-2117, 2014.
18. 平原和久: 写真で学ぶアレルギー これが唾液腺バイオプシーのやり方だ!. *皮アレルギーフロンテ* 12:174, 2014.
19. 塩原哲夫: 皮膚のアレルギーにおいて汗は善玉か. *日皮会誌* 124:2484-2485, 2014.
20. 塩原哲夫: 中毒疹に迫る 本講演を理解するための解説. *日皮会誌* 124:2878-2880, 2014.
21. 堀江千穂: 薬剤性過敏症候群(DIHS)と移植片対宿主病(GVHD)の類似性はヘルペスウイルスの再活性化がもたらす?. *日皮会誌* 124:2884-2886, 2014.
22. 加藤峰幸: 最近の話題 ウイルス性急性発疹症. *日皮会誌* 124:2975-2976, 2014.
23. 塩原哲夫: Immune Reconstitution Syndrome (IRS) としてのDIHSとGVHDとサルコイドーシス. *日皮会誌* 124:2892-2895, 2014.
24. 平原和久: 注意すべき重症薬疹 急性汎発性発疹性膿疱症(AGEP). *薬事* 56:2167-2170, 2014.
25. Kano Y, Tohyama M<sup>1</sup>, Aihara M<sup>2</sup>, Matsukura S<sup>2</sup>, Watanabe H<sup>3</sup>, Shiohara T, et al (<sup>1</sup>Ehime Univ, <sup>2</sup>Yokohama City Univ, <sup>3</sup>Showa Univ): Sequelae in 145 patients with drug - induced hypersensitivity syndrome / drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: survey conducted by the Asian Research Committee on Severe Cutaneous Adverse Reactions (ASCAR). *J Dermatol* 42: 276-282, 2015.
26. 塩原哲夫: 皮膚型と全身型, その移行型を考える. *Visual Dermatol* 14:134-138, 2015.
27. 塩原哲夫: 固定薬疹と中毒性表皮壊死症. *Visual Dermatol* 14: 146-148, 2015.
28. 加藤峰幸: アナフィラクトイド紫斑と紫斑病性腎症. *Visual Dermatol* 14:150-151, 2015.
29. 水川良子: 皮膚型結節性多発動脈炎(cPAN)と結節性多発動脈炎(PAN). *Visual Dermatol* 14:160-162, 2015.
30. 狩野葉子: 深在性エリテマトーデス(LEP)のままで留まった例と中間型ループスエリテマトーデスに LEP を生じた例. *Visual Dermatol* 14:164-167, 2015.
31. 福田知雄: 皮膚症状のみの皮膚筋炎と筋症状を伴う皮膚筋炎. *Visual Dermatol* 14:168-170, 2015.
32. 早川順: 皮膚サルコイドーシスとサルコイドーシス. *Visual Dermatol* 14:172-174, 2015.
33. 新田桐子, 狩野葉子, 塩原哲夫: 造影MRIにて血行不全による足趾の骨髄炎と考えられた1例. *臨床皮* 69:65-68, 2015.
34. Komatsu Y, Okazaki A, Hirahara K, Araki K, Shiohara T: Difference in Clinical Features and Outcomes between Group A and Group G Streptococcus-Induced Cellulitis. *Dermatology* 230: 244-249, 2015.

## 著書

1. 福田知雄: 乳房外パジェット病の非手術療法. *WHAT'S NEW in 皮膚科学* 2014-2015. 宮地良樹編. 東京, メディカルレビュー社, 2014. p. 140-141.
2. 塩原哲夫: 宮地の前に宮地なし. 宮地の後に宮地なし. 若い医師たちに紡ぐことば. 東京, メディカルレビュー社, 2014. p. 310-311.
3. 塩原哲夫, 他編(日本アレルギー学会監修): アナフィラキシーガイドライン. 東京, メディカルレビュー社, 2014. p. 1-23.
4. Descamps V<sup>1</sup>, Tohyama M<sup>2</sup>, Kano Y, Shiohara T (<sup>1</sup>Hôpital Bichat, Université Paris, <sup>2</sup>Ehime Univ): HHV-6A and HHV-6B in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms. In: *Human herpesviruses HHV-6A, HHV-6B, and HHV-7, Diagnosis and clinical management*. 3rd Ed. Flamand L, Lautenschlager I, Krueger G,

Abrashi D, eds. New York, Elsevier, 2014. p. 179-200.

5. 狩野葉子: 結節性紅斑. 皮膚疾患最新の治療 2015-2016. 渡辺晋一, 古川福実編. 東京, 南江堂, 2015. p. 56.
6. 塩原哲夫: 保湿剤はかゆみに有効か?. EBM 皮膚疾患の治療 up-to-date. 宮地良樹編. 東京, 中外医学社, 2015. p.70-73.
7. 塩原哲夫: 色素性痒疹. 皮膚疾患最新の治療2015-2016. 渡辺晋一, 古川福実編. 東京, 南江堂, 2015. p.47.

**特許等知的財産関係, 報告書**

1. 塩原哲夫: 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 2015年度総括・分担研究報告書.

**その他**

1. 塩原哲夫: 眼合併症を伴う重症薬疹とアトピー性皮膚炎. 第5回東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 2014年4月19日.
2. 塩原哲夫: 貼付剤を上手に使うためのコツ. Dementia Forum in 甲信越, 東京, 2014年5月17日.
3. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケア. 第12回城南小児アレルギー懇話会, 東京, 2014年5月22日.
4. 塩原哲夫: 高齢者の皮膚ケア. 足立区認知症勉強会, 東京, 2014年5月23日.
5. 狩野葉子: 分子標的薬と皮膚障害. 日本皮膚科学会研修講習会必須 A コース, 東京, 2014年6月1日.
6. 塩原哲夫: 特別講演. 重症多形滲出性紅斑を含む薬疹の診断と治療. 痛みフォーラム2014, さいたま, 2014年7月2日.
7. 塩原哲夫: 常識を見直そう: 汗とスキンケア. 厚木市皮膚科医学会学術講演会, 厚木, 2014年7月3日.
8. 三友貴代: Intravascular large B-cell lymphoma の2例ー皮膚所見と生検のポイントー. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 2014年7月5日.
9. 塩原哲夫, 横関博雄<sup>1</sup>, 片山一朗<sup>2</sup>(<sup>1</sup>日本医科歯科大, <sup>2</sup>大阪大学): 対談 発汗研究の歴史からみえてくるアレルギーの新しい病因論. 皮アレルギーフロンテ 12:6-14, 2014.
10. 福田知雄: 白癬について. 青梅慶友病院感染症研修会, 青梅, 2014年7月16日.
11. 塩原哲夫: 貼付剤を上手に使うためのコツ. Dementia Forum in 長岡, 長岡, 2014年7月10日.
12. 塩原哲夫: 高齢者にパッチを上手に使うコツ〜見逃されがちな汗の役割. 豊島区薬剤師会学術講演会, 東京, 2014年7月17日.
13. 塩原哲夫: 高齢者にパッチを上手に使うコツ. 第7回日本在宅薬学会ランチョンセミナー, 大阪, 2014年7月20日.
14. 塩原哲夫: アレルギー疾患および帯状疱疹における発汗異常. 第1回汗と皮膚疾患研究会, 東京, 2014年8月2日.
15. 塩原哲夫: 薬疹の臨床の現状とこれからの課題. 理化学研究所セミナー, 鶴見, 2014年8月15日.
16. 塩原哲夫: 常識を見直そう〜汗とスキンケア. 加茂市医師会学術講演会, 加茂, 2014年8月22日.
17. 塩原哲夫: ヒルドイドのこんな使い方・あんな使い方. WEB LIVE SEMINAR, 東京, 2014年8月25日.
18. 塩原哲夫: 貼付剤を上手に使う. Uonuma Alzheimer's Forum, 魚沼, 2014年9月9日.
19. 福田知雄: 真菌感染とスキンケア. 札幌市皮膚科医学会例会・研修会, 札幌, 2014年9月12日.
20. 塩原哲夫: 常識を見直そう〜汗をスキンケア. 鳥取スキンケア研究会, 鳥取, 2014年9月17日.
21. 塩原哲夫: 貼付剤を上手に使うためのコツ. 神経変性疾患懇話会, 十日町, 2014年10月8日.

22. 福田知雄: 日光角化症に対する最新治療〜ベセルナクリームを中心に〜. 皮膚疾患フォーラム, 東京, 2014年10月9日.
23. 倉田麻衣子: 皮膚科からみた Dengue 熱 教室例のまとめ. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 2014年10月11日.
24. 福山雅大: 診断に苦慮した丘疹症例 1) 足底の丘疹. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 2014年10月11日.
25. 牛込悠紀子: 診断に苦慮した丘疹症例 2) 軀幹の丘疹. 多摩皮膚科専門医会, 武蔵野, 2014年10月11日.
26. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 宮城県小児科医学会学術講演会, 仙台, 2014年10月16日.
27. 塩原哲夫: 薬疹を見逃さないために. 北埼玉医師会学術講演会, 加須, 2014年10月21日.
28. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケアと外用療法. 松江市皮膚科医会・東部小児科医会合同講演会, 松江, 2014年11月6日.
29. 塩原哲夫: アナフィラシーガイドライン. Anaphylaxis 対策特別委員会, 日本アレルギー学会, 2014.
30. 塩原哲夫: 新たに展開した薬疹の世界. 杏林大学公開講演会, 三鷹, 2014年11月12日.
31. 塩原哲夫: 常識を見直そう: 汗とスキンケア. 香川スキンケアフォーラム, 高松, 2014年11月20日.
32. 塩原哲夫: 汗と皮膚疾患. ヤンセン皮膚科セミナー, 札幌, 2014年11月22日.
33. 塩原哲夫: 重症薬疹に対する IVIG の有用性. 日本製薬講演会, 東京, 2014年11月25日.
34. 塩原哲夫: 常識を見直そう: 汗とスキンケア. 藤沢市皮膚科医会, 藤沢, 2014年11月26日.
35. 狩野葉子: 重症薬疹の診断と治療ーアップデートー. 岡山県医師会皮膚科部会, 岡山市医師会皮膚科, 泌尿器科専門医会, 岡山, 2014年12月5日.
36. 塩原哲夫: 常識を見直そう: 汗とスキンケア. 第13回宮崎皮膚疾患治療研究会, 宮崎, 2014年12月6日.
37. 塩原哲夫, 宇都宮一豊: SGLT2阻害薬投与中にみられる皮膚障害. 対談 糖尿病患者において注意すべき皮膚障害, 東京, 2014年12月16日.
38. 塩原哲夫: 重症薬疹についての最新の知見. 地域連携学術集会小児科ピックス Meet the Experts (東邦大医療センター), 大森, 2014年12月18日.
39. 塩原哲夫: 羅針盤 秩序の崩壊がもたらすもの. Visual Dermatol 14:131, 2015.
40. 塩原哲夫: ランチョンセミナー “高齢者にパッチを上手に使うコツ〜見逃されがちな汗の役割〜”. 神奈川薬剤師学会, 横浜, 2015年1月12日.
41. 福田知雄: 真菌感染とスキンケア. 皮膚疾患フォーラム, 調布, 2015年1月23日.
42. 塩原哲夫: SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について. 糖尿病 WEB シンポジウム, 東京, 2015年1月27日.
43. 塩原哲夫: 重症薬疹に対する IVIG の有用性. 武田薬品全国TV/Web 講演会, 東京, 2015年2月5日.
44. 塩原哲夫: SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について. Opinion leader's meeting〜SGLT2阻害薬有効性・安全性の検証〜, 博多, 2015年2月8日.
45. 狩野葉子: 重症薬疹の現状. 平成26年度日本皮膚科学会東京支部企画研修講習会, 東京, 2015年2月20日.
46. 塩原哲夫: アトピー性皮膚炎におけるスキンケア〜見逃されがちな汗の役割〜. 高崎市医師会第19回学術講演会, 高崎,

2015年2月24日.

47. 堀江千穂:水疱症診断におけるピットフォール. 第15回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2015年3月4日.
48. 佐藤洋平:Churg-Strauss 症候群を見逃さないためのチェックポイント. 第15回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2015年3月4日.
49. 五味方樹:顔面, 頭部の皮膚腫瘍〜切除してみたらこうだった〜. 第15回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2015年3月4日.
50. 平原和久:覚えてほしい手指の感染症. 第15回皮膚合同カンファレンス, 武蔵野, 2015年3月4日.
51. 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について. Opinion leader's meeting〜SGLT2阻害薬有効性・安全性の検証〜, 福岡, 2015年3月7日.
52. 塩原哲夫:高齢者にパッチを上手に使うコツ〜見逃されがちな汗の役割〜. 第31回板薬イブニングセミナー, 東京, 2015年3月11日.
53. 塩原哲夫:常識を見直そう:汗とスキンケア. 下関市皮膚科医会, 下関, 2015年3月12日.
54. 塩原哲夫:スキルアップのための Q&A DLST の読み方について教えてください. 皮アレルギーフロンテ 13:51, 2015.
55. 塩原哲夫:アトピー性皮膚炎におけるスキンケア〜見逃されがちな汗の役割〜. 栃木スキンケアセミナー, 宇都宮, 2015年3月19日.

### 形成外科学教室

#### 講演

1. Ozaki M, Kurita M, Ihara A, Kajitani A, Takushima A, Harii K : Thread lifting for prevention of the ocular stimulus-deprivation amblyopia in patients with obstructive periocular infantile hemangioma. The 20th International Workshop of International Society for the Study of Vascular Anomalies, Australia, April 2nd, 2014.
2. 大浦紀彦, 佐藤卓士, 三上智子, 岩科祐己, 桐渕英人, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:ハイドロサージェリーによる wound bed preparation. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9日.
3. 尾崎峰, 白石知大, 井原玲, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:リストカット痕に対する組織拡張器を用いた治療の検討. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9日.
4. 多久嶋亮彦, 栗田昌和, 白石知大, 波利井清紀:陳旧性顔面神経麻痺治療における美容外科的アプローチ. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月10日.
5. 大浦紀彦:第6のデブリードマン ハイドロサージェリーの可能性. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月10日.
6. 清家志円, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀, 佐藤智也, 市岡滋, 古川雅英:足部難治性潰瘍に対する血管柄付き遊離組織移植術の有効性について. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月10日.
7. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 白石知大, 栗田昌和, 尾崎峰, 波利井清紀:人工物の感染に伴う頭部瘻孔の治療. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9-11日.
8. 江藤ひとみ, 小林よう, 渡辺玲, 佐藤卓士, 中山玲玲, 井原玲, 芝崎由佳, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:扁平母斑の臨床所見の検討. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長

崎, 2014年4月9-11日.

9. 白石知大, 渡辺玲, 芝崎由佳, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:乳輪乳頭温存皮下乳腺全摘術 (NSM) 後の乳房二期再建における乳頭の頭側偏位を改善させる工夫. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9-11日.
10. 辻直子, 青井則之, 吉村浩太郎, 波利井清紀:反復脂肪注入 Multiple fat graft による全乳房再建. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9-11日.
11. 坂いづみ, 倉地彩奈, 井原玲, 波利井清紀:ざ瘡後癢痕に対しトリアムシロン水性懸濁注射液局注後陥没したため手術による治療を余儀なくされた一例. 第57回日本形成外科学会総会・学術集会, 長崎, 2014年4月9-11日.
12. 大浦紀彦:軟部組織・創傷から CLI を考える Real Angiosome. 第3回 PAD カンファレンス 重症下肢虚血の病態と治療, 東京, 2014年4月15日.
13. 大浦紀彦:CLI を救え! CLI 治療を困難にしているものは何か?. 第6回日本下肢救済足病学会北海道地方会, 札幌, 2014年4月26日.
14. 大浦紀彦:潰瘍治療最前線:医療連携による治療効率最大化に向けて 重症下肢虚血 R6に対する血管外科と形成外科のコラボレーション. 第42回日本血管外科学術集会, 青森, 2014年5月22日.
15. 多久嶋亮彦:笑いの再建-最近の新しい試み-. 第37回日本顔面神経研究会, 東京, 2014年5月30日.
16. 大浦紀彦:下肢慢性創傷の病態と治療 CLI DFU Leg ulcer. シルバー&ヘルスケア戦略特別セミナー慢性創傷管理の最前線, 東京, 2014年6月7日.
17. 大浦紀彦:糖尿病性足病変の治療戦略 足病変の何に気をつけるのか. Ikebukuro Heart Forum ~こころと心臓~. 東京, 2014年6月7日.
18. 大浦紀彦:III.創傷管理に必要な基本的知識【下肢創傷を形成外科的視点で管理する】. 日本下肢救済足病学会認定師セミナーVer. 2, 札幌, 2014年6月27日.
19. 大浦紀彦:EVT の臨床評価指標としての創傷評価と治療. 第6回日本下肢救済足病学会, 札幌, 2014年6月28日.
20. 大浦紀彦, 井原玲, 若林桂介, 多田朋子, 森重侑樹:創傷管理と被覆材 創処置. 第6回日本下肢救済足病学会, 札幌, 2014年6月29日.
21. 大浦紀彦:CLI を救え! CLI 治療を困難にしているものは何か?. 第71回兵庫県血管外科研究会, 神戸, 2014年7月5日.
22. 辻直子, 青井則之, 吉村浩太郎, 波利井清紀:反復脂肪注入による全乳房再建 Expander/StepCAL. 第22回日本乳癌学会学術総会, 大阪, 2014年7月10-12日.
23. 大浦紀彦:プロフェッショナル 育てる. 慢性創傷と戦うスーパー看護師. 第11回日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会, 東京, 2014年7月11日.
24. 佐藤卓士, 栗田昌和, 江藤ひとみ, 菅浩隆, 栗田恵里奈, 尾崎峰, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:血管奇形組織からの効率的な血管内皮細胞単離法の開発. 第11回血管腫・血管奇形研究会, 松本, 2014年7月20日.
25. 尾崎峰, 成田圭吾, 岩科祐己, 井原玲, 江藤ひとみ, 佐藤卓士, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:下顎関節突起骨折に対する骨延長器を用いた牽引術における合併症の検討. 第6回日本創傷外科学会総会・学術集会, 高松, 2014年7月24日.
26. 大浦紀彦:重症下肢虚血 Rutherford6に対する治療 血管柄付き自家遊離組織移植術の有効性とリスクの検討. 第6回日本創傷外科学会総会・学術集会, 高松, 2014年7月24日.

27. 井原玲, 大浦紀彦, 清家志円, 若林圭介, 多田朋子, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重傷下肢虚血に対する, 創縁の牽引と陰圧閉鎖療法併用についての検討. 第6回日本創傷外科学総会・学術集会, 高松, 2014年7月24-25日.
28. 大浦紀彦: TIME 理論に基づく NPWT. 2014 NPWT Expert Technical Forum, 東京, 2014年8月9日.
29. 大浦紀彦: 心臓・血管手術後創傷・感染に対する治療戦略—心臓血管外科と形成外科のコラボレーション—. 東海心臓血管外科 VAC セミナー2014, 名古屋, 2014年8月23日.
30. 大浦紀彦: 「ずらして褥瘡を防ぐ」新しい褥瘡予防戦略. 第16回日本褥瘡学会学術総会, 名古屋, 2014年8月30日.
31. 辻直子, 浅野裕子, 吉村浩太郎, 波利井清紀: 乳房インプラント抜去と同時幹細胞付加脂肪移植術の検討. 第37回日本美容外科学会総会, 2014年9月3-4日.
32. 北幸紘, 菅浩隆, 千葉知宏, 下山田博明, 菅間博, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 1指に4ヶ所の多発病変を認めた腓骨巨細胞腫の1例. 第279回関東形成外科学会東京地方会, 東京, 2014年9月6日.
33. 大浦紀彦: 下肢切断の転帰を考える 糖尿病性足病変における大腿切断術, 下腿切断術の適応と工夫. 鹿児島フットケアセミナー2014, 鹿児島, 2014年9月14日.
34. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の患者に対するフットケアと靴装具の重要性. 第28回日本靴医学会学術集会, 福岡, 2014年9月28日.
35. 白石知大, 菅浩隆, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 皮下乳腺全摘後の一次二期再建における乳輪乳頭偏位の原因と予防. 第2回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 東京, 2014年10月3-4日.
36. 辻直子, 青井則之, 吉村浩太郎, 波利井清紀: 幹細胞付加脂肪移植 (CAL) による全乳房再建. 第2回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 東京, 2014年10月3-4日.
37. 菅浩隆: 温度応答性ゲルを用いた単球・マクロファージ系細胞の継代培養法: 創傷治癒研究の新たなアプローチ. 第23回日本形成外科学会基礎学術集会, 松本, 2014年10月9-10日.
38. 佐藤卓士, 栗田昌和, 江藤ひとみ, 菅浩隆, 栗田恵里奈, 尾崎峰, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 血管奇形組織からの効率的な血管内皮細胞単離法の開発. 第23回日本形成外科学会基礎学術集会, 松本, 2014年10月10日.
39. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の患者に対するフットケアと靴装具の重要性. 第28回日本靴医学会学術集会, 福岡, 2014年9月28日.
40. 大浦紀彦: 最新の褥瘡治療. がんセンター褥瘡対策委員会主催褥瘡講演会, 柏, 2014年10月17日.
41. Shiraishi T, Takushima A, Harii K: Fingertip Replantation: How to Hand down the Technique Keeping Good Result. The 31st. Congress of the Pan - Pacific Surgical Association Japan Chapter. Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
42. Ozaki M, Narita K, Shiraishi T, Eto H, Kurita M, Takushima A, Harii K: Our refined method of traction therapy for the condylar fracture of mandible using an internal bone distraction device. The 31st. Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. Taiwan, November 1st, 2014.
43. Kita Y, Ozaki M, Narita K, Takushima A, Harii K: Four cases of successful artificial skull bone implant by reduction of dead space between implant and dura after intractable infection. The 31st. Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter. Taiwan, November 1st, 2014.
44. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変に対する治療戦略 — 血流の有無とチーム医療について—. 第26回 北海道 MMC 研究会「糖尿病と血管障害」, 札幌, 2014年11月15日.
45. 尾崎峰: 顔面骨骨折治療におけるチタンプレートと吸収性プレートの使い分け—Optimal Plate Selection—. 第32回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 大阪, 2014年11月6日.
46. 桐渕英人, 成田圭吾, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 視力障害なく摘出できた眼窩筋内木片異物の1例. 第32回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 大阪, 2014年11月6-7日.
47. 尾崎峰, 江藤ひとみ, 岩科裕己, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 前頭骨後壁骨折を合併した顔面骨整復術において硬膜損傷を回避するために Le Fort II 型骨切りを併用した2例. 第32回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 大阪, 2014年11月7日.
48. 菅浩隆: 保険適応になった乳がん術後の乳房再建. 第10回複十字病院乳腺センター市民公開講座, 清瀬, 2014年11月9日.
49. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変に対する治療戦略—血流の有無とチーム医療について—. 第26回北海道 MMC 研究会「糖尿病と血管障害」, 札幌, 2014年11月15日.
50. 大浦紀彦: 軟部組織感染症に対する治療戦略. おいでまっし感染対策研究会 創傷処置と感染対策セミナー, 金沢, 2014年11月21日.
51. Ohura N: Japanese status of pressure ulcer 2014. The Asia Pacific Pressure Ulcer Prevention advisory board, China, November 29th, 2014.
52. 井原玲, 大浦紀彦, 芝崎由佳, 景山大輔, 大島直也: 重症下肢虚血に対し血行再建を繰り返したが, 下肢壊死の進行が止められず, 大切断に至った1例. 第3回多摩 CLI 研究会, 東京, 2014年11月27日.
53. 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 白石知大, 栗田昌和, 菅浩隆, 朝戸裕貴, 波利井清紀: 陈旧性顔面神経麻痺に対して再施行された一期的遊離広背筋移植術の検討. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 京都, 2014年12月4-5日.
54. 清家志円, 栗田昌和, Khater A, 北幸紘, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 移植筋体の神経二重支配の研究を目的とした新しい動物モデルの開発. 第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 京都, 2014年12月5日.
55. Takushima A: Double innervated latissimus dorsi muscle transfer for longstanding paralyzed face. The 1st Hong Kong congress of Microsurgery, Hong Kong, December 13th, 2014.
56. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の治療「フットケアの潮流 — チーム医療 —」形成外科医の立場から. 第20回糖尿病フットケア研究会, 東京, 2014年12月13日.
57. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の治療戦略 感染と虚血への対応. 第7回東海創傷治療フォーラム, 名古屋, 2015年1月30日.
58. 大浦紀彦: total nutritional therapy for wound care session 4. 第13回日本フットケア学会, 東京, 2015年2月14日.
59. 大浦紀彦: total nutritional therapy for wound care session 5. 第13回日本フットケア学会, 東京, 2015年2月14日.
60. 大浦紀彦: Education for young physician session-5 「BTK, CLI へのアプローチ」創傷治療の基本. JET2015, 大阪, 2015年2月21日.
61. 大島直也, 尾崎峰, 江藤ひとみ, 佐藤卓士, 北幸紘, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 組織拡張器で作製したポケットにペースト状人工骨を注入し整容的改善を得た側頭部陥凹変形の一例. 第20回日本形成外科手術手技学会学術集会, 鎌倉, 2015年2月21日.

62. 菅浩隆:脂肪幹細胞の研究報告-脂肪幹細胞の働き. 日本医療毛髪再生研究会ハンズオンセミナー, 東京, 2015年3月1日.
63. 中務秀一, 菅浩隆, 千葉知宏, 寺戸雄一, 菅間博, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:手術待機中に基底細胞癌が発生した頭部脂腺母斑の1例. 第281回関東形成外科学会東京地方会, 東京, 2015年3月7日.
64. Narita K, Takushima A, Asato H, Harii K:Reattempt of One-stage Latissimus Dorsi Muscle Transfer for Smile Reconstruction after the Failure of a Previous Transfer.The 8th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, India, March 19th-22nd, 2015.
65. Seike S, Kurita M, Takushima A, Harii K:Development of a new rat model for the study of double innervation in neurovascular muscle transfer. The 8th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, India, March 19th-22nd, 2015.
66. Takushima A:Double Innervated Latisimmus Dorsi Muscle Transfer for Longstanding Paralyzed Face. The 8th Congress of World Society for Reconstructive Microsurgery, India, March 21st, 2015.
67. 大浦紀彦:透析患者の下肢治療戦略ー連携の光と闇ー. 第3回 CLINCH:Critical Limb Ischemia Network in aichi, 名古屋, 2015年3月21日.
68. 大浦紀彦:高齢化社会における創傷治療. 第33回日本臨床皮膚外科学会学術集会, 千葉, 2015年3月27日.
69. 坂いづみ, 三上智子, 井原玲, 山崎和紀, 波利井清紀:ざ瘡後癬痕に対しトリアムシロン水性懸濁注射液局注後に頬部陥没を生じた女性に手術療法を行った一症例. 第33回日本臨床皮膚外科学会, 浦安, 2015年3月27-28日.
10. 大浦紀彦:【特殊ユニット, 他のチーム医療から考える褥瘡ケア】手術室. WOC Nursing 2(4):12-16, 2014.
11. Kagaya Y, Ohura N, Suga H, Eto H, Takushima A, Harii K: 'Real angiosome' assessment from peripheral tissue perfusion using tissue oxygen saturation foot-mapping in patients with critical limb ischemia. Eur J Vasc Endovasc Surg. 47(4):433-441, 2014.
12. 安井佑<sup>1</sup>, 木下幹雄, 栗田恵里奈, 佐藤大介, 大浦紀彦(<sup>1</sup>東京西徳洲会病院 形成外科):全身性炎症反応症候群を呈した重症感染性足壊疽に対し二期の切断術が有用であった2例. 形成外科57(3):303-309, 2014.
13. Kagaya Y, Ohura N, Kurita M, Takushima A, Harii K: Examination of tissue oxygen saturation(StO<sub>2</sub>) changes associated with vascular pedicle occlusion in a rat Island flap model using near-Infrared spectroscopy. Microsurgery (Epub 2015).
14. Okamoto S, Iida O, Nakamura M, Yamauchi Y, Fukunaga M, Yokoi Y, Soga Y, Zen K, Hirano K, Suematsu N, Suzuki K, Shintani Y, Miyashita Y, Urasawa K, Kitano I, Yamaoka T, Ohura N, Hamasaki T, Uematsu M, Nanto S: Postprocedural Skin Perfusion Pressure Correlates With Clinical Outcomes 1 Year After Endovascular Therapy for Patients With Critical Limb Ischemia on behalf of the OLIVE Investigators. Angiology 2015.(Published online).
15. Ozaki M, Suga H, Eto H, Kobayashi Y, Watanabe R, Takushima A, Harii K: Efficacy of serial excisions of melanocytic nevi on the face using a carbon dioxide laser: a cosmetic point of view. Aesthetic Plast Surg 38:316-321, 2014.
16. 尾崎峰, 佐藤卓士, 江藤ひとみ: 超高齢社会におけるレーザー治療の意義 高齢者におけるレーザーを用いた抗加齢美容医療. 日本レーザー医学会誌 35:451-455, 2015.
17. 尾崎峰, 白石知大, 江藤ひとみ: 骨移植による鼻形成術. 形成外科58:287-297, 2015.
18. 菅浩隆, 大浦紀彦:【消化器外科医必修!「形成外科」のエッセンス】形成外科の基本手技 褥瘡. 手術68(3):321-324, 2014.
19. Suga H, Rennert RC, Rodrigues M, Sorkin M, Glotzbach JP, Januszzyk M, Fujiwara T, Longaker MT, Gurter GC: Tracking the elusive fibrocytes: Identification and characterization of collagen producing hematopoietic lineage cells during murine wound healing. Stem Cells, 32:1347-1360, 2014.
20. Fukuoka H<sup>1</sup>, Suga H, Harii K (<sup>1</sup>Cherry - Blossom Plastic and Regenerative Surgery): Hair regeneration treatment using adipose - derived stem cell conditioned medium: follow - up with trichograms. E-plasty 15:65-72, 2015.
21. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 顔面の軟部組織損傷治療のコツー外傷性顔面神経損傷の治療. PEPARS 90:69-76, 2014.
22. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺の治療 updateー 一期的遊離広背筋移植による笑いの再建. PEPARS 92:63-68, 2014.
23. Shiraishi T, Park S, Niu A, Hasegawa H: Congenital hypertrophy of multiple intrinsic muscles of the foot. J Plast Surg Hand Surg 48(6):437-440, 2014.
24. 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:【顔面神経麻痺における眼瞼部の治療】病的共同運動に伴う瞼裂縦幅の狭小化に対する外科的治療戦略. 形成外科 57(5):497-505, 2014.
25. 井本滋<sup>1</sup>, 白石知大(<sup>1</sup>杏林大学乳癌外科):【乳癌に対するoncoplastic surgery】Oncoplastic surgery を考慮した乳癌手術皮膚温存乳房切除術. 外科 76(9):963-968, 2014.
26. 白石知大:【形成外科医のための手外科の基本】伸筋腱損傷の診断と治療のポイント. 形成外科 57(増刊):S15-S21, 2014.

## 論文

1. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: Hemifacial microsomia における軟部組織の再建. 形成外科57(4):369-375, 2014.
2. 大浦紀彦, 清家志円, 井原玲, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 糖尿病性足病変に対する創傷治療と靴装具の重要性. 靴の医学 28:186-191, 2014.
3. 大浦紀彦, 井原玲: 褥瘡の診断と治療過程 エビデンスに基づく褥瘡ケア UPDATE. 臨床栄養 124(6):688-692, 2014.
4. 木村勇亮, 大浦紀彦, 匂坂正信, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: アルベカシン硫酸塩の血中・組織浸出液濃度の比較および組織移行性の検討. 日本形成外科学会誌 34(8):573-579, 2014.
5. 鈴木理央<sup>1</sup>, 大浦紀彦(<sup>1</sup>横須賀市立市民病院 形成外科):【創傷の予防と治療のための栄養療法】低栄養と創傷治療. WOC Nursing 2(7):12-20, 2014.
6. 木下幹雄<sup>1</sup>, 大浦紀彦(<sup>1</sup>東京西徳洲会病院 形成外科):【peripheral arterial disease(PAD)に対する新しい戦略】治す 重症虚血肢に対する集学的治療. Heart View 18(6):648-654, 2014.
7. 大浦紀彦, 清家志円, 井原玲, 岩科裕己, 桐渕英人, 北幸紘, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:【足の褥瘡を識る〜ケアの対応を見極める〜】踵部褥瘡の局所治療(手術療法を含む). WOC Nursing 2(5):22-28, 2014.
8. 木村勇亮, 大浦紀彦, 梶谷彩奈, 多田朋子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:【末梢動脈疾患に対する最先端治療戦略】重症下肢虚血に対する創傷治療. Circulation 4(2):67-72, 2014.
9. 木村勇亮, 大浦紀彦, 梶谷彩奈, 多田朋子, 菅浩隆, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:【重症下肢虚血肢とリハビリテーション】足潰瘍, 壊疽の局所療法. 総合リハビリテーション42(4):305-312, 2014.

27. 白石知大, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀:【乳房インプラント再建のコツ】自家組織再建と人工物再建の比較. 形成外科 58(2):157-166, 2015.
28. 辻直子<sup>1</sup>, 浅野裕子<sup>2</sup>, 吉村浩太郎<sup>3</sup>, 波利井清紀(<sup>1</sup>セルポートクリニック横浜, <sup>2</sup>亀田総合病院乳腺科, <sup>3</sup>東京大学医学部形成外科・美容外科): 胸郭変形と乳房低形成に対する脂肪由来幹細胞付加脂肪移植術. 形成外科57(9):1041-1050, 2014.
29. 辻直子<sup>1</sup>, 村瀬祥子<sup>1</sup>, 波利井清紀(<sup>1</sup>セルポートクリニック横浜): インプラントと幹細胞付加脂肪移植(CAL)を併用した乳房再建術の手法と要点. 形成外科58(2):167-175, 2015.

**著書**

1. 多久嶋亮彦, 成田圭吾: 形成外科エキスパートたちの基本手術血管柄付き遊離腓骨移植による下顎再建. 野崎幹弘編. 東京, 克誠堂出版, 2014. p.170-178.
2. 水原章浩, 大浦紀彦: 症例のみでよくわかる創傷の陰圧閉鎖療法. 医学と看護社, 2015.
3. 大浦紀彦: 皮膚感染症/蜂窩織炎, 壊死性軟部組織感染症. 形成外科治療手技全書 III 創傷外科. 東京, 克誠堂, 2015. p.244-252.

**その他**

1. 大浦紀彦: 研究会主催 第10回東京 CLI 検討会. 新宿, 2014年4月17日.
2. 大浦紀彦: 研究会主催 第2回 Tama Limb Salvage and wound care Nursing Network. 吉祥寺, 2014年5月10日.
3. 大浦紀彦: 研究会主催 第2回「透析患者の足を救う」多摩地区 CLI カンファレンス. 杏林大学大学院講堂, 2014年8月2日.
4. 大浦紀彦: 研究会主催 第11回東京 CLI 検討会. 新宿, 2014年9月11日.
5. 大浦紀彦: 研究会主催 第1回 TAMA Outpatients and Home-care Wound care meeting. 吉祥寺, 2015年2月12日.
6. 菅浩隆: 2014年度日本形成外科学会学術奨励賞(受賞論文: Suga H, Rennert RC, Rodrigues M, Sorkin M, Glotzbach JP, Januszyk M, Fujiwara T, Longaker MT, Gurter GC. Tracking the elusive fibrocytes: Identification and characterization of collagen producing hematopoietic lineage cells during murine wound healing. Stem Cells, 32:1347-1360, 2014.).

**泌尿器科学教室**

**講演**

1. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における HoLEP および TUEB の中期治療成績. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
2. 原秀彦, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 進行性腎細胞癌に対してスニチニブを使用した症例の検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
3. 中村雄, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腹腔鏡下膀胱全摘術の現状と問題点. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
4. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌にお

- ける化学療法での治療効果判定は PSA で十分かー末梢循環癌細胞検査の意義-. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
5. 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における精巣腫瘍治療, 腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術の初期経験. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
6. 板谷直, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 体外衝撃波碎石術後の  $\alpha$ 1遮断薬による排石効果の比較検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
7. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNL の中長期の治療成績と合併症. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
8. 多武保光宏, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 結石性腎盂腎炎における DIC 発症への危険因子. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
9. 林建二郎, 宍戸俊英, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腸管を利用した尿路変向術が消化管粘膜に及ぼす影響の検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
10. 山口剛, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腎部分切除, 腎全摘除後における腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
11. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法での循環腫瘍細胞の FISH 解析. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
12. 野間康央, 磯谷周治, 下山博史, 井上正浩, 中島晶子, 古謝将之, 堀内明, 常盤紫野, 北村香介, 吉井隆, 斎藤恵介, 久末伸一, 井手久満, 武藤智, 山口雷蔵, 堀江重郎: ロボット補助下腎部分切除術(RAPN)における選択的腎動脈遮断を目的とした手術計画の経験. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
13. 金城真実, 嘉村康邦, 関口由紀, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における  $\beta$ 3刺激薬と抗ムスカリン薬の安全性・有効性の比較. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
14. 桶川隆嗣: CRPC における circulating tumor cells (CTC)の意義. 泌尿器 CTC 研究会, 東京, 2014年5月9日.
15. 桶川隆嗣: 前立腺癌がんの個別化医療. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン, 三鷹, 2014年5月28日.
16. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 藤原正親, 菅間博: ペニシリンG 大量投与によって発症したと考えられる出血性膀胱炎の1例. 第124回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2014年6月6日.
17. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村

- 雄, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 高容量ペニシリン G 投与により出血性膀胱炎をきたした1例. 第615回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2014年6月21日.
18. 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎(ADPKD)の薬物療法. 『常染色体優性多発性嚢胞腎』学術講演会, つくば, 2014年6月26日.
  19. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 宍戸俊英, 多武保光宏, 原秀彦, 宮崎功, 小林邦典, 似鳥俊明: 多発性嚢胞腎患者に対する飲水増加がもたらす効果について. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  20. 安藤昌彦, 武藤智, 奴田原紀久雄, 堀江重郎: 疾患負担とQOL. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  21. 武藤智, 望月俊雄, 土谷健, 西尾妙織, 花岡一成, 鶴屋和彦, 石村栄治, 成田一衛, 乳原善文, 奴田原紀久雄, 堀江重郎: 多発性嚢胞腎患者全国登録による多施設共同研究(J-PKD レジストリー研究): 中間報告. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
  22. 森川泰如: 当院でのエンザルタミド初期治療経験. 前立腺癌治療戦略シンポジウム, 立川, 2014年7月18日.
  23. 奴田原紀久雄: ADPKD の診断と治療. 神戸明石腎セミナー, 神戸, 2014年8月7日.
  24. 板谷直, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 太田智則: 体外衝撃波碎石術後の $\alpha$ 1遮断薬による排石効果の比較検討. 日本尿路結石症学会第24回学術集会, 大阪, 2014年8月30日.
  25. 奴田原紀久雄: 腎盂尿管ビデオスコープ OLYMPUS URF-V2 開発の原点そして未来へ. 日本尿路結石症学会第24回学術集会, 大阪, 2014年8月30日.
  26. 森川泰如, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌化学療法後の治療経験. 第125回多摩泌尿器科医会, 立川, 2014年9月12日.
  27. 金城真実, 嘉村康邦, 関口由紀, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者におけるメタボリックシンドロームとミラベグロン治療効果に関する検討. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月18日.
  28. 谷口珠実, 丹波光子, 平山千登勢, 金城真実, 榎本香織, 多武保光宏, 奴田原紀久雄, 小林英樹, 大竹裕子, 武田正之: 尿失禁女性の骨盤底筋訓練後6ヵ月間の年齢別比較. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月19日.
  29. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 森秀明, 宮崎功, 似鳥俊明, 小林邦典: Safety of somatostatin analogue octreotide for Autosomal dominant polycystic kidney disease. 第22回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 2014年9月20日.
  30. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 術前推定前立腺容積100cm<sup>3</sup>以上の前立腺肥大症に対する HoLEP の手術成績. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月20日.
  31. 中村雄, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: HoLEP の長期治療成績. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月20日.
  32. 森川泰如, 原秀彦: 褐色細胞腫に対する腹腔鏡下副腎摘除術の検討. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月4日.
  33. 原秀彦, 森川泰如, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における腎癌での開腹手術と腹腔鏡下手術の治療成績. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月4日.
  34. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腹腔鏡下膀胱全摘除術の現状と問題点. 第27回日本内視鏡外科学会総会, 盛岡, 2014年10月4日.
  35. 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎癌胆嚢転移の1例. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
  36. 原秀彦, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎癌骨転移に対するゾレドロン酸併用療法の検討. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
  37. 北村盾二, 寺戸雄一, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 前立腺膿瘍との鑑別が困難であった多発血管炎性肉芽腫症(GPA, Wegener 肉芽腫症)の1例. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
  38. 二宮直紀, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における根治的膀胱全摘術の周術期合併症の検討. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
  39. 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 膀胱癌での回腸新膀胱造設術症例における長期成績. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
  40. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: うつ病を合併した LOH 症候群に対するテストステロン補充療法. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
  41. 森川泰如, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院におけるデガレリクスの使用経験. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
  42. 板谷直, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌における予後因子の検討. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
  43. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当院における脳転移を認めた腎癌の治療成績. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
  44. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP 後に見つかった前立腺癌の臨床的検討. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
  45. 桶川隆嗣: 杏林大学におけるアビラテロンの使用経験. ザイティ

- ガ発売記念講演会, 立川, 2014年10月31日.
46. 奴田原紀久雄:ADPKD 治療の Update. 第2回福井 ADPKD 研究会, 福井, 2014年11月6日.
  47. 桶川隆嗣:前立腺がんの治療とは?. 調布市前立腺がん市民公開講座, 調布, 2014年11月15日.
  48. 鮫島未央:後腹膜に発生した hemangiopericytoma の1例. 第126回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2014年11月21日.
  49. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄:腎腫瘍に対する単孔式後腹膜下腎摘除は従来の腹腔鏡手術より低侵襲か. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月26日.
  50. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄:腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の治療成績:単一術者の比較. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月26日.
  51. 鮫島未央, 北村盾二, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:PNL を行ったマトリックス結石の1例. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月26日.
  52. 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:腹腔鏡下腎部分切除術における中長期腎機能の推移. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
  53. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:TUL 後の尿管狭窄の臨床検討. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
  54. 二宮直紀, 鮫島未央, 舛田一樹, 野間康央, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:PNL の中長期の成績. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
  55. 板谷直, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:当科で施行した腹腔鏡下腎摘除術から開腹手術に移行した症例の検討. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
  56. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 森川泰如, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:腎および尿管結石における ESWL 治療効果の予測. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月28日.
  57. 原秀彦, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月28日.
  58. 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 下山田博明, 菅間博:後腹膜 hemangiopericytoma の1例. 第616回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2014年12月11日.
  59. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄:ハイリスク前立腺癌における末梢循環癌細胞検査の意義. 第30回前立腺シンポジウム, 東京, 2014年12月14日.
  60. 桶川隆嗣:私の行ってきた臨床・研究のこれまでとこれから. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2014年12月18日.
  61. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 森秀明, 宮崎功, 似島俊明, 小林邦典:ADPKD 患者に対するソマトスタチン(オクトレオチド)の安全性について. 第2回「若手のための ADPKD マネージメントカンファレンス, 東京, 2015年1月24日.
  62. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:アタザナビル内服で発症した尿管結石の1例. 第127回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2015年1月30日.
  63. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二:アタザナビル内服で発症した尿管結石の1例. 第617回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2015年2月12日.
  64. 奴田原紀久雄:基礎から学ぶ膀胱癌・前立腺癌. 第8回多摩尿検査講演会, 立川, 2015年2月28日.
  65. 二宮直紀:腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の治療成績:単一術者の比較. 第128回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2015年3月6日.
- 論文**
1. Okegawa T, Itaya N, Hara H, Tambo M, Nutahara K : Circulating tumor cells as a biomarker predictive of sensitivity to docetaxel chemotherapy in patients with castration-resistant prostate cancer. *Anticancer Res* 34(11):6705-6710,2014.
  2. Yabusaki M<sup>1,2</sup>, Sato J<sup>1,2</sup>, Kohyama A<sup>3</sup>, Kojima T<sup>3</sup>, Nobuoka D<sup>2,4</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup>, Sawada Y<sup>2</sup>, Murakami K<sup>1</sup>, Gohda K<sup>1</sup>, Okegawa T, Nakamura M<sup>5</sup>, Takamatsu K<sup>5</sup>, Ito M<sup>3</sup>, Kaneko K<sup>3</sup>, Nakatsura T<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Sysmex Corporation, <sup>2</sup>National Cancer Center, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>4</sup>Okayama University, <sup>5</sup>Tokyo Dental College) : Detection and preliminary evaluation of circulating tumor cells in the peripheral blood of patients with eight types of cancer using a telomerase-specific adenovirus. *Oncol Rep* 32(5):1772-1778,2014.
  3. Okegawa T, Higaki M<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>2</sup>, Kase H<sup>3</sup>, Murata A<sup>4</sup>, Noda K<sup>5</sup>, Noda H<sup>6</sup>, Asaoka H<sup>7</sup>, Oshi M<sup>8</sup>, Tomoishi J<sup>9</sup>, Uchida H<sup>10</sup>, Higashihara E, Nutahara K, Bone Metastasis Prostate Cancer Group (<sup>1</sup>National Hospital Organization Disaster Medical Center, <sup>2</sup>Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, <sup>3</sup>Sassa General Hospital, <sup>4</sup>Kawakita associates General Hospital, <sup>5</sup>NishiTokyo Central General Hospital, <sup>6</sup>Tama-Hokubu Medical Center, <sup>7</sup>Akiru Municipal Medical Center, <sup>8</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>9</sup>Ome Municipal General Hospital, <sup>10</sup>Hitotsubashi Hospital): Zoledronic acid improves clinical outcomes in patients with bone metastatic hormone-naïve prostate cancer in a multicenter clinical trial. *Anticancer Res* 34(8): 4415-4420, 2014.
  4. Tambo M, Okegawa T, Shishido T, Higashihara E, Nutahara K: Predictors of septic shock in obstructive acute pyelonephritis. *World J Urol* 32(3):803-811, 2014.
  5. Fujita N, Okegawa T, Terado Y<sup>1</sup>, Tambo M, Higashihara E, Nutahara K (<sup>1</sup>Dept of Pathology, Kyorin University school of Medicine) : Serum level and immunohistochemical expression of vascular endothelial growth factor for the prediction of postoperative recurrence in renal cell carcinoma. *BMC Res Notes* 7:369,2014.
  6. Higashihara E<sup>1</sup>, Nutahara K, Tambo M, Hara H, Miyazaki I<sup>2</sup>, Kobayashi K<sup>3</sup>, Nitadori T<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University) : Does increased water intake prevent disease

progression in autosomal dominant polycystic kidney disease?.  
Nephrol Dial Transplant 29(9):1710-1719,2014.

7. Higashihara E<sup>1</sup>, Nutahara K, Okegawa T, Tanbo M, Mori H<sup>2</sup>, Miyazaki I<sup>3</sup>, Nitadori T<sup>3</sup>, Kobayashi K<sup>3,4</sup> (1)Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine, (2)Department of Gastroenterology, Kyorin University School of Medicine, (3)Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, (4)Department of Medical Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Safety study of somatostatin analogue octreotide for autosomal dominant polycystic kidney disease in Japan. Clin Exp Nephrol 2014 (in press).
8. 奴田原紀久雄: 前立腺癌外科的治療の展望 ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘術. 杏林医会誌 45(1):19-23, 2014.
9. 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎の薬物療法. 腎と透析 77(5): 735-739, 2014.
10. 山本新吾<sup>1</sup>, 奴田原紀久雄 (1)兵庫医科大学): 序文 特集2長期留置尿路ステントの現状と展望. Jpn J Endourol 27:47, 2014.
11. 和田耕一郎<sup>1</sup>, 山本新吾<sup>2</sup>, 松崎純一<sup>3</sup>, 麦谷荘一<sup>4</sup>, 山田仁<sup>5</sup>, 安田満<sup>6</sup>, 宮崎淳<sup>7</sup>, 高橋聡<sup>8</sup>, 山口秋人<sup>9</sup>, 奴田原紀久雄 (1)岡山大学, (2)兵庫医科大学, (3)大口東総合病院, (4)すずかけセントラル病院, (5)武田総合病院, (6)岐阜大学, (7)筑波大学, (8)札幌医科大学, (9)原三信病院): 長期留置尿路ステントの現状と展望 尿管ステントの長期留置に関するアンケート調査. Jpn J Endourol 27(1): 79-83, 2014.
12. 宍戸俊英, 林建二郎, 東原英二, 奴田原紀久雄: 間質性膀胱炎の治療法の変遷と成績 間質性膀胱炎に対する低用量シクロスポリン A(CyA)内服治療効果と今後の課題. 泌外 27(臨増): 623-625, 2014.
13. 金城真実, 嘉村康邦<sup>1</sup>, 関口由紀<sup>2</sup>, 奴田原紀久雄 (1)四谷メディカルキューブ, (2)横浜元町女性医療クリニック LUNA): 女性尿失禁患者における精神症状について. 日女性骨盤底医会誌, 11(1):89-92, 2014.
14. 桶川隆嗣, 板谷直, 原秀彦, 奴田原紀久雄: 腎盂尿管癌に対する単孔式後腹膜鏡下腎尿管全摘除術. Jpn J Endourol 27(2):262-267, 2014.
15. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 経尿道的尿管碎石術(TUL). 泌尿器ケア 226:172-181, 2014.
16. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 泌尿器内視鏡治療とチーム医療ー結石内視鏡治療ー. Jpn J Endourol 27(1):112-117, 2014.
17. 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 難治性結石治療に挑むー周術期尿路感染症の治療ー. 泌外 27(臨増):661-663, 2014.
18. 板谷直, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 体外衝撃波碎石術(ESWL)後のα1遮断薬による排石効果の比較検討. 日尿路結石症会誌 12(2): 175-177, 2014.
19. Kondo T<sup>1</sup>, Nakazawa H<sup>2</sup>, Oya M<sup>3</sup>, Kimura G<sup>4</sup>, Fujii Y<sup>5</sup>, Hatano T<sup>6</sup>, Kawata N<sup>7</sup>, Kume H<sup>8</sup>, Morita M<sup>9</sup>, Nakajima K<sup>10</sup>, Ohno Y<sup>11</sup>, Okegawa T, Takahashi S<sup>12</sup>, Wakumoto Y<sup>13</sup>, Horie S<sup>13</sup>, Yamaguchi R, Saito K, Murakami M (1)Tokyo Women's Medical University, (2)Tokyo Women's Medical University Medical Center East, (3)Keio University School of Medicine, (4)Nippon Medical School, (5)Tokyo Medical and Dental University Graduate School, (6)JR Tokyo General Hospital, (7)Nihon University School of Medicine, (8)Tokyo University, (9)Showa University Koto Toyosu Hospital, (10)Toho University School of Medicine, (11)Tokyo Medical University, (12)Cancer Institute Hospital, (13)Juntendo University Graduate

School of Medicine): Clinical efficacy and prognostic factors of tumor progression in Japanese patients with advanced renal cell carcinoma treated with sorafenib. Jpn J Clin Oncol. 45(3): 274-80,2015.

20. 奴田原紀久雄: 腎盂尿管ビデオスコープ OLYMPUS URF-V2 開発の原点そして未来へ. 日尿路結石症会誌 13(2):180-183, 2015.
21. 奴田原紀久雄: 「超高齢社会におけるレーザー治療の意義」の特集よせて. 日レーザー医会誌 35(4):444, 2015.
22. 奴田原紀久雄: 多発性嚢胞腎ADPKDの新しい展開 尿路結石症と腎細胞がん. 腎臓内科・泌尿器科 1(2):153-156, 2015.

#### 平成25年度業績追加分

1. 林建二郎, 宍戸俊英, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 膀胱全摘後の回腸新膀胱における排尿状態の検討. 日排尿会誌 24(2):332-335, 2014.

#### 著書

1. Okegawa T, Nutahara K: Urology. Reduced Port Laparoscopic Surgery. Mori T, Dapri G. Tokyo, Springer Japan, 2014. p.491-497.
2. 奴田原紀久雄: 血尿. 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2014-2015. 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹監修, 五十嵐隆, 一ノ瀬正和, 大家基嗣, 岡本美孝, 加藤聖子, 小松則夫, 高橋良輔, 樋口和秀, 三鴨廣繁, 三森経世, 持田智, 山崎正志, 山本哲也編集. 東京, メディカルレビュー社, 2014. p.811-815.
3. 奴田原紀久雄: 疫学・予後. エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014. 松尾清一監修, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に対する調査研究班編集. 東京, 東京医学社, 2014. p.26-28.
4. 奴田原紀久雄: 治療 4) 尿路結石. エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014. 松尾清一監修, 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に対する調査研究班編集. 東京, 東京医学社, 2014. p.46-47.
5. 多武保光宏: ゲムシタピン(尿路上皮癌), メトレキサート(尿路上皮癌), シスプラチン(尿路上皮癌, 精巣癌), プレオマイシン(精巣癌), ドセタキセル(前立腺癌), ゴセレリン・リュープロレリン・テガレリクス(前立腺癌), エベロリムス・テムシロリムス・スニチニブ・ソラフェニブ・アキシチニブ(腎臓癌). がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編集. 東京, 中外医学社, 2014. p.40, 61, 79-80, 136-137, 192, 223-225, 230-231, 265, 269-270, 299-300, 304-305, 307-308.
6. 奴田原紀久雄: 腎・尿管結石. 今日の治療指針2015. 山口徹, 北原光夫監修, 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2015. p.1084-1085.
7. 奴田原紀久雄: 疫学. エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014準拠 多発性嚢胞腎診療ガイド Q&A 改訂第2版. 松尾清一監修, 堀江重郎編集. 東京, 診断と治療社, 2015. p.34-35.
8. 奴田原紀久雄合併症とその対策(6) 尿路結石. エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014準拠 多発性嚢胞腎診療ガイド Q&A 改訂第2版. 松尾清一監修, 堀江重郎編集. 東京, 診断と治療社, 2015. p.98-99.
9. 奴田原紀久雄: 予後, 予後判定基準など. エビデンスに基づく多発性嚢胞腎(PKD)診療ガイドライン2014準拠 多発性嚢胞腎診療ガイド Q&A 改訂第2版. 松尾清一監修, 堀江重郎編集. 東京, 診断と治療社, 2015. p.119-120.

#### その他

1. 桶川隆嗣: 「医療の現場」前立腺がん ～医療の未来形 ロボッ

ト手術に密着! ～, BS 朝日, 2015年2月1日.

### 多発性嚢胞腎研究講座

#### 講演

##### 国内学会・講演

1. 東原英二:多発性嚢胞腎の発症機序と薬物治療. Meet the Expert ADPKD in TOYMA, 富山, 2014年4月21日.
2. 宍戸俊英, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:当院における HoLEP および TUEB の中期治療成績. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
3. 原秀彦, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:進行性腎細胞癌に対してスニチニブを使用した症例の検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
4. 中村雄, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:当院における腹腔鏡下膀胱全摘術の現状と問題点. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月24日.
5. 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:当院における精巣腫瘍治療, 腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術の初期経験. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
6. 板谷直, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:体外衝撃波碎石術後の  $\alpha 1$  遮断薬による排石効果の比較検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
7. 二宮直紀, 北村盾二, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:PNL の中長期の治療成績と合併症. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月25日.
8. 多武保光宏, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:結石性腎盂腎炎における DIC 発症への危険因子. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
9. 林建二郎, 宍戸俊英, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:腸管を利用した尿路変向術が消化管粘膜に及ぼす影響の検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
10. 山口剛, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:腎部分切除, 腎全摘除後における腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
11. 舛田一樹, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:去勢抵抗性前立腺癌に対するドセタキセル療法での循環腫瘍細胞の FISH 解析. 第102回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2014年4月26日.
12. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄, 藤原正親, 菅間博:ペニシリンG 大量投与によって発症したと考えられる出血性膀胱炎の1例. 第124回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2014年6月6日.
13. 東原英二:ADPKD 治療 UPDATE. サムスカ効能追加記念静岡講演会, 静岡, 2014年6月7日.
14. 東原英二:ADPKD における最新診療. Tolvaptan 適応追加記念講演会, 小倉, 2014年6月17日.
15. 舛田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 宍戸俊英, 多武保光宏, 原秀彦, 宮崎功, 小林邦典, 似鳥俊明:多発性嚢胞腎患者に対する飲水増加がもたらす効果について. 第57回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2014年7月4-6日.
16. 東原英二:多発性嚢胞腎(PKD)の最新情報. 大塚製薬株式会社プレスセミナー, 東京, 2014年7月15日.
17. 東原英二:Tolvaptan の ADPKD 診療における位置づけ. サムスカ ADPKD 適応追加記念講演会, 盛岡, 2014年7月25日.
18. 板谷直, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄, 太田智則:体外衝撃波碎石術後の  $\alpha 1$  遮断薬による排石効果の比較検討. 日本尿路結石症学会第24回学術集会, 大阪, 2014年8月30日.
19. 東原英二:サムスカ錠 ADPKD 効能追加記念講演会. Opening Remarks, 東京, 2014年8月30日.
20. 東原英二:多発性嚢胞腎の最新治療. 第21回多摩透析勉強会, 立川, 2014年9月6日.
21. 森川泰如, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:去勢抵抗性前立腺癌化学療法後の治療経験. 第125回多摩泌尿器科医会, 立川, 2014年9月12日.
22. 舛田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 森秀明, 宮崎功, 似鳥俊明, 小林邦典:Safety of somatostatin analogue octreotide for Autosomal dominant polycystic kidney disease. 第22回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 2014年9月20日.
23. 東原英二, 舛田原紀久雄, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 原秀彦, 宮崎功, 小林邦典, 似鳥俊明:Accuracy and Reliability of Kidney Volume Estimations with Ellipsoid Equations by Magnetic Resonance Imaging in Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease. 第22回嚢胞性腎疾患研究会, 東京, 2014年9月20日.
24. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:術前推定前立腺容積100cm<sup>3</sup>以上の前立腺肥大症に対する HoLEP の手術成績. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月20日.
25. 中村雄, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 舛田原紀久雄, 東原英二:HoLEP の長期治療成績. 第21回日本排尿機能学会, 岡山, 2014年9月20日.
26. 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 林建二郎, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:膀胱癌での回腸新膀胱造設術症例における長期成績. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月13日.
27. 森川泰如, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 舛田原紀久雄:当院におけるデガレリクスの使用経験. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.

28. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP 後に見つかった前立腺癌の臨床的検討. 第79回日本泌尿器科学会東部総会, 横浜, 2014年10月14日.
29. 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除術における中長期腎機能の推移. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
30. 二宮直紀, 鮫島未央, 舛田一樹, 野間康央, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: PNL の中長期の成績. 第28回日本泌尿器内視鏡学会, 福岡, 2014年11月27日.
31. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 第10回千葉エコー研究会, 千葉, 2014年11月30日.
32. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 森秀明, 宮崎功, 似島俊明, 小林邦典: ADPKD 患者に対するソマトスタチン(オクトレオチド)の安全性について. 第2回「若手のためのADPKD マネージメントカンファレンス, 東京, 2015年1月24日.
33. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. ADPKD Forum in Sendai, 仙台, 2015年1月27日.
34. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: アタザナビル内服で発症した尿管結石の1例. 第127回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2015年1月30日.
35. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 香川 ADPKD 学術講演会, 高松, 2015年2月9日.
36. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. サムスカ錠ADPKD 効能追加記念講演会, 立川, 2015年2月10日.
37. 野間泰央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 東原英二: アタザナビル内服で発症した尿管結石の1例. 第617回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2015年2月12日.
38. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 大崎地区学術講演会, 大崎, 2015年2月13日.
39. 東原英二: 多発性嚢胞腎の最新治療. 多発性嚢胞腎 地域医療連携講演会～変わる難病治療～, 福岡, 2015年2月24日.
40. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 日本医師会生涯教育講座 多発性嚢胞腎学術講演会, 青森, 2015年3月17日.
41. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 学術講演会 多発性嚢胞腎における最新診療, 山形, 2015年3月27日.

#### 国際学会・米国会

1. Torres VE, Chapman AB, Devuyst O, Gansvoort RT, Higashihara E, Perrone RD, Ouyang J, Shoaf SE, Dandurand A, McQuade RD, Czerwiec FS: Tolvaptan-treatment of ADPKD confers persistent EGFR improvement: results from the TEMPO 4:4 extension trial. 51<sup>st</sup> ERA-EDTA Congress, Netherland, June 1st, 2014.
  2. Devuyst, Chapman AB, Gansvoort RT, Grantham JJ, Higashihara E, Perrone RD, Torres VE, Krasa HB, Ouyang J, Shoaf S, Czerwiec FS Urine osmolality and outcome in ADPKD : results from the TEMPO 3:4 trial. 51<sup>st</sup> ERA-EDTA Congress, Netherland, June 1st, 2014.
  3. Perrone RD, Bae KT, Chapman AB, Devuyst O, Gansvoort RT, Grantham JJ, Higashihara E, Torres VE, Sergeeva O, Zhou w, Blais JD, Czerwiec FS: Relationship of total kidney volume, growth, CKD stage and kidney pain in ADPKD: examination of the overture baseline data. 51<sup>st</sup> ERA-EDTA Congress , Netherland, June 1st, 2014.
  4. Torres VE, Chapman AB, Devuyst O, Gansvoort RT, Higashihara E, Perrone RD, Ouyang J, Shoaf SE, Blais J, Czerwiec FS: Tolvaptan-treatment of ADPKD confers persistent eGFR improvement: Results from the TEMPO 4:4 extension trials. ASN Kidney Week 2014, USA, November 15th, 2014
  5. Kugita M, Yoshihara D, Sasaki M, Nishii K, Suzuki A, Yuzawa Y, Yamaguchi T, Horie S, Higashihara E, Nagao S: Beneficial effect of combined treatment of two Gi protein activators in PCK rats, an orthologous model of human autosomal recessive polycystic kidney disease. ASN Kidney Week 2014, USA, November 15th, 2014.
  6. Casteleijn NF, Blais JD, Chapman AB, Czerwiec FS, Devuyst O, Higashihara E, Ouyang J, Perrone RD, Torres VE, Gansvoort RT: Tolvaptan decreases the incidence of renal pain events in ADPKD patients: Results from the TEMPO 3:4 trial. ISN World Congress of Nephrology, South Africa, March 14th, 2015.
  7. Torres V, Devuyst O, Chapman A, Gansvoort R, Grantham J, Higashihara E, Perrone R, Ouyang J, Blais J, Czerwiec F: Effect of tolvaptan in ADPKD by CKD stage: Results from the TEMPO 3:4 trial. ISN World Congress of Nephrology, South Africa, March 14th, 2015.
- #### 論文
1. 田中正利, 入江慎一郎, 桶川隆嗣, 賀本敏行, 酒井英樹, 今井常夫, 服部良平, 伊藤明宏, 木下秀文, 小松和人, 繁田正信, 中澤速和, 吉村一宏, 三俣浩光, 伊藤直樹, 川喜田睦司, 佐藤文憲, 関利盛, 野々村祝夫, 松田公志, 寺地敏郎, 頼川晋, 角野佳史, 川端岳, 近藤幸尋, 立神勝則, 中川健, 吉岡邦彦, 田邊一成, 尾本和也, 江藤正俊, 絹川常郎, 鈴木和雄, 渡辺竜助, 武田正之, 浅沼宏, 岩村正嗣, 座光寺秀典, 宋成浩, 永井敦, 馬場志郎, 原勲, 桶之津史郎, 鈴木孝明, 平尾佳彦, 笈善行, 東原英二. 泌尿器腹腔鏡手術ガイドライン2014年版(解説/特集). 日本泌尿器内視鏡学会 27:1-46, 2014.
  2. 宍戸俊英, 林建二郎, 東原英二, 奴田原紀久雄: 間質性膀胱炎の治療法の変遷と成績 間質性膀胱炎に対する低用量シクロスポリン A(CyA)内服治療効果と今後の課題. 泌外 27(臨増): 623-625, 2014.
  3. 板谷直, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 林建二郎, 原秀彦, 多武保光宏, 宍戸俊英, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 体外衝撃波碎石術(ESWL)後の $\alpha 1$ 遮断薬による排石効果の比較検討. 日尿路結石症会誌 12(2): 175-177, 2014.
  4. 林建二郎, 宍戸俊英, 菅田明子, 中村雄, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP(ホルミウムレーザー前立腺核手術)は高齢者にとって安全・有効な治療法か?. 日本泌尿器内視鏡学会誌 28(1):137-141, 2015.
  5. Tambo M<sup>1</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Shishido T<sup>1</sup>, Higashihara E<sup>2</sup>, Nutahara K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine): Predictors of septic shock in obstructive acute pyelonephritis. World J Urol.32(3):803-811, 2014.
  6. Okegawa T, Higaki M<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>2</sup>, Kase H<sup>3</sup>, Murata A<sup>4</sup>, Noda K<sup>5</sup>, Noda H<sup>6</sup>, Asaoka H<sup>7</sup>, Oshi M<sup>8</sup>, Tomoishi J<sup>9</sup>, Uchida H<sup>10</sup>, Higashihara E<sup>11</sup>, Nutahara K<sup>12</sup>: Bone Metastasis Prostate

- Cancer Group (<sup>1</sup>National Hospital Organization Disaster Medical Center, <sup>2</sup>Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, <sup>3</sup>Sassa General Hospital, <sup>4</sup>Kawakita associates General Hospital, <sup>5</sup>NishiTokyo Central General Hospital, <sup>6</sup>Tama-Hokubu Medical Center, <sup>7</sup>Akiru Municipal Medical Center, <sup>8</sup>Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>9</sup>Ome Municipal General Hospital, <sup>10</sup>Hitotsubashi Hospital, <sup>11</sup>Department of ADPKD Research, Kyorin University School of Medicine, <sup>12</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine) : Zoledronic acid improves clinical outcomes in patients with bone metastatic hormone-naïve prostate cancer in a multicenter clinical trial. *Anticancer Res.* 34(8):4415-4420, 2014
7. Higashihara E, Nutahara K<sup>1</sup>, Tanbo M<sup>1</sup>, Hara H<sup>1</sup>, Miyazaki I<sup>2</sup>, Kobayashi K<sup>3</sup>, Nitatori T<sup>2</sup> <sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Medical Radiological Technology): Does increased water intake prevent disease progression in autosomal dominant polycystic kidney disease?. *Nephrol Dial Transplant.* 29: 1710-1719, 2014.
  8. Higashihara E, Nutahara K<sup>1</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Tanbo M<sup>1</sup>, Mori H<sup>2</sup>, Miyazaki I<sup>3</sup>, Nitadori T<sup>3</sup>, Kobayashi K<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Gastroenterology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Radiology, <sup>4</sup>Department of Medical Radiological Technology) : Safety study of somatostatin analogue octreotide for autosomal dominant polycystic kidney disease in Japan. *CLin Exp Nephrol.* 19(4):746-752, 2015.
  9. Fujita N<sup>1</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Terado Y<sup>2</sup>, Tambo M<sup>1</sup>, Higashihara E, Nutahara K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Dept of Pathology, Kyorin University school of Medicine): Serum level and immunohistochemical expression of vascular endothelial growth factor for the prediction of postoperative recurrence in renal cell carcinoma. *BMC Res Notes.* 7:369, 2014.
  10. Muto S<sup>1</sup>, Kawano H, Higashihara E, Narita E, Ubara Y, Matsuzaki T, Ouyang J, Torres VE, Horie S (<sup>1</sup>Department of Urology, Teikyo University School of Medicine): The effect of tolvaptan on autosomal dominant polycystic kidney disease patients: a subgroup analysis of the Japanese patient subset from TEMPO 3:4 trial. *Clin Exp Nephrol.* DOI: 10. 1007 / s10157-015-1086-2. (Epub 2015).
  11. 東原英二: 注目の新薬 <V<sub>2</sub> 受容体拮抗薬> 「サムスカ錠7.5mg, 同 15mg, 同 30mg」. *医薬ジャーナル新薬展望* 2015 51(S-1):102-114, 2015.
  - 10 Tips in Uveitis, World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  4. Hirakata A: Update on Management of Macular Hole. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  5. Vajzovic L, Mahmoud T, Inoue M, Toth C, Hirakata A: Duke Vitreoretinal Surgical Rounds: What Would Machemer, McCuen, Tano, and Hida Say? A Generation of Changes. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  6. Takeyama A, Kita Y, Kita R, Tomita G: The influence of axial length on ganglion cell complex thickness and ganglion cell complex thickness to total retinal thickness ratio in young adults. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd - 6th, 2014.
  7. Kita Y, Kita R, Takeyama A, Tomita G: The effect of high myopia on glaucoma diagnostic parameters as measured by optical coherence tomography. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  8. Enomoto N, Anraku A, Takagi S, Kita Y, Tomita G: Correlation of optic nerve head parameters by scanning laser ophthalmoscopy with thickness of circumpapillary retinal nerve fiber layer by spectral domain-optical coherence tomography in glaucoma. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  9. Anraku A, Enomoto N, Kita Y, Takagi S, Tomita G: Impact of macular ganglion cell complex thickness on progression of visual field loss in patients with normal-tension glaucoma and hemifield defects. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  10. Watanabe T, Keino H, Taki W, Echizen N, Okada AA: Efficacy of infliximab in two young patients with Behcet's disease. World Ophthalmology Congress® of the international council of ophthalmology, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  11. 平形明人: 眼科断層機器の進歩の硝子体手術への貢献. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-5日.
  12. 狩野麻里子, 古泉英貴, 山本亜希子, 齋藤昌晃, 杉谷篤彦, 丸子一郎, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘, 石龍鉄樹: 滲出型加齢黄斑変性に対する aflibercept 硝子体内注射の6ヶ月治療成績. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-6日.
  13. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 肥留川京子, 大竹杏奈, 杉谷篤彦: 難治性 AMD aflibercept 切り替え症例に対する treat and adjust 療法の治療反応. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-6日.
  14. 慶野博, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 硝子体による制御性 T 細胞の誘導能の検討. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-6日.
  15. 古泉英貴, 狩野麻里子, 山本亜希子, 齋藤昌晃, 丸子一郎, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘: ポリープ状脈絡膜血管症での脈絡膜血管透過性充進所見とアフリベルセプトへの反応性. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-6日.
  16. Hirota K, Keino H, Inoue M, Hirakata A: MicroRNA Expression Profiling in Vitreous Humor from Patients with Macular Hole. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-5th, 2014.
  17. Yokota R, Hirakata A, Saito T, Hotta K, Inoue M: Surgical Outcome of Macular Hole Secondary to Type 2 Idiopathic Macular Telangiectasia. World Ophthalmology Congress 2014,

## 眼科学教室

## 講演

1. Arai C, Ogata M, Tanaka E, Oda K, Okada AA, Hirakata A: Outcome of low vision care comparing quality of life in patients with low vision between before and after intervention. Vision 2014 (11th International Congress on Low Vision), Australia, March 30th, -April 3rd, 2014.
2. Okada AA: Viral Acute Retinal Necrosis, Symposium: Infectious Uveitis One Should Not Miss. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
3. Okada AA: Top 10 Tips on Imaging in Uveitis, Symposium: Top

- Tokyo, April 2nd-5th,2014.
18. Inoue M, Itoh Y, Rii T, Hirota K, Hirakata A: Macular Retinoschisis and Detachment Associated with Normal Tension Glaucoma. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-5th,2014.
  19. Takase H, Goto H, Okada AA, Ohguro N, Mochizuki M: Development and validation of new diagnostic criteria for acute retinal necrosis. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th,2014.
  20. Keino H, Shudo K, Kitaoka Y, Harada T, Okada AA: Retinoic acid receptor stimulation ameliorates autoimmune optic neuritis. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  21. Yamamoto A, Okada AA, Hirukawa K, Sugitani A: Intravitreal aflibercept for exudative age-related macular degeneration associated with large retinal pigmented epithelium detachment. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-6th, 2014.
  22. 鈴木崇, 大橋裕一, 大鹿哲郎, 後藤浩, 平形明人, 福下公子, 宮田和典:HOYA眼内レンズ関連眼内炎における後ろ向き症例調査報告. 第118回日本眼科学会総会, 東京, 2014年4月2-5日.
  23. Kawasaki R, Yu SY, Nagaoka T, Inoue M, Lee JE: Treatment of diabetic retinopathy: From ABCs to Updates. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-5th,2014.
  24. Inoue M:Images of visual perceptions experienced during cataract surgery projected onto retinal surface of model eye. World Ophthalmology Congress 2014, Tokyo, April 2nd-5th, 2014.
  25. 富田茜, 廣田和成, 折原唯史, 国田大輔, 井上真, 平形明人:アトピー性網膜剥離術後早期にMRSAバックル感染を生じた一例. 第5回東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 2014年4月19日.
  26. 井上真:難治症例への MIVS. 第2回お茶の水 Ophthalmic Update, 東京, 2014年4月19日.
  27. 慶野博:皮膚疾患と眼炎症性疾患. 第5回 東京多摩眼科連携セミナー, 東京, 2014年4月19日.
  28. 山田昌和:ドライアイ診療アップデート. 第7回筑後眼科教育フォーラム, 福岡, 2014年4月25日.
  29. 平形明人:知っておきたい眼の病気-よりよい視力を守るために-. 杏林大学「地(知)の拠点整備事業 第1回杏林大学・杏林医学会・三鷹ネットワーク大学共催 市民公開講座, 三鷹, 2014年5月10日.
  30. 井上真:後眼部手術の最新の話. 筑波大学レチナアカデミー, 筑波, 2014年5月11日.
  31. 岡田アナベルあやめ:眼炎症疾患:最近のトピックより. 第7回四国 Eye ランドセミナー, 高松, 2014年5月14日.
  32. 井上真:こじれた先天網膜分離症. 第7回網膜硝子体手術勉強会, 東京, 2014年5月22日.
  33. 井上真:朝顔症候群の憂鬱. 第14回信濃町研究会, 東京, 2014年5月23日.
  34. 山田昌和:角結膜疾患の薬物療法. Apricot Ophthalmology Forum, 立川, 2014年5月23日.
  35. 井上真:網膜静脈分枝閉塞症-硝子体手術無効例. 東京黄斑疾患研究会, 東京, 2014年5月24日.
  36. 平形明人:基幹病院における眼科と内科の連携. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
  37. 平形明人:症例から学ぶ眼底疾患アップデート-2014. 奈良県眼科医学会学術定例会, 橿原, 2014年6月1日.
  38. 平形明人:症例から学ぶ眼底疾患. 東多摩南部眼科医学会 学術講演会, 東京, 2014年6月7日.
  39. 岡田アナベルあやめ:眼炎症疾患:最近のトピックより. 第47回道南眼科集談会, 函館, 2014年6月7日.
  40. 山田昌和:コンタクトレンズの合併症, 問題点. 静岡県コンタクトレンズ管理者講習会, 静岡, 2014年6月7日.
  41. 山田昌和:成人眼検診の医学的効果・費用対効果. 松江ブロック眼科学術講演会, 松江, 2014年6月12日.
  42. 山田昌和:蛍光色素を駆使した涙液研究. 第8回箱根ドライアイクラブ, 軽井沢, 2014年6月20日.
  43. 平形明人:強度近視牽引性黄斑剥離の治療と課題. 姫路市MFの会, 姫路, 2014年6月21日.
  44. 山田昌和:角結膜疾患の薬物療法. 東京都眼科医学会平成26年度卒後研修会, 東京, 2014年6月21日.
  45. Keino H, Okada AA: L-2/IL-2 Ab complex plus rapamycin ameliorate experimental autoimmune uveoretinitis associated with expansion of CD4+Foxp3+ regulatory T cells. Meeting of the Federation of Clinical Immunology Societies, USA, June 25th-28th,2014.
  46. 山田昌和:前眼部疾患と QOV. 第3回日本視野学会学術集会, 東京, 2014年6月29日.
  47. 北幸善:OCT を用いた緑内障診断の注意点. 第9回 Tokyo Glaucoma Retina joint conference, 東京, 2014年6月.
  48. 北幸善:明日から役立つ OCT の使い方. キサラタン発売15周年記念講演会, 東京, 2014年6月.
  49. 多田明日美, 岩橋千春, 中井慶, 南場研一, 岡田アナベルあやめ, 高瀬博, 後藤浩, 蕪城俊克, 水木信久, 安積淳, 園田康平, 武田篤信, 大黒伸行:結核性ぶどう膜炎の臨床像および治療予後の検討. 第48回日本眼炎症学会, 東京, 2014年7月4-6日.
  50. 高瀬博, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 後藤浩, 園田康平, 富田誠, 南場研一, 水木信久, 望月學:急性網膜壊死の診断基準に関する全国調査研究. 第48回日本眼炎症学会, 東京, 2014年7月4-6日.
  51. 渡辺交世, 肥留川京子, 慶野博, 瀧和歌子, 越前成旭, 岡田アナベルあやめ:糖尿病虹彩炎を発症した患者の臨床的特徴についての検討. 第48回日本眼炎症学会, 東京, 2014年7月4-6日.
  52. 岡田アナベルあやめ:全身疾患は全身治療で治すべし. 第48回日本眼炎症学会, 東京, 2014年7月4-6日.
  53. 平形明人:1)強膜バックリング手術の基本. 2)強度近視牽引性黄斑症の硝子体手術. Infinite Power Up Seminar, 札幌, 2014年7月5日.
  54. 慶野博, 渡辺交世, 越前成旭, 瀧和歌子, 井上真, 岡田アナベルあやめ:眼内悪性リンパ腫における黄斑部 SD-OCT 所見の検討. 第48回日本眼感染症学会, 東京, 2014年7月5日.
  55. 重安千花, 阿久根陽子, 福井正樹, 家久一光, 杉田あかね, 玉置惣一郎, 山田昌和:SCL 装用に伴うドライアイに対するジクアホルソナトリウム点眼液の効果. 第57回日本コンタクトレンズ学会, 東京, 2014年7月5日.
  56. 福井正樹, 重安千花, 阿久根陽子, 家久一光, 杉田あかね, 玉置惣一郎, 山田昌和:SCL 装用者のレンズ素材による眼表面ムチンの変化. 第57回日本コンタクトレンズ学会, 東京, 2014年7月5日.
  57. 山田昌和:コンタクトレンズと角膜の生理. 第57回日本コンタクト

- レンズ学会, 東京, 2014年7月6日.
58. 山田昌和:涙液油層, 水層の由来とダイナミクス. 第3回日本涙道・涙液学会, 東京, 2014年7月6日.
  59. 柳沼重晴, 渡辺交世, 松木奈央子, 永本敏之:PE 白内障のチン小帯脆弱・断裂. 第29回 JSCRS 学術総会, 福岡, 2014年7月11-13日.
  60. Hirakata A: Case presentations and discussions: Surgical Cases. 1<sup>st</sup> International Conference on Pathologic Myopia, Taiwan, July 18th-19th,2014.
  61. 尾形真樹, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 新井千賀子, 田中恵津子, 小田浩一, 平形明人:加齢黄斑変性患者が拡大補助具として iPad を利用する際の読書方法の検討. 第23回視覚障害リハビリテーション研究発表会, 京都, 2014年7月19-20日.
  62. 井上真:糖尿病黄斑浮腫への手術戦略. 神奈川県眼科 DM カンファレンス, 横浜, 2014年7月26日.
  63. Kurihara T, Shinoda H, Yagihashi M, Uchida A, Inoue M, Koto T, Nagai N, Tsubota K, Ozawa Y: Levels of immunoglobulins (Igs) in hematological malignancy-associated central retinal vein occlusion. ASRS, USA, August 12th,2014.
  64. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Wide-angle fundus imaging in gas filled eyes. ASRS, USA, August 12th,2014.
  65. 慶野博:難治性眼炎症疾患に対する新しい治療戦略「基礎研究からのアプローチ」. 第5回北海道眼炎症免疫セミナー, 札幌, 2014年8月22日.
  66. 平形明人:強度近視性牽引性黄斑症に対する強膜短縮術. 第16回 Japan Macula Club, 蒲郡, 2014年8月23-24日.
  67. 飯田知弘, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ:滲出型加齢黄斑変性に対するアフリバルセプト療法の成績. Japan Macula Club, 蒲郡, 2014年8月23-24日.
  68. 井上真. ガス注入眼での Optos 画像. 第16回 Japan Macula Club, 蒲郡, 2014年8月23-24日.
  69. Inoue M: Subretinal injection of tissue plasminogen activator for submacular hemorrhage. Chang Gung Memorial Hospital morning conference, Taiwan, August 29th,2014.
  70. Inoue M: Subretinal injection of tissue plasminogen activator for submacular hemorrhage. 22th International Wu Ho-Su Memorial Congress -International Symposium of Vitreo-Retinal Diseases, Taiwan, August 29th,2014.
  71. Inoue M: Micro-Incision Vitrectomy Surgery (MIVS) for complicated cases. 22th International Wu Ho-Su Memorial Congress -International Symposium of Vitreo-Retinal Diseases, Taiwan, August 30th,2014.
  72. Inoue M: Retinal complications associated with congenital optic disc anomaly. 22th International Wu Ho-Su Memorial Congress -International Symposium of Vitreo-Retinal Diseases, Taiwan, August 30th,2014.
  73. 北善幸:緑内障に対する OCT の使い方とその注意点. 第2回順天堂大学浦安眼科サマーセミナー, 浦安, 2014年8月.
  74. 北善幸:OCT を用いた緑内障診断の注意点. ファイザー社内講演会, 東京, 2014年8月.
  75. Hirakata A, Ando Y, Yokota R, Orihara T, Kunita D, Hirota K, Koto T, Inoue M: Vitrectomy and scleral shortening in patients with macular hole retinal detachment or myopic traction maculopathy. 29<sup>th</sup> Meeting of the Clus Jules Gonin, Switzerland, September 3rd-6th,2014.
  76. 山田昌和:視覚障害の疾病負担と看護の役割. 第30回日本視機能看護学会, 名古屋, 2014年9月6日.
  77. 山田昌和:コンタクトレンズ:合併症や問題点のトピックス. 東京都眼科医会コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 2014年9月13日.
  78. Yamada M, Shigeyasu C, Akune Y, Fukui M: Diquafosol sodium ophthalmic solution for the treatment of dry eye in soft contact lens wearers. European Association for Vision and Eye Research 2014, France, October 4th,2014.
  79. 松木奈央子:飛蚊症, 網膜剥離. 目の愛護デー Tokyo Eye Festival, 東京, 2014年10月5日.
  80. 岡田アナベルあやめ:加齢黄斑変性治療のマネージメント. アイリーア黄斑疾患セミナー in 関西, 大阪, 2014年10月11日.
  81. 山田昌和:角結膜疾患の薬物療法. 第4回山形眼科フォーラム, 山形, 2014年10月11日.
  82. Ando Y, Hirakata A, Yokota R, Orihara T, Kunita D, Hirota K, Koto T, Inoue M: Vitrectomy and scleral shortening in patients with macular hole reitnal detachment or myopic traction maculopathy. American Academy of Ophthalmology 2014, USA, October 18th-21st,2014.
  83. Koizumi H,Kano M,Yamamoto A,Saito M,Maruko I,Sekiryu R, Okada AA, Iida T : Subfoveal choroidal thickness after intravitreal aflibercept for neovascular age - related macular degeneration: 12-month results. Annual Meeting of the American Academy of Ophthalmology 2014, USA, October 19th-22nd, 2014.
  84. 中山真紀子, 慶野博, 渡邊交世, 岡田アナベルあやめ:OCT を用いた眼炎症疾患の診療. 第16回西東京眼科フォーラム, 武蔵野, 2014年10月22日.
  85. 松木奈央子:チン小帯脆弱例における水晶体拡張リングの使用について. 第16回西東京フォーラム, 東京, 2014年10月22日.
  86. 岡田アナベルあやめ:眼炎症疾患:最近のトピックより. 第22回上越臨床眼科フォーラム学術講演会, 新潟, 2014年10月24日.
  87. 井上真:フェローシッププログラムと病診連携. 第1回大雪眼科フォーラム, 旭川, 2014年10月24日.
  88. 平形明人:乳頭部先天異常に伴う網膜剥離と鑑別診断. 第28回さざなみ眼科研究会, 大津, 2014年10月25日.
  89. 平形明人:症例から学ぶ眼底疾患アップデート. 第43回東海大学・神奈川県眼科医会合同カンファレンス, 海老名, 2014年10月30日.
  90. 井上真:Duty Cycle を考える. 第8回網膜硝子体手術勉強会, 東京, 2014年10月30日.
  91. 北善幸:明日から役立つ OCT の使い方. 宮城県 眼科 講演会, 仙台, 2014年10月.
  92. 山田昌和:ドライアイ:診断・治療の最新戦略. 旭川眼科セミナー, 旭川, 2014年11月1日.
  93. 新井千賀子, 尾形真樹, 田中恵津子, 小田浩一, 岡田アナベルあやめ, 平形明人:ロービジョンケア前後における QOL の変化とケア内容の分析. 第15回日本ロービジョン学会学術総会, 埼玉, 2014年11月1-2日.
  94. 井上真:Duty Cycle を考える. 第15回信濃町網膜研究会, 東京, 2014年11月7日.
  95. 井上真:パネリスト症例提示. 話題提供2 サージカル, 網膜ラウンジ, 東京, 2014年11月8日.
  96. 平形明人:眼内腫瘍と紛らわしい病変. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
  97. 平形明人:強度近視牽引性黄斑症の硝子体手術の現状. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.

98. 安藤良将, 平形明人, 横田怜二, 折原唯史, 国田大輔, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真: 強度近視黄斑分離症に対する強膜短縮術後の乱視矯正眼内レンズの有用性. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
99. 中山真紀子, 慶野博, 渡邊交世, 平形明人, 岡田アナベルあやめ: 多発消失性白点症候群の網膜外層所見と眼底自発蛍光. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
100. 厚東隆志, 井上真, 廣田和成, 国田大輔, 折原唯史, 北善幸, 佐野公彦, 平形明人: Inverted ILM flap 法により閉鎖を得た黄斑円孔の5症例. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
101. 渡邊交世, 柳沼重晴, 松木奈央子, 永本敏之: 網膜色素変性症の白内障手術におけるチン小帯脆弱. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
102. 柳沼重晴, 渡邊交世, 松木奈央子, 永本敏之: 強度近視眼の白内障手術におけるチン小帯脆弱. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
103. 佐野公彦, 北善幸, 国田大輔, 折原唯史, 廣田和成, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: 網膜剥離を伴う朝顔症候群におけるOptos超広角蛍光眼底造影検査の検討. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
104. 安藤良将, 平形明人, 横田怜二, 廣田和成, 厚東隆志, 森山無俣, 大野京子, 井上真: 強度近視牽引性黄斑症の強膜短縮術前後のMRI所見. 強度近視研究会, 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
105. 松本杏奈, 慶野博, 厚東隆志, 渡邊交世, 岡田アナベルあやめ: OCT で眼底後極部の経時的な変化を観察した急性網膜壊死の1例. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
106. 高瀬博, 大黒伸行, 岡田アナベルあやめ, 後藤浩, 園田康平, 富田誠, 南場研一, 水木信久, 望月學: 我が国における急性網膜壊死の実態調査. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
107. 山本亜希子, 狩野麻里子, 古泉英貴, 齋藤昌晃, 丸子一郎, 石龍鉄樹, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ: ポリープ状脈絡膜血管症に対する aflibercept 療法の1年経過. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13-16日.
108. 山田昌和: 涙液を考慮した眼表面手術. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13日.
109. 平塚義宗, 川崎良, 小野浩一, 山田昌和, 山下英俊: 眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾, ケースコントロール研究をやってみよう. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月13日.
110. 小川佳子, 松家清栄, 水野嘉信, 山田昌和, NHO 弱視研究グループ: 弱視の視機能予後に関する多施設共同前向き研究. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月14日.
111. 井上真: 難治症例 PDR! 私の攻略法, 見せます!!. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月14日.
112. 井上真: BRVO 治療を考える. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月15日.
113. 井上真: 27G 手術でのワンポイント. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月15日.
114. 井上真: 硝子体手術は必要か? Pro!. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月15日.
115. 井上真: 振り替えば... 奴はいない. ナイトメア. 第68回日本臨床眼科学会, 神戸, 2014年11月15日.
116. 井上真: 黄斑浮腫への手術療法. Ophthalmology Webカンファレンス, 東京, 2014年11月18日.
117. 岡田アナベルあやめ: 眼科 PDT 講習会: PDT の読影. 眼科 PDT 研究会, 東京, 2014年11月23日.
118. 井上真: 白内障同時手術の過去, 現在, 未来. 第53回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2014年11月28日.
119. 井上真: 網膜硝子体手術における合併症とその対策. 第53回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2014年11月28日.
120. 中山真紀子, 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 小林宏明, 松本杏奈, 久須見有美, 佐野公彦, 北善幸: 滲出型 AMD 再発例に対する aflibercept bimonthly 投与の治療反応. 第31回日本眼循環学会・第53回日本網膜硝子体学会総会合同学会, 大阪, 2014年11月28-30日.
121. 狩野麻里子, 山本亜希子, 古泉英貴, 齋藤昌晃, 丸子一郎, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹: 典型滲出型加齢黄斑変性に対する aflibercept 硝子体内注射の12ヶ月治療成績. 第31回日本眼循環学会・第53回日本網膜硝子体学会総会合同学会, 大阪, 2014年11月28-30日.
122. 佐野公彦, 井上真, 北善幸, 國田大輔, 折原唯史, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人: PDR における25ゲージ手術での Accurus と Constellation の比較検討. 第53回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2014年11月28日.
123. 井上真: ReSight の徹底検証... あなたは本当に使いこなせていますか?. 第53回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2014年11月29日.
124. 横田怜二, 厚東隆志, 井上真, 平形明人: アキュフォーカス挿入術後の超広角眼底撮影および網膜光凝固の経験. 第53回日本網膜硝子体学会, 大阪, 2014年11月29日.
125. 古泉英貴, 狩野麻里子, 山本亜希子, 齋藤昌晃, 丸子一郎, 石龍鉄樹, 岡田アナベルあやめ, 飯田知弘: 滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト療法12ヶ月間の中心窩下脈絡膜厚変化. 第31回日本眼循環学会・第53回日本網膜硝子体学会総会合同学会, 大阪, 2014年11月28-30日.
126. 秋山陽一, 鈴木由美, 吉川泉, 浜由紀子, 富田香, 成田圭吾, 尾崎峰, 山田昌和: 巨大眼瞼部乳児血管腫を伴い不同視弱視治療を要した乳児例. 第70回日本弱視斜視学会, 京都, 2014年11月29日.
127. 名畑浩昌, 鈴木由美, 吉川泉, 浜由紀子, 富田香, 成田圭吾, 尾崎峰, 山田昌和: 外傷性眼瞼下垂による形態覚遮断弱視・内斜視を呈した幼児例. 第70回日本弱視斜視学会, 京都, 2014年11月29日.
128. 北善幸: 原発閉塞隅角緑内障. 第10回 Tokyo Glaucoma Retina joint conference, 東京, 2014年11月.
129. Tomita A, Suzuki Y, Yoshikawa I, Hama Y, Tomita K, Yamada M: Refractive errors and strabismus in Japanese children with Sotos syndrome. The XIIth Meeting of the International Strabismological Association, Kyoto, December 1st-4th, 2014.
130. 岡田アナベルあやめ: アメリカの医学教育制度. 杏林大学医学部 English Speaking Society, 東京, 2014年12月4日.
131. Hirakata A: Vitrectomy for the myopic traction maculopathy. 23<sup>rd</sup> Annual Conference of Vitreo Retinal Society- India, India, December 5th-7th, 2014.
132. Hirakata A: Evolution in management of optic disc pit with macular detachment. 23<sup>rd</sup> Annual Conference of Vitreo Retinal Society- India, India, December 5th-7th, 2014.
133. 井上真: 小切開硝子体手術の展望. 第243回鹿児島眼科集談会, 鹿児島, 2014年12月6日.
134. 岡田アナベルあやめ: アメリカの医学教育制度. 城南眼科集談

- 会, 東京, 2014年12月11日.
135. 渡辺敬樹, 気賀沢一輝, 慶野博, 安藤良将, 毛塚副司, 田中恵子, 平形明人: Chronic relapsing inflammatory optic neuropathy と考えられた一症例. 第52回日本神経眼科学会, 千葉, 2014年12月12日.
  136. 慶野博, 渡辺交世, 首藤紘一, 北岡康史, 原田高幸, 岡田アナベルあやめ: レチノイン酸による実験的自己免疫性視神経炎の軽症化. 第52回日本神経眼科学会, 千葉, 2014年12月12-13日.
  137. 岡田アナベルあやめ: 非感染性ぶどう膜炎. 東京都眼科医会卒後研修研究会, 東京, 2014年12月13日.
  138. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物治療: 薬剤選択のノウハウ. 平成26年度千葉県眼科医会学術講演会, 千葉, 2015年1月12日.
  139. 山田昌和: ドライアイ: 診断・治療の最新戦略. 第11回湘南眼科倶楽部, 鎌倉, 2015年1月15日.
  140. 井上真: 難治症例への小切開硝子体手術の適応. 第52回栃木県眼科医会研究会, 宇都宮, 2015年1月16日.
  141. 平形明人: 眼球外傷. 平成26年度卒後研修会, 東京, 2015年1月17日.
  142. 井上真: 後眼部手術の最新の話. 千寿製薬社内講演会, 東京, 2015年1月19日.
  143. 山田昌和: 角結膜疾患の薬物療法: 薬剤の選択と使い方. 城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2015年1月21日.
  144. 井上真: OCT による黄斑疾患への治療. 城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2015年1月21日.
  145. 山田昌和: コンタクトレンズと角膜合併症. 第8回京都北部病診連携研究会, 綾部, 2015年1月24日.
  146. 平形明人: 眼内腫瘍と紛らわしい病変. 第8回東京眼科アカデミー, 東京, 2015年2月7-8日.
  147. 松本杏奈, 重安千花, 中島史絵, 山田昌和: コリネバクテリウムによる両眼性の感染性角膜炎の1例. 第39回日本角膜学会, 高知, 2015年2月12日.
  148. 中島史絵, 重安千花, 山田昌和, 寺戸雄一, 沖坂重邦: CIN 様の所見を呈した結膜の隆起性病変の1例. 第39回日本角膜学会, 高知, 2015年2月12日.
  149. 今野公士, 山田昌和, 重安千花, 近藤義之: 2%レバミド点眼液の白内障術後の眼表面保護効果. 第39回日本角膜学会, 高知, 2015年2月12日.
  150. Inoue M: Duty cycle control in 27-gauge vitrectomy for PDR. Update on 27-gauge MIVS. Ahmedabad, India, February 15th, 2015.
  151. Keino H, Sato Y, Watanabe T, Okada AA: Basic Research in Ocular Infection and Immunology: Immune regulation of ocular inflammatory disease by Foxp3+ regulatory T cells. 2015 Asia ARVO, 横浜, February 16th-19th, 2015.
  152. 井上真: サージカルの立場より-DME における外科的治療の可能性を再考する - 糖尿病黄斑浮腫の ABC, 東京, 2015年2月21日.
  153. Koizumi H, Yamamoto A, Kano M, Okada AA, Sekiryu T, Iida T: One - year outcomes of intravitreal aflibercept injections for polypoidal choroidal vasculopathy. Annual Macula Society Meeting, USA, February 25th-28th, 2015.
  154. 平形明人: 成人の眼底腫瘍の鑑別. 第9回山形 Visual Science 研究会, 山形, 2015年2月28日.
  155. 山田昌和: ドライアイ: QOL を重視した治療戦略. 第9回宮城オキョウサーフェス講演会, 仙台, 2015年2月28日.
  156. 山田昌和: ドライアイ: 診断・治療の最新戦略. 第5回名古屋ドライアイケアセミナー, 名古屋, 2015年3月5日.
  157. Hirakata A: Vitrectomy and scleral shortening in patients with macular hole retinal detachment or myopic traction maculopathy. Sino-Japanese Ocular Fundus Diseases Forum, China, March 6th, 2015.
  158. 山田昌和: ドライアイ: QOL を重視した治療の考え方. 第2回千葉オキョウサーフェス研究会, 千葉, 2015年3月14日.
  159. 平形明人: アトピー性皮膚炎に伴う網膜剥離. 新宿 CLOUD の会, 東京, 2015年 3月26日.
- 論文**
1. 斎藤恒浩, 廣田和成, 井上真, 野村昌弘<sup>1</sup>, 岡田アナベルあやめ, 平形明人 (<sup>1</sup>国家公務員共済組合連合会立川病院眼科): von Hippel-Lindau 病に伴う傍乳頭血管腫の治療の2症例. 日眼会誌118:33-39, 2014.
  2. 高田洋平, 桜井俊輔, 宮本幸治, 坂元伸行, 宮崎剛, 山田昌和: ヒト重層化培養角膜上皮モデルを用いた眼科用製剤の眼刺激性に関する新規評価手法の開発. あたらしい眼科 31:409-413, 2014.
  3. Inoue M, Bissen-Miyajima H<sup>1</sup>, Arai H<sup>2</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Tokyo Dental College Suidobashi Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2</sup> Minatomirai Eye Clinic, Yokohama, Japan): Retinal images viewed through a small aperture corneal inlay. Acta Ophthalmol 92:168-169, 2014.
  4. Hirota K, Hirakata A, Inoue M: Dehiscence of detached internal limiting membrane in eyes with myopic traction maculopathy with spontaneous resolution. BMC Ophthalmol 14:39, 2014.
  5. Shigeyasu C, Hirano S, Akune Y, Yamada M: Diquafosol tetrasodium increases the concentration of mucin-like substances in tears of healthy human subjects. Curr Eye Res, PMID:25310688.(early online, 2014).
  6. Fukui M, Yamada M, Akune Y, Shigeyasu C, Tsubota K: Fluorophotometric Analysis of The Ocular Surface Glycocalyx in Soft Contact Lens Wearers. Curr Eye Res, PMID:25614920.(early online, 2015).
  7. Hirukawa-Nakayama K, Hirakata A, Tomita K, Hiraoka T, Inoue M. Increased choroidal thickness in patient with high-altitude retinopathy. Indian J Ophthalmol 62:506-507, 2014.
  8. Takeyama A, Kita Y, Kita R, Tomita G: Influent4ce of axial length on ganglion cell complex (GCC) thickness and on GCC thickness to retinal thickness ratios in young adults. Japanese Journal of Ophthalmology. 58:86-93, 2014.
  9. Kita Y, Kita R, Takeyama A, Tomita G, Goldberg I: The effect of high myopia on glaucoma diagnostic parameters as measured by optical coherence tomography. Clinical & Experimental Ophthalmology. 42:722-728, 2014.
  10. Watanabe K<sup>1</sup>, Shimada A<sup>2</sup>, Miyaki K<sup>3</sup>, Hirakata A, Matsuoka K<sup>2</sup>, Omae K<sup>4</sup>, Takei I<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Center of Kampo Medicine, Faculty of Environment and Information study, Keio Univ. sch. Med., <sup>2</sup>Division of Internal medicine, Saiseikai Center Hospital, <sup>3</sup>Department of Clinical Reserch Informatics, National Center for Global Health and Medicine, <sup>4</sup>Department of Preventive Medicine and Public Health, Keio Univ. sch. Med., <sup>5</sup>Tokyo Dental College, Ichikawa General Hospital): Long-Term Effects of Goshajinkigan in Prevention of Diabetic Complications: A Randomized Open-Labelled Clinical Trial. Evid Based Complement Alternat Med, doi.Org/10.1155/2014/128726.(2014).
  11. Itoh Y, Inoue M, Rii T, Ando Y, Hirakata A: Asymmetrical

- recovery of cone outer segment tips line and foveal displacement after successful macular hole surgery. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 55:3003-3011,2014.
12. 富田茜, 柳沼重晴, 今野公士, 松本祐磨, 渡邊格, 木村奈津子, 横井秀格, 井上真, 甲能直幸, 平形明人: 副鼻腔炎に合併し急激に失明に至った眼窩蜂窩織炎, 眼窩骨膜下膿腫の1例. *眼科*56:655-659,2014.
  13. Inoue M, Bissen - Miyajima H<sup>1</sup>, Arai H<sup>2</sup>, Noda T<sup>3</sup>, Ohnuma K<sup>4</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Tokyo Dental College Suidobashi Hospital, the Department of Ophthalmology, tokyo, <sup>2</sup>the Minatomirai Eye Clinic, Yokohama, <sup>3</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, Tokyo, <sup>4</sup>Chiba University, the Department of Medical System Engineering, Faculty of Engineering, Chiba): Image quality of grating target in model eye when viewed through a small-aperture corneal inlay. *J Cataract Refract Surg* 40:1182-1191, 2014.
  14. Inoue M, Uchida A<sup>1</sup>, Shinoda K<sup>2</sup>, Taira Y<sup>3</sup>, Noda T<sup>4</sup>, Ohnuma K<sup>5</sup>, Bissen-Miyajima H<sup>6</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Keio Univ. School of Medicine, <sup>2</sup>Teikyo Univ. School of Medicine, <sup>3</sup>Ryuundo Eye Clinic, <sup>4</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>5</sup>Chiba University <sup>6</sup>Tokyo Dental College Suidobashi Hospital): Images created in a model eye during simulated cataract surgery can be the basis for images perceived by patients during cataract surgery. *Eye (Lond)* 28:870-879,2014.
  15. Suzuki Y, Hama Y, Yoshikawa-Kobayashi I, Tomita K, Inoue M, Hirakata A: Eyelash line resection for ciliary entropion in patients with Down's syndrome. *Br J Ophthalmol* 98:1442-1447,2014.
  16. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirota K, Hirakata A: Outer retinal morphological changes and visual function after removal of epiretinal membrane. *Can J Ophthalmol* 49:436-442,2014.
  17. Inoue M, Abulon DJ<sup>1</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Alcon Research, Ltd., Irvine, CA, USA.): Comparison of the effects of 23-gauge and 25-gauge microincision vitrectomy blade designs on incision architecture. *Clin Ophthalmol* 8:2307-2318,2014.
  18. 大島佑介, 門之園一明, 井上真: RETINAWS 印象記, *眼臨紀* 7(11):847-848, 2014.
  19. Hiratsuka Y, Yamada M, Akune Y, Murakami A, Okada AA, Yamashita H, Ohashi Y, Yamagishi N, Tamura H, Fukuhara S, Takura T: Assessment of vision-related quality of life among patients with cataract and the outcomes of cataract surgery using a newly developed visual function questionnaire; The VFQ-J11. *Jpn J Ophthalmol* 58:415-422,2014.
  20. Wolf S, Balciuniene VJ, Laganovska G, Menchini U, Ohno-Matsui K, Sharma T, Wong TY, Silva R, Pilz S, Gekkieva M on behalf of the the RADIANCE Study Group (including AA Okada) : RADIANCE : a randomized controlled study of ranibizumab in patients with choroidal neovascularization secondary to pathologic myopia. *Ophthalmology* 121:682-692,2014.
  21. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Taki W: Long term efficacy of infliximab on background vascular leakage in patients with Behçet's disease. *Eye* 28:1100-1106,2014.
  22. Takeuchi M, Kezuka T, Sugita S, Keino H, Namba K, Kaburaki T, Maruyama K, Nakai K, Hijioka K, Shibuya E, Komae K, Hori J, Ohguro N, Sonoda K-H, Mizuki N, Okada AA, Ishibashi T, Goto H, Mochizuki M: Evaluation of long-term efficacy and safety of infliximab treatment for uveitis in Behçet's disease: a multicenter study. *Ophthalmology* 121:1877-1884,2014.
  23. 山田昌和 : 涙液のリポドミクス . あたらしい眼科 31:1347-1349,2014.
  24. 山田昌和: ドライアイ. *内科* 114:1036-1039,2014.
  25. 平塚義宗, 山田昌和, 阿久根陽子, 村上晶, 山下英俊, 大橋裕一: 眼科臨床におけるアウトカム評価: 新しい視覚関連 QOL 指標 VFQ-J11. *日眼会誌* 118:1038-1042,2014.
  26. 山田昌和: ドライアイと QOL. *日本の眼科* 85:1267-1271,2014.
  27. 井上真: 最新の硝子体手術環境. あたらしい眼科32(3):175-179, 2015.
  28. 井上真: 硝子体手術のウェットラボ. *日本の眼科*86(2):154-158, 2015.
  29. 渡邊交世, 岡田アナベルあやめ: リウマチ性疾患の症候学, どう膜炎. *分子リウマチ治療, 先端医学社* vol.8 :32-35,2015.
  30. Kawasaki R, Akune Y, Hiratsuka Y, Fukuhara S, Yamada M: Cost-utility Analysis of Screening for Diabetic Retinopathy in Japan: A Probabilistic Markov Modeling Study. *Ophthalmic Epidemiology* 22:4-12,2015.
  31. Yokota R, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Ultra-wide-field retinal images in an eye with a small-aperture corneal inlay. *J Cataract Refract Surg* 41:234-236,2015.
  32. Inokawa S<sup>1</sup>, Watanabe T, Keino H, Sato Y<sup>2</sup>, Hirakata A, Okada AA, Fukuda K<sup>3</sup>, Fukushima A<sup>3</sup>, Umezawa K<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Hiroshima University School of Medicine, Hiroshima, Japan, <sup>2</sup>Division of Radioisotope Research, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>3</sup>Department of Ophthalmology, Kochi Medical School, Kochi, Japan, <sup>4</sup>Department of Molecular Target Medicine Screening, Aichi Medical University, Nagakute, Japan): Dehydroxymethylepoxyquinomicin, a novel nuclear factor -  $\kappa$ B inhibitor, reduces chemokines and adhesion molecule expression induced by IL-1 $\beta$  in human corneal fibroblasts. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253: 557-563, 2014.
  33. Inoue M, Itoh Y, Rii T, Kita Y, Hirota K, Kunita D, Hirakata A: Macular retinoschisis associated with glaucomatous optic neuropathy in eyes with normal intraocular pressure. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* (Epub ahead of print 2014).
  34. Inoue M, Itoh Y, Rii T, Kita Y, Hirota K, Kunita D, Hirakata A: Spontaneous resolution of peripapillary retinoschisis associated with glaucomatous optic neuropathy. *Acta Ophthalmol*. (Epub ahead of print 2014).
  35. Inoue M, Shiraga F<sup>1</sup>, Shirakata Y<sup>2</sup>, Morizane Y<sup>1</sup>, Kimura S<sup>1</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan, <sup>2</sup>Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa, Japan): Subretinal injection of recombinant tissue plasminogen activator for submacular hemorrhage associated with ruptured retinal arterial macroaneurysm. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol*. (Epub ahead of print 2014).
  36. Lou SM, Larkin KL, Winthrop K, Rosenbaum JT, and members of the Uveitis Specialists Study Group (including Okada AA): Lack of consensus in the diagnosis and treatment for ocular tuberculosis among uveitis specialists. *Ocular Immunol Inflamm* 14:1-7,2014.
  37. Hirota K, Keino H, Inoue M, Ishida H, Hirakata A: Comparisons of microRNA expression profiles in vitreous humor between eyes

- with macular hole and eyes with proliferative diabetic retinopathy. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 253:335-342, 2015.
38. Hirota K, Itoh Y, Rii T, Inoue M, Hirakata A: Correlation between foveal interdigitation zone band defect and visual acuity after surgery for macular pseudohole. Retina 35:908-914,2015.
  39. Takase H, Okada AA, Goto H, Mizuki N, Namba N, Ohguro N, Sonoda KH, Tomita M, Keino H, Kezuka T, Kubono R, Mizuuchi K, Shibuya E, Takahashi H, Yanai R, Mochizuki M: Development and validation of new diagnostic criteria for acute retinal necrosis. Jpn J Ophthalmology 59:14-20,2015.
  40. Matsumoto-Otake A, Hirota K, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Thickened retinal ganglion cell complex in patient with severe takayasu retinopathy at early stage. Retin Cases Brief Rep 9:41-4,2015.
  41. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirota K, Hirakata A: Authors' reply. Can J Ophthalmol 50: 180, 2015.
  42. Suzuki T<sup>1</sup>, Ohashi Y<sup>1</sup>, Oshika T<sup>2</sup>, Goto H<sup>3</sup>, Hirakata A, Fukushima K<sup>4</sup>, Miyata K<sup>5</sup>; Japanese Ophthalmological Society HOYA Intraocular Lens - Related Endophthalmitis Investigation Commission (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Ehime University, Graduate School of Medicine, Ehime, Japan, <sup>2</sup>Department of Ophthalmology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba, Japan, <sup>3</sup>Department of Ophthalmology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan, <sup>4</sup>Karasuyama Eye Clinic, Tokyo, Japan, <sup>5</sup>Miyata Eye Hospital, Miyazaki, Japan): Outbreak of Late-onset Toxic Anterior Segment Syndrome After Implantation of One-piece Intraocular Lenses. Am J Ophthalmol 159: 934-939. e2,2015.
  43. Ideta S, Ota Y, Yuki K, Noda M, Inoue M, Tsubota K: Evaluation of surgical outcomes for ptosis surgery by face recognition software. Asia Pac J Ophthalmol. 4(1):14-18,2015.
  44. Uchida A, Inoue M, Bissen-Miyajima H, Hirakata A: Dynamic changes of optical aberrations during restoration of optical properties of hydrophobic acrylic intraocular lens ejected through cartridge. Br J Ophthalmol,(Epub ahead of print 2015).
  45. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral-domain Optical Coherence Tomography Patterns in Intraocular Lymphoma. Ocul Immunol Inflamm:1-6,(Epub ahead of print 2015).
  46. Ando Y, Inoue M, Ohno-Matsui K, Kusumi Y, Iida T, Hirakata A: Macular detachment associated with intrachoroidal cavitation in non-pathological myopic eyes. RETINA (in press)
  47. Yokota R, Inoue M, MD, Itoh Y, Rii T, Hirota K, Hirakata A: Comparison of microincision vitrectomy and conventional 20-gauge vitrectomy for severe proliferative diabetic retinopathy. Jpn, J Ophthalmol (in press)
  48. Inoue M: Retinal complications associated with congenital optic disc anomalies determined by swept source optical coherence tomography. Taiwan, J Ophthalmol (in press)
- 著書**
1. 平形明人: Reticular Pseudodrusen. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編集. 東京, メジカルビュー社, 2015. p82-83.
  2. 平形明人: 外傷性黄斑円孔. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編集. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.88-92.
  3. 平形明人: 視神経乳頭ピットに伴う網膜剥離. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編集. 東京, メジカルビュー社, 2015. p.166-169.
  4. 平形明人: 朝顔症候群に伴う網膜剥離. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編集. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.170-173.
  5. 平形明人: 眼科健康診断(眼底検査)での超広角眼底撮影の利用. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編集. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.206-207.
  6. 廣田和成, 平形明人: 視神経乳頭異常 (I. 視神経乳頭ピット, II. 朝顔症候群, III. 乳頭コロボーマ). 眼科臨床エキスパート 網膜剥離と極小切開硝子体手術. 寺崎浩子, 吉村長久編集. 東京, 医学書院, 2015.p.207-210.
  7. Okada AA. Behçet's disease. In: Ophthalmology, Fourth Edition, M Yanoff, J Duker (eds.), Elsevier, London, 2014.
  8. 山田昌和: 3歳児眼健診の有効性. 眼科診療クオリファイ 22. 弱視・斜視診療のスタンダード. 不二門尚編. 東京, 中山書店, 2014. p.82-85.
  9. 山田昌和: 癒着性斜視に対する羊膜移植術について教えてください. 眼科診療クオリファイ 22. 弱視・斜視診療のスタンダード. 不二門尚編. 東京, 中山書店, 2014. p.247-249.
  10. 山田昌和: 網膜剥離術後斜視. 眼手術学 3. 眼筋・涙器. 佐藤美保, 佐々木次壽編. 東京, 文光堂, 2014. p.202-204.
  11. 山田昌和: Salzmann 角膜変性. 眼科診療クオリファイ 25. 角膜混濁のすべて. 井上幸次編. 東京, 中山書店, 2014.10.p.113-115.
  12. 山田昌和編: 眼科診療クローズアップ. 東京, メジカルビュー社, 2014.
  13. 山田昌和: ドライアイ. 今日の治療指針 2015年版. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 東京, 医学書院, 2015.
  14. 山田昌和: 表層角膜炎. 南山堂医学大辞典 第20版. 秋澤忠男ほか編. 東京, 南山堂, 2015.
  15. Inoue M: Image quality of the eye with a Premium IOL: Simulation of the retinal surgeon's view. Cataract Surgery: Maximizing outcomes through research. Springer, 2014. p.179-192.
  16. Inoue M: Wide-angle viewing system. Microincision Vitrectomy Surgery, Emerging techniques and technology. Developments in Ophthalmology vol.54. Karger, 2014. p87-91.
  17. 井上真: Optos200Tx 撮り方のコツ. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.4-5.
  18. 井上真: 眼底像, 蛍光像のメリット・デメリット. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.6-11.
  19. 井上真: 眼底像, 最も多い上方弁状裂孔原性網膜剥離. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メジカルビュー社, 2015.p.120-123.
  20. 井上真: 眼底検査. 第2章研修で学ぶべき検査技術と知識. 眼科研修ノート改訂第2版, 東京, 診断と治療社, 2015. p.123-127.
  21. 井上真: 裂孔原性網膜剥離. 専門医のための眼科診療クオリファイ21眼救急疾患スクランブル, 東京, 中山書店, 2014. p.347-349.
  22. 井上真: 黄斑部膜処理. 網膜剥離と極小切開硝子体手術, 眼科臨床エキスパート. 東京, 医学書院, 2015. p.266-270.
  23. 井上真: 硝子体手術の特性. 小切開硝子体手術入門! -これだけわかれば始められる-. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.4-7.

24. 井上真:同時手術の適応と IOL 選択. 小切開硝子体手術入門! -これだけわかれば始められる-. 東京, メジカルビュー社, 2014. p.106-108.
25. 井上真:飛蚊症. 今日の治療指針2015-私はこう治療している-. 東京, 医学書院, 2015. p.1381-1382.
26. 慶野博:ここが知りたい! ぶどう膜炎診療 ぶどう膜炎治療の組み立て方 3. 眼科グラフィック. 大阪, メディカ出版, 2014.p.269-275.
27. 慶野博:免疫抑制薬の使い方.あたらしい眼科31, 東京, メディカル葵, 2014.p.1279-86.
28. 慶野博, 岡田アナベルあやめ:ぶどう膜炎の評価 眼炎症の標準的評価法 -SUN ワーキンググループによる分類-, 眼科56. 東京, 金原出版, 2014.p.1135-1138.
29. 慶野博:サルコイドーシス. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メディカルビュー社, 2014.p.182-185.
30. 慶野博:急性網膜壊死. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メディカルビュー社.2014.p.186-189.
31. 慶野博:眼内悪性リンパ腫. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メディカルビュー社, 2014.p.190-193.
32. 慶野博:多発性後極部網膜色素上皮症. 超広角でみる眼底病変診断. 東京, メディカルビュー社, 2014.p.194-197.
33. 北善幸:いまさら聞けない OCT の活かし方. 緑内障の OCT 撮影. 眼科グラフィック3, 2014. p. 20-25.
34. 北善幸:緑内障セミナー. RTVue-100. あたらしい眼科31. 2014. p.1163-1164.
35. 北善幸: von Hippel-Lindau 病. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編.東京, メジカルビュー社, 2015. p.62-65.
36. 北善幸:Eales 病. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 66-67.
37. 北善幸:下方弁状裂孔網膜剥離(バックル症例). 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p.132-133.
38. 北善幸:強度近視眼での格子状変性内円孔による網膜剥離(バックル症例). 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p.134-137.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 平形明人:読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上-経網膜電気刺激(STS)法の実用化)厚生労働科学研究費補助金(医療機器開発研究事業 H24-医療機器-一般-004)分担研究報告書, 2015.
2. 平形明人:読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上-経網膜電気刺激(STS)法の実用化)厚生労働科学研究費補助金(医療機器開発研究事業 H24-医療機器-一般-004) 分担研究総合報告書, 2015.
3. 慶野博:硝子体による眼内免疫寛容の作用機構の解明 26462696 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 C 平成 26年度-平成 28年度.

#### その他

1. 平形明人:老化現象?それとも病気のサイン?飛蚊症. きょうの健康, p80-84, NHK 出版, 東京,2014.
2. 平形明人:Optos だから見逃さなかった. 第67回日本臨床眼科学会 セミナーレポート, Chuo Sangio Times vol.4, p6,中央産業貿易株式会社, 東京, 2014.
3. 平形明人:糖尿病網膜症~最新情報~. ホスト 武井泉(東京

歯科大学市川総合病院 糖尿病・内分泌センター). DITN No.435 p2-3. メディカルジャーナル, 東京, 2014.

4. 平形明人:なんでも健康相談「複数の目の病気があるので失明が心配です」NHK きょうの健康9月号, p128,2014.
5. 平形明人:治療選択肢が広がった今, 糖尿病黄斑浮腫について再考する①診断・検査編. 北野滋彦, 厚東隆志, 山本禎子. 座談会, 京王プラザホテル, 2014年8月1日.
6. 平形明人:治療選択肢が広がった今, 糖尿病黄斑浮腫について再考する②治療編. 北野滋彦, 厚東隆志, 山本禎子. 座談会, 京王プラザホテル, 2014年8月1日.
7. 平形明人:症例から学ぶ眼底疾患アップデート-2014年-. 奈良県眼科医会報 13:p17-19,2014.
8. 平形明人:名医のセカンドオピニオン. 週刊朝日4月3日増大号, p139, 朝日新聞出版, 東京, 2015.
9. Hirakata A (International Affairs Committee) : First global trends in retina survey compares surgical practice patterns. Retina Times 58:14-15, 38-39, 2015.

#### 受賞

1. 井上真:第3回杏林医学学会研究奨励賞 受賞, 2014年11月15日.

#### 耳鼻咽喉科学教室

#### 講演

1. Kogashiwa Y:Sentinel node navigation surgery using indocyanine green fluorescence imaging for head and neck cancer. 18th WCBIP/WCBE World Congress, Japan, April 13th -16th, 2014.
2. Sato D: A diagnostic meta-analysis of sentinel lymph node biopsy in early head and neck squamous cell carcinoma. 18th WCBIP/WCBE World Congress, Japan, April 13th-16th, 2014.
3. Karaho T:Can mano-videoendoscopy substitute for videofluorography in evaluation of upper esophageal sphincter function?. 18th WCBIP / WCBE World Congress, Japan, April 13th -16th, 2014.
4. Yokoi H:Our experiences of an Endoscopic Endonasal Approach for Early Stage Olfactory Neuroblastoma. ENDOMILANO 2014 6th World Congress, Italy, April 14th-17th, 2014.
5. 横井秀格:アレルギー性鼻炎-診断と治療における最新の戦略-. 北多摩耳鼻咽喉科医会, 東京, 2014年4月23日.
6. 川原敬祐:難治性中耳炎の一例. 第21回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年4月26日.
7. 阿部千草:嚥下障害を主訴とした小脳橋角部髄膜腫の一例. 第21回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年4月26日.
8. 小野修平:内視鏡下鼻内手術にて摘出した若年性鼻咽頭血管線維種(Radlkowski 分類:Stage II A)の一例. 第21回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年4月26日.
9. 池田哲也, 小柏靖直, 横井秀格, 甲能直幸:口腔扁平苔癬および口腔扁平苔癬類似粘膜炎の臨床病理組織学的検討. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2014年5月14-17日.
10. 小柏靖直, 松本吉史, 茂呂順久, 中村健大, 佐藤大, 甲能直幸:頭頸部領域に対する ICG 蛍光法と超音波造影剤ソナゾイドを併用したセンチネルリンパ節生検に関する検討. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2014年5月14-17日.
11. 増田正次, 甲能直幸, 小川郁:耳鳴患者に対するストレス応答の他覚的測定-第2報 耳鳴の重症度, 精神状態の影響につ

- いてー. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2014年5月14-17日.
12. 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 甲能直幸: 花粉特異的 IgE 陽性者における CCD 特異的 IgE 抗体の関与について. 第115回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 福岡, 2014年5月14-17日.
  13. 今西順久, 佐藤陽一郎, 渡部佳弘, 関水真理子, 伊藤文展, 小澤宏之, 小川郁: 下咽頭癌・声門上癌 cN(+) 例に対する経口的切除(TOVS) + 頸部郭清術の治療成績の検討. 第38回日本頭頸部癌学会, 東京, 2014年6月12-13日.
  14. 小柏靖直: 当科における頭頸部癌化学療法臨床と研究. 多摩頭頸部がんセミナー, 東京, 2014年6月20日.
  15. 横井秀格: 脊索腫との鑑別が困難であった斜台部悪性リンパ腫の一例. 第26回日本頭蓋底外科学会, 東京, 2014年6月19-20日.
  16. 川原敬祐, 濱之上泰裕, 増田正次, 甲能直幸: ANCA 関連血管炎性中耳炎の1例. 一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会定例会 第204回学術講演会, 東京, 2014年7月19日.
  17. 唐帆健浩: 嚥下障害患者への気管カニューレの選択と抜去の判断基準. 第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 東京, 2014年9月5-7日.
  18. 佐藤大, 甲能直幸: 原発性マクログロブリン血症治療後に発見された舌アミロイドーシスの1例. 第27回日本口腔・咽頭科学会総会 学術講演会, 札幌, 2014年9月11-12日.
  19. 松本吉史, 小柏靖直, 甲能直幸: セツキシマブは増殖抑制効果に耐性を持つ頭頸部癌細胞株の遊走および浸潤を阻害する. 第27回日本口腔・咽頭科学会総会 学術講演会, 札幌, 2014年9月11-12日.
  20. 唐帆健浩: 嚥下障害に対するチーム医療と病診連携. 第100回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会, 鹿児島, 2014年9月18日.
  21. 佐藤大, 小柏靖直, 茂呂順久, 松本吉史, 濱ノ上泰裕, 甲能直幸: ICG 蛍光法と超音波造影剤ソナゾイドを併用した頭頸部センチネルリンパ節生検に関する基礎研究. 第16回 SNNS 研究会学術集会, 鹿児島, 2014年9月19-20日.
  22. 松本吉史, 櫻井裕之, 小柏靖直, 木村徹, 甲能直幸: セツキシマブは増殖抑制効果に耐性を持つ頭頸部癌細胞株の遊走および浸潤を阻害する. 第73回日本癌学会学術総会, 横浜, 2014年9月25-27日.
  23. 横井秀格, 田中秀峰, 松本祐磨, 木村奈津子, 池田哲也, 甲能直幸: 脊索腫との鑑別が困難であった斜台部悪性リンパ腫の一例. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  24. 池田哲也, 松本祐磨, 横井秀格, 甲能直幸: ビスフォスフォネート関連顎骨壊死による副鼻腔炎の6例. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  25. 横井秀格: 花粉症診断における CCD 特異的 IgE 抗体の関与. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  26. 渡邊格, 横井秀格, 松本祐磨, 池田哲也, 甲能直幸: 内視鏡下鼻内手術にて摘出した若年性鼻咽頭血管線維腫(Radkowskistage IIA)の一例. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  27. 松本祐磨, 横井秀格, 池田哲也, 甲能直幸: ハイドロゲブリッターが有用であった汎副鼻腔病変を認めたアレルギー性真菌性副鼻腔炎の一例. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  28. 山中英敬, 横井秀格, 松本祐磨, 渡邊格, 池田哲也, 甲能直幸: Draf III が有用であった, 慢性副鼻腔炎再発と共に右眼窩前頭部コレステリン肉芽腫を認めた一例. 第53回日本鼻科学会総会・学術講演会, 大阪, 2014年9月25-27日.
  29. 唐帆健浩: 嚥下障害診療の最前線. 杏林大学医学部公開講演会, 三鷹, 2014年10月4日.
  30. 唐帆健浩, 佐藤哲也, 川原敬祐, 甲能直幸: 嚥下造影検査の代替としての嚥下内視鏡・圧検査の有用性. 第40回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会, 三鷹, 2014年10月4日.
  31. 唐帆健浩: 嚥下機能と嚥下障害に関わる総論. 第1回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 東京, 2014年10月13日.
  32. 増田正次, 務台英樹, 有本友季子, 仲野敦子, 甲能直幸, 松永達雄: COCH フレームシフト変異の分子病態と遺伝子診断に関する考察. 第24回日本耳科学会総会・学術講演会, 新潟, 2014年10月15-18日.
  33. 蔵口潤, 他: 当科における口腔扁平苔癬の臨床病理組織学的検討—第2 報—. 第59回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月17-19日.
  34. 池田哲也, 他: 当科におけるゾレドロネート誘発ビスフォスフォネート関連顎骨壊死の臨床的検討. 第59回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2014年10月17-19日.
  35. Karaho T: Can mano - videoendoscopy substitute for videofluorography in evaluation of upper esophageal sphincter function?. 4th Congress of the European Society for Swallowing Disorders, Belgium, October 23rd-25th, 2014.
  36. Hamanoue Y, Kogashiwa Y, Sato D, Moro Y, Sato T, Kohno N: A new technique for the removal of foreign bodies from hypopharynx to cervical esophagus with a Satou's curved laryngoscope. The 31st Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  37. Yamanaka H, Yokoi H, Matsumoto Y, Watanabe I, Ikeda T, Kohno N: Draf III was effective in a patient with right orbitofrontal cholesterol granuloma with recurrence of chronic sinusitis. The 31st Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  38. Ikeda T, Ukiyama E, Nirasawa Y, Kohno N: A case of ectopic odontoma: a rare and unusual case report of eruption of compound odontoma into the neonatal buccal mucosa. The 31st Congress of the Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter, Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  39. 横井秀格: 慢性副鼻腔炎の診断と治療—近年難治性で問題となっている好酸球性副鼻腔炎から昔ながらの病態, 菌性副鼻腔炎の最新の知見—. 平成26年度保険医療講習会 主催 東京都医師会 東京都福祉保健局, 東京, 2014年11月8日.
  40. 濱之上泰裕, 小柏靖直, 佐藤大, 茂呂順久, 佐藤哲也, 甲能直幸: 佐藤式彎曲型咽喉頭直達鏡を用いて安全に摘出できた頸部食道異物の2症例. 第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 高知, 2014年11月13-14日.
  41. 佐藤大, 小柏靖直, 茂呂順久, 松本吉史, 濱之上泰裕, 甲能直幸: ICG 蛍光法と超音波造影剤ソナゾイドを併用した経皮的なセンチネルリンパ節の同定に関する検討. 第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 高知, 2014年11月13-14日.
  42. 佐藤哲也, 唐帆健浩, 濱之上泰裕, 小柏靖直, 甲能直幸: 瘻管摘出術から10年以上経過して頸部膿瘍を再発した梨状窩瘻の

- 1例. 第66回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会, 高知, 2014年11月13-14日.
43. 唐帆健浩: 嚥下障害の評価・診断法. 第2回嚥下機能評価研修会, 高知, 2014年11月15日.
  44. 笠倉奈津子, 増田正次, 増田佐和子, 阪本浩一, 小河原昇, 三澤逸人, 甲能直幸, 松永達雄: 両側性低音障害型感音難聴の分子遺伝学的検討. 59回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 下関, 2014年11月27-28日.
  45. 松本吉史: 腫瘍外来. 第22回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年12月13日.
  46. 松本文武: 難聴外来. 第22回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年12月13日.
  47. 松本祐磨: 副鼻腔・頭蓋底手術外来, 鼻アレルギー. 第22回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年12月13日.
  48. 川原敬祐: 摂食嚥下外来. 第22回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2014年12月13日.
  49. 唐帆健浩: 嚥下障害診療におけるチーム医療と地域医療連携. 府中市医師会学術講演会, 府中, 2014年12月26日.
  50. 横井秀格: 花粉症の診断と治療～検査に focus を当てて～. 板橋区耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2015年1月22日.
  51. 唐帆健浩: 嚥下障害診療におけるチーム医療と地域医療連携. 稲城市医師会学術講演会, 稲城, 2015年1月23日.
  52. 阿部千草: 顎下部に生じた myxoma (粘液腫)の1例. 第25回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2015年1月29-30日.
  53. 松本吉史: セツキシマブは頭頸部癌細胞株の局所浸潤を抑制する. 第25回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2015年1月29-30日.
  54. 川原敬祐: 耳下腺上皮筋上皮癌 (epithelial-myoepithelial carcinoma)の1例. 第25回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2015年1月29-30日.
  55. 甲能直幸: 頭頸部癌治療の最新情報. 第108回御茶ノ水耳鼻咽喉・頭頸科治療研究会, 東京, 2015年2月5日.
  56. 唐帆健浩: 嚥下障害診療の最前線. 小平市医師会・小平市歯科医師会 市民公開講座, 小平, 2015年2月7日.
  57. 唐帆健浩: 嚥下内視鏡検査の実際(各論). 第4回日本嚥下医学会嚥下評価研修会, 福島, 2015年2月8日.
  58. 甲能直幸: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の最新情報. 第90回大分耳鼻咽喉科臨床研究会, 大分, 2015年2月12日.
  59. Watabe T, Masuda M, Ogawa K: The hearing level change of the versatile gene modulation mouse (NKCC1-tetO mouse). The 38th Annual MidWinter Research Meeting of the Association for Research in Otolaryngology, USA, February 21st-25th, 2015.
  60. 松本吉史: セツキシマブが頭頸部癌に与える影響について. 第3回南関東頭頸部腫瘍懇話会, 東京, 2015年3月6日.
  61. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法(嚥下訓練, 口腔ケア, 気道管理を含む). 第5回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 福岡, 2015年3月8日.
  62. 池田哲也: 歯肉出血を契機に判明した後天性血友病の一例. 第24回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術集会, 旭川, 2015年3月20-22日.
  63. 池田哲也: 当科におけるビスフォスフォネート関連顎骨壊死(BRONJ)に対する対応について. 第24回(一社)日本有病者歯科医療学会総会・学術集会, 旭川, 2015年3月20-22日.
- navigation surgery. 外科 76(4):361-364, 2014.
2. 甲能直幸: 診断と治療 頭頸部癌の化学療法と放射線療法. 日本耳鼻咽喉科学会会報 117(5):697-701, 2014.
  3. 唐帆健浩: 嚥下障害に対する外科的治療の適応と術式の選択. 耳鼻咽喉科臨床 107(6):500-501, 2014.
  4. 唐帆健浩: 嚥下障害に対する耳鼻咽喉科医の役割 耳鼻咽喉科一般外来における嚥下指導と嚥下訓練. 日本耳鼻咽喉科学会会報 117(6):782-787, 2014.
  5. 小柏靖直, 甲能直幸: 頭頸部癌化学療法の歴史. JOHNS 30(8):947-949, 2014.
  6. 甲能直幸: 用語解説 再発性多発性軟骨炎 (relapsing polychondritis) (RP). 日本気管食道科学会会報 65(4):358-359, 2014.
  7. 唐帆健浩: 口腔咽頭喉頭科学・気管食道科学領域 嚥下内視鏡検査で誤嚥を認めた!. JOHNS 30(9):1279-1280, 2014.
  8. 唐帆健浩, 甲能直幸: 術中・術後合併症とその管理 精神・神経系 嚥下障害. 臨床外科 69(11):297-299, 2014.
  9. 甲能直幸: 用語解説 臓器機能温存治療. 日本気管食道科学会会報 65(6):489-490, 2014.
  10. 横井秀格: アレルギー性鼻炎に対する代替医療. アレルギーの臨床 35(1):32-35, 2015.
  11. 横井秀格: 慢性副鼻腔炎の診断と治療 近年難治性で問題となっている好酸球性副鼻腔炎から昔ながらの病態, 歯性副鼻腔炎の最新の知見. 東京都医師会雑誌 68(3):204-216, 2015.
  12. 横井秀格: One airway, one disease 慢性副鼻腔炎・鼻ポリープ. 呼吸器内科 27(3):180-186, 2015.
  13. 小柏靖直, 尾川昌孝, 甲能直幸: 成人に発症した原因不明の軟口蓋穿孔の1例. 口腔・咽頭科 28(1):59-64, 2015.
  14. 濱之上泰裕, 横井秀格, 川田往嗣, 松本祐磨, 中村健大, 甲能直幸: 稀な顔面外傷の一例. 頭頸部外科 24:109-113, 2014.
  15. 藤島一郎, 唐帆健浩, 林良幸<sup>2</sup>, 中山剛志<sup>3</sup>, 巨島文子<sup>4</sup>, 倉智雅子<sup>5</sup>(<sup>1</sup>浜松市リハビリテーション病院, <sup>2</sup>杏林大学 リハビリテーション室, <sup>3</sup>杏林大学 摂食嚥下センター, <sup>4</sup>京都第一赤十字病院, <sup>5</sup>新潟リハビリテーション大学): 症例 私の治療方針 重度偽性球麻痺(解説). 嚥下医学 3:208-214, 2014.
  16. 佐藤哲也, 唐帆健浩(至誠会第二病院): 程度を評価する方法はありますか. JOHNS 31:61-63, 2015.
  17. 唐帆健浩: 特集「杏林大学と地域医療」外来センター: 摂食嚥下センター. 杏林医学会雑誌 46:45-48, 2015.
  18. 松本吉史, 小柏靖直, 甲能直幸: 頸部リンパ節結核9症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会誌 117:184-190, 2014.
  19. Yamauchi K, Kogashiwa Y, Moro Y, Kohno N: The effect of topical application of royal jelly on chemoradiotherapy-induced mucositis in head and neck cancer: a preliminary study. Int J Otolaryngol: 974967, 2014. (Web)
  20. Ikeda T, Kuraguchi J, Kogashiwa Y, Yokoi H, Satomi T, Kohno N: Successful treatment of Bisphosphonate - Related Osteonecrosis of the Jaw (BRONJ) patients with sitafloxacin: New strategies for the treatment of BRONJ. Bone 73: 217-222, 2014. (Web)
  21. Yamauchi K, Kogashiwa Y, Nakamura T, Moro Y, Nagafuji H, Kohno N: Diagnostic evaluation of sentinel lymph node biopsy in early head and neck squamous cell carcinoma: a meta-analysis. Head Neck 37(1):127-133, 2015.
  22. Matsumoto Y, Ikeda T, Yokoi H, Kohno N: Association between

## 論文

1. 小柏靖直, 甲能直幸: 頭頸部癌における sentinel node

odontogenic infections and unilateral sinus opacification. *Auris Nasus Larynx* 42(4): 288-293, 2015. (Web)

23. Yokoi H, Kodama S, Kogashiwa Y, Matsumoto Y, Ohkura Y, Nakagawa T, Kohno N: An endoscopic endonasal approach for early-stage olfactory neuroblastoma: an evaluation of 2 cases with minireview of literature. *Case Rep Otolaryngol*: 541026, 2015. (Web)
24. Karaho T, Satoh T, Nakajima J, Nakayama T, Kohno N: Can mano-videoescopy substitute for videofluorography in evaluation of upper esophageal sphincter function?. *Acta Otolaryngol* 135(2): 187-192, 2015.
25. Moro Y, Kogashiwa Y, Sato D, Matsumoto Y, Nakamura T, Yamauchi K, Sakurai H, Kohno N: Feasibility Study of Alternate-day S-1 as Adjuvant Chemotherapy for Head and Neck Cancer. *Anticancer Res* 35(2): 977-981, 2015.
26. Nakamura T, Kogashiwa Y, Nagafuji H, Yamauchi K, Kohno N: Validity of sentinel lymph node biopsy by ICG fluorescence for early head and neck cancer. *Anticancer Res* 35(3): 1669-1674, 2015.
27. Matsumoto Y, Kogashiwa Y, Mochizuki M, Kohno N: Malignant lymphoma arising in the submandibular gland in a patient with HIV infection and associated lymphadenopathy. *International Cancer Conference Journal*: 2014.(Published Online).
28. Ryan A, Ikeda R, Masuda M: The regulation of gene expression hair cells. *Hear Res* S0378-5955(15): 00003-9, 2015.

#### 著書

1. 甲能直幸, 唐帆健浩, 小柏靖直: 頭頸部がん治療薬. がん薬物療法キードラッグ65. 古瀬純司編著. 東京, 中外医学社, 2014.

#### 産科婦人科学教室

#### 講演

1. 田中啓, 齋藤將也, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 妊娠糖尿病において妊娠中母体体重増加が胎児発育を促進する. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
2. 齋藤將也, 田中啓, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: カーボカウントを用いた妊娠糖尿病管理とその転帰. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
3. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 藤田亜也, 齋藤郁恵, 黒田恵子, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 婦人科手術症例における術後フォンダパリヌクスナトリウム投与の有効性と安全性についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
4. 宮崎典子, 井澤朋子, 松島実穂, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後に癒着胎盤となった2例. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
5. 松島実穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 血管内皮細胞は fibroblast growth factor を分泌し絨毛細胞の遊走を促進する. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
6. 黒田恵子, 澁谷裕美, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利: ジェノゲスト長期投与例の検討.

公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.

7. 嘉治真彦, 上原彩子, 谷垣伸治, 小林陽一, 岩下光利, 清河康: 卵管単独茎捻転の5例の検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
8. 松澤由記子, 西ヶ谷順子, 野田清香, 渡部耕平, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 子宮肉腫の術前診断についての検討. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
9. 堂園溪, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 術中腹水細胞診陽性は子宮体癌 type1 (類内膜腺癌 G1および G2) 症例の再発リスク因子である. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
10. 長内喜代乃, 小林陽一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: ラメルテオンは子宮体癌培養細胞の増殖, 浸潤を抑制する. 公益社団法人日本産科婦人科学会第66回学術講演会, 東京, 2014年4月18-20日.
11. 田中啓, 宮崎典子, 松島実穂, 柳下玲子, 谷垣伸治, 岩下光利: “Overlapped placentas”を呈した二絨毛膜二羊膜双胎の一例. 日本超音波学会第87回学術集会, 横浜, 2014年5月9-11日.
12. 竹森聖, 長内喜代乃, 井上慶子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 当院における単一臍帯動脈24例の検討. 第370回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2014年5月24日.
13. Nishigaya Y, Kobayashi Y, Shibuya H, Momomura M, Matsumoto M, Iwashita M, Fujiwara M, Mochizuki M, Terado Y: A case of heterogenous sarcoma of the uterine cervix in a 19year-old woman. The 18th Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology, Taiwan, May 24th, 2014.
14. Momomura M, Kobayashi Y, Terado Y, Sakamoto N, Osanai K, Nishigaya Y, Matsumoto H: Metastases to the uterus from sigmoid colon cancer. The 18th Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology, Taiwan, May 24th, 2014.
15. 百村麻衣, 小林陽一, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 岩下光利, 坂本穆彦, 藤原正親: 細胞所見が有用であった小細胞癌を主体とした子宮体部癌肉腫の1例. 第55回日本臨床細胞学会春期大会, 横浜, 2014年6月6-7日.
16. 堂園溪, 西ヶ谷順子, 野田清香, 片山素子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: パゾパニブにより QOL を維持している子宮平滑筋肉腫再発の1例. 第127回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2014年6月21-22日.
17. 井上慶子, 井澤朋子, 渡部耕平, 黒田恵子, 宮崎典子, 松島実穂, 長内喜代乃, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: ヘパリンカルシウム皮下注射の一過性トランスアミナーゼの上昇について. 第127回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2014年6月21-22日.
18. 深川裕一郎, 澁谷裕美, 本田理貢, 荒岡千景, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下手術摘出標本にて診断しえた卵巣ステロイドホルモン産生腫瘍の1例. 第371回四水回, 東京, 2014年7月2日.
19. 谷垣伸治, 秦ひろか, 漆山大知, 佐々木かりん, 岩下光利, 秦健一郎: 先天異常例の網羅的遺伝子解析の課題—日本人正常集団の標準遺伝配列情報の必要性. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 浦安, 2014年7月13-15日.

20. 田中啓, 和地祐一, 井澤朋子, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: 妊娠糖尿病のインスリン抵抗性に影響を与える周産期因子の検討. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 浦安, 2014年7月13-15日.
21. 山田研二, 柳下玲子, 谷垣伸治, 高木崇子, 松島実穂, 宮崎典子, 田島泰宏, 岩下光利: 左上大静脈遺残の出生前診断における有用性とその診断法について. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 浦安, 2014年7月13-15日.
22. 松澤由記子, 井澤朋子, 渡部耕平, 黒田恵子, 井上慶子, 宮崎典子, 松島実穂, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 出生前診断が困難であった VATER 連合の1例. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 浦安, 2014年7月13-15日.
23. 和地祐一, 井上慶子, 宮崎典子, 松島実穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 分娩における自己血輸血に関する検討. 第50回日本周産期・新生児医学会学術集会, 浦安, 2014年7月13-15日.
24. 松本浩範, 小林陽一, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 岩下光利, 山崎龍王, 梅澤聡, 磯西成治, 武知公博, 村松俊成: プラチナ感受性再発卵巣癌に対する GC (ゲムシタピン・カルボプラチン併用) 療法の有用性. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 宇都宮, 2014年7月17-19日.
25. 百村麻衣, 小林陽一, 堂園溪, 田中啓, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 岩下光利: 再発卵巣癌に対するノギテカン+経口エトポシド併用療法の第II相試験. 第56回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 宇都宮, 2014年7月17-19日.
26. 吉田真衣子, 山下詠子, 堂園溪, 荻安俊哉, 大森嘉彦, 下山田博明, 小林陽一, 大倉康男, 似鳥俊明: 急速な貧血の進行を伴いプレシヨックに至った線維腫茎捻転の1例. JSAWI 第15回シンポジウム, 淡路, 2014年9月5-6日.
27. 堂園溪, 鳥海玲奈, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利, 吉田真衣子, 山下詠子, 似鳥俊明: 子宮肉腫との鑑別が困難であった子宮腺筋腫の1例. JSAWI 第15回シンポジウム, 淡路, 2014年9月5-6日.
28. 岩下光利: 産婦人科医をめぐる最近のトピックス. 東北大学病院総合周産期母子医療センター周産期医療セミナー, 仙台, 2014年9月9日.
29. 齋藤將也, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 松本浩範, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下手術後に発症した子宮留血症の1例. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 鹿児島, 2014年9月11-13日.
30. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 齋藤將也, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 橋場剛士, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下卵巣内内膜症性嚢胞術後症例の検討. 第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 鹿児島, 2014年9月11-13日.
31. 岡愛子, 百村麻衣, 鳥海玲奈, 齋藤將也, 堂園溪, 田中啓, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 子宮肉腫と鑑別した子宮腺筋腫の1例. 第371回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2014年9月20日.
32. Iwashita M: Introduction and problems to face. Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG), Lecture for Medical University of Vienna, Austria, October 6th, 2014.
33. 橋場剛士: 頸管内癒着を伴う Asherman 症候群の評価に IUI catheter を用いた子宮卵管造影が有用. 第37回日本産婦人科手術学会, 札幌, 2014年10月11-12日.
34. 渡部耕平, 田中啓, 齋藤郁恵, 松島実穂, 松澤由記子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 出生前診断した Klippel-Trenaunay-Weber 症候群の1例. 第128回関東連合産科婦人科学会学術集会, 松本, 2014年10月25-26日.
35. 鳥海玲奈, 小林陽一, 齋藤將也, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 宮崎紳一郎, 岩下光利: 難治性婦人科再発悪性腫瘍に対するサイバーナイフの有用性. 第128回関東連合産科婦人科学会学術集会, 松本, 2014年10月25-26日.
36. 橋場剛士, 荒岡千景, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利: Asherman 症候群の成因と予防に関する考察. 第128回関東連合産科婦人科学会学術集会, 松本, 2014年10月25-26日.
37. 本田理貢, 田中啓, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 三胎妊娠に合併した巨大黄体過剰反応の1例. 第73回日本母体胎児医学会学術集会, 佐世保, 2014年11月7-8日.
38. 岡愛子, 井澤朋子, 藤田亜也, 上原一朗, 松島実穂, 酒井啓治, 岩下光利: 産褥心筋症の1例. 第73回日本母体胎児医学会学術集会, 佐世保, 2014年11月7-8日.
39. 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 水谷奈津子, 坂本憲彦, 平野和彦, 藤原正親, 望月眞, 小林陽一, 岩下光利: 若年女性に発生した子宮頸部 heterogenous sarcoma の1例. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会, 下関, 2014年11月8-9日.
40. Watanabe M, Shibuya H, Kobayashi Y, Iwashita M: Efficacy and safety of fondaparinux (FPX) for prevention of postoperative venous thromboembolism (VTE) in gynecologic cancer patients. 15th Biennial Meeting IGCS, Australia, November 8th-11th, 2014.
41. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 第4回愛知産婦人科研究会特別講演, 名古屋, 2014年11月22日.
42. 竹森聖, 井澤朋子, 深川裕一郎, 齋藤將也, 荒岡千景, 片山素子, 井上慶子, 柳下玲子, 和地祐一, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 当院で経験した先天型筋強直性ジストロフィーの二例. 第372回四水会, 東京, 2014年11月26日.
43. 松澤由記子, 清本千景, 和地祐一, 橋場剛士, 岩下光利: Asherman 症候群の術後に妊娠に至った3症例. 第59回日本生殖医学学術講演会, 東京, 2014年12月4-5, 7日.
44. 富岡紀子, 井澤朋子, 岡愛子, 中島千絵, 田中啓, 松島実穂, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 出生前に診断に苦慮した小腸捻転症の1例. 第372回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2014年12月20日.
45. 小林陽一: 遺伝性腫瘍とその予防策〜ホルモン剤の役割も含めて〜. 三鷹市婦人科医会講演会, 三鷹, 2015年1月29日.
46. 岩下光利: 産科をめぐる最近のトピックス. 第27回日本医科大学産科婦人科学教室同窓会特別講演, 東京, 2014年2月22日.
47. 本田理貢, 百村麻衣, 鳥海玲奈, 齋藤將也, 渋谷英里子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 細胞診が診断に有用であった骨盤内放線菌症の1例. 第373回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2015年2月28日.
48. 小林陽一: 婦人科がん治療の副作用対策における漢方の役割. 第7回栃木県北化学療法セミナー (日本薬剤師研修センター認定予定講演会), 大田原, 2015年3月6日.

## 論文

1. Morikawa A<sup>1</sup>, Ueda K, Takahashi K, Fukunaga M, Iwashita M, Kobayashi Y, Takechi K, Umezawa S, Terauchi F, Kiguchi K, Aoki D, Nomura H, Yoshikawa H, Satoh T, Jobo T, Fujiwara H, Takei Y, Kamoi S, Terao Y, Isonishi S (Dept. of Ob/Gy, Jikei Daisan Hosp.): Pathology-oriented treatment strategy of malignant ovarian tumor in pregnant women: analysis of 41 cases in Japan. *Int J Clin Oncol* 19(6): 1074-1079, 2014.

2. 深川裕一郎, 澁谷裕美, 高木崇子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 著明なリンパ節腫大を伴った卵巣混合型胚細胞腫瘍の1例, 関東産婦誌 51: 27-32, 2014.
  3. 小林陽一: 子宮がん化学療法の一問一答. プロフェッショナルがんナーシング 4(2): 160-165, 2014.
  4. 嘉治真彦, 上原彩子, 清河国康, 谷垣伸治, 小林陽一: GnRHaによる保存療法を行った右卵巣周囲貯留嚢胞の1例. 東京産婦会誌 63(2): 287-291, 2014.
  5. 渋谷英里子, 井澤朋子, 松島実穂, 鳥海玲奈, 高木崇子, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後の子宮内感染が5カ月蔓延したが子宮温存し得た1例. 東京産婦会誌 63(2): 333-338, 2014.
  6. 谷垣伸治, 田中啓, 片山素子, 宮崎典子, 松島実穂, 秦健一郎, 岩下光利: 助産師とのチーム医療を考える助産師の行う超音波検査. 日周産期・新生児会誌 50(1): 114-117, 2014.
  7. 和地祐一, 片山素子, 上原一朗, 松島実穂, 宮崎典子, 井澤朋子, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: 双胎帝王切開における出血量についての検討. 日周産期・新生児会誌 50(1): 244-248, 2014.
  8. 田中啓, 片山素子, 松島実穂, 宮崎典子, 和地祐一, 井澤朋子, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: Light-for-dates で出生した極低出生体重児の短期・長期予後と周産因子の検討. 日周産期・新生児会誌 50(1): 192-197, 2014.
  9. Minakami H<sup>1</sup>, Maeda T, Fujii T, Hamada H, Iitsuka Y, Itakura A, Itoh H, Iwashita M, Kanagawa T, Kanai M, Kasuga Y, Kawabata M, Kobayashi K, Kotani T, Kudo Y, Makino Y, Matsubara S, Matsuda H, Miura K, T Murakoshi T, Murotsuki J, Ohkuchi A, Ohno Y, Ohshiba Y, Satoh S, Sekizawa A, Sugiura M, Suzuki S, Takahashi T, Tsukahara T, Unno N, Yoshikawa H (<sup>1</sup>Hokkaido Univ. Grad. Sch. of Med.): Guidelines for obstetrical practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2014 edition. J Obstet Gynecol Res: 40(6): 1469-1499, 2014.
  10. Kobayashi Y, Kuroda K, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M: Preoperative evaluation of deep venous thrombosis in patients with pelvic organ prolapse. J Obstet Gynaecol Res 40(6): 1754-1758, 2014.
  11. Tanaka K, Kobayashi Y, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura N, Matsumoto H, Iwashita M: Primary retroperitoneal mullerian adenocarcinoma arising from endometriosis. J Obstet Gynaecol Res 40(6): 1823-1827, 2014.
  12. 和地祐一, 松澤由記子, 井澤朋子, 橋場剛士, 酒井啓治, 岩下光利: ART 妊娠双胎と自然妊娠双胎の妊娠経過および分娩経過に関する検討. 東京産婦会誌 63(3): 412-416, 2014.
  13. 齋藤将也, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: S 状結腸穿孔を伴った卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1例. 東京産婦会誌 63(3): 460-464, 2014.
  14. Naing BT<sup>1</sup>, Watanabe A<sup>2</sup>, Tanigaki S, Ono M<sup>3</sup>, Iwashita M, Shimada T<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Bio. & Mol. Biol., Nippon Med. Sch., <sup>2</sup>Dept. of Bio. & Mol. Biol., Nippon Med. Sch.; Division of Clin. Genetics, Nippon Med. Sch. Hosp., <sup>3</sup>Dept. of Pediatrics): Presymptomatic genetic analysis during pregnancy for vascular type Ehlers-Danlos syndrome. Int Med Case Rep J 7: 99-102, 2014.
  15. Sugihara K<sup>1</sup>, Kobayashi Y, Suzuki A<sup>2</sup>, Tamura N<sup>3</sup>, Motamedchaboki K<sup>3</sup>, Huang CT<sup>3</sup>, Akama T<sup>3</sup>, Pecotte J<sup>4</sup>, Frost P<sup>4</sup>, Bauer C<sup>4</sup>, Jimenez JB Jr<sup>4</sup>, Nakayama J<sup>5</sup>, Aoki D<sup>2</sup>, Fukuda MN<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Ob / Gy, Hamamatsu Univ. Sch. of Med., <sup>2</sup>Dept. of Ob / Gy, Keio Univ. Sch. of Med., <sup>3</sup>Tumor Microenvironment, Cancer Ctr, Sanford - Burnham Med. Res. Inst., <sup>4</sup>Southwest Natl. Primate Res. Ctr., Texas Biomed. Res. Inst., <sup>5</sup>Dept. of Mol. Path., Shinshu Univ. Grad. Sch. of Med.): Development of pro-apoptotic peptides as potential therapy for peritoneal endometriosis. Nat Commun. 5: 4478, 2014. Doi: 10.1038/ncomms5478.
  16. 竹森聖, 長内喜代乃, 井上慶子, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: 当院における単一臍帯動脈24例の検討. 東京産婦会誌 63(4): 595-598, 2014.
  17. 鳥海玲奈, 黒田恵子, 深川裕一郎, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 百村麻衣, 小林陽一, 岩下光利: 卵巣癌と鑑別が困難であった未分化子宮内膜肉腫の1例. 東京産婦会誌 63(4): 662-667, 2014.
  18. 和地祐一, 岩下光利: 不妊治療の実際, 多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)合併不妊の治療. 産婦の実際 63(11): 1700-1707, 2014.
  19. 宮崎典子, 井澤朋子, 田中啓, 松島実穂, 和地祐一, 谷垣伸治, 酒井啓治, 岩下光利: 子宮動脈塞栓術後に癒着胎盤となった2例. 産婦の実際 63(12): 2021-2025, 2014.
  20. Tanaka K, Miyazaki N, Matsushima M, Yagishita R, Izawa T, Tanigaki S, Sakai K, Iwashita M: Prenatal diagnosis of Klippel - Treunaunay - Weber syndrome with Kasabach-Merritt syndrome in uter. J Med Ultrasonics 42: 109-112, 2015.
  21. 岩下光利, 久保田俊郎, 井篁一彦: 臨床医学の展望-30領域のトピックス, 産科学・婦人科学. 日本医事新報 4740: 121-124, 2015.
  22. Tanaka K, Iwashita M, Matsushima M, Izawa T, Sakai K, Kobayashi Y: Intrapartum group B streptococcus screening using real-time polymerase chain reaction in Japanese population. J Matern - Fetal Neonate Med. 7: 1-5, 2015.
  23. Tanaka K, Kobayashi Y, Dozono K, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M: Elevation of plasma D-dimer levels associated with rupture of ovarian endometriotic cysts. Taiwanese J Obstet Gynecol. (in press)
  24. Sato Y, Tanaka K, Kobayashi Y, Shibuya H, Nishigaya Y, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M: Uterine cervical cancer with brain metastasis as initial site of presentation: A case report. J Obstet Gynaecol Res. (in press)
- 著書**
1. 小林陽一: 子宮がん化額療法の一問一答, 治療に伴う看護特集患者のギモン・不安にこたえる, 臓器別がん化学療法の一問一答. プロフェッショナルがんナーシング 2. 瀧本真弓, 井淵富美編. 大阪, メディカ出版, 2014. p.160-165.
  2. 酒井啓治, 岩下光利: 分娩記録の書き方. 産婦人科研修ノート. 永井良三総監修, 綾部琢哉, 大須賀穰編. 東京, 診断と治療社, 2014. p.571-573.
  3. 谷垣伸治: 妊婦健診に一步差がつく産科超音波検査. 東京, 医学書院, 2014.
  4. 松島実穂, 酒井啓治, 岩下光利: 産科合併症, 貧血. イラストでハイレスク妊娠がわかる本, 妊婦さんへの説明にそのまま使える, ベリネイタルケア 2015新春増刊. 中田雅彦編. 大阪, メディカ出版, 2014. p.38-43.

## 放射線医学教室

### 講演

1. 横山健一:心臓 MRI の現状 Cardiac MRI: current status and future directions. 第73回日本医学放射線学会, 横浜, 2014年4月10-13日.
2. 荏安俊哉, 横山健一, 石村理英子, 似鳥俊明, 吉岡達也, 山村恒, 宮崎功, 小林邦典, 竹島秀則, 久原重英: Early experience of real-time cardiac imaging with the No - Training - Scan k-t method. 第73回日本医学放射線学会, 横浜, 2014年4月10-13日.
3. Ishimura R, Yokoyama K, Kariyasu T, Nitatori T, Kuhara S, Nitta S, Shiodera T, Takeguchi T: Knowledge-based automatic slice-alignment method of cardiac magnetic resonance imaging for aortic valve evaluation, comparison with inter-observer error. International society for magnetic resonance in medicine 2014, Italy, May 10th-16th, 2014.
4. 横山健一:条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者の MRI 検査. Advancing Patient Management Discussion Forum, 名古屋, 2014年5月17日.
5. Toyoda K, Ohara A, Oba H, Osawa M, Kanda T, Hiraoka R, Kotoku J, Furui S: Evaluation of Peritonsillar Abscess Using Reconstructed Enhanced CT Images: Classification and Lesion Extent. ASNR 52nd Annual Meeting, Canada, May 17th-22nd, 2014.
6. 横山健一:条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者の MRI 検査. Advancing Patient Management Discussion Forum, 広島, 2014年5月24日.
7. 増田裕, 黒木一典, 立石秀勝, 本谷啓太, 岩元香保里, 荏安俊哉, 似鳥俊明: 当院における大腸出血に対するTAEの検討. 日本IVR学会総会, 奈良, 2014年6月5-7日.
8. Kariyasu T, Yokoyama K, Ishimura R, Imai M, Nitatori T, Bannae S, Kuhara S: Clinical usefulness of real-time flow imaging with the no-training-scan k-t method: comparison with the conventional (2D-PC) method. The 8th Congress of Asian Society of cardiovascular imaging (ASCI2014), Korea, June 12th-14th, 2014.
9. 似鳥俊明:条件付 MRI 対応循環器デバイス について. Advanced CT and MRI 2014, 軽井沢, 2014年6月14日.
10. 横山健一:基礎から学ぶ心臓 MRI 撮像プロトコール. AIMS(Advanced Imaging Multimodality Seminars)2014, 東京, 2014年6月22日.
11. 大原有紗:中枢神経領域～日常よく遭遇する疾患の多面性～. 第10回前期臨床研修医のための画像診断セミナー, 東京, 2014年6月22日.
12. 立石秀勝, 木下雄介, 増田裕, 黒木一典, 似鳥俊明:治療方針の決定と手技に難渋した特発性肋間動脈破裂の1例. 第19回末梢血管画像・血管内治療研究会, 東京, 2014年6月28日.
13. 似鳥俊明:条件付 MRI 対応循環器デバイス について. 東京MRI研究会2014, 東京, 2014年7月12日.
14. 横山健一:診断の決め手となる撮像断面とコントラスト 胸部. 第33回東京MRI研究会, 東京, 2014年7月12日.
15. 荏安俊哉:出血と虚血:胸部領域. 第6回吉祥寺画像診断セミナー, 東京, 2014年8月2日.
16. 横山健一:Device 患者における MRI 撮像のワークフロー構築. 院内ワークフロー作成まで, 東京, 2014年8月30日.
17. 山下詠子, 高木康伸, 八杉利治, 元井亨, 船田信頭, 唐澤克之, 似鳥俊明:術前診断に苦慮した莢膜細胞腫の1例. JSAWI, 兵庫, 2014年9月3-4日.
18. 吉田真衣子, 山下詠子, 堂園溪, 荏安俊哉, 大森嘉彦, 下山田博明, 小林陽一, 似鳥俊明:急速な貧血の進行を伴いプレシヨック状態に至った線維腫茎捻転の1例. JSAWI, 兵庫, 2014年9月3-4日.
19. 堂園溪, 鳥海玲奈, 田中啓, 百村麻衣, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 吉田真衣子, 山下詠子, 似鳥俊明:子宮肉腫との鑑別が困難であった子宮腺筋腫の1例. JSAWI, 兵庫, 2014年9月3-4日.
20. Ohara A, Tsuchiya K, Gomyo M, Tateishi H, Nitatori T: Comparison of cerebral blood flow on perfusion MRI by using arterial spin labeling and dynamic susceptibility contrast in brain tumors. XXth Symposium Neuroradiologicum, Turkey, September 7th-12th, 2014.
21. 横山健一:条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者の MRI 検査. Advancing Patient Management Discussion Forum, 仙台, 2014年9月12日.
22. 横山健一:条件付き MRI 対応心臓デバイスの最新情報. 第42回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014年9月18-20日.
23. 荏安俊哉, 横山健一, 今井昌康, 石村理英子, 似鳥俊明, 宮崎功, 吉岡達也, 浜田健司:条件付き MRI 対応植え込み型デバイス患者に対する心臓 MRI 検査の初期経験. 第42回日本磁気共鳴医学会大会, 京都, 2014年9月18-20日.
24. 横山健一:血管性病変の画像診断 血管炎(CHCC2012改訂要旨, Large vessel vasculitis). 第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 神戸, 2014年9月26-28日.
25. 大原有紗, 豊田圭子, 土屋一洋, 五明美穂, 本谷啓太, 田中雅樹, 永根基雄, 塩川芳昭, 大森嘉彦, 平野和彦, 菅間博, 似鳥俊明:側頭骨巨細胞腫の1例. 第27回頭頸部放射線研究会, 神戸, 2014年9月27日.
26. 増田裕:産科出血のIVRについて. 多摩画像診断とIVRセミナー2014, 東京, 2014年10月24日.
27. 横山健一:心臓 MRI の意義と実際. 埼玉西部心臓画像診断医学セミナー, 所沢, 2014年11月18日.
28. Yokoyama K, Nitatori T, Imai M, Kariyasu T, Yoshida M, Tsuchiya M, Nishikawa M, Kinoshita Y, Tsukahara Y, Watanabe M: Takayasu Arteritis: Current status of imaging diagnosis. Radiological Society of North America (RSNA2014), Chicago USA, November 30th, -December 5th, 2014.
29. 木下雄介, 増田裕, 荏安俊哉, 塚原弥生, 本谷啓太, 横山健一, 似鳥俊明:肺葉内分画症の CT 所見の検討. 第446回日本医学放射線学会, 関東地方会定期大会, 東京, 2014年12月13日.
30. 志賀久恵, 増田裕, 立石秀勝, 荏安俊哉, 五明美穂, 村上清寿, 横山健一, 黒木一典, 似鳥俊明:遺残坐骨動脈再考. 第446回日本医学放射線学会, 関東地方会定期大会, 東京, 2014年12月13日.
31. 立石秀勝, 増田裕, 荏安俊哉, 黒木一典, 似鳥俊明:7Fr シース対応 IABO カテーテルの使用経験例. 東京アンギオ・IVR会, 東京, 2015年2月12日.
32. 五明美穂, 土屋一洋, 大原有紗, 立石秀勝, 片瀬七朗, 宮崎功, 似鳥俊明:2D-ASL 法と3D-TOF 法によるMRAの描出能の検討. 第38回日本脳神経 CI 学会総会, 名古屋, 2015年2月13-14日.
33. 山下詠子:婦人科領域の何これ MRI-放射線科医の求める画像-. 第4回多摩 RESONANCE 研究会, 東京, 2015年2月27日.
34. Yamashita E, Murakami S, Kuroki K, Nitatori T: Gastroduodenal

perforation on CT: Useful clues of determining the perforation site based on the direct and indirect findings. ECR, Austria, March 3rd-8th, 2015.

35. Kariyasu T, Yokoyama K, Nishikawa M, Watanabe M, Nitatori T: Diagnostic imaging for foreign bodies. ECR 2015 (European congress of radiology) Austria, March 4th-8th, 2015.
36. 五明美穂, 土屋一洋, 片瀬七朗, 大原有紗, 立石秀勝, 宮崎功, 似鳥俊明: Flow-spoiled fresh blood imaging (FS-FBI) を用いた頭蓋内血管壁描出能の検討. 第44回日本神経放射線学会, 名古屋, 2015年3月6-7日.
37. 横山健一: 心臓 MRI の意義と実際. 玉置地区循環器画像研究会, 山形, 2015年3月13日.

## 論文

1. 横山健一, 渡辺由, 今井昌康, 石村理英子, 苅安俊哉, 吉田真衣子, 似鳥俊明: 大型血管炎の画像診断 - 高安動脈炎の病態, 画像診断のすべて -. 臨床画像30(4):420-430, 2014.
2. Yokoyama K, Ishimura R, Kariyasu T, Imai M, Nitatori T, Kuhara S<sup>1</sup>, Nitta S<sup>2</sup>, Takeguchi T<sup>2</sup>, Matsumoto N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Clinical Application Research Center, Toshiba Medical Systems Corporation, <sup>2</sup>Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center, Toshiba Corporation): Clinical application of an automatic slice-alignment method for cardiac MR imaging. Magn Reson Med Sci 13(4):293-298, 2014.
3. 土屋一洋<sup>1</sup>, 五明美穂, 大原有紗, 似鳥俊明 (<sup>1</sup>東京通信病院・放射線科): 頭蓋内主幹動脈閉塞の病態診断における ASL を基にした 3T での非造影 MR DSA の有用性. 臨床放射線59:695-700, 2014.
4. 苅安俊哉, 似鳥俊明: 異物の画像診断. 画像診断 (0285-0524)34(6):647-660, 2014.
5. Miyazaki M<sup>1</sup>, Zhou X<sup>1</sup>, Hoshino T<sup>1</sup>, Yokoyama K, Ishimura R, Nitatori T (<sup>1</sup>MR Research, Toshiba Medical Research Institute): Non-contrast myocardial perfusion using a novel 4D magnetic resonance arterial spin labeling technique: Initial experience. Microvascular Research 98:94-101, 2015.
6. 谷合誠一<sup>1</sup>, 横山健一 (<sup>1</sup>杏林大・医・第二内科学(循環器内科)): 循環器診療を支える最新の非侵襲的検査. 杏林医学雑誌46(1):111-121, 2015.
7. Yokoyama K, Kariyasu T, Kuhara S<sup>1</sup>, Imai M, Ishimura R, Nitatori T (<sup>1</sup>Clinical Application Research Center, Toshiba Medical Systems Corporation): Influence of MRI-Conditional Cardiac Pacemakers on Quality and Interpretability of Images Acquired in 1.5-T Cardiac MRI. International Journal of Clinical Cardiology 2(2): 1-7, 2015.
8. 土屋一洋<sup>1</sup>, 五明美穂 (<sup>1</sup>東京通信病院・放射線科): MR angiography. Clinical Neuroscience 33: 674-677, 2015.

## 著書

1. 似鳥俊明編著: CT・MRI 解体新書. 東京, リブロ・サイエンス, アプリ版改訂, 2014.
2. 横山健一: IV 章 胸部. 3次元画像から学ぶ CT・MRI 断層解剖. 似鳥俊明編集. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.169-226.
3. 立石秀勝: 循環器内科医のための非心臓手術必須知識 II これだけは知っておこう解剖学の基礎知識 1. 解剖学の基礎知識 1) 脳神経. 吉野秀朗, 杉山政則編集. 東京, メジカルビュー社, 2014.p.26-35.
4. 五明美穂, 土屋一洋: 第8章脳奇形と類縁病態/第12節くも膜嚢

胞/第13節正常で見られる構造. 圧倒的画像数で診る! 頭部疾患画像アトラス. 土屋一洋, 山田恵, 森壘編. 東京, 羊土社, 2015.p.402-417.

5. 大原有紗, 藤川章: 9. 全身性エリテマトーデスに伴う中枢神経障害. 圧倒的画像数で診る! 頭部疾患画像アトラス. 土屋一洋, 山田恵, 森壘編. 東京, 羊土社, 2014.p.215-219.

## その他

1. 似鳥俊明: 日刊現代“異色の医師”, p16, 2014年10月1日.
2. 立石秀勝: TBS ドラマ『ホワイト・ラボ〜警視庁特別科学捜査班〜』第4話における監修, 2014年4月29日.

## 放射線腫瘍学教室

### 講演

1. 戸成綾子: 当院における 89Sr 使用経験 症例提示. 第5回 89Sr Tokyo Conference, 東京, 2014年10月25日.

### 論文

1. 高山誠: がん治療における放射線治療の役割. 杏林医学会雑誌 44:153-155, 2014.
2. Tonari A, Itaya N<sup>1</sup>, Honda K<sup>2</sup>, Sohara E<sup>2</sup>, Kurai D<sup>2</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Takayama M (<sup>1</sup>Department of urology, Kyorin University, <sup>2</sup>Department of respiratory medicine, Kyorin University): Effectiveness of isotope therapy in addition to external beam irradiation therapy for pain control due to bone metastases - case report-. J Kyorin Med. Soc. 45(3):79-82, 2014.

## その他

1. 高山誠監修: 特材算定ハンドブック. 社会保険研究所, 東京, 2014.
2. 戸成綾子: 2014年度 がん看護研修会公開講演会, がん患者の相談者になる -放射線治療編-. 杏林大学病院第一会議室, 三鷹, 2014年9月6日.

## 麻酔科学教室

### 講演

#### 学会発表

1. 足立智, 光田将憲, 森山潔, 片山あつ子, 山田達也, 萬知子: 麻酔情報管理システム上での注射薬実施入力漏れの実態. 日本麻酔科学会第61回総会. 横浜. 2014年5月15日.
2. 神山智幾, 森山潔, 金井理一郎, 東佑佳, 小谷真理子, 萬知子: 慢性血栓性肺高血圧症患者を対象にしたパルスオキシメータの制度に関する信頼性. 日本麻酔科学会第61回総会, 横浜, 2014年5月15日.
3. 安藤直朗, 森山久美, 大橋夕樹, 本保晃, 森山潔, 萬知子: 帝王切開術後創部痛の慢性痛への移行頻度. 日本麻酔科学会第61回総会, 横浜, 2014年5月16日.
4. Yorozu T, Shiozawa Y, Moriyama K, Azuma Y: Related factors for mechanical complications in ultrasounds guided central venous catheterization. 88th International Anesthesia Research Society, Canada. May 18th, 2014.
5. 正保智恵美, 窪田靖志, 川名典子, 関礼輔, 田島伸介, 矢野絹子, 畔蒜祐一郎, 伊藤祐子: 医療用麻薬自己管理に向けた取り組み 看護師の意識調査より. 第19回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2014年6月20日.
6. 窪田靖志, 正保智恵美, 川名典子, 関礼輔, 田島伸介, 塚田芳枝, 森山久美: 難治性がん性痛に対するデュロキシセチンの効果. 第19回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 2014年6月

20日。

7. 森山久美, 光田将憲, 長谷川綾子, 東佑佳, 山田達也, 萬知子: 周術期管理外来の現状と問題点. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会, 東京, 2014年8月30日.
8. 田淵沙織, 安藤直朗, 森山潔, 小谷真理子, 沢田龍治, 萬知子: 弓部分枝の高度狭窄を合併した患者に対する片肺全摘術の周術期管理. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会, 東京, 2014年8月30日.
9. 辻大介, 森山潔, 片山あつ子, 谷合誠一, 吉野秀朗, 萬知子: 冠動脈病変を合併した症候性頸動脈狭窄症の一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会, 東京, 2014年8月30日.
10. 小澤真紀, 箱根雅子, 木下尚之, 山田達也, 竹内徳子, 萬知子: 術中原因不明の循環不全の後心静止となり, 術後の経食道心エコーで SAM を認めた症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第54回合同学術集会, 東京, 2014年8月30日.
11. 窪田靖志: デュロキシセチン(サインバルタ®)が著効したがん疼痛の症例. 第5回多摩 PCT 研究会, 東京, 2014年9月4日.
12. 田嶋佳代子, 山田達也, 鮫島圭, 窪田靖志, 田口敦子, 萬知子: 大動脈弁置換術中に大動脈解離を発症した一例. 日本臨床麻酔学会第34回大会, 東京, 2014年11月2日.
13. 窪田靖志: 杏林大学での鎮痛補助薬の選択と効果. 第3回グループ内がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 3大学合同カンファレンス, 東京, 2014年12月8日.
14. Yorozu T, Moriyama K, Kotani M, Koyama T: Factors associated with catheter-related bloodstream Infections in the intensive care unit of a university hospital. 89th International Anesthesia Research Society, USA. March 22nd, 2015.
15. Motoyasu A, Yorozu T, Moriyama K, Yamada T: The development and use of simulation scenarios inducing medication errors for use medical education. 89th International Anesthesia Research Society, USA. March 22nd, 2015.
16. 鶴澤康二, 森山潔, 神山智幾, 金井理一郎, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子: 中心静脈カテーテル(CVC)ガイドライン変更後の消毒薬選択の実態調査. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2015年2月10日.
17. 本保晃, 森山潔, 金井理一郎, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子: 高濃度酸素投与器具間での吸気酸素濃度の比較. 高機能患者シミュレータを用いた研究. 第41回日本集中治療医学会学術集会, 京都, 2015年2月10日.

#### 講演会

1. 窪田靖志: 緩和医療の進歩. 地(知)の拠点[杏林大学, 三鷹ネットワーク大学共催]市民公開講演会, 東京, 2014年9月1日.
2. 萬知子: 当たり前の事をする難しさ. 第20回日本小児麻酔学会, 札幌, 2014年9月22日.
3. 徳嶺譲芳: CVC/PICC のハンズオントレーニング. 総合地域医療研修セミナー, 仙台, 2015年2月20日.
4. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第69回 CVC 指導者養成コース, 福島, 2015年2月21日.
5. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第92回 CVC 実践セミナー, 福島, 2015年2月21日.
6. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺の交差法・平行法. 平成26年度第4回 CVC 研修会, 東京, 2015年2月27日.
7. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第68回 CVC 指導者養成コース, 前橋, 2015年3月7日.
8. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第91回 CVC 実践セミナー, 前橋, 2015年3月7日.

9. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第95回 CVC 実践セミナー, 福島, 2015年3月14日.
10. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第70回 CVC 指導者養成コース, 島根, 2015年3月20日.

#### 平成25年度業績追加分

1. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 医療安全講習会, 東京, 2014年2月6日.
2. 萬知子: 中心静脈カテーテル挿入に関する安全管理の組織的な取り組み. 多摩外科研究会, 東京, 2014年2月21日.
3. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第93回 CVC 実践セミナー, 島根, 2014年3月21日.

#### 論文

1. 萬知子: 抗凝固・肺塞栓予防-特集 エビデンスに基づいた周術期の患者安全. 麻酔 63(3):278-286, 2014.
2. 萬知子: 中心静脈カテーテル関連合併症-機械的合併症と血流感染-. 日本臨床麻酔学会誌 34:11-16, 2014.
3. 森山潔, 中澤春政, 川田良紀, 糟谷洋平, 萬知子: 術前抗菌薬投与の現状調査. 麻酔 63(2):215-217, 2014.
4. 窪田靖志: 手術室でのアセスメントに必要な基礎知識 麻酔の役割と生体への影響. オペナース 1(1):18-24, 2014.
5. 三上大介, 中澤春政, 森山潔, 萬知子: 開心術後合併症予測因子としての脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)野有用性. 麻酔 63(2):138-142, 2014.
6. 鶴澤康二, 箱根雅子, 中澤春政, 安田博之, 森山潔, 萬知子: 肺動脈性高血圧症および混合性呼吸障害合併症患者に対する低用量等比重プロピバカインを用いた脊髄くも膜下麻酔. 麻酔 63(2):157-160, 2014.
7. 金井理一郎, 鶴澤康二, 森山潔, 小谷真理子, 神山智幾, 中澤春政, 安田博之, 萬知子: パルスオキシメーターの低酸素血症に関する信頼性の見当. 日本集中治療学会誌 21:175-176, 2014.
8. 谷合誠一, 山崎聡子, 飯島毅彦, 萬知子, 井原玲, 波利井清紀, 佐藤徹, 吉野秀朗: 新方式による非心臓手術術前スクリーニングシートの使用経験と有用性. 心臓 46(8):1071-1079, 2014.
9. 神山智幾, 金井理一郎, 澤田龍治, 鶴澤康二, 森山潔, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子: 経鼻高流量酸素療法を施行した, 重度閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者に対する口蓋扁桃摘出術の術後管理. ICU と CCU 38(7):491-493, 2014.
10. 齋藤珠恵, 中澤春政, 箱根雅子, 丸山蘭, 森山潔, 萬知子: 周術期ラテックスアレルギー予防対策の有用性-杏林大学医学部付属病院における対策とその効果-. 麻酔 63(9):1034-1038, 2014.
11. 森山久美, 森山潔, 中澤春政, 萬知子: 大学病院1施設における術後肺血栓塞栓症と静脈血栓症予防ガイドラインの術前遵守度. 日本臨床麻酔学会誌 34(4):485-490, 2014.
12. 本保晃, 森山潔, 萬知子: 高機能患者シミュレータを用いた HighFO ネブライザー(R)の評価. 人工呼吸 31:72-73, 2014.
13. Motoyasu A, Moriyama K, Mitsuda S, Moriyama K, Yorozu T: Oxygen at a high flow rate(35 L/min) via a face mask for preoxygenation. Can J Anaesth. 61(2):2014.
14. Mitsuda S, Moriyama K, Yorozu T: Optimal insertion depth of endotracheal tube among Japanese. J Anesth 28(3):477, 2014.
15. Moriyama K, Satoh T, Motoyasu A, Kotani M, Kanai R, Ando T, Yorozu T: High - Flow Nasal Cannula Therapy in a Patient with Reperfusion Pulmonary Edema following Percutaneous Transluminal Pulmonary Angioplasty. Case Rep Pulmonol. 83(7):612, 2014.
16. Tadokoro T, Tokumine J, Lefor AT, Kawabata T, Yoza K, Kinjo

T: The three-step method for ultrasound-guided pediatric internal jugular venous catheterization: a clinical trial. J Anesth. 29(1):131-3,2015.

17. Imaura M, Yokoyama H, Kohata Y, Kanai R, Kohyama T, Idemitsu W, Maki Y, Igarashi T, Takahashi H, Kanno H, Yamada Y: Initial dosing regimen of vancomycin to achieve early therapeutic plasma concentration in critically ill patients with MRSA infection based on APACHE II score. Eur J Drug Metab Pharmacokinet. 2014.

著書

1. 萬知子: -鎮痛・鎮静, せん妄の正しい評価なくして効果的なケアはありえない-急性・重症患者ケア3(1). 重症患者の鎮痛・鎮静 最前線. 東京, 総合医学社, 2014.p.16-23.
2. 萬知子: Multimodal Analgesia. 麻酔科 研修ノート 第2版. 東京, 診断と治療社, 2014.p.471-473.
3. 窪田靖志: 3神経障害性疼痛の治療5.腕神経叢浸潤に伴う痛み 症例で身につくがん疼痛治療薬. 山口重樹, 下山直人編. 東京, 羊土社, 2014. p.342-345.
4. 窪田靖志: 3神経障害性疼痛の治療6.坐骨神経浸潤に伴う痛み 症例で身につくがん疼痛治療薬. 山口重樹, 下山直人編. 東京, 羊土社, 2014. p.346-349.
5. 窪田靖志: 3神経障害性疼痛の治療7.四肢浮腫による神経絞扼による痛み 症例で身につくがん疼痛治療薬. 山口重樹, 下山直人編. 東京, 羊土社, 2014.p.350-353.
6. 窪田靖志: IV章膵がん・胆道がんの緩和治療3. 疼痛に対する薬物療法 膵がん・胆道がん薬物療法ハンドブック. 古瀬純司, 奥坂拓志編, 東京, 南光堂, 2014.p.172-176.
7. 窪田靖志: 下肢疼痛の管理-糖尿病性有痛性神経障害と虚血性下肢痛の管理-. WOC Nursing 3(11). 2014.p.81-87.

臨床検査医学教室

講演

1. 森秀明, 西川かおり, 本田普久, 塚田幾太郎, 尾股佑, 關里和, 峯佳毅, 小樽二世, 高橋信一, 岸野智則, 齋田真由美: 消化器領域における3次元超音波検査 -Fly Thru-の検討. 日本超音波医学会第87回学術集会, 東京, 2014年5月9-11日.
2. 佐藤英樹, 木崎直人, 有賀俊之, 浦田毅, 大藤弥穂, 高城靖志, 渡邊卓: 過去データの参照を可能にした生理検査システムの構築とペーパーレス化への取り組み. 第63回日本医学検査学会, 新潟, 2014年5月17-18日.
3. 石井隆浩, 小島直美, 関口久美子, 岡崎ゆり子, 加藤麻衣子, 高城靖志, 渡邊卓: 母親由来の高力価抗 D 抗体により児の血液型判定に影響を及ぼした1症例. 第63回日本医学検査学会, 新潟, 2014年5月17-18日.
4. 米山正芳, 本山拓也, 宮崎京子, 高城靖志, 渡邊卓: 酸性ユリメジャー・タブレット添加による生化学検査への影響. 第63回日本医学検査学会, 新潟, 2014年5月17-18日.
5. 大西宏明: 個別化医療の現状と展望 EGFR/K-RAS 検査を中心として. 多摩学術講演会, 立川, 2014年6月26日.
6. 大西宏明: 神経損傷予防のポイント. 第14回首都圏ラボラトリーフォーラム, 東京, 2014年9月6日.
7. 大西宏明: 神経損傷と迷走神経反射の予防と対処方法. 平成26年度総合検査全国研修会, 東京, 2014年9月27日.
8. 千葉直子, 坂本大典, 杉浦満喜, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: Unicl DxH1601の導入による業務ワークフローの効率化. 日本臨床検査自動化学会 第46回大会, 神戸, 2014年10月

9-11日.

9. 浦田毅, 岸野智則, 大西宏明, 山本明日香, 鳥森直子, 飯田綾子, 渡辺敬子, 森秀明, 楊國昌, 渡邊卓: 腎臓に浸潤したパーキットリンパ腫の一例: 転移性腎腫瘍との鑑別点について. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第26回学術集会, 東京, 2014年10月18-19日.
10. 鳥森直子, 岸野智則, 西川かおり, 板谷直, 浦田毅, 下山田博明, 森秀明, 奴田原紀久雄, 大西宏明, 渡邊卓: 乳頭状腎細胞癌の一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第26回学術集会, 東京, 2014年10月18-19日.
11. 宮脇晴子, 岸野智則, 森秀明, 福岡利仁, 下山田博明, 浦田毅, 鳥森直子, 飯田綾子, 大西宏明, 渡邊卓: 腎辺縁に hypoechoic cortical rim を認めた一例. 日本超音波医学会 関東甲信越地方会 第26回学術集会, 東京, 2014年10月18-19日.
12. 奥山美樹, 原島敬一郎, 鬼頭桃子, 津留衿奈, 三谷博子, 司茂幸英, 嶋津秀昭, 岸野智則: 新たなソフトウェアで解析した arterial stiffness index (ASI) に関する検討. 第1回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2014年11月15日.
13. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 松島早月, 岸野智則, 藤原正親, 古瀬純司, 渡邊卓: 転移性直腸癌症例において認められた新規 RET 遺伝子変異. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
14. 三谷博子, 石山陽事, 原島敬一郎, 岸野智則: 意識水準低下時の眠気改善を目的とした冷気刺激の可能性について: 神経生理学的パラメータを用いた検討. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
15. 大西宏明, 滝田順子, 松島早月, 大塚弘毅, 岸野智則, 細井健一郎, 大倉康夫, 小川誠司, 渡邊卓: 遺伝性骨髄増殖性腫瘍の家族例における網羅的遺伝子解析. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
16. 広井愛美, 米谷正太, 井田陽子, 奥山貴洋, 荒木光二, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: *Candida intermedia* が血液培養から検出された1症例. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月24-25日.
17. 原島敬一郎, 三谷博子, 司茂幸英, 岸野智則: Arterial pressure volume index の複数回測定下における安定性の検討: 推奨測定法の確立に向けて. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
18. 鳥森直子, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 一瀬由香里, 大倉康夫, 平野浩一, 高城靖志, 渡邊卓: 耳下腺深葉脂肪腫の一例-超音波画像所見の考察-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
19. 須藤恵美, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 大坂真以子, 藤原正親, 板谷直, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 褐色細胞腫との鑑別が困難であった副腎癌の一例-超音波画像所見の考察-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
20. 大坂真以子, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 鳥森直子, 寺戸雄一, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 転移性腎腫瘍の3例-超音波画像所見の考察-. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
21. 米谷正太, 荒木光二, 広井愛美, 牧野博, 奥山貴洋, 平尾千尋, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 当院において検出された *Aerococcus* 属菌に対する薬剤感受性の検討. 第26回臨床微生物学会総会・学術集会, 東京, 2015年1月31日-2月1日.
22. 平尾千尋, 田辺公一, 井田陽子, 米谷正太, 奥山貴洋, 広井愛美, 牧野博, 荒木光二, 高城靖志, 大野秀明, 宮崎義継, 大西

宏明, 渡邊卓: MALDI-TOF MSを用いた *Cryptococcus* 属の同定性能の検討. 第26回日本臨床微生物学会, 東京, 2015年1月31日-2月1日.

23. 森山遥, 千葉直子, 坂本大典, 松浦幸子, 杉浦満喜, 高木靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 当院における EDTA 依存性血小板凝集の検査の現状と問題点について. 杏林メディカルフォーラム, 三鷹, 2015年3月7日.
24. 大西宏明: 採血合併症~神経損傷を中心として~. 第30回山梨県医学検査学会, 甲府, 2015年3月15日.

## 論文

1. Ohnishi H, Tortoli E<sup>1</sup>, Ramos JP<sup>2</sup>, Kazumi Y<sup>3</sup>, Yonetani S<sup>4</sup>, Matsushima S, Ohtsuka K, Watanabe T<sup>(1)</sup>San Raffaele Sci Inst, <sup>2</sup>Escola Nacional de Saúde Pública, <sup>3</sup>Res Inst Tuberculosis, <sup>4</sup>Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp): Proposal of reclassification of *Mycobacterium celatum* type2 as *Mycobacterium kyorinense*. Ann Microbiol 64:1879-1882, 2014.
2. Kishiki T<sup>1</sup>, Ohnishi H, Masaki T<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ohkura Y<sup>2</sup>, Furuse J<sup>3</sup>, Watanabe T, Sugiyama M<sup>(1)</sup>Dept Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>Dept Pathol, Kyorin Univ Sch Med, <sup>3</sup>Dept Med Oncol, Kyorin Univ Sch Med): Overexpression of MET is a new predictive marker for anti-EGFR therapy in metastatic colorectal cancer with wild-type KRAS. Cancer Chemother Pharmacol 73:749-757, 2014.
3. Fumoto S<sup>1</sup>, Hosoi K<sup>1</sup>, Ohnishi H, Hoshina H<sup>1</sup>, Yan K<sup>1</sup>, Saji H<sup>2</sup>, Oka A<sup>(1)</sup>Dept Pediatr, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>HLA Found Lab): Chimerism of buccal membrane cells in a monozygotic dizygotic twin. Pediatrics 133:e1097-e1100, 2014.
4. Kishiki T<sup>1</sup>, Ohnishi H, Masaki T<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ohkura Y<sup>2</sup>, Furuse J<sup>3</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>(1)</sup>Dept Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup> Dept Pathol, Kyorin Univ Sch Med, <sup>3</sup>Dept Med Oncol, Kyorin Univ Sch Med): Impact of genetic profiles on the efficacy of anti-EGFR antibodies in metastatic colorectal cancer with KRAS mutation. Oncol Rep 32:57-64, 2014.
5. Inoue S-1<sup>1</sup>, Niikura M<sup>1</sup>, Inoue M<sup>1</sup>, Mineo S<sup>1</sup>, Kawakami Y<sup>2</sup>, Uchida A<sup>3</sup>, Ohnishi H, Kamiya S<sup>1</sup>, Watanabe T, Kobayashi F<sup>(1)</sup>Dept of Infect Dis, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>Azabu Univ, <sup>3</sup>Yamazaki Gakuen Univ): The protective effect of CD40 ligand-CD40 signalling is limited during the early phase of *Plasmodium* infection. FEBS Lett 588:2147-2153, 2014.
6. Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M<sup>1</sup>, Nakamura H<sup>2</sup>, Morii T<sup>3</sup>, Kishino T, Goto H<sup>4</sup>, Watanabe T<sup>(1)</sup>Dept Pathol, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>Tokyo Inst Technol, <sup>3</sup> Dept Orthop Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>4</sup>Dept of Respir Med, Kyorin Univ Sch Med): V843I, a lung cancer predisposing EGFR mutation, is responsible for resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors. J Thorac Oncol 9:1377-1384, 2014.
7. Ohtsuka K, Ohnishi H, Nozaki E, Ramos JP<sup>1</sup>, Tortoli E<sup>2</sup>, Yonetani S<sup>3</sup>, Matsushima S, Tateishi Y<sup>3</sup>, Matsumoto S<sup>4</sup>, Watanabe T<sup>(1)</sup>Escola Nacional de Saúde Pública, <sup>2</sup>San Raffaele Sci Inst, <sup>3</sup>Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, <sup>4</sup>Niigata Univ Grad Sch Med): Whole-genome sequence of *Mycobacterium kyorinense*. Genome Announcements 2:e01062, 2014.
8. Kishino T, Mori T<sup>1</sup>, Kawai S<sup>2</sup>, Mori H<sup>3</sup>, Nishikawa K<sup>3</sup>, Hirano K<sup>4</sup>, Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T<sup>(1)</sup>Dept Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>Dept Clin Lab, Kyorin Univ Sch Hosp, <sup>3</sup>The Third Dept Intern Med, Kyorin Univ Sch Med, <sup>4</sup>Dept Pathol, Kyorin Univ Sch Med): Carcinosarcoma, an atypical subset of gallbladder malignancies. J Med Ultrason 41:487-490, 2014.
9. Yonetani S<sup>1</sup>, Ohnishi H, Araki K<sup>1</sup>, Hiroi M<sup>1</sup>, Takagi Y<sup>1</sup>, Ichimura S<sup>2</sup>, Watanabe T<sup>(1)</sup>Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, <sup>2</sup>Dept Orthop Surg, Kyorin Univ Sch Med): A psoas abscess caused by *Propionibacterium propionicum*. J Infect Chemother 20:650-652, 2014.
10. Morii T<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ohnishi H, Mochizuki K<sup>1</sup>, Yoshiyama A<sup>1</sup>, Aoyagi T<sup>1</sup>, Hornicek FJ<sup>2</sup>, Ichimura S<sup>1</sup> (1)Dept Orthop Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup>Cent Sarcoma Connect Tissue Oncol, Massachusetts Gen Hosp): BH3 mimetics inhibit growth of chondrosarcoma—a novel targeted-therapy for candidate models. Anticancer Res 34:6423-6430, 2014.
11. Watanabe K<sup>1</sup>, Kishino T, Sano J<sup>1</sup>, Ariga T<sup>1</sup>, Okuyama S<sup>2</sup>, Mori H<sup>2</sup>, Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T<sup>(1)</sup>Dept Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, <sup>2</sup> The Third Dept Intern Med, Kyorin Univ Sch Med): Relationship between epicardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular systolic function in patients with preserved ejection fraction. Heart Vessels (in press).

## 著書

1. 大西宏明: ウイルス・細菌・真菌・寄生虫同定便覧. 菅原隆編集. 東京, 技術情報協会, 2014. p.200-203.
2. 大西宏明: 採血管は使用順序を守らないとダメ! . MEDICAL TECHNOLOGY 42. 東京, 医歯薬出版, 2014. p.1276-1278.
3. 岸野智則: 第14章 臨床医学総論-7. 感染症/9. 消化器系/11. 麻酔科学/12. 集中治療学/13. 手術医学/15. 臨床免疫学. 臨床工学技士 ポケットレビュー帳. 福長一義編集. 東京, メジカルビュー社, 2015. p.313-316/325-329/333-342/347-351.

## 総合医療学教室

### 講演

1. 小林敬明, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 吉敷智和, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 切除困難な肝転移を有する結腸直腸癌に対する術前化学療法—当科での Conversion therapy の現状について—. 第114回日本外科学会定期学術集会, 京都, 2014年4月3日.
2. 佐野彰彦, 西圭史, 山内弘子, 荒木光二, 牧野博, 米谷正太, 井田陽子, 河合伸: MCFG が無効であった *C. intermedia* のカテーテル関連血流感染 (CRBSI) の1例. 第88回日本感染学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
3. 西圭史, 河合弘子, 佐野彰彦, 河合伸: 血液培養陽性患者に対する ICT 介入の評価. 第88回日本感染学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
4. 山本実: 脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井, 2014年6月20日.
5. 佐野彰彦: 長期の DAP 投与で MIC が上昇した MRSA 感染症の一例. MRSA フォーラム, 新宿, 2014年7月12日.
6. 菅野恵, 島田正亮, 村松健司, 坪井裕子, 波多江洋介, 岡昌之: 児童養護施設における心理的な実践研究をめぐって(3)—具体的な題材から研究の意義について語る—. 日本心理臨床学会第33回秋季大会, 横浜, 2014年8月23-25日.
7. 島田正亮, 菅野恵, 前川あさ美: 児童養護施設における措置変更に関与する要因の検討—若手職員への面接調査から—. 日本心理臨床学会第33回秋季大会, 横浜, 2014年8月23-25日.
8. Uechi T, Tsukada T, Shibata S, Ikeda T, Yonemoto N, Nonogi

- H, Kimura T, Nagao K, Matsuda T, Nomura H: Ambient Temperature at the Onset of Out-of-Hospital Cardiac Arrest Affects Neurological Outcome After One Month. European Society of Congress 2014(ESC Congress 2014), Spain, August 30th, -September 3rd, 2014.
9. 本間聡起, 加藤清恵, 林潤一, 山本実: 人間ドックにおける非侵襲的動脈硬化検査の利用法—CAVI, ABI, 頸部超音波断層検査の相互関係と危険因子. 第55回人間ドック学会学術大会, 福岡, 2014年9月4日.
  10. Kobayashi T, Masaki T, Nozaki E, Sugiyama M, Okura Y: The specific gene expression and Epithelial Mesenchymal Transition (EMT) at the invasive front of colon cancer. 第73回日本癌学会学術総会, 横浜, 2014年9月25-27日.
  11. 河合伸: 院内感染—どうして起こる, どうやって防ぐ—. 杏林大学医学部同窓会支部長会講演会, 東京, 2014年10月19日.
  12. 本間聡起, 中村亨, 藤村香央里, 伊藤良浩, 前田裕二. 高齢者対象の汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験—効率的運用法に関する考察. 第17回日本遠隔医療学会学術大会, 長崎, 2014年10月25日.
  13. 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 術後補助化学療養中に腹部大動脈の局所的壁在血栓によって発症したと考えられる両側腎梗塞の1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  14. 宮内弘子, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 左頬部と口唇浮腫にて来院し, クインケ浮腫と診断した1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  15. 佐野勇貴, 植地貴弘, 新井舞, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: Wells4ルール+D ダイマー定量が有効であった肺塞栓症の1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  16. 荒川雅崇, 新井舞, 植地貴弘, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 心窩部痛を主訴に来院し, 急性心膜炎と診断された1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  17. 須田秀太郎, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 発熱・尿閉を主訴に来院し, 脊髄炎尿閉症候群と診断した若年男性の1例. 第42回日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  18. 澤井梓, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 総胆管結石性胆管炎に対する ERCP/EST 後に急性胆嚢炎を合併した1例. 日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  19. 佐藤俊, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 感染と清涼飲料水の多飲を契機とした糖尿病ケトアシドーシスの1例. 日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  20. 下元雄太郎, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 診断に難渋した複数の要因による低 Na 血症の女性の1例. 日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  21. 高山真梨子, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 診断に苦慮した卵巣腫瘍の1例. 日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  22. 神尾幸見, 新井舞, 植地貴弘, 佐野勇貴, 宮内弘子, 塚田雄大, 柴田茂貴, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 脾臓摘出後の肺炎球菌性髄膜炎の1例. 日本救急医学会総会・学術集会, 福岡, 2014年10月28-30日.
  23. 本間聡起: 脂質異常症と生活習慣病—血清脂質の評価は生活環境も映し出す鏡になる?—. 生活習慣病予防フォーラム—肥満・脂質異常症編—, 立川, 2014年10月30日.
  24. Uechi T, Tsukada T, Shibata S, Tokutsu T, Miyauchi H, Kobayashi T, Ikeda T, Yonemoto N, Nonogi H, Kimura T, Nagao K, Matsuda T, Nomura H: Ambient Temperature at the Onset of Out - of - Hospital Cardiac Arrest Affects Neurological Outcome in Ventricular Tachycardia and Ventricular Fibrillation Patients. The 31th Congress of the Pan - Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 31th PPSA), Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  25. Arai M, Sano Y, Uechi T, Tokutsu T, Shibata S, Miyauchi H, Kobayashi T, Matsuda T, Nomura H: Bilateral Renal Infarction During Adjuvant Chemotherapy With Cisplatin and Etoposide. The 31th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 31th PPSA), Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  26. Sano Y, Kobayashi T, Arai M, Uechi T, Tokutsu T, Miyauchi H, Nomura H, Matsuda T, Masaki T, Sugiyama M: A Case of Hemoptysis and Acute Respiratory Distress Syndrome (ARDS) After FOLFOX4 Plus Bevacizumab Treatment. The 31th Congress of the Pan - Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 31th PPSA), Taiwan, October 31st, -November 2nd, 2014.
  27. Kobayashi T, Masaki T, Nozaki E, Sugiyama M, Nagashima F, Furuse J, Okura Y: Epithelial-Mesenchymal Transition and the specific gene expression at the invasive front of colon cancer. The 31th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter (The 31th PPSA), Taiwan, November 1st-2nd, 2014.
  28. 河合伸: 高齢者肺炎の特徴と対処法. 杏林大学公開講演会, 東京, 2014年11月1日.
  29. 本間聡起, 今村晴彦, 中村亨, 藤村香央里, 伊藤良浩, 前田裕二, 金子郁容: 健康指標のテレモニタリングに伴う個別化指導法に関する比較研究—テレビ電話指導法と文書レポート指導法の効率性. 第34回日本医療情報学会連合大会, 千葉, 2014年11月7日.
  30. 本間聡起: 遠隔診療実習(1)(2). 特定非営利活動法人 日本遠隔医療協会 平成26年度厚生労働省遠隔医療従事者研修事業 遠隔医療従事者研修, 東京, 2014年11月15日.
  31. 本間聡起: モニタリング実習(1)(2). 特定非営利活動法人 日本遠隔医療協会 平成26年度厚生労働省遠隔医療従事者研修事業 遠隔医療従事者研修, 東京, 2014年11月16日.
  32. 本間聡起: モニタリングの基礎(1), 循環器. モニタリング実習(1)(2). 特定非営利活動法人 日本遠隔医療協会 平成26年度厚生労働省遠隔医療従事者研修事業 遠隔医療従事者研修, 大阪, 2014年11月29日.
  33. 星野崇啓, 石川智, 吉野りえ: 埼玉性的虐待研究会の5年間のあゆみ—児童福祉施設の性的問題への対応—. “人間と性”教育研究協議会第29回全国秋季セミナー, 東京, 2014年12月3日.
  34. 本間聡起: 形態学的観点からみた動脈硬化の進行. 第6回近畿血管バイオメカニクスセミナー 関西CVT連絡会, 大阪, 2014

年12月6日.

35. 菅野恵, 島田正亮, 元永拓郎: 学生相談における精神科受診ケースのフォローアップ面接—予備校生と大学生の比較検討を通して—. 日本学校メンタルヘルス学会第18回大会, 神戸, 2015年1月10-11日.
36. 山本実: 脂質異常症の管理法. 小金井市高脂血症予防教室, 小金井, 2015年1月23日.
37. 宮内弘子, 小林敬明, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 柴田茂貴, 松田剛明: アンギオテンシン阻害薬による薬物誘発血管浮腫の一例. 第64回日本救急医学会関東地方会学術集会, 横浜, 2015年2月7日.
38. 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明, 野村英樹: 初期診療現場における壊死性筋膜炎の早期診断: 壊死性筋膜炎と診断した3例の報告及び文献的考察. 第64回日本救急医学会関東地方会学術集会, 横浜, 2015年2月7日.
39. 山岸夢希, 新井舞, 植地貴弘, 得津敬之, 柴田茂貴, 宮内弘子, 小林敬明, 松田敬明, 野村英樹: 初期診断に苦慮した壊死性軟部組織感染症の一例. 第64回日本救急医学会関東地方会学術集会, 横浜, 2015年2月7日.
40. 宮本彩子, 植地貴弘, 得津敬之, 新井舞, 佐野勇貴, 宮内弘子, 小林敬明, 野村英樹, 松田剛明: Lemmel 症候群に伴う急性胆管炎の男性の1例. 第64回日本救急医学会関東地方会学術集会, 横浜, 2015年2月7日.
41. Homma S, Hayashi J, Yamamoto M: Modified Progression of Arterial Stiffness with Aging by Atherosclerosis Risk Factors. The 2015 Ageing Summit, Great Britain, February 10th, 2015.
42. 小林敬明, 正木忠彦, 杉山正則: 結腸直腸癌の治療に関して基礎と臨床. 第一回大腸癌スキルアップセミナー, 東京, 2015年2月12日.
43. 本間聡起, 中村亨, 藤村香央里, 伊藤良浩, 前田裕二: 高齢慢性疾患患者に対する遠隔診察の経験からみた遠隔聴診の活用. JTTA Spring Conference 2015, 東京, 2015年2月21日.
44. 下島裕美, 石川智, 島田正亮: 時間的展望から死について考える. 日本発達心理学会第26回大会, 東京, 2015年3月20-22日.
45. 亀崎路子, 島田正亮: 養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する文献検討—年代順による特徴—. 日本学校健康相談学会第11回学術集会, 松戸, 2015年3月21-22日.
46. 下島裕美, 石川智, 島田正亮: 時間的展望から死について考える. 日本発達心理学会第26回大会, 東京, 2015年3月20-22日.
47. 河合伸: HIV 診療の現状—HIV 感染症とどうかかわるのか—. 立川保健所主催 26年度 HIV/AIDS 講演会, 東京, 2015年3月24日.
48. 本間聡起: 在宅患者対象の生体センサ・モニタリングの有有用性—福島県と東京を結んだ遠隔診療実験からみた検討. 日本医学工学治療学会第31回学術大会, 広島, 2015年3月29日.
49. 竜崎崇和, 中元秀友, 本間聡起: 携帯電話網を利用した生活習慣病管理モニタ telemedicine システム(i-手帳)の開発研究. 日本医学工学治療学会第31回学術大会, 広島, 2015年3月29日.
50. Miyoshi J<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Maruyama Y<sup>1</sup>, Yoneno K, Mori K<sup>1</sup>, Kiyohara H<sup>1</sup>, Nanki K<sup>1</sup>, Okamoto S, Yajima T<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University): Early intervention with adalimumab may contribute to favorable clinical efficacy in patients with Crohn's disease. *Digestion* 90(2):130-136, 2014.
51. Yoneno K<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Okamoto S, Takayama T<sup>1</sup>, Ichikawa R<sup>1</sup>, Sujino T<sup>1</sup>, Miyoshi J<sup>1</sup>, Takabayashi K<sup>1</sup>, Mikami Y<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Wada Y<sup>1</sup>, Yajima T<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Inoue N<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hasegawa H<sup>1</sup>, Kitagawa Y<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University): Risk and management of intra-abdominal abscess in Crohn's disease treated with infliximab. *Digestion* 89(3):201-208, 2014.
52. 秋田貴之<sup>1</sup>, 尾坂真<sup>1</sup>, 大森嘉彦<sup>2</sup>, 菅間博<sup>2</sup>, 大倉康男<sup>2</sup>, 松本吉史<sup>3</sup>, 高山信之<sup>4</sup>, 河合伸, 片野晴隆<sup>5</sup>, 望月眞<sup>2</sup>(<sup>1</sup>杏林大・医, <sup>2</sup>杏林大・医・病理学, <sup>3</sup>杏林大・医・耳鼻咽喉学, <sup>4</sup>杏林大・医・血液内科, <sup>5</sup>国立感染症研究所): HIV リンパ節炎と HIV 顎下腺炎を伴った顎下腺原発 Diffuse large B-cell lymphoma の一例. *日本病理学会誌* 103(1):406, 2014.
53. 河合伸: 各種抗菌薬の特徴と選択のポイント—マクロライド—. *臨床と研究* 92:21-25, 2014.
54. 佐野彰彦, 河合伸: 特性から導く, 外来診療における抗菌薬の役割—β-ラクタム系抗菌薬 ペニシリン系抗菌薬 セフェム系抗菌薬 カルバペネム系抗菌薬—. *感染と抗菌薬* 17(2):110-116, 2014.
55. Sakuraba A<sup>1</sup>, Okamoto S, Matsuoka K<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup>, wao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University): Combination therapy with infliximab and thiopurine compared to infliximab monotherapy in maintaining remission of postoperative Crohn's disease. *Digestion* 91(3):233-238, 2015.
56. Wada Y<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Okamoto S, Inoue N<sup>1</sup>, Yajima T<sup>1</sup>, Kouyama K<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hibi T<sup>2</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Kitasato University): Risk factors for decreased bone mineral density in inflammatory bowel disease: A cross-sectional study. *Clin Nutr.* doi:10.1016/j.clnu.2015.01.003. (Epub ahead of print 2015).
57. 西圭史<sup>1</sup>, 中村貴枝子<sup>1</sup>, 高橋陽子<sup>1</sup>, 種岡貴子<sup>1</sup>, 佐野彰彦, 小林治<sup>2</sup>, 河合伸, 池田俊也<sup>3</sup>, 操華子<sup>4</sup>, 山田治美<sup>3</sup>(<sup>1</sup>杏林大・病院・医療安全管理部, <sup>2</sup>杏林大・保・看護学科, <sup>3</sup>国際医療福祉大学, <sup>4</sup>宮城大学): カテーテル関連血流感染症に対する抗菌薬適正使用がその後の菌血症再発に及ぼす影響. *環境感染誌* 30(1):7-13, 2015.
58. 本間聡起, 中村亨, 藤村香央里, 伊藤良浩, 前田裕二: 高齢者対象の汎用性の高いシステムを用いた遠隔診療実験—効率性の運用法に関する考察. *遠隔医療学会誌* 10(2):205-208, 2014.
59. 本間聡起, 今村晴彦, 中村亨, 藤村香央里, 伊藤良浩, 前田裕二, 金子郁容: 健康指標のテレモニタリングに伴う個別化指導法に関する比較研究—テレビ電話指導法と文書レポート指導法の効率性. *医療情報学* 34(Suppl.):484-487, 2014.
60. Homma S, Kato K, Hayashi J, Yamamoto M: Negative associations between arterial stiffness parameter evaluated by cardio-ankle vascular index and serum low-density lipoprotein cholesterol concentration in early-stage atherosclerosis. *Angiology* 66(2):143-149, 2015.
61. 下島裕美<sup>1</sup>, 島田正亮(<sup>1</sup>杏林大・保): 生徒指導における不足情報の認識について—教職実践演習におけるメタ認知能力を促

## 論文

1. Yamamoto Y, Ohmichi M, Watanabe A, Niki Y, Aoki N, Kawai S, Chida K, Mikasa K, Seki M, Ishida T, Kadota J, Matsuse H, Fujita J, Kohno S: A study on the management of acute respiratory tract infection in adult. *The Japanese journal of*

す試みー. 杏林教職課程年報 1:45-52,2015.

14. Kobayashi T, Masaki T, Takayasu K, Kishiki T, Kojima K, Mastuoka H, Sugiyama M, Kasuga A, Nagashima F, Furuse J: Efficacy of anti - EGFR antibody monotherapy for patients with colorectal cancer with the *Kras G13D* mutation: report of four cases. *Hepato-Gastroenterology*.(in press).

**著書**

1. 河合伸:敗血症. JAID/JSC 感染症治療ガイド 2014. JAID/JSC 感染症治療ガイドライン作成委員会編集. 東京, ライフ・サイエンス出版, 2014. p.10-15.
2. 河合伸:感染症. カレント 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち2. 志村二三夫, 石田均編集. 東京, 建帛社, 2015. p.272-276.

**リハビリテーション医学教室**

**講演**

1. 山田深:宇宙と脳とリハビリテーション. 第20回道北脳神経懇話会, 旭川, 2014年4月10日.
2. 林光俊, 安部学, 上園紗映, 奥出聡, 平川淳一, 川上純範, 岡島康友:精神科病院における身体リハビリテーション:第2報~高所飛び降りによる多発損傷例を主として~. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
3. 藤澤祐基, 岡島康友, 山田深, 橋立博幸, 潮見泰蔵:片麻痺の麻痺手書字における手の遠位・近位運動の分離性とパフォーマンス 小脳性運動失調症の3次元書字運動解析. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
4. 大森まいこ, 矢萩まどか, 長谷公隆, 山田深, 杉山瑠, 補永薫, 大高洋平, 辻哲也, 里字明元:訪問リハビリテーションの実施状況の報告(第一報) 目標達成についての検討. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
5. 大本将之, 松瀬 博夫, 名護健, 篠崎夏子, 田中順子, 山田深, 大島博, 志波直人:ハイブリッドトレーニングシステムを用いたエルゴメータ運動の長期訓練効果. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
6. 松瀬博夫, 名護健, 田中順子, 篠崎夏子, 大本将之, 山田深, 大島博, 志波直人:ハイブリッドトレーニングシステムを用いたエルゴメータの呼吸ガス分析. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
7. 正木瑠子, 山田深, 仁科彩子, 塩川芳昭, 岡島康友:90歳以上の脳卒中患者における急性期リハビリテーションの帰結. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
8. 高橋宣成, 高橋修, 西川順治:橈骨神経伝導検査 示指伸筋で記録される複合筋活動電位の振幅に関する検討. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 2014年6月5-7日.
9. 高橋秀寿:脳性麻痺の装具療法. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会, 名古屋, 平成26年6月7日.
10. 石田幸平, 森光代, 山田深, 岡島康友:急性期入院の重症熱傷患者のADL. 第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会, 横浜, 2014年6月18-21日.
11. 森光代, 石田幸平, 山田深, 岡島康友:上肢熱傷急性期の OTの視点~ADLが機能障害を改善する~. 第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会, 横浜, 2014年6月18-21日.
12. Mori M, Ishita K, Yamada S, Okajima Y: Acute phase occupational

- therapy for patients with burn injury in upper extremities-Do ADLs improve impairment? -. The 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, June 18th-21st, 2014.
13. Ishita K, Mori M, Yamada S, Okajima Y: Physical Disabilities in Severe Burn Injuries. The 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, June 18th-21st, 2014.
  14. 岡島康友:ボツリヌス毒素を用いた痙縮治療の実践. 痙縮に対するボツリヌス療法・ハンズオンセミナー, 東京, 2014年6月19日.
  15. 山田深:宇宙飛行とリハビリテーション~人類の挑戦~. 七栗リハビリテーションセミナー, 津, 2014年7月1日.
  16. 山田深:宇宙飛行士の健康管理から学ぶ運動とリハビリテーション. 杏林大学市民公開講演会, 三鷹, 2014年7月5日.
  17. 岡島康友:機能的自立度評価法の歴史的背景. 第13回看護師・コメディカルのための FIM 講習会【基礎編】, 三鷹, 2014年7月13日.
  18. 山田深: FIM の歴史的背景・ダイジェスト. 第4回 看護師・コメディカルのための FIM 講習会【応用編】, 三鷹, 2014年7月13日.
  19. 高橋秀寿:脳卒中患者の脛縮抑制装具療法について. 埼玉医科大学国際医療センター脳血管内治療地域勉強会, 川越, 2014年8月21日.
  20. 高橋秀寿:脳卒中急性期リハビリテーションの重要性について. 第12回日本臨床医療福祉学会 シンポジウム“脳卒中における地域連携の視点”, 川越, 2014年8月29日.
  21. 林良幸, 山田深, 岡島康友:内視鏡下のバイオフィードバックにより経口摂取が可能になった口腔・咽頭癌術後の1例. 第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 東京, 2014年9月6-7日.
  22. 寺田昌弘, 須藤正道, 大平宇志, 関真也, 高橋理佳, 東端晃, 馬嶋秀行, 石岡憲昭, 山田深, 大島博, 向井千秋:長期宇宙滞在による毛髪での遺伝子変化. 第131回成医会総会, 東京, 2014年10月9-10日.
  23. Hirano Y, Nitta O, Takahashi H, Nishio D, Minakawa T, Kigawa H: Factor affecting walking ability for severe hemiplegic patients using a logistic regression analysis in a convalescent rehabilitation ward. The 9<sup>th</sup> World Stroke Congress, Turkey, October 22nd-25th, 2014.
  24. Minakawa T, Nishio D, Hirano Y, Nitta O, Takahashi H, Kigawa H: Factor affecting the using short leg brace of hemiplegic patients after discharge. The 9<sup>th</sup> World Stroke Congress, Turkey, October 22nd-25th, 2014.
  25. Nishio D, Hirano Y, Takahashi H, Kigawa H: Factors influencing burden on caregivers of stroke patients with hemiplegia at home. The 9<sup>th</sup> World Stroke Congress, Turkey, October 22nd-25th, 2014.
  26. Abe S, Takahashi H, Kitayama A, Takazawa C, Hara M, Omata C, Fujiwara A, Tamura T, Kigawa H: Comparison of the staple food of Japanese (rice, bread and noodles) for stroke patients with dysphagia in convalescence rehabilitation wards by video fluorography. The 9<sup>th</sup> World Stroke Congress, Turkey, October 22nd-25th, 2014.
  27. 山田深:宇宙医学とリハビリテーション. 第4回南那珂リハビリテーション懇話会, 日南, 2014年10月25日.
  28. 高橋秀寿:脳卒中リハビリの最新知識. 第5回埼玉医科大学国

際医療センター市民公開講座“脳卒中に負けないパートⅡ”，日高，2014年11月8日。

29. 山田深:急性期リハビリテーションの現状と展望 脳卒中の急性期リハビリテーション. リハビリテーション科専門医会学術集会, 鹿児島, 2014年11月16日.
30. 高橋宣成, 西川順治, 牛島良介, 高橋修:橈骨神経伝導検査「仮の最大上刺激」の提唱. 第44回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, 2014年11月19-21日.
31. 相羽達弥, 山田深, 石田暁, 大島博, 向井千秋:国際宇宙ステーションにおける軌道上診断システムの機能検証. 第60回宇宙航空環境医学会, 東京, 2014年11月28-29日.
32. 神山慶人, 金子祐樹, 川島紫乃, 山田深, 大島博:運動生理的対策の現状と今後の課題. 第60回宇宙航空環境医学会, 東京, 2014年11月28-29日.
33. 山田深:重力と人間の活動から廃用とリハビリテーションを考える. 第2回西多摩リハビリテーション研修会, 福生, 2014年11月30日.
34. 岡島康友:機能的自立度評価法の歴史的背景. 第14回 看護師・コメディカルのための FIM 講習会【基礎編】, 三鷹, 2014年12月14日.
35. 山田深:FIM の歴史的背景・ダイジェスト. 第5回 看護師・コメディカルのための FIM 講習会【応用編】, 三鷹, 2014年12月14日.
36. 高橋秀寿:脳卒中片麻痺患者に対する下肢痙縮抑制足底板の標準化と効果の検証. 第59回日本リハビリテーション医学会関東地方会 専門医・臨床認定医生涯教育研修会, さいたま, 2015年1月10日.
37. 岡島康友:関節リウマチのリハビリテーションの考え方と装具の意義【特別講演】. 第16回神奈川リウマチ・リハケア研究会, 横浜, 2015年1月17日.
38. 山田深:ICF コアセット日本語版翻訳チームリーダーの立場から. 第4回 ICF シンポジウム, 東京, 2015年3月8日.
39. 高橋秀寿:運動・呼吸器リハビリテーション科からの報告. 第66回埼玉医科大学国際医療センター地域医療連携懇話会, 日高, 2015年3月18日.
40. 林良幸, 山田深, 鳥居正剛, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭:頸動脈内膜剥離術後の迷走および舌下神経麻痺による嚥下障害を呈した1例. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
41. 佐藤敦子, 山田深, 藤澤祐基, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭:高齢急性期脳卒中患者の血清アルブミン値と Functional Independence Measure (FIM) の関係. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
42. 正木瑤子, 山田深, 仁科彩子, 岡島康友, 鳥居正剛, 平野照之, 塩川芳昭:90歳以上の急性期脳卒中患者における ADL に影響を与える因子の検討. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
43. 川原奈津子, 山田深, 蛭沢志織, 中村みゆき, 遠藤沙耶香, 林良幸, 阿部光世, 平野照之, 塩川芳昭:脳卒中急性期患者に対する安全な経口摂取へ向けた看護介入. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
44. 永田真佑美, 山田深, 中野真由美, 根本圭子, 小林夏紀, 加藤雅江, 平野照之, 塩川芳昭:高次脳機能障害を有する脳卒中患者に対する急性期からの支援. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
45. 岡田啓, 脊山英徳, 鳥居正剛, 岡村耕一, 丸山啓介, 山田深, 傳法倫久, 塩川芳昭:CEA 周術期における INVOS のパターン解析. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29

日.

## 論文

1. 林光俊<sup>1</sup>, 安部学<sup>2</sup>, 上園紗映<sup>3</sup>, 奥出聡<sup>3</sup>, 平川淳一<sup>3</sup>, 川上純範, 岡島康友(<sup>1</sup>杏林大・医・整形外科, <sup>2</sup>目白第2病院, <sup>3</sup>平川病院):精神科病院における身体リハビリテーション～高所飛び降りによる多発損傷例を主として～. 臨床リハビリテーション 23: 1222-1229, 2014.
2. 仁科彩子, 山田深:脳卒中ユニットにおける集中治療とリハビリテーション. 【特集 急性期病院における脳卒中リハビリテーション】. 臨床リハ23(5):430-435, 2014.
3. 正木瑤子, 岡島康友:脳卒中ユニットにおけるリハビリテーション. Modern Physician 34(7):749-753, 2014.
4. 山田深:ストロークケアユニット. 【特集 総合病院におけるリハビリテーション急性期を中心に】. 総合リハ42(10): 937-942, 2014.
5. Jin JS<sup>1, 2</sup>, Touyama M<sup>2</sup>, Yamada S, Yamazaki T<sup>3</sup>, Benno Y<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Chonbuk National University, <sup>2</sup>RIKEN, <sup>3</sup>Teikyo University): Alteration of a Human Intestinal Microbiota under Extreme Life Environment in the Antarctica. Biol Pharm Bull. 37(12):1899-1906, 2014.
6. 正木瑤子, 山田深:超高齢脳卒中患者における急性期リハビリテーション. 【特集 超高齢社会の脳卒中リハビリテーション】. 臨床リハ24(3):247-254, 2015.
7. 高橋秀寿:急性期のシステム. 脳卒中リハビリテーションのエビデンス. 総合リハ43(3):185-191, 2015.
8. 岡島康友:脳卒中後の痙縮治療における医療介護連携の必要性. 杏林医学会誌46:53-56, 2015.

## 著書

1. Bickenbach JE, Rauch A, Stucki G, Cieza A (著), 日本リハビリテーション医学会 (訳), 山田深 (翻訳チームリーダー):ICF コアセット 臨床実践のためのマニュアル. 東京, 医歯薬出版, 2015.

## その他

1. 山田深:飛行士リハビリに興味 県南の療法士ら懇話会. 宮崎日日新聞, 2014年11月4日 (新聞掲載).
2. 高橋宣成:典型事例から学ぶ! 摂食嚥下のリハビリテーション. 東京, 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課, 2014.

## 「リハビリテーション室」

## 講演

1. 須崎由香, 炭谷由計, 藤澤祐基, 長谷川純子, 犬飼浩二, 岡島康友, 石田均:脈拍を指標にした運動療法の効果～携帯型脈拍計を使用した慢性運動療法～. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
2. 森光代, 石田幸平, 山田深, 岡島康友:上肢熱傷急性期の OT の視点～ADL が機能障害を改善する～. 第48回日本作業療法学会, 横浜, 2014年6月18-21日.
3. 石田幸平, 森光代, 山田深, 岡島康友:急性期入院の重症熱傷患者の ADL. 第48回日本作業療法学会, 横浜, 2014年6月18-21日.
4. Mori M, Ishita K, Yamada S, Okajima Y: Acute phase occupational therapy for patients with burn injury in upper extremities-Do ADLs improve impairment? -. The 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, June 18th-21st, 2014.

5. Ishita K, Mori M, Yamada S, Okajima Y: Physical Disabilities in Severe Burn Injuries. The 16th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Yokohama, June 18th-21st, 2014.
6. 佐藤敦子, 石田幸平, 間藤翔悟: 脳卒中リハビリテーション 急性期から回復期そして維持期へ. 平成26年度 クリティカルケア看護公開講座【脳卒中編】, 東京, 2014年7月12日.
7. 境哲生: 各腫瘍患者におけるリハビリテーションの関わりについて. 第22回日本ホスピス・在宅ケア研究会, 神戸, 2014年7月12-13日.
8. 石田幸平: 第13回看護師・コメディカルのための FIM 講習会【基礎編】, 三鷹, 2014年7月13日.
9. 森光代: 第4回看護師・コメディカルのための FIM 講習会【応用編】, 三鷹, 2014年7月13日.
10. 田中耕史, 鈴木和基, 横山さち, 西田悠一郎, 合田あゆみ, 岡島康友, 吉野秀朗, 佐藤徹: 肺高血圧患者における外来運動療法の有効性. 第20回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 京都, 2014年7月19-20日.
11. 鈴木和基, 合田あゆみ, 西田悠一郎, 柳澤亮爾, 岡島康友, 吉野秀朗, 佐藤徹: 肺高血圧症患者に対する運動中の肺動脈圧上昇に関する検討. 第20回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 京都, 2014年7月19-20日.
12. 林良幸, 山田深, 岡島康友: 内視鏡下のバイオフィードバックにより経口摂取が可能になった口腔・咽頭癌術後の1例. 第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 東京, 2014年9月6-7日.
13. 神山裕司, 菰澤融司, 渡辺佳子, 岡島康友: 腫瘍による運動発達遅滞に対して術前化学療法時から理学療法介入を行った肝芽腫の1例. 第25回日本小児外科QOL研究会, 東京, 2014年10月18日.
14. 西田悠一郎, 合田あゆみ, 佐藤徹: 肺高血圧症の運動耐容能評価とリハビリテーション. PAHを考えるフォーラム2014, 名古屋, 2014年11月22日.
15. 石田幸平: 第14回看護師・コメディカルのための FIM 講習会【基礎編】, 三鷹, 2014年12月14日.
16. 森光代: 第5回看護師・コメディカルのための FIM 講習会【応用編】, 三鷹, 2014年12月14日.
17. 佐藤敦子, 林良幸: 脳卒中リハビリテーション(急性期～回復期へ). 第20回日本脳神経外科救急学会 クリティカルケア看護公開講座, 東京, 2015年1月30-31日.
18. 相原さより, 竹田紘崇: 介護が必要とならないために～ロコモからの最新の運動器疾患外科療法～. 三鷹市老人クラブ連合会共済講演会, 東京, 2015年2月20日.
19. 竹田紘崇: 身体感覚について. 平成26年度 育児支援サークル ぴあんず, 東京, 2015年2月28日.
20. 穂村美津子: こどもの嚥下と摂食～飲み込むことと, ご飯を食べること～. 平成26年度 育児支援サークル ぴあんず, 東京, 2015年2月28日.
21. 林良幸, 山田深, 鳥居正剛, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: 頸動脈内膜剥離術後の迷走および舌下神経麻痺による嚥下障害を呈した1例. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.
22. 佐藤敦子, 山田深, 藤澤祐基, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: 高齢急性期脳卒中患者の血清アルブミン値と Functional Independence Measure(FIM)の関係. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月26-29日.

その他

1. 石田幸平: 熱傷専門施設におけるリハビリテーション～重症熱傷に対するリハビリテーションの早期介入と継続の必要性～. 第40回日本熱傷学会総会・学術集会学術奨励賞, 埼玉, 2014年6月5日.

脳卒中医学教室

講演

学会発表等

1. Hirano T, Aso Y, Himeno T, Amano Y, Ishibashi M, Chikawazawa R, Yabuuchi K, Takemaru M, Kimura N, Matsubara E: Surveillance of initial therapy for patients with mild stroke admitted within 4.5 hours of onset. 9<sup>th</sup> World Stroke Congress, Turkey, October, 22nd-25th, 2014.
2. 平野照之: 救急医療における脳卒中診療の位置付け 内科医の立場から. 第20回日本脳神経外科救急学会, 東京, 2015年1月30日.
3. 平野照之: 脳卒中急性期の実践的 MRI. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月27日.
4. 平野照之: CKD 患者への rt-PA 静注療法. 第40回日本脳卒中学会総会, 広島, 2015年3月27日.

講演等

1. 平野照之: 頭痛の imaging. Headache Master School Japan (HMSJ) -Tokyo-, 東京, 2014年9月7日.
2. 平野照之: NOAC 時代の脳梗塞連携医療. 第7回福岡ストローク・ラボラトリー・フォーラム, 福岡, 2014年9月11日.
3. 平野照之: 脳梗塞再発予防における DTI の意義. 飯塚医師会学術講演会, 飯塚, 2014年9月12日.
4. 平野照之: 脳梗塞の血圧管理 The lower, "really" the better?. 第10回高知高血圧と臓器障害研究会, 高知, 2014年9月19日.
5. 平野照之: 再発予防のための抗血小板療法 update. Tama Expert Meeting ～脳卒中治療最前線～, 東京, 2014年9月24日.
6. 平野照之: 心原性脳塞栓症のリスク回避. 大分県北部 Network Meeting, 中津, 2014年9月30日.
7. 平野照之: シロスタグレルを活かした脳梗塞治療. 慈恵医科大学学術講演会, 東京, 2014年10月2日.
8. 平野照之: 心原性脳塞栓症: 予防と治療の最新動向. 高知県 Care AF 講演会, 高知, 2014年10月17日.
9. 平野照之: 心房細動に伴う脳卒中の予防～抗凝固療法の均てん化を目指して～. Kyoto Stroke Summit, 京都, 2014年11月1日.
10. 平野照之: NOAC 時代の医療連携, 見逃してはいけない脳卒中の兆候. エリキュースインターネット座談会, 東京, 2014年11月4日.
11. 平野照之: 脳梗塞再発予防における DTI の意義. 脳卒中連携 Forum, 福岡, 2014年11月6日.
12. 平野照之: 脳梗塞再発予防における DTI の意義. 第6回北海道「脳と循環」講演会, 札幌, 2014年11月8日.
13. 平野照之: 脳梗塞急性期の3本の矢. 第4回 Neurology セミナー, 大分, 2014年11月12日.
14. 平野照之: 脳卒中専門医はどう NOAC を使い分ける?. 府中市薬剤師会定例研修会, 府中, 2014年11月19日.
15. 平野照之: 心房細動に伴う脳卒中の予防～抗凝固療法の均てん化を目指して～. エリキュース二次予防セミナー in Gifu, 岐阜, 2014年11月20日.
16. 平野照之: 心原性脳塞栓症の再発予防～治療の均てん化を目

- 指して～. 第32回日本神経治療学会総会, 東京, 2014年11月21日.
17. 平野照之:脳梗塞再発予防における DTI の意義. 北多摩南部地区抗凝固療法 Network Meeting, 武蔵野, 2014年11月25日.
  18. 平野照之:心原性脳塞栓症のリスク回避. 大分県南地区 Network Meeting, 佐伯, 2014年11月26日.
  19. 平野照之:脳梗塞再発予防におけるDTIの意義. 京都地区第4回 Network Meeting, 京都, 2014年11月29日.
  20. 平野照之:心房細動に伴う脳卒中の予防～抗凝固療法の均てん化を目指して～. 第16回鹿児島脳卒中地域連携ネットワーク研究会, 鹿児島, 2014年12月8日.
  21. 平野照之:脳梗塞再発予防における DTI の意義. Clinical Expert Meeting, 盛岡, 2015年1月8日.
  22. 平野照之:脳卒中専門医から見たエドキサバンの位置付け. Stroke Conference 学術講演会, 熊本, 2015年1月9日.
  23. 平野照之:脳梗塞の診断と治療 最近の話題. 武田薬品社外講師勉強会, 武蔵野, 2015年1月14日.
  24. 平野照之:脳梗塞のための抗血小板療法 update. Round Table Discussion ～ATIS エキスパート座談会～, 横浜, 2015年1月17日.
  25. 平野照之:心原性脳塞栓症の最新治療. Mitaka Embolism Seminar, 三鷹, 2015年1月20日.
  26. 平野照之:脳卒中の基礎知識, 全身病としての脳卒中. 第20回日本脳神経外科救急学会クリティカルケア看護公開講座, 東京, 2015年1月31日.
  27. 平野照之:治療選択に役立つ脳卒中画像診断. 第49回横浜内科学会神経研究会, 横浜, 2015年2月17日.
  28. 平野照之:日本人の抗血栓療法を考える. 第4回京滋 Stroke Neurology 研究会, 京都, 2015年2月20日.
  29. 平野照之:日本人の抗血栓療法を考える～リスク・ベネフィットバランス. 世田谷医療連携講演会, 東京, 2015年2月25日.
  30. 平野照之:超高齢社会における抗凝固療法の均てん化. 高齢者-脳卒中予防の秘訣を考える, 東京, 2015年2月26日.
  31. 平野照之:脳梗塞再発予防における DTI の意義. Tochigi STROKE Core Member Meeting, 宇都宮, 2015年2月27日.
  32. 平野照之:地域で取り組む脳卒中診療. 第9回横浜東部脳卒中連携の会, 横浜, 2015年3月2日.
  33. 平野照之:心房細動に伴う脳卒中の予防～抗凝固療法の均てん化を目指して～. 第2回城南地区脳卒中予防セミナー, 東京, 2015年3月3日.
  34. 平野照之:脳卒中専門医から見たエドキサバンの位置付け. リクシアナ AF/VTE 効能追加講演会～抗血栓療法の新しい流れ～, 岡山, 2015年3月4日.
  35. 平野照之:心原性脳塞栓症の予防で意識すべき3つの視点～アピキサバンは, 抗凝固療法の主役になれるか?～. 第3回エリキュース適正使用セミナー, 福岡, 2015年3月6日.
  36. 平野照之:脳卒中専門医が行う抗凝固療法. イグザレルト WEBカンファレンス「心原性脳塞栓症における抗凝固療法 update」, 府中, 2015年3月9日.
  37. 平野照之:脳梗塞再発予防における DTI の意義. 愛媛県 Core Member Meeting, 愛媛, 2015年3月13日.
  38. 平野照之:チームで取り組む脳卒中医療. 北多摩西部脳卒中地域連携パズ講演会, 東大和, 2015年3月16日.
  39. 平野照之:脳梗塞再発予防における DTI の意義. 抗凝固療法を考える会～服薬管理とこれからの脳梗塞予防～, 仙台, 2015年3月18日.
  40. 平野照之:心原性脳塞栓症の予防で意識すべき3つの視点～アピキサバンは, 抗凝固療法の主役になれるか?～. 庄内地区エリキュース発売2周年講演会, 酒田, 2015年3月20日.
  41. 星野晴彦, 神澤孝夫, 長尾毅彦, 平野照之, Diener HC:ESUS-新たな疾患概念をどう捉えるか-. ダビガトラン座談会, 広島, 2015年3月27日.
- 社会貢献
1. 平野照之:こんな時には救急車!脳卒中の治療と連携. 2014年度北多摩南部保健医療圏医療安全支援講演会, 調布, 2014年10月31日.
- 教育活動
1. 平野照之:虚血性脳卒中:病態と治療. 金沢大学大学院医学系研究科・医薬保健学類域医学類医学部医学科 脳神経外科系統講義, 金沢, 2014年10月8日.
- 論文
- 論文
1. Yamashita S<sup>1</sup>, Sakashita N<sup>2</sup>, Yamashita T<sup>1</sup>, Tawara N<sup>1</sup>, Tasaki M<sup>1</sup>, Kawakami K<sup>1</sup>, Komohara K<sup>1</sup>, Fujiwara Y<sup>1</sup>, Kamikawa M<sup>1</sup>, Nakagawa T<sup>1</sup>, Hirano T, Maeda Y<sup>1</sup>, Hasegawa M<sup>1</sup>, Takeya M<sup>1</sup>, Ando Y<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kumamoto University, <sup>2</sup>Tokushima University): Concomitant accumulation of  $\alpha$ -synuclein and TDP-43 in a patient with corticobasal degeneration. *J Neurol* 261(11):2209-2217,2014.
  2. Sakaguchi H<sup>1</sup>, Yamashita S<sup>1</sup>, Ueda A<sup>1</sup>, Hirahara T<sup>1</sup>, Honda S<sup>1</sup>, Kimura E<sup>1</sup>, Yamashita T<sup>1</sup>, Maeda Y<sup>1</sup>, Hirano T, Uchino M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Kumamoto University,<sup>2</sup>Johnan Hospital): Chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy triggered by interferon- $\alpha$  for chronic hepatitis B virus infection. *Neurol Clin Neurosci* 3(1):36-38,2015.
  3. 鈴木由希子<sup>1</sup>, 稲富雄一郎<sup>1</sup>, 米原敏郎<sup>1</sup>, 平野照之(<sup>1</sup>済生会熊本病院):ローマ字読み書き障害によりキーボード入力障害を生じた脳梗塞の1例. *臨床神経* 55(1):8-12,2015.
  4. Amano Y<sup>1</sup>, Kimura N<sup>1</sup>, Hanaoka T<sup>1</sup>, Aso Y<sup>1</sup>, Hirano T, Murai H<sup>2</sup>, Satoh K<sup>1</sup>, Matsubara E<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Oita University, <sup>2</sup>Kyushu University): Creutzfeldt-Jakob Disease with a prion protein gene codon 180 mutation presenting asymmetric cortical high-intensity on magnetic resonance imaging. *Prion* 9(1):29-33,2015.
- 総説 Review
1. Hirano T: Searching for Salvageable Brain: the Detection of Ischemic Penumbra using Various Imaging Modalities? *J Stroke Cerebrovasc Dis* 23(5):795-798,2014.
  2. 平野照之: ASPECTS, DWI-ASPECTS. 日本臨牀2014年7月増刊「最新臨牀脳卒中学(上)」72(Suppl 5):528-532, 2014.
  3. 平野照之: rt-PA 血栓溶解療法における脳血流状態の評価. *脳と循環* 19:219-223,2014.
  4. 平野照之:学会印象記 World Stroke Congress 2014(イスタンブル, トルコ). *BRAIN and NERVE* 67:225-227,2015.
  5. 平野照之:抗凝固療法中の rt-PA 静注療法. *Cardio-Coagulation* 2:17-24,2015.
  6. 平野照之:杏林大学と地域医療:脳卒中センター. *杏林医学誌* 46:49-52,2015.
  7. 平野照之:外来で遭遇することの多い神経症候:しびれ. *臨牀と研究* 92:709-714,2015.
- 著書
1. 平野照之:静注血栓溶解療法. 脳梗塞診療読本. 豊田一則編. 東京, 中外医学社, 2014. p.65-83.
  2. 平野照之:頭部 CT と CT angiography. 脳血管障害の治療最前線. 辻省次, 鈴木則宏編. 東京, 中山書店, 2014.p.49-55.
  3. 平野照之:総論-無症候性脳血管障害のイメージングの選定.

脳神経外科診療プラクティス:無症候性脳血管障害を解く. 橋本信夫監修, 飯原弘二編. 東京, 文光堂, 2014.p.58-63.

**その他**

1. 平野照之:「21世紀の医療と介護をみつめて」脳卒中について, ラジオ日本, 2015年1月23日, 30日.
2. 平野照之:「ノンストップ!」“脳梗塞”の最新治療&予防法, フジテレビ, 2015年2月25日.

**解剖学教室  
(肉眼解剖学)**

**講演**

1. 松村譲児:医学教育の現状と課題. 2014年度 MR 認定センターセミナー. チーム医療におけるMRの存在意義, 東京, 2014年8月30日.
2. 小林靖, 松井利康, 灰塚嘉典, 松村譲児:現生日本人の冠状縫合と中心前溝の位置関係.第68回(2014年)日本人類学会大会, 浜松,2014年11月1日.
3. 灰塚嘉典, 松村譲児, 小林靖, 藤倉義久:ホルマリン代替液(N-Vinyl-2Phrrolidone;NVP)固定遺体の肉眼解剖所見. 日本解剖学会関東支部第102回学術集会, 東京, 2014年11月22日.
4. 天野カオリ:ヒト胎児・成人の耳下腺開口部の形態と機能の関連. 第365回明海大学歯学部研修会, 坂戸, 2014年12月1日.
5. 松村譲児:ピロリド固定遺体の解剖:臨床解剖への適用可能性. 第6回有明臨床解剖シンポジウム-保健医療における解剖学-, 東京, 2014年12月13日.
6. 松村譲児:脾臓を眺める:構造・機能. 第28回日本小児脾臓研究会, 三鷹, 2015年2月28日.
7. Matsumura G, Sakai T:“La raison d’ être” of the Associations, Councils, Committees and Unions of the Academic Societies. Proceedings of the 120<sup>th</sup> Annual Meeting of The Japanese of Anatomists and the 92<sup>th</sup> Annual Meeting of The Physiological Society of Japan. Kobe, March 21st-23rd,2015.
8. Haizuka Y, Matsumura G, Kobayashi Y, Fujikura Y: Anatomical observation of cadavers embalmed with 10% N-Vinyl-2-Pyrrolidone. Proceedings of the 120<sup>th</sup> Annual Meeting of The Japanese of Anatomists and the 92<sup>th</sup> Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, March 21st-23rd,2015.
9. Amano K, Shimada K, Matsumura G:Morphological study of human submandibular duct : nerve distribution of sublingual caruncula, the common opening area . Proceedings of the 120<sup>th</sup> Annual Meeting of The Japanese of Anatomists and the 92<sup>th</sup> Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, March 21st-23rd,2015.
10. Matsumura G:Ethics Subcommittee on the Cadaver Study in Kyorin University. Proceedings of the 120<sup>th</sup> Annual Meeting of The Japanese of Anatomists and the 92<sup>th</sup> Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, March 21st-23rd,2015.

**著書**

1. 松村譲児:PT・OT 必修シリーズ 消して忘れない解剖学要点整理ノート 改訂第2版. 東京, 羊土社, 2014.
2. 松村譲児:脳の機能と解剖・役割 ~脳について知っておくべきこと~. 急性・重症患者ケア 3苦手から一歩ぬけ出す! ICUでの脳神経看護 -脳の解剖生理・疾患を知って的確なケアをするために-. 岡元和文, 道又元裕編. 東京, 総合医学社, 2014.

p.191-202.

3. 松村譲児:病気がみえる Vol.8. 腎・泌尿器 第2版. 東京, メディックメディア, 2014.
4. 松村譲児:病気がみえる Vol.3. 糖尿病・代謝・内分泌 第4版. 東京, メディックメディア, 2014.
5. 川上速人, 松村譲児:ガートナー/ハイアット 組織学アトラスとテキスト 第3版. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.
6. 松村譲児:MR テキストII 疾病と治療2012 基礎. 公益財団法人 MR 認定センター教育研修委員会監修. 東京, 南山堂, 2015.
7. 松村譲児:MR テキストII 疾病と治療2012 臨床. 公益財団法人 MR 認定センター教育研修委員会監修. 東京, 南山堂, 2015.
8. 松村譲児:みてわかる薬学 図解 機能形態学. 東京, 南山堂, 2015.
9. 松村譲児:新改訂 人体解剖ビジュアル からだの仕組みと病気. 東京, サイオ出版, 2015.
10. 松村譲児:造血. ジュンケイラ組織学. 坂井建雄, 川上速人監訳. 東京, 丸善, 2015. p.263-274.

**その他**

1. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第26回 血圧計の話. NHK テレビテキスト きょうの健康 5:117, 東京, NHK, 2014.
2. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第27回 指紋は何のためにある?. NHK テレビテキスト きょうの健康 6:117, 東京, NHK, 2014.
3. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第28回 朝のトイレは混んでいる!?. NHK テレビテキスト きょうの健康 7:117, 東京, NHK, 2014.
4. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第29回 肩やお尻の注射は痛い?. NHK テレビテキスト きょうの健康 8:117, 東京, NHK, 2014.
5. 松村譲児(監修):?なぞとき自然ファイル 人体06 爪や髪はどうしてのびるの? 爪と毛の役割や, のびる理由を知ろう! 朝日ジュニア百科 好奇心, ひろげる, ひろがる週刊なぞとき 14: 17-22, 東京, 朝日新聞出版, 2014.
6. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第30回 髪の毛の成り立ち. NHK テレビテキスト きょうの健康 9:117, 東京, NHK, 2014.
7. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第31回 塗り薬の種類. NHK テレビテキスト きょうの健康 10:117, 東京, NHK, 2014.
8. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第32回 鼻づまりの謎. NHK テレビテキスト きょうの健康 11:117, 東京, NHK, 2014.
9. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第33回 あくびの役割. NHK テレビテキスト きょうの健康 12:117, 東京, NHK, 2014.
10. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第34回 「たそがれ」の色は灰色?. NHK テレビテキスト きょうの健康 1:117, 東京, NHK, 2015.
11. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 第35回 日本人はお酒に弱い!. NHK テレビテキスト きょうの健康 2:117, 東京, NHK, 2015.
12. 松村譲児:もっと知りたい からだの仕組み 最終回 意外と知らない熱のこと. NHK テレビテキスト きょうの健康 3:117, 東京,

**解剖学教室  
(顕微解剖学)**

**講演**

- 秋元義弘, 三浦ゆり, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, 松原幸枝, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病性腎症に伴う糸球体における $\alpha$ -アクトニン4の局在の変化. 日本顕微鏡学会第70回学術講演会, 千葉, 2014年5月11-13日.
- Ikehara Y, Sakakita H, Ikehara S, Shimizu N, Yamaguchi T, Kim J, Nakanishi H, Akimoto Y: An application of low temperature plasma to achieve minimal invasive surgery. 5th International Conference on Plasma Medicine, Nara, May 18th-23rd, 2014.
- Akimoto Y, Sakakita H, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Ikehara Y: Molecular morphological analysis of the effect of low temperature plasma on the wound healing of skin. 5th International Conference on Plasma Medicine, Nara, May 18th-23rd, 2014.
- 石橋亮一, 竹本稔, 秋元義弘, 河村治清, 小林一貴, 大西俊一郎, 石川崇広, 賀鵬, Christer Betsholtz, 横手幸太郎: ポドサイト分泌タンパク Semaphorin3G の糸球体における機能解析. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
- 岡村耕一, 坪川民治, 城下博夫, 塩川芳昭, 轉石小百合, 松原幸枝, 宮東昭彦, 川上速人: フリーラジカルスカベンジャー, エダラボンによる脳梗塞および出血性脳梗塞の抑制効果について, 高血糖ラットを用いた実験. 第14回日本抗加齢医学会総会, 大阪, 2014年6月6日.
- 秋元義弘, 榊田創, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 池原譲: プラズマ照射による皮膚創傷治癒への影響の分子形態学的解析. 研究会「プラズマが拓く新学術領域と今後の展開」, 名古屋, 2014年6月14日.
- 秋元義弘, 榊田創, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 池原譲: プラズマ照射による皮膚創傷治癒への影響の分子形態学的解析. 新学術領域研究「プラズマ医療科学の創成」第3回公開シンポジウム, 名古屋, 2014年8月9日.
- Akimoto Y, Miura Y, Toda T, Fukutomi T, Sugahara D, Wolfert MA, Wells L, Boons G, Hart GW, Endo T, Kawakami H: Molecular morphological changes in the glomerulus associated with the elevation of O-GlcNAcylation in the diabetic nephropathy. 18th International Microscopy Congress, Czech Republic, September 7th-12th, 2014.
- 三浦ゆり, 津元裕樹, 小笠原大介, 鈴木孝禎, 秋元義弘, 遠藤玉夫: 新規 O-GlcNAc 化ペプチド濃縮法の開発と糖尿病モデル動物への応用. 第67回日本酸化ストレス学会, 京都, 2014年9月4-5日.
- Nakamura M, Wada H, Noue S, Inui T, Honda K, Nakamoto K, Higaki M, Sata M, Takata S, Yokoyama T, Kudo A, Hanawa T, Kobayashi F, Kamma H, Goto H, Takizawa H: Interleukin-17A / F regulates MMP-9 expression in the lung of mice after inhalation of cigarette smoke. ERS International Congress 2014, Germany, September 6th - 10th, 2014.
- 光永敬子, 秋元義弘, 安井金也, 山下一郎, 川上速人, 安増茂樹: メダカアリアルスルファターゼ B (ArsB) の脳における分子環境構築. 日本動物学会第85回大会, 仙台, 2014年9月11-13日.
- 秋元義弘: シンポジウム「糖鎖生物学と組織細胞化学の接点」タンパク質の O-GlcNAc 修飾と糖尿病. 第55回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 松本, 2014年9月27-28日.
- 石橋亮一, 竹本稔, 秋元義弘, 河村治清, 小林一貴, 大西俊一郎, 石川崇広, 賀鵬, 坂本憲一, 服部暁子, 正司真弓, 山賀政弥, Christer Betsholtz, 横手幸太郎: ポドサイト分泌タンパク Semaphorin3g は糸球体において抗炎症的に作用する. 第29回日本糖尿病合併症学会, 東京, 2014年10月3-4日.
- 楊國昌, 秋元義弘, 福富俊之, 西堀由紀野: (平成26年度医学部共同研究プロジェクト中間報告) メタボロームとプロテオームの癒合解析による糸球体硬化の病態解明と創薬化研究. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
- 菊池将平, 三浦ゆり, 秋元義弘, 副島友莉恵, 遠藤玉夫, 沢辺元司: 糖尿病モデルラット腎組織のプロテオーム解析. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
- 秋元義弘, 榊田創, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 池原譲: プラズマ照射による皮膚創傷治癒への影響の超微形態学的解析. 第3回プラズマ医療科学の創成研究会, 帯広, 2014年11月22日.
- 光永敬子, 秋元義弘, 安井金也, 山下一郎, 川上速人, 安増茂樹: アリアルスルファターゼ B (ArsB) のメダカ脳における分子環境. 日本動物学会中国四国支部 広島県例会, 広島島, 2015年3月3日.
- 宮東昭彦, 松原幸枝, 三浦知子, 関口純理, 川上速人: 齧歯類精細管における精上皮の波の加齢変化. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会/第92回日本生理学会大会合同大会, 神戸, 2015年3月21-23日.
- 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管におけるフコシル化糖タンパク質の多様性に関する組織化学的検討. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会/第92回日本生理学会大会 合同大会, 神戸, 2015年3月21-23日.
- Kataoka H, Ushiyama A, Kawakami H, Akimoto Y, Matsubara S, Miyao H, Iijima T: Behavior of endothelial glycocalyx layer during sepsis in mice as observed using fluorescence in vivo microscopy. 89th Annual Meeting of the International Anesthesia Research Society, USA, March 21st-24th, 2015.
- 小川裕子, 秋元義弘, 桑田奈宝子, 谷口由真, 米川綾, 小倉葵, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの消化酵素に対する安定性の検討. 日本薬学会第135年会, 神戸, 2015年3月25-28日.

**論文**

- Akimoto Y, Miyaji M<sup>1</sup>, Morimoto - Kamata R<sup>1</sup>, Kosaka Y<sup>1</sup>, Obinata A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Teikyo University): [Review] Retinoic acid -induced epidermal transdifferentiation in skin. *J Dev Biol* 2 : 158-173, 2014.
- Akimoto Y, Kawakami H: Histochemical staining using lectin probes. *Methods Mol Biol* 1200:153-163, 2014.
- Handa K<sup>1</sup>, Inukai K<sup>1</sup>, Onuma H<sup>1</sup>, Kudo A, Nakagawa F<sup>2</sup>, Tsugawa K<sup>3</sup>, Kitahara A<sup>1</sup>, Moriya R<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Sumitani Y<sup>1</sup>, Hosaka T<sup>1</sup>, Kawakami H, Oyadomari S<sup>3</sup>, Ishida H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Third Department of Internal Medicine, Division of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Shiga University of Medical Science, <sup>3</sup>The University of Tokushima): Long-term low carbohydrate diet leads to deleterious metabolic manifestations in diabetic mice. *PLoS One* 9:e104948, 2014.
- Shirai A<sup>1</sup>, Yamazaki O<sup>1</sup>, Horita S<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Satoh N<sup>1</sup>, Yamada H<sup>1</sup>, Suzuki M<sup>1</sup>, Kudo A, Kawakami H, Hofmann F<sup>2</sup>, Nishiyama A<sup>3</sup>, Kume H<sup>1</sup>, Enomoto Y<sup>1</sup>, Homma Y<sup>1</sup>, Seki G<sup>1</sup> (<sup>1</sup>The University of

Tokyo, <sup>2</sup>der Technischen Universität München, <sup>3</sup>Kagawa University): Angiotensin II dose-dependently stimulates human renal proximal tubule transport by the nitric oxide/guanosine 3',5'-cyclic monophosphate pathway. J Am Soc Nephrol 25: 1523-1532, 2014.

5. Miyahara N<sup>1</sup>, Shoda J<sup>2</sup>, Kawamoto T<sup>3</sup>, shida H<sup>4</sup>, Ueda T<sup>5</sup>, Akimoto Y, Kawakami H, Irimura T<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Ushiku - Aiwa General Hospital, <sup>2</sup>University of Tsukuba, <sup>3</sup>Tokyo Women's Medical University, <sup>4</sup>National Hospital Organization Mito Medical Center, <sup>5</sup>Mitsubishi Kagaku Bio - Clinical Laboratories, Inc., <sup>6</sup>St. Luke's International Medical Center): Interaction of Muc4 and ErbB2 in a transgenic mouse model of gallbladder carcinoma: potential pathobiological implications. Oncol Rep 32:1796-1802, 2014.

**著書**

- 川上速人:第1章 細胞. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.2-31.
- 川上速人:第2章 上皮と腺. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.32-54.
- 秋元義弘:第3章 結合組織. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.56-77.
- 菅原大介:第5章 血液と造血. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.106-123.
- 菅原大介:第9章 リンパ組織. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.198-227.
- 秋元義弘:第11章 外皮. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.254-276.
- 川上速人:第13章 消化器系 I. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.302-329.
- 宮東昭彦:第17章 女性生殖器系. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.406-435.
- 宮東昭彦:第18章 男性生殖器系. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.436-454.
- 川上速人:付録. ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 川上速人, 松村讓児監訳. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.p.481-485.
- 川上速人, 松村讓児(監訳):ガートナー/ハイアット組織学 アトラスとテキスト 第3版. 東京, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2014.
- 菅原大介:ことば「Lectin-IGOT-LC/MS 法」. 生化学86(4). 2014.p.538.
- 川上速人:第2章 細胞質. ジュンケイラ組織学 第4版. 坂井建雄, 川上速人監訳. 東京, 丸善, 2015. p.19-56.
- 川上速人:第4章 上皮組織. ジュンケイラ組織学 第4版. 坂井建雄, 川上速人監訳. 東京, 丸善, 2015. p.77-101.
- 秋元義弘:第5章 結合組織. ジュンケイラ組織学 第4版. 坂井建雄, 川上速人監訳. 東京, 丸善, 2015. p.103-129.
- 宮東昭彦:第20章 内分泌腺. ジュンケイラ組織学 第4版. 坂井

建雄, 川上速人監訳. 東京, 丸善, 2015. p.423-448.

17. 坂井建雄, 川上速人(監訳):ジュンケイラ組織学 第4版. 東京, 丸善, 2015.

**統合生理学教室**

**講演**

- 鈴木伸弥, 中島剛, 二橋元紀, 大塚裕之, 小宮山伴与志:足部皮膚神経刺激によるヒラメ筋H反射に対する交叉性反射効果の歩行位相依存性. 第49回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014年5月30日-6月1日.
- 平井直樹, 本郷利憲, 稲富貴美, 魚谷恭太郎, 佐々木成人:道具使用の運動学習:ニホンザルのピンセット使用時の順序学習. 第30回日本霊長類学会, 大阪, 2014年7月4-5日.
- 中島剛, 鈴木伸弥, 大塚裕之, 小宮山伴与志, 大木紫:ヒト間接的皮質脊髄路の可塑的变化. 第8回 Motor Control 研究会, 筑波, 2014年8月7-9日.
- Nakajima T, Suzuki S, Ohtsuka H, Endoh T, Masugi Y, Irie S, Komiyama T, Ohki Y: Long-term potentiation of indirect cortico-motoneuronal excitations in relaxed hand muscles in humans. 第37回日本神経学会, 横浜, 2014年9月11-13日.
- 渋谷賢, 大木紫:拡張した仮想身体による身体性自己意識と身体表現の変化. 第37回日本神経科学学会, 横浜, 2014年9月11-13日.
- 大木紫:身体意識-神経基盤解析とリハビリ応用の可能性-. 文部科学省科研費新学術領域「脳内身体表現の変容機構の理解と制御」キックオフシンポジウム, 東京, 2014年9月29日.
- 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志:頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第29回日本整形外科学会基礎学術集会, 鹿児島, 2014年10月9-10日.
- 中島剛, 大木紫:脊髄代償神経システム強化による新たな運動機能回復戦略. 東北大学医学部肢体不自由学セミナー, 招待講演, 仙台, 平成26年10月16日.
- 平井直樹, 魚谷恭太郎, 稲富貴美, 本郷利憲, 佐々木成人:具使用の学習過程:サルの道具による把持動作のための pre-shaping 動作形成過程. 第68回日本人類学会, 浜松, 2014年10月31日-11月2日.
- Suzuki S, Nakajima T, Futatsubashi G, Mezzarane RA, Ohtsuka H, Komiyama T: Limb - specific control of interlimb reflex transmission during walking in humans. Neuroscience 2014, USA, November 9th-13th, 2014.
- Nakajima T, Suzuki S, Ohtsuka H, Endoh T, Masugi Y, Irie S, Komiyama T, Ohki Y: Long-term potentiation of indirect cortico-motoneuronal excitations in relaxed hand muscles in humans. Neuroscience 2014, USA, November 9th-13th, 2014.
- Komiyama T, Nakajima T, Zehr EP, Suzuki S, Mezzarane RA, Ohtsuka H, Futatsubashi G, Klarnar T, Barss TS: Phase-dependent cutaneous reflex reversal during walking emerges from reflex signs produced by afferents in discrete foot sole region. Neuroscience 2014, USA, November 9th-13th, 2014.
- 渋谷賢, 大木紫:拡張した仮想身体操作の時間遅れが身体性自己意識と身体表現に及ぼす影響. 第6回多感覚研究会, 広島, 2014年11月12-13日.
- 渋谷賢, 大木紫:仮想身体操作による身体性自己意識と身体表現の変化. 第6回多感覚研究会, 広島, 2014年11月12-13日.

日.

15. Yagi J, Kobayashi Y, Hirai N, Ohki Y: Electrophysiological characteristics of chloroquine - sensitive dorsal root ganglion neurons in rats. The 44th Annual Meeting-Soc.for Neuroscience, USA, November 15th-19th, 2014.
16. 渋谷賢, 大木紫: 拡張した仮想身体が身体性自己意識および身体表現に与える影響. 第33回日本基礎心理学会, 東京, 2014年12月6-7日.
17. 渋谷賢, 畷中智志, 大木紫: 拡張した仮想身体による身体性自己意識と身体表現の変容. 第1回身体性システム領域全体会議, 花巻, 2015年3月9-11日.
18. 大木紫: 身体意識-神経基盤研究とリハビリ応用の可能性-. 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究会, 仙台, 2015年3月21日.
19. 八木淳一, 小林靖, 平井直樹, 大木紫: かゆみ受容性ラット脊髄後根神経節ニューロンの機能的特性. 第92回日本生理学会, 神戸, 2015年3月21-23日.
20. Nakajima T, Suzuki S, Ohtsuka H, Endoh T, Masugi Y, Irie S, Komiyama T, Ohki Y: Plasticity of indirect cortico- motoneuronal excitations in relaxed hand muscles in humans. 第92回日本生理学会大会, 神戸, 2015年3月21-23日.

## 論文

1. Nakajima T, Mezzarane RA<sup>1</sup>, Hundza SR<sup>2</sup>, Komiyama T<sup>3</sup>, Zehr EP<sup>2</sup> (<sup>1</sup>University of Brasilia, <sup>2</sup>University of Victoria, <sup>3</sup>Chiba University): Convergence in reflex pathways from multiple cutaneous nerves innervating the foot depends upon the number of rhythmically active limbs during locomotion. PLOS ONE 9: e104910, 2014.
2. Suzuki S, Nakajima T, Mezzarane RA<sup>1</sup>, Ohtsuka H<sup>2</sup>, Futatsubashi G<sup>3</sup>, Komiyama T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>University of Brasilia, <sup>2</sup>Health Sciences University of Hokkaido, <sup>3</sup>Jobu University, <sup>4</sup>Chiba University): Differential regulation of crossed cutaneous effects on the soleus H - reflex during standing and walking in humans. Exp. Brain Res. 232: 3069-3078, 2014.
3. Zehr EP<sup>1</sup>, Nakajima T, Barss T<sup>1</sup>, Klarner T<sup>1</sup>, Miklosovic S<sup>1</sup>, Mezzarane RA<sup>2</sup>, Nurse M<sup>3</sup>, Komiyama T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>University of Victoria, <sup>2</sup>University of Brasilia, <sup>3</sup>NIKE Inc, <sup>4</sup>Chiba University): Cutaneous stimulation of discrete regions of the sole during locomotion produces "sensory steering" of the foot. BMC Sports Sci Med Rehabil. 6:332014, 2014.
4. Sakamoto M<sup>1</sup>, Tazoe T<sup>2</sup>, Nakajima T, Endoh T<sup>3</sup>, Komiyama T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Kumamoto University, <sup>2</sup>University of Pittsburgh, <sup>3</sup>Uekusa Gakuen University, <sup>4</sup>Chiba University): Leg automaticity is stronger than arm automaticity during simultaneous arm and leg cycling. Neurosci Lett. 564:62-66, 2014.
5. 鈴木伸弥, 二橋元紀<sup>1</sup>, 大塚裕之<sup>2</sup>, 原口慧史<sup>1</sup>, 中島剛, 大森茂樹<sup>3</sup>, 笹田周作<sup>4</sup>, 小宮山伴与志<sup>5</sup> (<sup>1</sup>上武大学, <sup>2</sup>北海道医療大学, <sup>3</sup>医療法人社団鎮誠会姫島クリニック, <sup>4</sup>相模女子大学, <sup>5</sup>千葉大学): 立位および歩行時における足部皮膚神経刺激によって誘発された体幹筋群皮膚反射の動態. 体力科学 64:135-144, 2014.
6. 中島剛, 小宮山伴与志<sup>1</sup>, 大木紫 (<sup>1</sup>千葉大学): ヒト脊髄固有ニューロンの機能とその可塑性について. 日本運動生理学雑誌, (印刷中).

## 著書

1. 八木淳一, 大木紫: GABA の機能-GABA<sub>A</sub>, GABA<sub>B</sub> の多彩な伝達様式. Clinical Neuroscience. 青木滋編. 東京, 中外医薬

社, 2015. p.58-61.

2. 大木紫: 第34章運動単位と筋活動. カンデル神経科学. 金澤一郎, 宮下保司日本語版監修. 東京, メディカルサイエンスインターナショナル, 2014. p.755-775.

## 細胞生理学教室

### 講演

1. 小藤剛史, 林優子, 田丸政男, 赤川公朗: 広汎性発達障害 (PDD) と syntaxin1A 遺伝子の関連性の検討. 第56回日本小児神経学会, 浜松, 2014年5月29-31日.
2. Fujiwara T, Kofuji T, Sanada M, Akagawa K: Impairment of social behavior in HPC-1/syntaxin1A knockout mice relate with reduction of DA and OXT release. 第37回日本神経科学会, 横浜, 2014年9月11-13日.
3. 小藤剛史, 林優子, 藤原智徳, 真田ますみ, 田丸政男, 赤川公朗: 自閉症スペクトラム障害と HPC-1/syntaxin1A 遺伝子発現異常の関連性の検討. 第57回日本神経化学学会大会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.
4. Suga K, Saito A, Mishima T, Akagawa K: Upregulation of ER-Golgi SNARE Syntaxin5 by ER stress and its relationship with  $\beta$  APP processing. 第57回日本神経化学学会大会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.
5. 中山高宏, 赤川公朗: Syntaxin 1A 遺伝子の PKA を介した転写制御機構. 第87回日本生化学会大会, 京都, 2014年10月15-18日.

### 論文

1. Kofuji T, Fujiwara T, Sanada M, Mishima T, Akagawa K: HPC-1/syntaxin 1A and syntaxin 1B play distinct roles in neuronal survival. J Neurochem 130:514-25, 2014.
2. Suga K, Saito A, Akagawa K: ER stress response in NG108-15 cells involves upregulation of syntaxin 5 expression and reduced amyloid  $\beta$  peptide secretion. Exp. Cell Res. 332:11-23, 2015.

## 生化学教室(1)

### 講演

1. 高瀬暁, 石浦浩之, 三井純, 藤田逸人, 原一雄, 関谷元博, 五十嵐正樹, 高梨幹生, 泉田欣彦, 久保田みどり, 升田紫, 平美乃, 岡崎佐智子, 飯塚陽子, 矢作直也, 大橋健, 吉田博, 柳内秀勝, 多田紀夫, 後藤田貴也, 大須賀淳一, 石橋俊, 辻省次, 門脇孝, 岡崎啓明: Whole genome sequence 解析を用いた apoC-II 低下症の原因遺伝子変異同定の試み. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
2. 後藤田貴也: 代謝性疾患(単一遺伝子疾患から複合遺伝形質まで)の成因解明にむけた分子遺伝学的アプローチ. 杏林医学会第8回例会講演会, 三鷹, 2014年6月18日.
3. 後藤田貴也, 山本隆史: 高血圧自然発症ラット(SHR)の遺伝解析から同定された内臓脂肪蓄積関連遺伝子 Slc22a18 の発現調節機構および肝脂肪蓄積への関与の解明. 第87回日本生化学会, 京都, 2014年10月15-18日.
4. 後藤田貴也: メタボリックシンドローム Update. 第9回大分中性脂肪・代謝研究会, 大分, 2014年11月7日.
5. 後藤田貴也: EBM に基づくコレステロール吸収阻害の重要性. LA-SUMMIT in TAMA, 立川, 2014年11月18日.
6. 後藤田貴也: メタボリックシンドローム Update. 西東京糖尿病眼合併症フォーラム2015, 東京, 2015年3月12日.

## 論文

1. Nakagawa Y<sup>1</sup>, Satoh A<sup>1</sup>, Yabe S<sup>1</sup>, Furusawa M<sup>1</sup>, Tokushige N<sup>1</sup>, Tezuka H<sup>1</sup>, Mikami M<sup>1</sup>, Iwata W<sup>1</sup>, Shingyouchi A<sup>1</sup>, Matsuzaka T<sup>1</sup>, Kiwata S<sup>1</sup>, Fujimoto Y<sup>1</sup>, Shimizu H<sup>1</sup>, Danno H<sup>1</sup>, Yamamoto T, Ishii K<sup>1</sup>, Karasawa T<sup>1</sup>, Takeuchi Y<sup>1</sup>, Iwasaki H<sup>1</sup>, Shimada M<sup>1</sup>, Kawakami Y<sup>1</sup>, Urayama O<sup>1</sup>, Sone H<sup>1</sup>, Takekoshi K<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>1</sup>, Yatoh S<sup>1</sup>, Takahashi A<sup>1</sup>, Yahagi N<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Yamada N<sup>1</sup>, Shimano H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>University of Tsukuba): Hepatic CREB3L3 controls whole-body energy homeostasis and improves obesity and diabetes. *Endocrinology* 155(12):4706-4719, 2014.

## 生化学教室(2)

## 講演

1. 今泉美佳, 青柳共太, 岡村匡史, 中道洋子, 西脇知世乃, 永松信哉: CDKAL1欠損マウスでは妊娠期の代償性インスリン分泌亢進機能が低下している. 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 大阪, 2014年5月22-24日.
2. 今泉美佳, 青柳共太, 岸本拓磨, 永松信哉: 有芯顆粒を介したインスリン分泌動態の可視化. 第36回日本生物学的精神医学会・第57回日本神経化学学会大会合同年会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.
3. 今泉美佳, 藤原智徳, 大塚弘毅: 妊娠期膵β細胞におけるインスリン分泌亢進機構の解明. 第43回杏林医学会総会, 東京, 2014年11月15日.
4. 今泉美佳, 青柳共太, 岸本拓磨, 永松信哉: ノックアウトマウスを用いたインスリン開口分泌のイメージング解析. 第29回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会, 京都, 2015年2月13-14日.

## 論文

1. Kim K<sup>1</sup>, Oh CM<sup>1</sup>, Ohara - Imaizumi M, Park S<sup>1,2</sup>, Namkung J<sup>1,3</sup>, Yadav VK<sup>4</sup>, Tamarina NA<sup>5</sup>, Roe MW<sup>6</sup>, Philipson LH<sup>5</sup>, Karsenty G<sup>4</sup>, Nagamatsu S, German MS<sup>7</sup>, Kim H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Graduate School of Medical Science and Engineering, <sup>2</sup>Catholic Kwandong University, <sup>3</sup>Yonsei University, <sup>4</sup>Columbia University, <sup>5</sup>The University of Chicago, <sup>6</sup>SUNY Upstate Medical University, <sup>7</sup>University of California San Francisco): Functional role of serotonin in insulin secretion in a diet-induced insulin-resistant state. *Endocrinology* 156 (2):444-452, 2015.
2. Makino A<sup>1</sup>, Abe M<sup>1</sup>, Murate M<sup>1</sup>, Inaba T<sup>1</sup>, Yilmaz N<sup>1</sup>, Hullin- Matsuda F<sup>1,2</sup>, Kishimoto T, Schieber NL<sup>3</sup>, Taguchi T<sup>4</sup>, Arai H<sup>4</sup>, Anderluh G<sup>5,6</sup>, Parton RG<sup>3,5</sup>, Kobayashi T<sup>1,2</sup>(<sup>1</sup>Lipid Biology Laboratory, RIKEN, <sup>2</sup>INSERM U1060-University, <sup>3</sup>University of Queensland, <sup>4</sup>University of Tokyo, <sup>5</sup>National Institute of Chemistry, Ljubljana, Slovenia, <sup>6</sup>University of Ljubljana): Visualization of the heterogeneous membrane distribution of sphingomyelin associated with cytokinesis, cell polarity, and sphingolipidosis. *FASEB J.* 29 (2):477-493, 2015.

## 薬理学教室

## 講演

## 講演

1. Sakurai H: Mechanism of urate reabsorption by URAT1 and SLC2A9 transporters. In Basic and clinical symposium "Gout genes identified", American Society of Nephrology Kidney Week 2014, USA, November 11th-16th, 2014.

## 口演

1. 堅田智久, 櫻井裕之: アミノ酸トランスポーターLAT1は眼の発生に必須である. 日本動物学会 第85回大会, 仙台, 2014年9月11-13日.
2. 堅田智久, 櫻井裕之: アフリカツメガエルを用いたアミノ酸トランスポーターLAT1の初期発生における機能解析. 第131回日本薬理学会関東部会, 横浜, 2014年10月11日.
3. 堅田智久, 櫻井裕之: Notch シグナルは proximal tubule の分化を制御し, distal tubule の伸長を阻害する. 2014年度生理学研究所研究会「粘膜免疫学と膜輸送生理学の融合」, 岡崎, 2014年10月27-28日.
4. Kimura T, Uehara I, Tsukada A, Fukutomi T, Ohtsuki S, Washita M, Sakurai H: Urate transport via paracellular route across epithelial cells. 2<sup>nd</sup> International Symposium on Epithelial Barrier and Transport, 草津, 2014年11月1-2日.
5. 中村真希子, Blanka Stiburkova, 木村徹, 櫻井裕之, 市田公美: 尿酸トランスポーター URAT1 遺伝子重複変異モデルにおける尿酸輸送活性及び URAT1 発現局在の検討. 第48回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京, 2015年2月19-20日.
6. Yamaga T, Endoh H, Sakurai H: Autophagy activation confers responsiveness to anti-LAT1 therapy in breast cancer cell lines. 第88回日本薬理学会年会, 名古屋, 2015年3月18-19日.
7. 堅田智久, 金井正美, 金井好克, 遠藤仁, 櫻井裕之: マウス初期発生におけるアミノ酸トランスポーターLAT1の発現解析. 第87回日本薬理学会年会, 仙台, 2015年3月19-21日.

## ポスター

1. 城倉浩平, 櫻井裕之: 中腎管上皮細胞に対する間葉 BMP4 の作用. 第55回日本組織細胞化学会・学術集会, 松本, 2015年9月27-28日.
2. Johkura K, Sakurai H: Mutual action of FGF9 and BMP4 in the competence of Wolffian duct. 第120回日本解剖学会総会・全国学術集会 第92回日本生理学会大会 合同大会, 神戸, 2015年3月21-23日.

## 論文

1. Moro Y<sup>1</sup>, Kogashiwa Y<sup>2</sup>, Sato D<sup>1</sup>, Matsumoto Y<sup>1</sup>, Nakamura T<sup>1</sup>, Yamauchi K<sup>1</sup>, Sakurai H, Kohno N<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Saitama Medical Univ.): Feasibility Study of Alternate-day S-1 as Adjuvant Chemotherapy for Head and Neck Cancer. *Anticancer Res.* 35:977-981, 2015.
2. Marumo T<sup>1</sup>, Yagi S<sup>1</sup>, Kawarazaki W<sup>1</sup>, Nishimoto M<sup>1</sup>, Ayuzawa N<sup>1</sup>, Watanabe A<sup>1</sup>, Ueda K<sup>1</sup>, Hirahashi J<sup>2</sup>, Hishikawa K<sup>1</sup>, Sakurai H, Shiota K<sup>1</sup>, Fujita T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Univ. Tokyo, <sup>2</sup>Keio Univ.): Diabetes Induces Aberrant DNA Methylation in the Proximal Tubules of the Kidney. *J Am Soc Nephrol.* 2015.(in press).
3. Kitamura S<sup>1</sup>, Sakurai H, Makino H<sup>1</sup>(Okayama Univ.): Single adult kidney stem/progenitor cells reconstitute three-dimensional nephron structures in vitro. *Stem Cells* 33:774-784, 2015.
4. Hirano K<sup>1</sup>, Uno K<sup>2</sup>, Kuwabara H<sup>2</sup>, Kojima K<sup>1</sup>, Ohno S<sup>3</sup>, Sakurai H, Kamma H<sup>1</sup>, Kurata A<sup>3</sup>(<sup>1</sup>Dept. of Pathology, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Kyorin Univ., <sup>3</sup>Tokyo Med. Univ.): Expression of L-type amino acid transporter 1 in various skin lesions. *Pathol. Res. Pract.* 210:634-639, 2014.
5. Uehara I<sup>1</sup>, Kimura T, Tanigaki S<sup>1</sup>, Fukutomi T, Sakai K<sup>1</sup>, Shinohara Y<sup>2</sup>, Ichida K<sup>2</sup>, Iwashita M<sup>1</sup>, Sakurai H<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Dept. of Obstetrics and Gynecology, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Tokyo Univ. of Pharm. and Life Sci.): Paracellular route is the major urate transport pathway across the blood-placental barrier. *Physiol. Rep.* 2:e12013, 2014.

6. Ikari A<sup>1</sup>, Tonegawa C<sup>2</sup>, Sanada A<sup>2</sup>, Kimura T, Sakai H<sup>3</sup>, Hayashi H<sup>2</sup>, Hasegawa H<sup>4</sup>, Yamaguchi M<sup>2</sup>, Yamazaki Y<sup>2</sup>, Endo S<sup>1</sup>, Matsunaga T<sup>1</sup>, Sugatani J<sup>2</sup>(<sup>1</sup>Gifu Pharm. Univ., <sup>2</sup>Univ. Shizuoka, <sup>3</sup>Univ. Toyama, <sup>4</sup>Saitama Med. Univ.): Tight junctional localization of claudin-16 is regulated by syntaxin 8 in renal tubular epithelial cells. *J. Biol. Chem.* 289:13112-13123,2014.
7. Katada T, Kanai-Azuma M, Kanai Y, Endou H, Sakurai H: Expression analysis of amino acid transporter LAT1 in mouse development. *J. Pharmacol. Sci.* 124:145,2014.
8. Inoue T<sup>1</sup>, Kohro T<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Kanki Y<sup>1</sup>, Li G<sup>2</sup>, Poh HM<sup>3</sup>, Mimura I<sup>1</sup>, Kobayashi M<sup>1</sup>, Taguchi A<sup>1</sup>, Maejima T<sup>4</sup>, Suehiro JI, Sugiyama A<sup>1</sup>, Kaneki K<sup>1</sup>, Aruga H<sup>5</sup>, Dong S<sup>5</sup>, Stevens JF<sup>5</sup>, Yamamoto S<sup>1</sup>, Tsutsumi S<sup>1</sup>, Fujita T<sup>1</sup>, Ruan X<sup>3</sup>, Aburatani H<sup>1</sup>, Nangaku M<sup>1</sup>, Ruan Y<sup>2</sup>, Kodama T<sup>1</sup>, Wada Y<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Univ. Tokyo, <sup>2</sup>Jackson Lab. for Genomic Medicine, <sup>3</sup>Genome Institute of Singapore, <sup>4</sup>Kowa Company Ltd, <sup>5</sup>Thermo Fisher Scientific): Cross-enhancement of ANGPTL4 transcription by HIF1 alpha and PPAR beta/delta is the result of the conformational proximity of two response elements. *Genome Biol.* 15:R63, 2014.
9. Maejima T<sup>1</sup>, Inoue T<sup>1</sup>, Kanki Y<sup>1</sup>, Kohro T<sup>1</sup>, Li G<sup>2</sup>, Ohta Y<sup>1</sup>, Kimura H<sup>3</sup>, Kobayashi M<sup>1</sup>, Taguchi A<sup>1</sup>, Tsutsumi S<sup>1</sup>, Iwanari H<sup>1</sup>, Yamamoto S<sup>1</sup>, Aruga H<sup>4</sup>, Dong S<sup>4</sup>, Stevens JF<sup>4</sup>, Poh HM<sup>2</sup>, Yamamoto K<sup>1</sup>, Kawamura T<sup>1</sup>, Mimura I<sup>1</sup>, Suehiro J, Sugiyama A<sup>1</sup>, Kaneki K<sup>1</sup>, Shibata H<sup>5</sup>, Yoshinaka Y<sup>5</sup>, Doi T<sup>5</sup>, Asanuma A<sup>5</sup>, Tanabe S<sup>5</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>, Hamakubo T<sup>1</sup>, Sakai J<sup>1</sup>, Nozaki N<sup>1</sup>, Aburatani H<sup>1</sup>, Nangaku M<sup>1</sup>, Ruan X<sup>7</sup>, Tanabe H<sup>8</sup>, Ruan Y<sup>2</sup>, Ihara S<sup>1</sup>, Endo A<sup>9</sup>, Kodama T<sup>1</sup>, Wada Y<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Univ. Tokyo, <sup>2</sup>Jackson Lab. for Genomic Medicine, <sup>3</sup>Osaka Univ., <sup>4</sup>Thermo Fisher Scientific, <sup>5</sup>Kowa Company Ltd, <sup>6</sup>Mab Institute Inc, <sup>7</sup>Genome Institute of Singapore, <sup>8</sup>Graduate Univ. for Adv. Studies, <sup>9</sup>Biopharm Research Laboratories, Inc): Direct evidence for pitavastatin induced chromatin structure change in the KLF4 gene in endothelial cells. *PLoS One* 9:e96005,2014.
10. Suehiro J, Kanki Y<sup>1</sup>, Makihara C<sup>1</sup>, Schadler K<sup>2</sup>, Miura M<sup>1</sup>, Manabe Y<sup>1</sup>, Aburatani H<sup>1</sup>, Kodama T<sup>1</sup>, Minami T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Univ. Tokyo, <sup>2</sup>Univ. Pennsylvania School of Medicine): Genome-wide approaches reveal functional vascular endothelial growth factor (VEGF)-inducible nuclear factor of activated T cells (NFAT) c1 binding to angiogenesis-related genes in the endothelium. *J. Biol. Chem.* 289:29044-29059,2014.
11. Azuma Y<sup>1</sup>, Kükenshöner T<sup>2</sup>, Ma G<sup>1</sup>, Yasunaga J<sup>1</sup>, Imanishi M<sup>1</sup>, Tanaka G, Nakase I<sup>1</sup>, Maruno T<sup>3</sup>, Kobayashi Y<sup>3</sup>, Arndt KM<sup>2</sup>, Matsuoka M<sup>1</sup>, Futaki S<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kyoto Univ., <sup>2</sup>Univ. Potsdam, <sup>3</sup>Osaka Univ.): Controlling leucine - zipper partner recognition in cells through modification of a-g interactions. *Chem. Commun. (Camb)* 50:6364-6367,2014.
12. Nakase I<sup>1</sup>, Osaki K<sup>1</sup>, Tanaka G, Utani A<sup>1</sup>, Futaki S<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kyoto Univ.): Molecular interplays involved in the cellular uptake of octaarginine on cell surfaces and the importance of syndecan-4 cytoplasmic V domain for the activation of protein kinase C  $\alpha$ . *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 446:857-862,2014.

## 著書

1. 櫻井裕之: 関節リウマチ治療薬, 痛風・高尿酸血症治療薬. カラーイラストで学ぶ集中講義薬理学. 渡邊康裕編. 東京, メジカルビュー, 2015.p.72-75.
2. 櫻井裕之: 薬物療法. 血液浄化療法ハンドブック2015. 透析療法合同専門委員会編. 東京, 協同医書出版, 2015.p.351-357.

## 病理学教室

### 講演

1. 菅間博: 甲状腺腫瘍の分子病理診断と細胞診. 第87回日本内分泌学会学術総会, 福岡, 2014年4月24-26日.
2. 石井順, 矢澤卓也, 佐藤華子, 宍戸-原由紀子, 平松千恵, 下山田博明, 藤原正親, 菅間博: 肺の神経内分泌系悪性腫瘍とIII/IV型POU遺伝子. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月24-26日.
3. 千葉知宏, 住石歩, 水谷奈津子, 矢澤卓也, 菅間博: 乳頭状増殖形態を呈した乳腺原発性腺癌の一例. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月25日.
4. 有益優, 寺戸雄一, 宍戸-原由紀子, 菅間博: ALT 癌細胞における ALT 小体形成機序の解明. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月24-26日.
5. 大田泰徳, 比島恒和, 望月眞, 児玉良典, 森谷鈴子, 小柳津直樹, 峰宗太郎, 塩沢由美子, 長谷川秀樹, 片野晴隆: 日本におけるエイズ関連リンパ腫の病理組織分類. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月24-26日.
6. 尾坂真, 秋田貴之, 望月眞, 寺戸雄一, 矢澤卓也, 菅間博, 大倉康男, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一: 子宮内腔, 腹膜に転移を示した卵管原発性細胞癌の一例. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月26日.
7. 秋田貴之, 尾坂真, 望月眞, 大森嘉彦, 菅間博, 大倉康男, 松本吉史, 高山信之, 河合伸, 片野晴隆: HIV リンパ節炎と HIV 顎下腺炎を伴った顎下腺原発 Diffuse large B-cell lymphoma の一例. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月26日.
8. 片野晴隆, 比島恒和, 望月眞, 児玉良典, 小柳津直樹, 大田泰徳, 峰宗太郎, 猪狩亨, 味澤篤, 照屋勝治, 田沼順子, 菊池嘉, 岡慎一, 上平朝子, 白阪琢磨, 鯉淵智彦, 岩本愛吉, 長谷川秀樹, 岡田誠治, 安岡彰: HIV 感染者の剖検例における日和見感染症と腫瘍の実態. 第103回日本病理学会総会, 広島, 2014年4月26日.
9. 大木亜津子, 阿部展次, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 海野みちる, 大倉康男, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄液細胞診の検討 遊離癌細胞は検出されるのか?. 第100回日本消化器病学会総会, 東京, 2014年4月24-26日.
10. 神保陽子, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 渡辺俊介, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 平野和彦, 山口康晴, 両角克朗, 大倉康男, 高橋信一: 胃生検にて Group 2と判定され最終診断が癌であった11例の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月15日.
11. 齋藤大祐, 林田真, 三浦みき, 平野和彦, 櫻庭彰人, 山田雄二, 小山元一, 大倉康男, 高橋信一: 当院における消化管サイトメガロウイルス感染症の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会, 福岡, 2014年5月16日.
12. 神尾幸見, 橋啓盛, 武井秀史, 新井信晃, 三ツ間智也, 清水麗子, 平田佳史, 松脇りえ, 河内利賢, 菊田真, 中里陽子, 長島鎮, 平野浩一, 望月眞, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 高周波スネアを用いて気管支鏡下に切除した腎細胞癌気管支転移の1例. 第149回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 東京, 2014年6月14日.
13. 千葉知宏, 住石歩, 菅間博: アデニル酸シクラーゼ活性化剤による甲状腺癌の増殖・浸潤の抑制作用. 第2回日本甲状腺病理学会総会・学術集会, 神戸, 2014年7月12日.
14. 大原有紗, 豊田圭子, 土屋一洋, 五明美穂, 本谷啓太, 大森

- 嘉彦, 平野和彦, 菅間博, 似鳥俊明: 側頭骨巨細胞腫の1例. 第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 神戸, 2014年9月26-28日
15. 関雅史, 式場星矢, 百瀬恵美, 桑原彩子, 佐藤範英, 平野和彦, 望月眞, 高山信之: ホジキンリンパ腫に対する化学療法後に肺小細胞癌が顕在化した重複癌の1例. 第609回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年10月11日.
  16. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 平野和彦, 大倉康男, 杉山政則: 未分化・分化型組織混在早期胃癌に対するESDの適応拡大について. 第88回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2014年10月25日.
  17. 菅間博: 第7版甲状腺癌取扱規約の病理学事項の解説. 第47回日本甲状腺外科学会学術集会, 福岡, 2014年10月30-31日.
  18. 中里陽子, 平野浩一, 藤原正親, 菅間博: 甲状腺粘表皮癌の1例. 第47回日本甲状腺外科学会学術集会, 福岡, 2014年10月30-31日.
  19. 石井順, 有益優, 千葉知宏, 矢澤卓也, 菅間博: 甲状腺髄様癌のカルシトニン産生におけるPROX1の役割について. 第18回日本内分泌病理学会学術総会, 東京, 2014年11月1日.
  20. 千葉知宏, 住石歩, 菅間博: アデニル酸シクラーゼ活性化剤による甲状腺癌の増殖・浸潤の抑制作用. 第18回日本内分泌病理学会, 東京, 2014年11月1日.
  21. 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 水谷奈津子, 坂本憲彦, 平野和彦, 藤原正親, 望月眞, 小林陽一, 岩下光利: 若年女性に発生した子宮頸部 heterogenous sarcoma の1例. 第53回日本臨床細胞学会秋季大会, 下関, 2014年11月8-9日.
  22. 加藤拓, 藤原正親, 坂本憲彦, 水谷奈津子, 市川美雄, 鈴木瞳, 稲嶺圭祐, 海野みちる, 住石歩, 近藤凡子, 大倉康男: WHO 組織分類に基づいた胸腺腫と胸腺癌の細胞形態学的検討. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会, 下関, 2014年11月8-9日.
  23. 鈴木瞳, 加藤拓, 坂本憲彦, 市川美雄, 稲嶺圭祐, 水谷奈津子, 海野みちる, 望月眞, 大倉康男: リンパ節細胞診における良悪性鑑別困難症例の検討. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会, 下関, 2014年11月8-9日.
  24. 望月眞: がん登録法制化と病理情報システム がん登録を前提とした病理情報システムに求められるもの. 第60回日本病理学会秋期特別総会, 沖縄, 2014年11月20-21日.
  25. 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 松島早月, 岸野智則, 藤原正親, 古瀬純司, 渡邊卓: 転移性直腸癌症例において認められた新規 RET 遺伝子変異. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
  26. 須藤恵美, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 大坂真以子, 藤原正親, 板谷直, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 褐色細胞腫との鑑別が困難であった副腎癌の一例超音波画像所見の考察. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月22-25日.
  27. 大坂真以子, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 鳥森直子, 寺戸雄一, 西川かおり, 森秀明, 奴田原紀久雄, 高城靖志, 渡邊卓: 転移性腎腫瘍の3例 超音波画像所見の考察. 第61回日本臨床検査医学会学術集会, 福岡, 2014年11月25日.
  28. 片野晴隆, 比島恒和, 望月眞, 児玉良典, 小柳津直樹, 大田泰徳, 峰宗太郎, 猪狩亨, 味澤篤, 照屋勝治, 田沼順子, 菊池嘉, 岡慎一, 上平朝子, 白阪琢磨, 鯉淵智彦, 岩本愛吉, 長谷川秀樹, 岡田誠治, 安岡彰: HIV感染者の剖検例における日和見感染症と腫瘍の頻度. 第28回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪2014年12月3-5日.
  29. 福田のぞみ, 皿谷健, 武井秀史, 辻本直貴, 布川寛樹, 大熊康介, 藤原正親, 塚原弥生, 近藤晴彦, 滝澤始: 著明な胸膜肥厚を呈し, 胸膜原発の悪性リンパ腫(Diffuse large B cell lymphoma)と考えられた1例. 第611回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年12月13日.
  30. 野坂岳志, 皿谷健, 辻本直貴, 荻田真, 布川寛樹, 大熊康介, 藤原正親, 石井晴之, 近藤晴彦, 滝澤始: 肺癌に類似した画像を呈した肺アスペルギローシスの1例. 第611回日本内科学会関東地方会, 東京, 2014年12月13日.
  31. 藤原正親, 千葉知宏, 望月眞, 菅間博, 橘啓盛, 近藤晴彦: 気胸を起こした肺嚢胞性疾患の13歳男性例. 第46回呼吸器病理研究会, 東京, 2015年2月21日.
  32. 望月眞, 藤原正親, 河内利賢, 近藤晴彦: リンパ濾胞の過形成が見られる線維性結節病変. 第46回呼吸器病理研究会, 東京, 2015年2月21日.
  33. 菅間博: 甲状腺取扱い規約第7版における病理組織分類の改訂について…特に乳頭癌亜型と低分化癌に注目して…第15回茨城内分泌外科研究会, 2015年2月28日.
  34. 藤原正親, 菅間博, 武井秀史, 清水麗子, 橘啓盛, 荻田真, 河内利賢, 中里陽子, 長島鎮, 近藤晴彦: 症例20-03. 第20回中皮腫パネル, 東京, 2015年2月28日.
  35. Momomura M, Kobayashi Y, Terado Y, Sakamoto N, Osanai K, Nishigawa Y, Matsumoto H: Metastases to the uterus from sigmoid colon cancer. The 18th Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology, Taiwan, ROC, May 24th, 2014.
  36. Nishigaya Y, Kobayashi Y, Shibuya H, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M, Fujiwara M, Mochizuki M, Terado Y: A case of heterogenous sarcoma of the uterine cervix in a 19-year-old woman. The 18th Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology, Taiwan, ROC, May 24th, 2014.
  37. Mochizuki M: Basic Pathology of Lupus Nephritis. Renal Biopsy in Kidney Disease Training Course- a part from the C Level Sister Renal Center Pair (SRCP)- Sharing knowledge and contributing to ISN's mission to advance nephrology on Asia Pacific Region, Vietnam, July 27th, 2014.

論文

1. 磯村杏耶, 池谷紀子, 片岡郁穂, 齋藤督芸, 小路仁, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 山田明, 岡野晴子, 塩川芳明: 維持透析中に中枢神経障害を発症して診断された好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA:Churg-Strauss 症候群)の一例. 関東リウマチ47:202-208, 2014.
2. 菅間博, 千葉知宏, 住石歩, 海野みちる: 甲状腺結節取扱い診療ガイドラインと細胞診 甲状腺腫瘍の分子病理診断と細胞診. 日本内分泌学会雑誌 90(1):214, 2014.
3. 阿部泰明, 小林啓一, 原由記子, 千葉知宏, 横矢重臣, 野口明男, 菅間博, 塩川芳昭, 永根基雄: 退形成性上衣腫に膠芽腫成分を伴った頭頂葉悪性神経膠腫の一例: Brain Tumor Pathology 31(Suppl):75, 2014.
4. 百村麻衣, 小林陽一, 寺戸雄一, 坂本憲彦, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範: S 状結腸癌の子宮転移の1例. 日本臨床細胞学会雑誌 53:114-119, 2014.
5. 菅間博, 住石歩, 千葉知宏, 宍戸-原由紀子: 甲状腺腫瘍の遺伝子診断と細胞診. 日本内分泌甲状腺外科学会誌 31(2):125-129, 2014.
6. 竹内弘久, 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: これが癌? 癌じゃない

- いの?-食道・胃編 全体に褪色調を呈し、発赤とひきつれを伴う陥凹性病変. 消化器内視鏡 26:995-996,2014.
7. 佐藤綾, 有村義宏, 清水英樹, 窪田沙也花, 磯村杏耶, 小西文晴, 川嶋聡子, 池谷紀子, 吉原堅, 駒形嘉紀, 要伸也, 石井誠之, 佐藤衛, 山田明: 長期維持透析中に再燃した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(Churg-Strauss 症候群)の1例. 日本透析医学会雑誌 47(7):453-457,2014.
  8. 片岡郁穂, 軽部美穂, 磯村杏耶, 齋藤督芸, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 係蹄壁優位に IgA, IgG 沈着を認めたネフローゼ症候群の1例. 日本腎臓学会誌 56(6):834,2014.
  9. 福岡利仁, 早川哲, 清水英樹, 遠藤彰子, 磯村杏耶, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 要伸也, 有村義宏, 山田明: 当院 CKD 症例に対するトルパプタンの効果についての検討. 臨床体液 41:11-15,2014.
  10. 竹内弘久, 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: 隆起を呈する病変悪性 食道原発悪性黒色腫. 消化器内視鏡 26:1620-1621,2014.
  11. 神尾幸見, 橘啓盛, 武井秀史, 新井信見, 三ツ間智也, 清水麗子, 平田佳史, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 平野浩一, 望月眞, 藤原正親, 菅間博, 近藤晴彦: 高周波スネアを用いて気管支鏡下に切除した腎細胞癌気管支転移の1例. 気管支学 36(5):559,2014.
  12. 中島寛隆, 大倉康男: 早期胃癌の組織型と肉眼像. 消化器内視鏡26:1097-1105,2014.
  13. 中里陽子, 平野浩一, 藤原正親, 菅間博: 甲状腺粘表皮癌の1例. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 31(Suppl.2):277,2014.
  14. 菅間博: 新甲状腺癌取扱い規約・病理編の解説 病理学的事項の変更点および WHO 分類との比較. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 31(Suppl.2):213,2014.
  15. 石井順, 有益優, 千葉知宏, 矢澤卓也, 菅間博: 甲状腺髄様癌のカルシトニン産生における PROX1の役割について. 日本内分泌学会雑誌 90(2):806,2014.
  16. 千葉知宏, 住石歩, 菅間博: アデニル酸シクラーゼ活性化剤による甲状腺癌の増殖・浸潤の抑制作用. 日本内分泌学会雑誌 90(2):806,2014.
  17. 住石歩, 菅間博: 知っておきたい甲状腺診療-検査から専門治療まで- 甲状腺癌の治療戦略 小児甲状腺癌の特徴. ENTONI 172:81-85,2014.
  18. 河野道弘, 望月眞, 坂本穆彦, 大倉康男: 頭頸部扁平上皮癌センチネルリンパ節の転移判定に有用なマーカーの検討 とくにCK5/6によるqRT-PCR法導入の可能性について. 診断病理 31:301-309,2014.
  19. 藤盛孝博, 菅井有, 上杉憲幸, 伊藤利江子, 市川一仁, 山田元, 佐野寧, 荒尾潤, 柏木亮一, 伊藤智雄, 富田茂樹, 大倉康男: 食道病変の病理診断と問題点. 消化器内視鏡 26:1517-1526,2014.
  20. 阿部展次, 大倉康男, 杉山政則: 隆起を呈する病変 境界領域食道顆粒細胞腫. 消化器内視鏡26:1588-1589,2014.
  21. 中元康雄, 皿谷健, 辻吾吾, 平田彩, 渡邊崇靖, 和田翔子, 大熊康介, 金重真奈美, 下田真史, 西沢知剛, 石田学, 小田未来, 肥留川一郎, 檜垣学, 石井晴之, 小路仁, 軽部美穂, 田中良太, 武井秀史, 呉屋朝幸, 藤原正親, 滝澤始, 後藤元: PET/CT および胸腔鏡下肺生検による組織学的評価を施行し得た肺リウマチ結節の1例. 日本胸部臨床 73:1472-1477,2014.
  22. 大倉康男, 中島寛隆: 食道ポリープの病理. 消化器内視鏡27:19-26,2015.
  23. 千葉知宏, 菅間博: 充実型乳頭癌: Thyroid Cancer Explore 1:10-13,2015.
  24. 横山政明, 大西宏明, 大塚弘毅, 渡邊卓, 大倉康男, 古瀬純司, 杉山政則: 胆道癌における増殖シグナル伝達因子の発現と遺伝子変異の多様性 KRAS 変異の胆道癌バイオマーカーとしての可能性. 胆と膵36:143-151,2015.
  25. 上野秀樹, 望月英隆, 落合淳志, 池上雅博, 山田一隆, 白水和雄, 亀岡信悟, 九嶋亮治, 高橋慶一, 味岡洋一, 正木忠彦, 大倉康男, 長谷和生, 河内洋, 岩屋啓一, 和田了, 久須美貴哉, 中村好宏: 画像診断との対比で学ぶ大腸疾患アトラス リンパ節構造のない壁外非連続性癌進展病巣(EX)のアトラス. 大腸がん perspective 2:4-10,2015.
  26. 大倉康男: 専門医のためのアトラス 進行胃癌(肉眼型と組織型). 胃がん perspective7:262-267,2015.
  27. Ohkubo H, Masaki T, Matsushashi N, Kawahara H, Yokoyama T, Nakajima A, Ohkura Y: Histopathologic findings in patients with idiopathic megacolon: a comparison between dilated and non-dilated loops. Neurogastroenterol Motil. 26:571-580,2014.
  28. Kishiki T, Ohnishi H, Masaki T, Ohtsuka K, Ohkura Y, Furuse J, Watanabe T, Sugiyama M: Overexpression of MET is a new predictive marker for anti-EGFR therapy in metastatic colorectal cancer with wild-type KRAS. Cancer Chemother Pharmacol. 73:749-757,2014.
  29. Kishiki T, Ohnishi H, Masaki T, Ohtsuka K, Ohkura Y, Furuse J, Sugiyama M, Watanabe T: Impact of genetic profiles on the efficacy of anti-EGFR antibodies in metastatic colorectal cancer with KRAS mutation. Oncol Resp. 32:57-64, 2014.
  30. Katano H, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Oyaizu N, Ota Y, Mine S, Igari T, Ajisawa A, Teruya K, Tanuma J, Kikuchi Y, Uehira T, Shirasaka T, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Yasuoka A: The prevalence of opportunistic infections and malignancies in autopsied patients with human immunodeficiency virus infection in Japan. BMC Infect Dis. 14:229,2014.
  31. Tsuzuki S, Fukumoto H, Mine S, Sato N, Mochizuki M, Hasegawa H, Sekizuka T, Kuroda M, Matsushita T, Katano H: Detection of trichodysplasia spinulosa-associated polyomavirus in a fatal case of myocarditis in a seven-month-old girl. Int J Clin Exp Pathol. 7(8):5308-5312,2014.
  32. Matsumoto Y, Kogashiwa Y, Mochizuki M, Kohno N: Malignant lymphoma arising in the submandibular gland in a patient with HIV infection and associated lymphadenopathy. Int Canc Conf J. 2014.(Published on line).
  33. Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Fujiwara M, Nakamura H, Morii T, Kishino T, Goto H, Watanabe T: V843I, a lung cancer predisposing EGFR mutation, is responsible for resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors. J Thorac Oncol 9:1377-1384,2014.
  34. Nakaya T, Ogawa S, Manabe I, Tanaka M, Sanada M, Sato T, Taketo MM, Nakao K, Clevers H, Fukayama M, Kuroda M, Nagai R: KLF5 regulates the integrity and oncogenicity of intestinal stem cells. Cancer Research 74:2882-2891,2014.
  35. Nakaya T, Morita K, Kurata A, Ushiku T, Igarashi T, Kuroda M, Fukayama M: Multifocal Kaposiform Hemangioendothelioma in Multiple Visceral Organs: An Autopsy of 9-Day-Old Female Baby: Human Pathology 45:1773-1777,2014.
  36. Oshiro H, Miura M, Iobe H, Kudo T, Shimazu Y, Aoba T, Okudela K, Nagahama K, Sakamaki K, Yoshida M, Nagao T,

Nakaya T, Kurata A, Ohtani O: Lymphatic stomata in the adult human pulmonary ligament. *Lymphatic Research and Biology* 2014.(Online ahead of print).

37. Belzil C, Asada N, Ishiguro KI, Nakaya T, Parsons K, Pendolino V, Neumayer G, Mapelli M, Nakatani Y, Sanada K, Nguyen MD: p600 regulates spindle orientation in apical neural progenitors and contributes to neurogenesis in the developing neocortex. *Biology Open* 3:475-485,2014.
38. Endo T, Yazawa T, Shishido-Hara Y, Fujiwara M, Shimoyamada H, Ishii J, Sato H, Tachibana K, Takei H, Kondo H, Goya T, Endo S, Kamma H. Expression of developing neural transcription factors in lung carcinoid tumors. *Pathol Int.* 64:365-374,2014.
39. Horita A, Kurata A, Ohno S, Shimoyamada H, Saito I, Kamma H, Kuroda M: Immaturity of smooth muscle cells in the neointima is associated with acute coronary syndrome. *Cardiovasc Pathol.* 24(1):26-32,2015.
40. Ishii J, Sato H, Yazawa T, Shishido-Hara Y, Hiramatsu C, Nakatani Y, Kamma H: Class III / IV POU transcription factors expressed in small cell lung cancer cells are involved in proneural / neuroendocrine differentiation. *Pathol Int.* 64(9):415-422,2014.
41. Hirano K, Uno K, Kuwabara H, Kojima K, Ohno SI, Sakurai H, Kamma H, Kurata A: Expression of L-t ype amino acid transporter 1 in various skin lesions. *Pathol Res Pract.* 210(10):634-639,2014.
42. Shishido-Hara Y, Yazawa T, Nagane M, Higuchi K, Abe-Suzuki S, Kurata M, Kitagawa M, Kamma H, Uchiyama T : JC virus inclusions in progressive multifocal leukoencephalopathy : scaffolding promyelocytic leukemia nuclear bodies grow with cell cycle transition through an S-to-G2-like state in enlarging oligodendrocyte nuclei. *J Neuropathol Exp Neurol.* 73 (5): 442-453,2014.
43. Saraya T, Sada M, Ohkuma K, Sakuma S, Tsujimoto N, Yoshida S, Fujiwara M, Tsukahara Y, Kurai D, Ishii H, Takizawa H, Goto H: Evidence of unilateral metastatic pulmonary calcification with a prolonged Fever and arthralgia caused by acute lymphoblastic leukemia in a chronic dialysis patient. *Intern Med* 54:63-67,2015.
44. Kaise M, Kimura R, Nomura K, Kuribayashi Y, Kikuchi D, Iizuka T, Ohkura Y: Accuracy and concordance of endocytoscopic atypia for the diagnosis of gastric cancer. *Endoscopy* 46:827-832,2014.
45. Kaise M, Ohkura Y, Iizuka T, Kimura R, Nomura K, Kuribayashi Y, Yamada A, Yamashita S, Furuhashi T, Kikuchi D, Ogawa O, Matsui A, Mitani T, Hoteya S: Endocytoscopy is a promising modality with high diagnostic accuracy for gastric cancer. *Endoscopy* 47: 19-25,2015.
46. Yokoi H, Kodama S, Kogashiwa Y, Matsumoto Y, Ohkura Y, Nakagawa T, Kohno N: An endoscopic endonasal approach for early-stage olfactory neuroblastoma: an evaluation of 2 cases with minireview of literature. *Case Rep Otolaryngol* 2015. (Article ID 541026.7pages,2015.01).

#### 著書

1. 寺戸雄一: その他の間葉性(系)腫瘍. 腫瘍病理鑑別アトラス 子宮体癌. 森谷卓也, 柳井広之編. 東京, 文光堂, 2014. p.102-107.
2. 藤原正親: 第12章 呼吸器系の疾患/第14章 腎・泌尿器, 生殖

器系および乳腺の疾患/第15章 内分泌系の疾患. 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版. 東京, 医学書院, 2015. p.202-225,254-275,276-287.

#### 感染症学教室

##### (微生物学)

#### 講演

1. 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: 家族由来 *Helicobacter pylori* 菌株の動物感染性の比較. 第88回日本感染症学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
2. 花輪智子, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: 院内感染対策のためのナノ分子コーティング消毒剤の効果. 第88回日本感染症学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
3. 蔵田訓, 大崎敬子, 神谷茂, 櫻井一志, 柴森雅文, 中島貴子, 植松直也: Rebamipide は小腸細菌叢に作用し, NSAIDs 誘導小腸潰瘍を予防する. 第88回日本感染症学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
4. 小林治, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: インフルエンザ, ILI の臨床像とxTAG RVP FAST を用いたウイルス検出状況. 第88回日本感染症学会, 福岡, 2014年6月18-20日.
5. 神谷茂: ディフィシル菌による院内感染とその対策における最近のトレンド. 島根消化管感染症セミナー特別講演, 出雲, 2014年6月26日.
6. シンシアザマン, 大崎敬子, 今野武津子, 米澤英雄, 神谷茂: The comparison of animal infectivity among strains isolated from family members. 第20回日本ヘリコバクター学会, 東京, 2014年6月28-29日.
7. 大崎敬子, シンシアザマン, 北条史, 米澤英雄, 神谷茂: 鉄制限スナネズミにおける *Helicobacter pylori* 感染の宿主鉄保有状況に対する効果. 第20回日本ヘリコバクター学会, 東京, 2014年6月28-29日.
8. 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂: ヘリコバクター・ピロリのバイオフィーム形成が及ぼす抗菌薬抵抗性への影響. 第20回日本ヘリコバクター学会, 東京, 2014年6月28-29日.
9. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の *Acanthamoeba castellanii* 共培養系における生存性の向上について. 第20回日本ヘリコバクター学会, 東京, 2014年6月28-29日.
10. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* バイオフィーム形成が及ぼすアモキシシリン, メトロニダゾールへの抵抗性への影響. 第28回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会, 東京, 2014年7月9日.
11. Kamiya S, Kurata S, Arae K, Taguchi H: Virulence factors and pathogenesis of *Mycoplasma pneumoniae* infection. (Special lecture) Joint Conference of The 6th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmaology (AOM) & The 7th Meeting of the Chinese Society for Mycoplasmaology (CSM), China, August 22nd-25th, 2014.
12. Taguchi H, Arae K, Kurata S, Kaimiya S: *Mycoplasma pneumoniae* antigens induce IL-8 production via epidermal growth factor receptor pathway. (Special lecture) Joint Conference of The 6th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmaology (AOM) & The 7th Meeting of the Chinese Society for Mycoplasmaology (CSM), China, August 22nd-25th, 2014.
13. Kurata S, Arae K, Taguchi H, Kamiya S: In vitro and in vivo analyses of Th17 response stimulated by *Mycoplasma pneumoniae* antigens.

- Joint Conference of The 6th Meeting of the Asian Organization for Mycoplasmaology (AOM) & The 7th Meeting of the Chinese Society for Mycoplasmaology (CSM), China, August 22nd-25th, 2014.
14. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Microbiological study on colonization of human *H. pylori* isolates from father, mother and 3 children of a family in gastric mucosa of Mongolian gerbil. European Helicobacter Study Group XXVIIth International Workshop, Italy, September 11th-13th, 2014.
  15. Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S: Susceptibility of amoxicillin and metronidazole to *Helicobacter pylori* biofilm. European Helicobacter Study Group XXVIIth International Workshop, Italy, September 11th-13th, 2014.
  16. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H, Kamiya S: Effect of *Acanthamoeba castellanii* on survival of *Helicobacter pylori* in co-culture. European Helicobacter Study Group XXVIIth International Workshop, Italy, September 11th-13th, 2014.
  17. Kurata S, Osaki T, Nakashima T, Uematsu N, Shibamori M, Sakurai K, Kamiya S: Effect of rebamipide on indomethacin-induced small intestinal injury physiological role of intestinal microbiota. The Join Meeting The XVIII International Symposium on Gnotobiology (XVIII-ISG) III International Ecologic Forum "Environment and human health" (EcoForum), Russia, September 21st-24th, 2014.
  18. Osaki T, Zaman C, Hojo F, Yonezawa H, Kurata S, Hanawa T, Kamiya S: Comparative study on infectivity and adhesion among *Helicobacter pylori* strains isolated from family members. The Join Meeting The XVIII International Symposium on Gnotobiology (XVIII-ISG) III International Ecologic Forum "Environment and human health" (EcoForum), Russia, September 21st-24th, 2014.
  19. Kamiya S: Summary and prospect of Gnotobiology. (Plenary lecture) The Join Meeting The XVIII International Symposium on Gnotobiology (XVIII-ISG) III International Ecologic Forum "Environment and human health" (EcoForum), Russia, September 21st-24th, 2014.
  20. Kamiya S, Yonezawa H, Osaki T, Sugisaki K, Hanawa T, Matsuda H, Nakamura S: Biofilm and bacterial pathogenesis. (Symposium) The Join Meeting The XVIII International Symposium on Gnotobiology (XVIII-ISG) III International Ecologic Forum "Environment and human health" (EcoForum), Russia, September 21st-24th, 2014.
  21. シンシアザマン, 大崎敬子, 神谷茂: 家族由来 *Helicobacter pylori* 菌株の遺伝子型別とスナネズミ感染性の比較. 第17回臨床腸内微生物学会, 東京, 2014年10月4日.
  22. 米澤英雄, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィーム形成と抗菌薬抵抗性. 第17回日本臨床腸内微生物学会, 東京, 2014年10月4日.
  23. 神谷茂: 小腸正常細菌フローラと生体との関連性-炎症性病変に及ぼすフローラの役割-. Hokkaido Digestive Disease Forum 2014, 札幌, 2014年10月11日.
  24. 神谷茂: *Clostridium difficile* 感染症における probiotics の効果. 第63回日本感染学会東日本地方会学術集会・第61回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会, 東京, 2014年10月29-31日.
  25. Kamiya S: Introduction for "Intestinal Microbiota, Intractable disease and Autoimmunity". 第23回ヤクルト腸内フローラシンポジウム, 東京, 2014年10月31日.
  26. 神谷茂: 無菌マウスを用いた感染病態の研究. 佐々木正五先生百歳長寿記念講演会, 東京, 2014年11月3日.
  27. 神谷茂: *Helicobacter pylori* の新たな基礎的知見～細菌生態学的研究を中心として～. 第55回日本消化器病学会甲信越支部例会・第77回日本消化器内視鏡学会甲信越支部例会合同支部例会, 新潟, 2014年11月22日.
  28. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: *Mycoplasma pneumoniae* 菌体抗原感作がT細胞サブセットに及ぼす影響. 第48回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 広島, 2015年1月30-31日.
  29. 神谷茂: *Clostridium difficile* の病原因子と院内感染対策. 日本消化器病学会近畿支部第102回例会, 京都, 2015年2月21日.
  30. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H, Kamiya S: Transcriptome analysis of *Helicobacter pylori* in co-culture with *Acanthamoeba castellanii*. 第12回韓日合同 *H. pylori* カンファレンス, 韓国, 2015年3月21日.
  31. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: マウス脾臓細胞を用いた肺炎マイコプラズマ菌体抗原による喘息関連ケモカインの誘導. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月26-28日.
  32. 大崎敬子, シンシアザマン, 北条史, 米澤英雄, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: Metagenomic study for gastric microbiota of chronic gastritis patients with or without *Helicobacter pylori* infection. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月26-28日.
  33. 花輪智子, 米澤英雄, 蒲地一成, 大崎敬子, 蔵田訓, 北条史, シンシアザマン, 神谷茂: 百日咳菌3型分泌装置はバイオフィーム形成を促進する. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月26-28日.
  34. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 北条史, シンシアザマン, 神谷茂: *Helicobacter pylori* 外膜タンパク AlpB のバイオフィーム形成への関与. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月26-28日.
  35. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の *Acanthamoeba castellanii* 共培養系における生存性の向上とトランスクリプトーム解析. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月26-28日.

## 論文

1. Okuda M<sup>1</sup>, Osaki T, Kikuchi S<sup>2</sup>, Ueda J<sup>2</sup>, Lin Y<sup>2</sup>, Yonezawa H, Maekawa K<sup>1</sup>, Hojo F<sup>3</sup>, Kamiya S, Fukuda Y<sup>1</sup> (Hyogo College of Medicine, <sup>2</sup>Aichi Medical University, <sup>3</sup>Institute of Laboratory Animals, Kyorin University School of Medicine): Evaluation of a stool antigen test using a monoclonal antibody for native catalase for diagnosis of *Helicobacter pylori* infection in children and adults. J Med Microbiol 63(12):1621-1625, 2014.
2. Zaman C, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Kamiya S: Analysis for microbial ecology between *Helicobacter pylori* and gastric microbiota of Mongolian gerbil. J Med Microbiol 63(1):129-137, 2014.
3. Kobayashi T<sup>1,2</sup>, Osaki T, Oikawa S<sup>1</sup> (Miyagi University, <sup>2</sup>RIKEN): Applying data mining to classify age by intestinal microbiota in 92 healthy men using a combination of several restriction enzymes for T-RFLP experiments. Bioscience of Microbiota, Food and Health 33(2):65-78, 2014.
4. Matsui H<sup>1</sup>, Takahashi T<sup>2</sup>, Murayama SY<sup>3</sup>, Uchiyama I<sup>4</sup>, Yamaguchi K<sup>4</sup>, Shigenobu S<sup>4</sup>, Matsumoto T<sup>5</sup>, Kawakubo M<sup>5</sup>, Horiuchi K<sup>5</sup>, Ota H<sup>5</sup>, Osaki T, Kamiya S, Smet A<sup>6</sup>, Flahou B<sup>6</sup>, Ducatelle R<sup>6</sup>,

- Haesebrouck F<sup>6</sup>, Takahashi S<sup>7</sup>, Nakamura S<sup>8</sup>, Nakamura M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Kitasato Institute for Life Sciences and Graduate School of Infection Control Sciences Kitasato University, <sup>2</sup>Kitasato University, <sup>3</sup>Nihon University, <sup>4</sup>National Institute for Basic Biology, <sup>5</sup>Shinshu University, <sup>6</sup>Ghent University, <sup>7</sup>Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>8</sup>Tokyo Women's Medical University): Development of new PCR primers by comparative genomics for the detection of *Helicobacter suis* in gastric biopsy specimens. *Helicobacter* 19(4):260-271,2014.
5. Kurata S, Osaki T, Yonezawa H, Arae K<sup>1</sup>, Taguchi H<sup>1</sup>, Kamiya S (<sup>1</sup> Department of Immunology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University): Role of IL-17A and IL-10 in the antigen induced inflammation model by *Mycoplasma pneumoniae*. *BMC Microbiology* 14(1):156,2014.
  6. Inoue S, Niikura M, Inoue M, Mineo S, Kawakami Y<sup>1</sup>, Uchida A<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>3</sup>, Kamiya S, Watanabe T<sup>3</sup>, Kobayashi F(<sup>1</sup>Azabu University, <sup>2</sup>Yamazaki Gakuen University, <sup>3</sup>Laboratory Medicine, Kyorin University School of Medicine): The protective effect of CD40 ligand-CD40 signalling is limited during the early phase of *Plasmodium* infection. *FEBS Lett.* 588(13):2147-2153,2014.
  7. Aiso T<sup>1</sup>, Kamiya S, Yonezawa H, Gamou S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Molecular Biology, Faculty of Health Sciences, Kyorin University) : Overexpression of an antisense RNA, ArrS, increases the acid resistance of *Escherichia coli*. *Microbiology* 160(5): 954- 961, 2014.
  8. Usui M<sup>1</sup>, Nanbu Y<sup>1</sup>, Oka K<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Inamatsu T<sup>3</sup>, Asai T<sup>4</sup>, Kamiya S, Tamura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Rakuno Gakuen University, <sup>2</sup>Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>4</sup>Gifu University) : Genetic relatedness between Japanese and European isolates of *Clostridium difficile* originating from piglets and their risk associated with human health. *Front Microbiol* 5:513. doi:10.3389/fmicb.2014.00513. eCollection 2014.
  9. Kurata S, Nakashima T<sup>1</sup>, Osaki T, Uematsu N<sup>1</sup>, Shibamori M<sup>1</sup>, Sakurai K<sup>1</sup>, Kamiya S(<sup>1</sup>Otsuka Pharmaceutical Co.,Ltd.) : Rebamipide protects small intestinal mucosal injuries caused by indomethacin by modulating intestinal microbiota and the gene expression in intestinal mucosa in a rat model. *J Clin Biochem Nutr* 56(1):20-27,2015.
  10. Osaki T, Konno M<sup>1</sup>, Yonezawa H, Hojo F<sup>2</sup>, Zaman C, Takahashi M<sup>1</sup>, Fujisawa S<sup>1</sup>, Kamiya S(<sup>1</sup>Sapporo Kosei General Hospital, <sup>2</sup>Institute of Laboratory Animals, Kyorin University School of Medicine): Analysis of intra - familiar transmission of *Helicobacter pylori* in Japanese families. *J Med Microbiol* 64(1):67-73,2015.
  11. 北条史<sup>1</sup>, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之<sup>2</sup>, 神谷茂 (<sup>1</sup>杏林大・医・実験動物, <sup>2</sup>北海道大学): *Helicobacter pylori* の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上について. *無菌生物 J.germfree life gnotobiol* 44(2): 139-141, 2014.
  12. 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィーム形成. *無菌生物 J.germfree life gnotobiol* 44(1):41-44, 2014.
  13. 花輪智子, 新庄克也<sup>1</sup>, 中里仁美<sup>1</sup>, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, シンシアザマン, 川上速人<sup>2</sup>, 海保房夫<sup>1</sup>, 神谷茂 (<sup>1</sup>東京理科大学, <sup>2</sup>杏林大・医・解剖学): 黄色ブドウ球菌の形成するバイオフィームに対するリネゾリドの影響. *Bacterial Adherence & Biofilm* 27:27-30,2014.
  14. 今野武津子<sup>1</sup>, 横田伸一<sup>2</sup>, 高橋美智子<sup>1</sup>, 藤原伸一<sup>1</sup>, 大崎敬子, 神谷茂 (<sup>1</sup>札幌厚生病院, <sup>2</sup>札幌医科大学): 日本人小児の最近のピロリ菌感染率と感染経路について. *ヘリコバクター学会誌* 15(2):68-74,2014.
  15. 岡健太郎<sup>1</sup>, 神谷茂 (<sup>1</sup>ミヤリサン製薬株式会社): 腸内フローラと健康・疾病とのかかわり 腸管感染症. *臨床と微生物* 41(2): 137-141,2014.
  16. 神谷茂: *Clostridium difficile*:病原性と疫学. *感染症内科* 2(4): 410-417,2014.
  17. 神谷茂: 腸内細菌叢(フローラ)研究の進歩と臨床への応用. *診断と治療* 102(7):1069-1074,2014.
  18. 神谷茂, 蔵田訓, 田口晴彦<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大・保健・免疫学): 医学領域における肺炎マイコプラズマ感染症の基礎と臨床. *家畜診療* 61(6):331-338,2014.
  19. 神谷茂, 大崎敬子: 腸内細菌研究の基礎分野における近年の進歩-腸内細菌の解析方法, 代謝-. *医学のあゆみ* 251(1): 5-11,2014.
  20. 神谷茂: 嫌気性菌 破傷風菌, 微生物検査イエローページ. *臨床検査* 58(11):1394-1396,2014.
  21. 神谷茂: 嫌気性菌 バクテロイデス, 微生物検査イエローページ. *臨床検査* 58(11):1397-1400,2014.
  22. 神谷茂: ディフィシル菌感染症の基礎と臨床-院内感染とその対策を含めて. *臨床腸内微生物学誌* 17(1):20-23,2014.
  23. 米澤英雄, 神谷茂: *Helicobacter pylori* のバイオフィーム形成と抗菌薬抵抗性. *臨床腸内微生物学誌* 17(1):59-64,2014.
  24. シンシアザマン, 神谷茂: 家族由来 *Helicobacter pylori* 菌株の遺伝子型別とスナネズミ観戦性の比較. *臨床腸内微生物学誌* 17(1):69-71,2014.
  25. 神谷茂: 腸内マイクロビオータと糞便移植療法. *化学療法の領域* 31(1):74-81,2015.
  26. 神谷茂: 乳酸菌製剤の菌交代現象への効果. *日本医事新報* 4732:103-104,2015.
  27. 大崎敬子, 神谷茂: *H. pylori* 感染症の疫学, 感染経路. *臨床と微生物* 42(2):113-118,2015.
- 著書**
1. 神谷茂: ブラック微生物学 第3版(原書8版). 神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗監訳. 東京, 丸善出版, 2014.
  2. 神谷茂: 第3章 顕微鏡と染色. ブラック微生物学 第3版(原書8版). 神谷茂, 高橋秀実, 林英生, 俣野哲朗監訳. 東京, 丸善出版, 2014. p.50-73.
  3. 神谷茂: 腸内フローラシンポジウム22. 東京, 医薬出版, 2014.
  4. 神谷茂: はじめに, 腸内フローラと加齢. 腸内フローラシンポジウム22. 東京, 医薬出版, 2014. p.1-4.
  5. 神谷茂: 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014.
  6. 神谷茂: 微生物学概論. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.1-6.
  7. 神谷茂: グラム陰性偏性嫌気性桿菌および球菌. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.92-96.
  8. 神谷茂: グラム陰性らせん菌. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.97-114.
  9. 神谷茂: 芽胞形成菌. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.114-119.
  10. 神谷茂: グラム陽性無芽胞桿菌. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.119-120.

11. 神谷茂:細菌および寄生虫による消化器感染症. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.231-236.
12. 神谷茂:バクテリアが介在する細菌感染症. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.268-270.
13. 神谷茂:バクテリアが介在する寄生虫感染症. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.270-272.
14. 神谷茂:敗血症・血流感染症. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.274-275.
15. 神谷茂:コラム4「クオラムセンシング」. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.88.
16. 神谷茂:コラム5「プレデター細菌」. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.90.
17. 神谷茂:コラム6「プロバイオティクス」. 病原微生物学 基礎と臨床. 荒川宜親, 神谷茂, 柳雄介編. 東京, 東京化学同人, 2014. p.118.
18. 花輪智子:第3章 細菌感染症 B.主要な細菌と疾患. みてわかる薬学 図解 微生物学・感染症・化学療法. 藤井暢弘, 山本友子編. 東京, 南山堂, 2014. p.168-231.

#### その他

1. 神谷茂, 北条史:クリーニングに使用される界面活性剤と溶媒の病原性原生動物に及ぼす効果. 平成25年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第40巻 p.19-25, 2014.
2. Shigeru Kamiya (Chairperson): "New Strategies for *H. pylori* Eradication Treatment.", The 12th Japan-Korea Joint Meeting on *Helicobacter* Infection- New Perspective in Helicobacter Research and Practice -, Korea, March 20th- 21st,2015.
3. 神谷茂:ヘリコバクター感染症の最新知見-*H. pylori* の感染病態, 診断, 治療を中心として はじめに. 臨床と微生物 42(2):97,2015.
4. 神谷茂:大山健康財団創立40周年に際して-偉大な諸先輩に接して-. 公益財団法人 大山健康財団 40年のあゆみ (1974-2014), page iii,2015.
5. 神谷茂:「微生物って悪者なの?」ビフィズス菌電子顕微鏡写真提供. もっと知りたい感染症 Science Window 子ども版. 独立行政法人科学技術振興機構, p. 30-31,2015.
6. 神谷茂:「腸から始まる健康ライフ」腸内フローラについて解説, TBS ラジオ, 2015年3月30日.
- Mexico, August 10th-15th, 2014.
3. Inoue S, Niikura M, Inoue M, Mineo S, Kobayashi F:  $\gamma \delta$  T cell-involved protective immunity against *Plasmodium berghei* XAT. International Congress of Parasitology (ICOPA XIII), Mexico, August 10th-15th, 2014.
4. 新倉保, 井上信一, 井上愛美, 小林富美恵:妊娠によるマラリアの重症病態化機構の解明. 第22回分子寄生虫学ワークショップ&第12回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2014年8月31日-9月3日.
5. 鈴木重雄, 彦坂健児, 小松谷啓介, Balogun O. Emmanuel, 新倉保, 小林富美恵, 高橋究, 田中徹, 中島元夫, 北潔: アミノレブリン酸(ALA)/鉄化合物のマラリア原虫感染マウスに対する治療・予防 効果第22回分子寄生虫学ワークショップ&第12回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2014年8月31日-9月3日.
6. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 小林富美恵: マラリア原虫感染防御の免疫機構を探る ~*Plasmodium burgher* XATと $\gamma \delta$  T細胞を通じて~. 第22回分子寄生虫学ワークショップ&第12回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2014年8月31日-9月3日.
7. Nakamura M, Wada H, Sata M, Inui T, Honda K, Nakamoto K, Higaki M, Takata S, Yokoyama T, Kudo A, Inoue S, Hanawa T, Kobayashi F, Kamma H, Takizawa H, Goto H: Interleukin-17A/F regulates MMP-9 expression in the lung of mice after inhalation of cigarette smoke. European Respiratory Society Congress 2014, Germany, September 6th-10th, 2014.
8. Niikura M, Inoue S, Inoue M, Kobayashi F: Severe pathology in pregnant mice during malaria. The 18th Japanese-German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Germany, October 1st-3rd, 2014.
9. Inoue S, Niikura M, Inoue M, Kobayashi F:  $\gamma \delta$  T cells are key player for protective immunity against *Plasmodium berghei* XAT infection. The 18th Japanese-German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Germany, October 1st-3rd, 2014.
10. Inoue M, Tang J, Miyakoda M, Kaneko O, Yui K, Culleton R: The species specificity of immunity generated by whole parasite immunization against the blood stages and pre - erythrocytic stages of *Plasmodium yoelii*. The 18th Japanese - German Cooperative Symposium on Protozoan Diseases. Germany, October 1st-3rd, 2014.
11. 峯松一郎, 新倉保, 井上信一, 黒田雅彦, 小林富美恵: マウスモデルを用いた妊娠中のマラリアによる胎盤組織障害機序の解明. 第22回日本胎盤学会学術集会, 京都, 2014年10月3-4日.
12. 新倉保, 井上信一, 井上愛美, 小林富美恵: 赤内期マラリア原虫における nucleoside transporter の生理的役割 Nucleoside transporter 1 plays an essential role for transporting nucleosides and nucleobases in *Plasmodium burgher* in the asexual phase. 第55階日本熱帯医学会・第29回日本国際保健医療学会合同大会, 東京, 2014年11月1-3日.
13. 小林富美恵:「女性研究者のキャリアパス形成」テーマ A: 如何にしてキャリアを積み上げてきたか ~産官学の各領域から~. 熱日本熱帯医学会男女共同参画推進委員会主催ミニシンポジウム in 第55回日本熱帯医学会・第29回日本国際保健医療学会合同大会, 東京, 2014年11月1-3日.
14. Sasaoka C, Sakamoto H, Ito D, Takeo T, Sattabongkot J, Takashima E, Tsuboi T: Characterization of *Plasmodium falciparum* MAS170

#### 感染症学教室 (寄生虫学)

#### 講演

学会・研究会, 国際学会, ポスターセッション

1. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 小林富美恵:マラリア原虫感染防御の感染初期における  $\gamma \delta$  T 細胞を介した樹上細胞活性化の重要性. 第25回日本生体防御学会学術総会・日本比較免疫学会第26回学術集会, 仙台, 2014年7月9-11日.
2. Niikura M, Inoue S, Inoue M, Kobayashi F: The role of nucleoside transporters during asexual phase of *Plasmodium berghei* parasites. International Congress of Parasitology (ICOPA XIII),

- as novel malaria blood-stage vaccine candidate. 63rd Annual Meeting of American Society of Tropical Medicine and Hygiene, USA, November 2nd-6th, 2014.
15. Kobayashi F, Inoue S, Niikura M, Inoue M: The role of  $\gamma$   $\delta$  T cells in protective immunity to malaria. Seminars in Departmental Lecture Theatre of PGIMER, India, November 11th-12th, 2014.
  16. Niikura M: Mouse models of pregnancy-associated malaria. Seminars in Departmental Lecture Theatre of PGIMER, India, November 11th-12th, 2014.
  17. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 石川香, 中田和人, 林純一, 小林富美恵: 免疫細胞内ミトコンドリア活性酸素がマラリア感染防御において果たす役割. 第43回杏林医学会総会(平成26年度杏林大学医学部研究奨励賞中間報告), 三鷹, 2014年11月15日.
  18. 関根将, 新倉保, 井上信一, 小林富美恵: マラリアにおけるプリンクレオチド生合成と ATP 産生との関係. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
  19. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 小林富美恵: マラリア原虫感染初期における  $\gamma$   $\delta$  T細胞を介した樹上細胞活性化の重要性. 第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月25-27日.
  20. 本間一, 平井誠, 新倉保, 美田敏宏, 小林富美恵, 堀井敏宏, 遠藤弘良: DNA ポリメラーゼ  $\delta$  の校正機能欠損による高頻度突然変異発生型ネズミマラリア原虫のゲノムワイド変異解析. 第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月25-27日.
  21. Niikura M, Inoue S, Inoue M, Kobayashi F: Purine nucleosides were mainly transported by nucleoside transporter 1 during the asexual phase of *Plasmodium*. The 2nd Asian Congress of Protistology (ACOP 2014) and the 9th conference on ciliate biology, India, November 27th-29th, 2014.
  22. Inoue S, Niikura M, Inoue M, Kobayashi F:  $\gamma$   $\delta$  T cells promote humoral immunity to *Plasmodium berghei* XAT. 第43回日本免疫学会学術集会, 京都, 2014年12月10-12日.
  23. Moriyasu T, Nakamura R, Inoue M, Abkhallo H, Culleton R, Hamano S: *Schistosoma* infection protects against liver stage malaria parasites, and does not impair the efficacy of a live sporozoite vaccine. 第8回寄生虫感染免疫研究会, 大阪, 2015年2月27-28日.
  24. Inoue M, Inoue S, Niikura M, Osaka M, Culleton R, Kobayashi F: The effect of *Schistosoma mansoni* infection on malaria sporozoite induced immunity. 第8回寄生虫感染免疫研究会, 大阪, 2015年2月27-28日.
  25. Abkhallo H, Inoue M, Xangsayarath P, Hunt P, Zoungrana A, Mitake H, Kaneko O, Mustonen V, Fischer A, Illingworth C, Martinelli A, Shwen HY, Pain A, Culleton R: Quantitative whole genome resequencing and genetic linkage analyses to identify genes controlling virulence in malaria parasites. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
  26. 井上愛美, 井上信一, 新倉保, 尾坂真, 森保妙子, 濱野真二郎, カレトン リチャード, 小林富美恵: スポロゾイト接種による赤外期マラリア免疫に対するマンソン住血吸虫感染の影響. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
  27. 森保妙子, 濱野淳朗, Richard Culleton, 中村梨沙, Hussein Abkhallo, 井上愛美, 濱野真二郎: Schistosome infection protects against liver stage malaria parasites, and does not impair the efficacy of a live sporozoite vaccine. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
  28. 井上信一, 新倉保, 井上愛美, 小林富美恵:  $\gamma$   $\delta$  T細胞は *Plasmodium berghei* XAT 感染に対する液性免疫の維持に働く. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
  29. Culleton R, Abkhallo H, Akamatsu M, Hunja C, Inoue M, Konote S, Mitake H, Moriyasu T, Yonemura Y, Nakamura R, Hamano S: The role of the innate immune response in blocking the transmission of the rodent malaria parasite *Plasmodium yoelii* to mosquitoes. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
  30. 本間一, 平井誠, 新倉保, 美田敏宏, 小林富美恵, 堀井俊宏, 遠藤弘良: ミューテーターマラリア原虫を用いた突然変異蓄積パターン解析. 第84回日本寄生虫学会大会, 三鷹, 2015年3月21-22日.
- 一般向け公開講座
1. 小林富美恵: 身近に迫る寄生虫 ~寄生虫感染症の現状とその対策・予防法~. 杏林大学オープンキャンパス模擬講義. 三鷹, 2014年7月26日.
- ### 論文
- 原著論文
1. Inoue S-I, Niikura M, Inoue M, Mineo S, Kawakami Y<sup>1</sup>, Uchida A<sup>2</sup>, Ohnishi H<sup>3</sup>, Kamiya S, Watanabe T<sup>3</sup>, Kobayashi F (1Azabu University, 2Yamazaki Gakuen University, 3Laboratory of Medicine, Kyorin University School of Medicine): The protective effect of CD40 ligand-CD40 signalling is limited during the early phase of *Plasmodium* infection. FEBS Lett. 588(13): 2147-2153, 2014.
  2. Abkhallo HM<sup>1</sup>, Tangena JA<sup>1</sup>, Tang J<sup>1</sup>, Kobayashi N<sup>1</sup>, Inoue M, Zoungrana A<sup>1</sup>, Colegrave N<sup>2</sup>, Culleton R<sup>1</sup> (1Nagasaki University, 2University of Edinburgh): Within-host Competition Does Not Select for Virulence in Malaria Parasites; Studies with *Plasmodium yoelii*. PLoS Pathog. 11(2):e1004628. doi:10.1371/journal.ppat.1004628. eCollection (2015).
- ### 報告書
1. 小林富美恵, 渡邊卓, 大西宏明, 井上信一, 新倉保: 平成25年度杏林大学医学部共同研究プロジェクト受賞 研究成果報告「マウスにおける造血系攪乱とその制御機構の解明」, 杏林医学会雑誌 45(3) (補遺), s27-s29, 2014.
  2. 新倉保: 第3回杏林医学会研究奨励賞受賞報告「妊娠中のマラリアの病態モデルを用いた病態発症機構の解明」, 杏林医学会雑誌 45(4) (補遺):s61, 2014.
  3. 井上信一: 公益財団法人 加藤記念バイオサイエンス振興財団 第24回研究助成報告書「 $\gamma$   $\delta$  T細胞によるマラリア免疫記憶の制御機構の解明」.
  4. 井上信一: 公益財団法人 上原記念生命科学財団 平成25年度研究助成報告書「 $\gamma$   $\delta$  T細胞によるマラリア免疫記憶の制御」.
  5. 井上信一: 一般財団法人 守谷育英会 第30回研究助成中間報告書「ミトコンドリア活性酸素によるマラリア防御免疫の制御機構の解明」.
- ### その他
- 新聞掲載など
1. 小林富美恵: 「ぎょう虫症」, 夕刊フジ, 健康・医療欄, 2014年6月12日号.
- 受賞
1. 井上信一: 平成26年度 医学部研究奨励賞「免疫細胞のミトコンドリア活性酸素がマラリア感染防御において果たす役割」. 2014年4月16日.
  2. 新倉保: 第3回杏林医学会研究奨励賞受賞. 2014年11月15日.

## 学会主催

1. 小林富美恵: 第84回日本寄生虫学会大会主催, 三鷹, 2014年3月21-22日.

## その他

1. 小林富美恵: 編集後記. 杏林医学会雑誌, 45(4) (補遺), 2014.
2. 小林富美恵: Hindustan Times: “Japanese scientist delivers lecture on malaria at PGI.” Hindustan Times, Chandigarh, November 11th, 2014.
3. 小林富美恵: Chandigarh Newline: “PU professor entrusted with Japanese project on malaria.” Express News Service, Chandigarh, November 11th, 2014.
4. 小林富美恵: Times of Chandigarh: “PGI, Japan university to decode severe malaria cases.” Candigarh, November 11th, 2014.

## 衛生学公衆衛生学教室

## 講演

1. Yoshida M, Mizuki N, Kawagoe T, Nakamura J, Takeuchi M, Okada E: The large-scale epidemiological study of the change in the number of prescriptions of various contact lenses in Japan - The results of analysis of 8 years of prospective research of approximately 930,000 eyes of Japanese subjects. ARVO2014, USA, May 4th-8th, 2014.
2. Okada E, Mizuki N, Kawagoe T, Nakamura J, Takeuchi M, Yoshida M: The large-scale epidemiological study of the change in the number of prescription for single vision and multifocal contact lenses - The results of comparative analysis of 8 years prospective research of approximately 180,000 eyes of Japanese subjects aged 40 years or older. ARVO2014, USA, May 4th-8th, 2014.
3. 松井知子: ストレスの基礎理解とストレスマネジメント(リラクゼーション). 町田市教育委員会初任者研修会セミナー, 町田, 2014年5月8日.
4. 小笠原準悦, 伊藤知洋, 高成準, 三浦健人, 櫻井拓也, 井澤鉄也, 中野法彦, 長澤純一, 木崎節子, 大野秀樹: アスパラガス茎熱水抽出物(ETAS)はアミロイド  $\beta$  による細胞障害性を抑制する. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月25-27日.
5. 田村憲治, 近藤美則, 荻田香苗, 矢野栄二, 井上まり子, 本間純一, 原邦夫: SPM 時間値による異常な PM2.5時間値の同定. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月25-27日.
6. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木崎節子, 白土健, 石橋義永, 斎藤大蔵, 大石修司, 芳賀脩光, 鈴木健二, 大野秀樹: 運動は肥満による脂肪組織の線維化関連因子の発現増加を減弱させる. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月25-27日.
7. 谷口善仁, 大前和幸, 木下政人: メダカを用いた AhR シグナルバイオモニタリング系の開発. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月25-27日.
8. 荻田香苗, 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 小風暁: 大学生の平衡機能と心拍変動および気分・感情状態との関連. 第84回日本衛生学会学術総会, 岡山, 2014年5月25-27日.
9. 松井知子: これからの職場復帰支援を考える～心理職の立場から～. メンタルヘルスケア・ジャパン2014セミナー, 東京, 2014年5月27-29日.
10. 白土健, 木崎節子, 大野秀樹, 今泉和彦: リポ多糖刺激に伴うマクロファージ炎症性応答に及ぼすグルコサミンの抑制作用とメカニズム. 第68回日本栄養・食糧学会大会, 札幌, 2014年5月30日-6月1日.
11. 久米梢子, 久保祐美子, 神山麻由子, 岡本博照, 小泉健雄, 和田貴子: 二次救急病院に勤務する救急救命士に対する評価(第2報)多施設調査報告. 第17回日本臨床救急医学会総会, 宇都宮, 2014年5月31日-6月1日.
12. 石川守, 吉田正雄: 特定健診・特定保健指導に対する評価の試み. 第24回九州農村医学会, 熊本, 2014年6月7日.
13. 角田透, 飯島美世子, 斎藤照代, 炭山隆, 錦戸典子, 松井知子, 森崎美奈子, 山田智子, 野田一雄: 事業場におけるメンタルヘルス対策の有用性を評価するツールの開発. 第21回日本産業精神保健学会, 北九州市, 2014年7月11-12日.
14. 松井知子: メンタルヘルス[社内研修の進め方]. 東京産業保健推進センター研修会(人事・労務・衛生管理者研修), 東京, 2014年7月14日.
15. 角田透: 産業保健活動 産業医としての業務について. 東京産業保健推進センター研修会(日医認定産業医研修), 東京, 2014年7月18日.
16. 角田透: 健康の定義～これからの EAP に求められるもの～. 第15回日本 EAP 協会総会, 東京, 2014年7月26日.
17. 白土健, 木崎節子, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 大野秀樹, 今泉和彦: マクロファージ炎症性応答に及ぼすグルコサミンの効果とメカニズム. 第161回日本体力医学会関東地方会, 坂戸, 2014年7月26日.
18. Ogsawara J, Takanari J, Sakurai T, Shirato K, Ishibashi Y, Nagasawa J, Izawa T, Ohno H, Kizaki T: ETAS, an enzyme-treated asparagus extract, has the ability to enhance both the differentiation and the neurite outgrowth in PC12 cells. The 22<sup>nd</sup> ICNIM, Sapporo, July 26-27, 2014.
19. 松井知子: ストレスの基礎理解とストレスマネジメント. 昭島市教育委員会初任者研修会セミナー, 昭島, 2014年8月1日.
20. Yoshida M, Ishikawa M, Take S, Kokaze A, Haeada M, Karita K: Association of smoking with intraocular pressure in middle-aged and older Japanese residents. 20<sup>th</sup> IEA World Congress of Epidemiology, USA, August 17th-21st, 2014.
21. 石川守, 細井克美, 石崎竜太郎, 保坂はるみ, 高槻勝義, 及川孝光, 吉田正雄: 人間ドック受診者が求める診察・当日結果説明とは(受診者アンケートに基づく当施設の取り組み). 第55回日本人間ドック学会学術大会, 福岡, 2014年9月4-5日.
22. 松井知子: メンタルヘルス[社内研修の進め方]. 東京産業保健推進センター研修会(保健師・看護師研修), 東京, 2014年9月8日.
23. 松井知子: メンタルヘルス[社内研修の進め方]. 東京産業保健推進センター研修会(人事・労務・衛生管理者研修), 東京, 2014年9月8日.
24. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 藤原智徳, 赤川公朗, 大野秀樹: アルツハイマー病発症リスクを軽減する運動効果. 第7回脳・内分泌系からの運動の意義を考える会. 長崎, 2014年9月18日.
25. 田中剛貴, 加藤久詞, 柴原拓哉, 高倉久志, 増田慎也, 稗田睦子, 白土健, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 脂肪細胞の分化及び脂肪滴形成に及ぼすメルトニンの影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.
26. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 白土健, 長澤純一, 井澤鉄也, 大野秀樹, 木崎節子: 走運動トレーニングはブライツ脂肪細胞の形成を促進するか. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.

27. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大野秀樹, 木崎節子: 運動によって減少する TGF- $\beta$ -TIMP1経路は脂肪細胞の糖取り込みに関与する. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.
28. 鈴木英樹, 辻本尚弥, 佐藤章悟, 白土健, 立屋敷かおる, 今泉和彦: ギプス固定によるラット速筋 II 型線維の萎縮は  $\beta_2$ -作動薬投与で抑制される. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.
29. 加藤久詞, 柴原拓哉, 田中剛貴, 増田慎也, 高倉久志, 稗田睦子, 白土健, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 時計遺伝子の発現リズムに合わせたイソプロテレンール刺激が脂肪分解反応に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.
30. 柴原拓哉, 加藤久詞, 田中剛貴, 増田慎也, 高倉久志, 稗田睦子, 白土健, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 運動トレーニングが脂肪組織のホメオステック遺伝子と骨形成タンパク質に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会, 長崎, 2014年9月19-21日.
31. 今野正弘, 高井健太郎, 山下としえ, 岳真一郎, 吉田正雄: 拘縮により腋窩に生じた皮膚トラブル改善に向けての試み(ハイガーゼからファイバータオルへ). 第56回全日本病院学会, 福岡, 2014年9月20-21日.
32. 松井知子: メンタルヘルス不調者への気づきと対応. 神奈川県労務安全衛生協会平塚支部「事業場内メンタルヘルス推進担当者養成研修」, 平塚, 2014年9月25日.
33. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 佐藤章悟, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージ時計遺伝子 Rev-erba の発現に及ぼす高血糖の影響. 第87回日本生化学会大会, 京都, 2014年10月15-18日.
34. 角田透: 産業保健活動 産業医としての業務について. 東京産業保健推進センター研修会(日医認定産業医研修), 東京, 2014年10月20日.
35. 久米梢子, 久保祐美子, 神山麻由子, 岡本博照, 小泉健雄, 和田貴子: 救急救命士に対する二次救急病院での評価(第2報) 多施設調査の報告. 第42回日本救急医学会総会, 福岡, 2014年10月28-30日.
36. 松井知子: 産業・組織臨床の基礎知識と応用と魅力. 山口県臨床心理士会主催平成26年度第2回全体研修会, 山口, 2014年10月18日.
37. 楠田美奈, 岩見文博, 石野晶子, 加藤英世, 大屋千鶴, 片桐朝美, 太田ひろみ, 大嶺智子, 照屋浩司: 幼児・児童を対象とした音響的骨評価値の標準域設定に関する研究. 第73回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014年11月5-7日.
38. 中島宏, 照屋浩司, 島田直樹, 真鍋知子, 櫻井裕: 食後高血糖のスクリーニング検査としての1,5-anhydroglucitol. 第73回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014年11月5-7日.
39. 岡本博照, 照屋浩司, 大嶺智子, 楠田美奈, 深澤進次, 岩見文博, 松井知子, 角田透: 中高年者の脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)に影響を及ぼす要因について. 第73回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014年11月5-7日.
40. 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 小風暁, 荻田香苗: 若年女性の味覚感度と食生活習慣との関係. 第73回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 平成26年11月5-7日.
41. 吉田正雄, 井上真奈美, 岩崎基, 岳真一郎, 津金昌一郎: 白内障のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究. 第22回日本慢性期医療学会, 熊本, 2014年11月20-21日.
42. 吉田正雄, 井上真奈美, 岩崎基, 岳真一郎, 津金昌一郎: 白内障, 緑内障および高度近視のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究—白内障研究の解析結果について—. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
43. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 木本紀代子, 高橋和人, 住谷由, 石田均, 大野秀樹, 木崎節子: 高グルコース培養によるマクロファージの時計遺伝子 Rev-erb $\alpha$  の発現変化とその生理的役割. 第43回杏林医学会総会, 三鷹, 2014年11月15日.
44. 松井知子: 厚生労働行政と産業・組織心理臨床との関わり—関連法規(労働安全衛生法)の理解, 職場環境改善と心理職の役割, メンタルヘルスと法遵守関連法規など—. 平成26年度一般社団法人日本臨床心理士会臨床心理講座「継続講座～産業・組織心理臨床基礎研修(全6回)～」, 東京, 2014年11月15日.
45. 荻田香苗, 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡: 大学生の自律神経機能と味覚感度および気分プロフィールとの関連. 第79回日本民族衛生学会総会, つくば, 2014年11月21-22日.
46. 竹前理映子, 岡本博照, 松井知子, 阿部淑子, 照屋浩司, 角田透, 竹前健彦: 玄米酵素ハイゲンキスピリナ入り摂取と冷え性との関連について. 第79回日本民族衛生学会総会, つくば, 2014年11月21-22日.
47. 谷口善仁, 殿山泰弘, 亀井保博: 老化関連因子 Zmpste24の欠損がメダカに与える影響. 第37回日本分子生物学会年会, 横浜, 2014年11月25-27日.
48. 松井知子: メンタルヘルスの基礎理解ストレスをためないコミュニケーション方法. 社会福祉法人至誠学舎東京サンメール尚和, 西東京, 2014年12月1-2日.
49. 荻田香苗: 杏林大学 女性・若手研究者支援の取り組み. 平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウム, 三鷹, 2015年1月24日.
50. 加藤久詞, 田中剛貴, 柴原拓哉, 増田慎也, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 3T3-L1細胞におけるメラトニン添加はミトコンドリア新生を促すか. 第29回日本体力医学会近畿地方会, 京都, 2015年1月24日.
51. 柴原拓哉, 加藤久詞, 田中剛貴, 増田慎也, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 運動トレーニングが脂肪組織の発生遺伝学と骨形成タンパク質に及ぼす影響. 第29回日本体力医学会近畿地方会, 京都, 2015年1月24日.
52. 田中剛貴, 加藤久詞, 柴原拓哉, 増田慎也, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 運動トレーニングが脂肪組織のポジティブモデリングに及ぼす影響. 第29回日本体力医学会近畿地方会, 京都, 2015年1月24日.
53. 松井知子: 女性のキャリアに影響する心理的課題～マタニティブルー, 更年期, キャリアの悩み～. 東京経営者協会セミナー, 東京, 2015年1月28日.
54. 松井知子: はたらく場所での心理臨床と労働行政について—法改正など—最新情報をふまえて. 千葉県臨床心理士研修会, 千葉, 2015年2月2日.
55. 角田透: 室内空気の性状と健康. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 2015年2月6日.
56. 角田透: 感染症の予防. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 2015年2月7日.
57. 角田透: 音・振動と健康. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 2015年2月6日.
58. 角田透: 磁場・電場・電磁場と影響. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 2015年2月7日.
59. 松井知子: メンタルヘルスの基礎理解 職場のラインケア—練馬区教育委員会生活指導主任セミナー, 東京, 2015年2月10

- 日.
60. 角田透:水と健康. 建築物環境衛生管理技術者講習会, 東京, 2015年2月12日.
  61. 松井知子:事例対応における留意点・事例検討. 第4回メンタルヘルス基礎講座 神奈川労務安全衛生協会平塚支部, 平塚, 2015年2月20日.
  62. 松井知子:メンタルヘルスの基礎理解とストレスへの対処法. 至誠学舎メンタルヘルスセミナー, 立川, 2015年3月6日.
  63. 角田透:「知らなかった!ではすまされないストレスチェックの法制化」(第1回)労働政策審議会安全衛生分科会での最近の動向. 日本 EAP 協会全6回シリーズ研修会, 東京, 2015年3月26日.
  64. 荻田香苗:日本衛生学会における男女共同参画推進への取り組み. 自然科学系学会の女性研究者支援活動の現状と課題. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  65. 荻田香苗, 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡:女子短期大学生の自律神経系機能と身体活動量との関係. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  66. 田村憲治, 近藤美則, 荻田香苗, 矢野栄二, 原邦夫, 本間純一:大気汚染常時監視測定局における PM2.5 と SPM 濃度の異常現象. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  67. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子:ブライト脂肪細胞の形成を修飾する持久的走運動トレーニングの効果. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  68. 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大石修司, 芳賀脩光, 大野秀樹, 木崎節子:脂肪細胞の糖取り込みを抑制する TGF- $\beta$ -TIMP1経路は運動によって減弱される. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  69. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 佐藤章悟, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子:高グルコースによるマクロファージ炎症反応の亢進における時計遺伝子 Rev-erba の役割. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  70. 谷口善仁, 殿山泰弘, 谷口知行, 亀井保博:早老症メダカモデル作製の試み. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  71. 小風暁, 吉田正雄, 石川守, 荻田香苗, 大津忠弘, 落合裕隆, 白澤貴子, 南里妃名子, 佐藤正夫, 高島豊:長寿関連ミトコンドリア DNA 多型におけるコーヒー飲用と肝機能検査成績との関連解析. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  72. 岡本博照, 照屋浩司, 谷口善仁, 角田透:救命救急センター勤務医師の職業性ストレス:性差での検討. 第85回日本衛生学会学術総会, 和歌山, 2015年3月26-28日.
  3. Suzuki H<sup>1</sup>, Tsujimoto H<sup>2</sup>, Shirato K, Mitsuhashi R<sup>3</sup>, Sato S<sup>3</sup>, Tachiyashiki K<sup>4</sup>, Imaizumi K<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Aichi University of Education, <sup>2</sup>Kurume University, <sup>3</sup>Waseda University, <sup>4</sup>Joetsu University of Education): Clenbuterol attenuates immobilization-induced atrophy of type II fibers in the fast-twitch extensor digitorum longus but not in the slow-twitch soleus muscle. *Glob J Human Anat Physiol Res* 1(1):10-17, 2014.
  4. Sato S, Sakurai T, Ogasawara J, Shirato K, Ishibashi Y, Oh-ishi S<sup>1</sup>, Imaizumi K<sup>2</sup>, Haga S<sup>3</sup>, Hitomi Y<sup>4</sup>, Izawa T<sup>5</sup>, Ohira Y<sup>5</sup>, Ohno H, Kizaki T (<sup>1</sup>Ibarakihigashi National Hospital, <sup>2</sup>Waseda University, <sup>3</sup>University of Tsukuba, <sup>4</sup>Kanazawa University, <sup>5</sup>Doshisha University) : Direct and indirect suppression of interleukin-6 gene expression in murine macrophages by nuclear orphan receptor REV-ERB $\alpha$ . *The Scientific World Journal*: 685854, 2014.
  5. Ohira T<sup>1</sup>, Wang XD<sup>2</sup>, Ito T<sup>3</sup>, Kawano F<sup>2</sup>, Goto K<sup>4</sup>, Izawa T<sup>5</sup>, Ohno H, Kizaki T, Ohira Y<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Japan Aerospace Exploration Agency, <sup>2</sup>Osaka University, <sup>3</sup>Yamagata University School of Medicine, <sup>4</sup>Toyohashi SOZO University, <sup>5</sup>Doshisha University) : Macrophage deficiency in osteopetrotic (op/op) mice inhibits activation of satellite cells and prevents hypertrophy in single soleus fibers. *Am J Physiol Cell Physiol* 308(10):C848-855, 2014.
  6. Kokaze A<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>2</sup>, Matsunaga N, Karita K, Yoshida M, Ohtsu T<sup>1</sup>, Ochiai H<sup>1</sup>, Shirasawa T<sup>1</sup>, Nanri H<sup>1</sup>, Saga N<sup>1</sup>, Ohtsu I<sup>1</sup>, Hoshino H<sup>1</sup>, Takashima Y (<sup>1</sup>Showa University School of Medicine, <sup>2</sup>Mito Red Cross Hospital): Longevity-associated mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism modulates the effects of coffee consumption on erythrocytic parameters in Japanese men: an exploratory cross-sectional analysis. *J Physiol Anthropol* 33:37, doi: 10.1186/1880-6805-33-37 (2014).
  7. Kokaze A<sup>1</sup>, Yoshida M, Ishikawa M<sup>2</sup>, Matsunaga N, Karita K, Ohtsu T<sup>1</sup>, Ochiai H<sup>1</sup>, Shirasawa T<sup>1</sup>, Nanri H<sup>1</sup>, Baba Y<sup>1</sup>, Hoshino H<sup>1</sup> & Takashima Y (<sup>1</sup>Showa University School of Medicine, <sup>2</sup>Mito Red Cross Hospital): NADH dehydrogenase subunit-2 237 Leu/Met polymorphism modifies effects of cigarette smoking on risk of elevated levels of serum liver enzyme in male Japanese health check-up examinees: a cross-sectional study. *Tob Induc Dis* 12(1):11, doi: 10.1186/1617-9625-12-11 (2014).
  8. 岡本博照, 照屋浩司: M 市運動相談事業データからみた中高年住民の循環器機能-脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)からの検討-. *日本臨床内科医会誌*29(2):265-270, 2014.
  9. 久保祐美子<sup>1</sup>, 岡本博照, 小泉健雄<sup>1</sup>, 山口芳裕<sup>2</sup>, 松田剛明<sup>2</sup>, 照屋浩司, 和田貴子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・保・救命救急, <sup>2</sup>杏林大・医・救急医学): 西多摩医療圏の一病院における二次救急患者の搬送実態:地理的要因から見た分析. *日臨救医誌*17(4):522-529, 2014.
  10. 岡本博照, 神山麻由子<sup>1</sup>, 細田武伸<sup>2</sup>, 照屋浩司, 角田透, 和田貴子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・保・救命救急, <sup>2</sup>鳥取大・医・社会医学): 某市消防局の消防指令要員の職業性ストレス, 燃えつきおよび抑うつについて. *民族衛生*80(4):184-198, 2014.
  11. 土田幸介: 口腔内アメニティと定期健診成績との関連について 沖縄県 S 町住民の健診結果より口腔内アメニティと定期健診成績との関連について 沖縄県 S 町住民の健診結果より. *杏林医学会雑誌*45(1):3-14, 2014.
  12. 吉田正雄, 岳眞一郎(<sup>1</sup>埼玉回生病院): 白内障のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究-Association of

## 論文

### 原著論文

1. Shirato K, Imaizumi K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Waseda University): Posttranscriptional suppression of lipopolysaccharide-stimulated inflammatory responses by macrophages in middle-aged mice: a possible role for eukaryotic initiation factor 2 $\alpha$ . *Int J Inflamm* 2014: 292986, doi:10.1155/2014/292986 (2014).
2. Hashizume Y<sup>1</sup>, Shirato K, Tachiyashiki K<sup>2</sup>, Imaizumi K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Waseda University, <sup>2</sup>Joetsu University of Education): Diallyl disulfide administration increases the number of B-lymphocytes in the rat spleen. *Fund Toxicol Sci* 1(4):115-121, doi:10.2131/fts.1.115 (2014).

body mass index with risk of age-related cataracts in a middle-aged Japanese population -. 全日本病院協会雑誌25(1):51-53, 2014.

13. 山崎絵里<sup>1</sup>, 篠塚也寸<sup>2</sup>, 渡邊舞子<sup>1</sup>, 岳眞一郎<sup>1</sup>, 吉田正雄<sup>1</sup>(埼玉回生病院, <sup>2</sup>メディカルトピア草加病院):胃瘻患者への言語聴覚士の介入と経口移行の可能性に関するレトロスペクティブ・スタディ. 全日本病院協会雑誌25(1):97-100, 2014.
14. 岳眞一郎<sup>1</sup>, 吉田正雄, 宗邦雄<sup>1</sup>, 伊藤菜那<sup>2</sup>, 田口栄治<sup>1</sup>, 海老名泰子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>埼玉回生病院, <sup>2</sup>日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学教室):当院における在宅療養支援の取り組み. 日本慢性期医療協会誌92(1):44-47, 2014.

総説論文

1. 白土健, 大野秀樹, 木崎節子:低酸素誘導性因子(HIF)と低酸素. THE LUNG perspectives 22(3): 92-96, 2014.
2. 大野秀樹:糖質が登山では最重要のエネルギー源である. 山岳文化15:34-39,2014.
3. 大野秀樹:山は身も心も豊にする. 日本山岳文化学会論集12:135-136, 2015.

著書

分担執筆

1. 大野秀樹, 木崎節子:身体の活性酸素消去を高める方法. 活性酸素の本当の姿. 鈴木敬一郎編. 東京, ナップ, 2014. pp.149-169.
2. 大野秀樹:医療制度. イギリス文化事典. イギリス文化事典編集委員会編. 東京, 丸善出版, 2014.pp.96-97.
3. 大野秀樹, 野口いづみ, 木崎節子:テント登山は人類の知性の劣化を救うかもしれない. 山歩きと健康管理の秘訣. 齋藤繁, 飯野佐保子編. 前橋, 朝日印刷工業, 2015.pp.240-241.
4. 小笠原準悦, 井澤鉄也, 大野秀樹:ホルモン受容体. ニュー運動生理学. 宮村実晴編. 東京, 真興交易医書出版部, 2015. pp.270-282.
5. 岡本博照:エビデンスに基づく保健対策. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2014.pp.92-96.
6. 岡本博照:飲酒行動. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第5刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2014. pp.125-129.
7. 吉田正雄:食習慣. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第6刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2014. pp.111-114.
8. 吉田正雄:学校保健対策. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第6刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2014. pp.237-242.
9. 吉田正雄:予防と救急. 化学実験における事故例と安全 第1版第2刷. 田村昌三編. 東京, オーム社, 2014.pp.296-305.
10. 松井知子:歯科保健行動. エッセンシャル 社会・環境と健康第2版第6刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2014. pp.132-136.
11. 長見まき子, 松井知子:特集今どきの若者を理解するー若年層のメンタルヘルス不調の特徴と対応. 健康管理61(11). 東京, 保健文化社, 2014.pp.2-22.

特許等知的財産関係, 報告書

1. 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹:運動は骨格筋前駆細胞から褐色脂肪細胞への分化を誘導するか:肥満予防・治療への応用(平成25年度医学部研究奨励賞報告). 杏林医学会雑誌45(1):s31-33, 2014.
2. 橋口仁美, 福留斉, 恩田智子, 高畑彦松, 岡田真人, 吉田佳

奈, 岡本博照:僻地診療所での見学 ー第1報 医療過疎の実態ー(第3回学生リサーチ賞受賞者 受賞報告). 杏林医学会雑誌45(1):s3-6, 2014.

3. 恩田智子, 福留斉, 高畑彦松, 橋口仁美, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照:僻地診療所での見学 ー第2報 診療所の外来見学から見えた僻地での医師像ー(第3回学生リサーチ賞受賞者 受賞報告). 杏林医学会雑誌45(1):s7-10, 2014.
4. 高畑彦松, 福留斉, 恩田智子, 橋口仁美, 岡田真人, 吉田佳奈, 岡本博照:僻地診療所での見学 ー第3報 通院患者の生活と健康の調査結果ー(第3回学生リサーチ賞受賞者 受賞報告). 杏林医学会雑誌45(1):s11-15, 2014.
5. 村田勝敬, 吉田稔, 荻田香苗, 龍田希, 仲井邦彦, 岩井美幸, 柳沼梢, 坂本峰至, 岩田豊人:「水俣病に関する総合的研究(重金属等の健康影響に関する総合研究)」メチル水銀曝露による健康障害に関するレビュー. 環境省受託研究・平成26年度成果報告書.
6. 荻田香苗:化学物質有害性評価書ー物質名:1,2-ジクロロエタン. 厚生労働省受託(職場の化学物質のリスク評価推進事業)平成26年度報告書.

その他

1. 角田透:平成26年度第15回日本 EAP 協会総会・講演会主催, 東京, 2014年7月26日.
2. 谷口善仁:第20回小型魚類研究会主催, 東京, 2014年9月20-21日.
3. 岡本博照:平成26年度日本民族衛生学会優秀論文賞受賞「某市消防局の消防指令要員の職業性ストレス, 燃えつきおよび抑うつについて」. 第79回日本民族衛生学会総会, つくば, 2014年11月21-22日.
4. 角田透:平成26年度三鷹市医師会産業医講習会/第42回日本産業精神保健学会研修セミナー主催, 三鷹市, 2014年12月13日.
5. 荻田香苗:環境と公衆衛生. 大日本図書 小・中学校教授用資料, 2014.
6. 荻田香苗:自然科学研究分野における男女共同参画の推進に向けて. 民族衛生80(5):巻頭言. 2014.
7. 小笠原準悦, 高成準, 櫻井拓也, 白土健, 石橋義永, 長澤純一, 井澤鉄也, 大野秀樹, 木崎節子:酵素処理アスパラガス茎熱水抽出物は PC12細胞の神経細胞への分化と神経突起の形成を促進する. 第22回統合医療機能性食品国際会議議事録. 札幌, AHCC 研究会, 2014.pp.59-64.
8. 角田透:第43回日本産業精神保健学会研修セミナー主催, 東京, 2015年3月19日.
9. 松井知子:ストレスチェックをめぐって. 東京経営者協会会報 No.83, 2015.p.18.

法医学教室

講演

1. Takagi T, Takashino S, Yoshida M, Yamada C, Kigasawa H, Iwadata S, Sato Y: An autopsy case of a child who died from tension pneumothorax due to the stomach penetrating into the thorax : Is the hole of the diaphragm congenital or acquired?. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM), Fukuoka, June 16th-20th, 2014.
2. Yoshida M, Takashino S, Kigasawa H, Yamada C, Iwadata S, Takagi T, Sato Y: Cadaver restoration using silicone-based artificial skin for special effects makeup. 9th International

Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM), Fukuoka, June 16th-20th, 2014.

3. Takashino S, Yoshida M, Takagi T, Ishida S, Matsumura G, Sato Y: Development of an embalming fluid for jaundiced cadavers using a titanium oxide photocatalyst. 9th International Symposium on Advances in Legal Medicine (ISALM), Fukuoka, June 16th-20th, 2014.
4. 都築民幸, 岩原香織, 高篠智, 吉田昌記, 山田千歩, 氣賀澤秀明, 上野麻夫, 岩橋桜子, 高木徹也, 佐藤喜宣: 歯科検査のための遺体を傷つけない開口法と開口器の開発. 第98次日本法医学会学術全国集会, 福岡, 2014年6月16-20日.
5. 氣賀澤秀明, 岩橋桜子, 大谷正紀, 吉田昌記, 山田千歩, 高篠智, 高木徹也, 佐藤喜宣: C型慢性肝炎により糖尿病の急激な増悪を呈したと考えられる1剖検例. 第83回日本法医学会学術関東地方集会, 東京, 2014年11月8日.

#### その他

1. 高木徹也: ドラマ「BORDER 警視庁捜査一課殺人犯捜査第4係」法医学監修, テレビ朝日, 2014年4月10日-6月5日.
2. 高木徹也: ドラマ「ドクター検事モロハシ」法医学監修, フジテレビ, 2014年7月1日.
3. 高木徹也: ドラマ「松本清張 強き蟻」法医学監修, テレビ東京, 2014年7月2日.
4. 佐藤喜宣: ドラマ「ラスト・ドクター〜監察医アキタの検死報告〜」法医学監修, テレビ東京, 2014年7月11日.
5. 高木徹也: ドラマ「ゼロの真実〜監察医・松本真央〜」法医学監修, テレビ朝日, 2014年7月17日-9月4日.
6. 高木徹也: ドラマ「ST 警視庁科学特捜班」法医学監修, 日本テレビ, 2014年7月16日-9月17日.
7. 高木徹也: ドラマ「監察医・篠宮葉月 死体は語る」法医学監修, テレビ東京, 2014年8月27日.
8. 高木徹也: ドラマ「最後の審判」法医学監修, WOWOW, 2014年9月14日.
9. 高木徹也: 映画「ソロモンの偽証 前篇・事件」法医学監修, 松竹, 2015年3月7日.

#### 共同研究施設 RI部門

#### 講演

1. 小藤剛史, 林優子, 田丸政男, 赤川公朗: 広汎性発達障害(PDD)と syntaxin1A 遺伝子の関連性の検討. 第56回日本小児神経学会, 浜松, 2014年5月29-31日.
2. 藤原智徳, 小藤剛史, 真田ますみ, 赤川公朗: STX1A 欠損マウスにおける社会行動の障害. 第37回日本神経科学大会, 横浜, 2014年9月11-13日.
3. 小藤剛史, 林優子, 藤原智徳, 真田ますみ, 田丸政男, 赤川公朗: 自閉症スペクトラム障害とHPC-1/syntaxin1A 遺伝子発現異常の関連性の検討. 第57回日本神経化学学会大会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.

#### 論文

1. Kofuji T, Fujiwara T<sup>1</sup>, Sanada M<sup>1</sup>, Mishima T<sup>1</sup>, Akagawa K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): HPC-1/syntaxin1A and syntaxin1B play distinct roles in neuronal survival. J Neurochem. 130(4):514-25, 2014.

#### フローサイトメトリ部門

#### 講演

1. Takahashi R, Ushigome Y, Shiohara T: *Mycoplasma Pneumoniae* Infections Serve To Enhance The Risk Of Subsequently Developing Severe Allergic Diseases By Chronically Abrogating Treg-mediated Suppression. The 6th drug hypersensitivity meeting (DHM6), Bern, Switzerland, April 9th-12th, 2014.
2. Shiohara T, Takahashi R, Kano Y, Ushigome Y: Monocytes control Treg in severe drug eruption. The 6th drug hypersensitivity meeting (DHM6), Bern, Switzerland, April 9th-12th, 2014.
3. Ushigome Y, Takahashi R, Shiohara T: Patrolling monocytes sensing herpes simplex virus in severe drug eruption. The 6th drug hypersensitivity meeting (DHM6), Bern, Switzerland, April 9th-12th, 2014.
4. Mizukawa Y, Takahashi R, Kano Y, Shiohara T: Mycoplasma infection as an inhibitory factor for developing DIHS / DRESS. The 6th drug hypersensitivity meeting (DHM6), Bern, Switzerland, April 9th-12th, 2014.
5. Takahashi R, Ushigome Y, Shiohara T: Monocytes are crucial for a shift away from a Treg to Th17 response in *mycoplasma pneumoniae* infection and SJS/TEN. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka, December 12th-14th, 2014.

#### 論文

1. Shiohara T<sup>1</sup>, Ushigome Y<sup>1</sup>, Kano Y<sup>1</sup>, Takahashi R (<sup>1</sup>Dept of Dermatology): Crucial Role of Viral Reactivation in the Development of Severe Drug Eruptions: a Comprehensive Review. Clinical Reviews in Allergy & Immunology 2014. (Published online).

#### 実験動物施設部門

#### 講演

1. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の *Acanthamoeba castellanii* 共培養系における生存性の向上について. 第20回日本ヘリコバクター学会学術会議, 東京, 2014年6月28-29日.
2. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H, Kamiya S: Effect of *Acanthamoeba castellanii* on survival of *Helicobacter pylori* in co-culture. European Helicobacter Study Group XXVIIth International Workshop on Helicobacter & Microbiota in Inflammation & Cancer, Italy, September 10th-13th, 2014.
3. Hojo F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H, Kamiya S: Transcriptome analysis of *Helicobacter pylori* in co culture with *Acanthamoeba castellanii*. 第12回韓日合同 *H. pylori* カンファレンス, 韓国, 2015年3月21日.
4. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の *Acanthamoeba castellanii* 共培養系における生存性の向上とトランスクリプトーム解析. 第88回日本細菌学会総会, 岐阜, 2015年3月28-29日.
5. 花輪智子, 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, シンシア ザマン, 北条史, 神谷茂: グルタミン酸飢餓環境における百日咳菌 III 型分泌装置および線毛の発現調節. 第87回日本細菌学会総会, 東京, 2015年3月26-28日.

#### 論文

1. Okuda M, Osaki T, Kikuchi S, Ueda J, Lin Y, Yonezawa H,

Maekawa K, Hojo F, Kamiya S, Fukuda Y: Evaluation of a stool antigen test using a mAb for native catalase for diagnosis of *Helicobacter pylori* infection in children and adults. *J Med Microbiol.* 63(Pt 12):1621-1625, doi: 10.1099/jmm.0.077370-0. (2014).

- Osaki T, Konno M, Yonezawa H, Hojo F, Zaman C, Takahashi M, Fujiwara S, Kamiya S: Analysis of intra-familial transmission of *Helicobacter pylori* in Japanese families. *J Med Microbiol.* 64(Pt 1):67-73, 2014.(Epub).

#### その他

- 北条史: Young investigator award 受賞, 第12回韓日合同 *H. pylori* カンファレンス, 韓国, 2015年3月21日.

#### 生物学教室

##### 講演

- Kato K, Awasaki T: Remodeling of glial assembly in *Drosophila* brain during metamorphosis. 第47回日本発生物学会年会, 名古屋, 2014年5月27-30日.
- Awasaki T, Umeki Y, Kato K: Remodeling of glial assembly in *Drosophila* brain during metamorphosis. 第11回日本ショウジョウバエ研究会, 金沢, 2014年6月4-6日.
- Hirai K, Kudo A, Shima Y, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: *De novo* centrosome synthesis and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*-complex species. 第11回日本ショウジョウバエ研究会, 金沢, 2014年6月4-6日.
- Sato H, Matsuda M: A comparative study of meiotic recombination in *Drosophila* species. 第11回日本ショウジョウバエ研究会, 金沢, 2014年6月4-6日.
- Watada M, Matsuda M: Ehime-fly and Kyorin-fly Provide Reliable Stocks of "non-melanogaster" species for Japanese and World *Drosophila* Researchers. 第11回日本ショウジョウバエ研究会, 金沢, 2014年6月4-6日.
- Ueda R, Takano T, Watada M, Matsuda M, Akashi R: National BioResource Project "Drosophila". 第11回日本ショウジョウバエ研究会, 金沢, 2014年6月4-6日.
- Kato K, Umeki Y, Awasaki T: Scrap and rebuild glial assembly in *Drosophila* brain during metamorphosis. 第37回日本神経科学大会, 横浜, 2014年9月11-13日.
- 平井和之, 島幸夫, 水口洋平, 豊田敦, 松田宗男: アナナスショウジョウバエの単為発生における二倍体核形成機構. 日本遺伝学会第86回大会, 長浜, 2014年9月17-19日.
- 松田宗男: 何故ショウジョウバエ雄は減数分裂期の組換えを起こさないのか. 日本遺伝学会第86回大会, 長浜, 2014年9月17-19日.
- 伊藤啓, 栗崎健: もう一つのグリアアセンブリ: ショウジョウバエのグリア細胞種と機能分類 Another type of glia assembly, functional classification of *Drosophila* glial cells. 第57回日本神経化学会, 奈良, 2014年9月29日-10月1日.
- Hirai K, Shima Y, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: *De novo* synthesis of centrosome-like structures and diploidization in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. Cold Spring Harbor Laboratory meeting on Germ Cells, USA, October 7th-11th, 2014.
- 栗崎健: グリア細胞による神経軸索の貪食・除去を介した脳神経ネットワークのリモデリング. 第87回日本生化学会, 京都, 2014年10月15-18日.

- Kato K, Forero M, Hidalgo A: ショウジョウバエ神経損傷のグリア応答を支える遺伝子ネットワーク. 山田科学振興財団2014年度長期派遣者研究交歓会, 大阪, 2014年11月1日.

#### 論文

- Awasaki T, Kao CF<sup>1</sup>, Lee YJ<sup>1</sup>, Yang CP<sup>1</sup>, Huang Y<sup>1</sup>, Pfeiffer BD<sup>1</sup>, Luan H<sup>1</sup>, Jing X<sup>1</sup>, Huang YF<sup>1</sup>, He Y<sup>1</sup>, Schroeder MD<sup>1</sup>, Kuzin A<sup>2</sup>, Brody T<sup>2</sup>, Zugates CT<sup>1</sup>, Odenwald WF<sup>2</sup>, Lee T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>JFRC, HHMI, <sup>2</sup>NIH): Making *Drosophila* lineage-restricted drivers via patterned recombination in neuroblasts. *Nat Neurosci.* 17(4): 631-637, 2014.
- Masuda-Nakagawa LM<sup>1</sup>, Ito K<sup>2</sup>, Awasaki T, O'Kane CJ<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Cambridge Univ., <sup>2</sup>Univ. of Tokyo.): A single GABAergic neuron mediates feedback of odor-evoked signals in the mushroom body of larval *Drosophila*. *Front Neural Circuits.* 8:35, 2014.
- 澤村京一<sup>1</sup>, 佐藤玄, Chow-Yang Lee<sup>2</sup>, 上村佳孝<sup>3</sup>, 松田宗男 (<sup>1</sup>筑波大, <sup>2</sup>University of Science Malaysia, <sup>3</sup>慶應義塾大): アナナスショウジョウバエ類における種間浸透の分子生物学的証拠: ペナン島(マレーシア)集団の事例. *昆虫 DNA 研究会ニューズレター* 20:41-44, 2014.

#### 物理学教室

##### 講演

- Ohtani M: Reformulation of chiral random matrix model in the thermodynamic limit. The 4th Joint Meeting of the APS Division of Nuclear Physics and the JPS, USA, October 7th-11th, 2014.

#### 論文

- Tohyama M: Application of extended random phase approximation with ground-state correlations to collective excitations of 16O. *J Phys Conference Series* 529:012026-1-5, 2014.
- Tohyama M, Schuck P<sup>1</sup> (<sup>1</sup>IPN Orsay): Truncation scheme of time-dependent density-matrix approach. *Eur Phys J A* 50:7, 2014.
- Tohyama M: New truncation scheme for a time-dependent density-matrix approach applied to the ground state of 16O. *Phys Rev C* 91: 017301-1-4, 2015.
- Tohyama M, Schuck P<sup>1</sup> (<sup>1</sup>IPN Orsay): Extension of time-dependent Hartree-Fock-Bogoliubov equations. *Phys Rev C* 91: 034316-1-12, 2015.

#### 化学教室

##### 講演

- 誉田晴夫, 大津昌弘, 山本幸子, 丑丸真, 原諭吉: カイコ由来培養細胞 BM-N におけるカイコ Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>-ATPase の発現. 日本生体エネルギー研究会第40回討論会, 松山, 2014年12月11-13日.

#### 英語学教室

##### 講演

- Kuroda K: Formal Concept Analysis meets grammar typology. In *Proceedings of the 21st Annual Meeting of the Natural Language Processing Association*, Kyoto, March 16th-21st, 2015.